2025年日本国際博覧会

政府出展報告

日本館

Japan pavilion
Expo 2025

ごあいさつ

2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）は、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを掲げ、令和7年4月13日から同年10月13日までの会期中、国内外から2,900万人を超える方々に来場いただき、大盛況のうちに閉幕しました。

本博覧会は、世界から158の国・地域、7の国際機関の参加を得て、「未来社会の実験場」をコンセプトに、人類共通の課題解決に向けて、先端技術の実証はもちろん、各分野の世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場となったことに加え、外交、ビジネス交流、地方創生等に資する機会を数多く創出するなど、極めて意義深いものとなりました。

日本政府としても、「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマに、日本館を出展しました。日本館は、本博覧会のホスト国として、世界に誇る日本の文化や技術を発信し、国内外から訪れた多くの方を、心を込めておもてなししました。令和7年3月29日、私は政府を代表して日本館の開館式に参列しましたが、その際に感じた、「日本らしさ」が詰まった我が国を代表するパビリオンという感覚は、多くの方にも実感していただけたと感じております。

日本館では、いのちを取り巻く多彩な「循環」を、パビリオンの建築と展示で表現しました。来館者がパビリオンを一周することで、自らの周囲にある身近な「循環」に気づく機会を提供しました。また、このような日本館に込められたメッセージを丁寧に伝え、継承することを目的として、様々な催事も開催しました。

これらの日本館での体験が、地球で起こっている持続可能性の問題を自分ごととしてご認識いただく機会となり、一人でも多くの方にとって、未来社会のつくり手としてアクションを起こすきっかけにつながることを期待しております。

本報告書には、政府出展事業の実施に至る道程とその全容と成果が盛り込まれています。今後、本報告書が、「大阪・関西万博」のレガシーを継承するために有意義なものになることを祈念しております。

令和2年に構想づくりに着手して以来、政府出展事業は、佐藤オオキ日本館総合プロデューサー、藤原紀香日本館名誉館長をはじめ、構想・計画段階から様々な検討を重ねて日本館を創り上げた方々から、いつも笑顔で会期中の運営に携わったアテンダントの方々まで、多くの方に支えられてきました。あらためて、本事業に携わり、成功に導いてくださった全ての関係者の皆さまと多くの国民の皆さまに、厚く御礼を申し上げます。

令和7年12月

経済産業大臣
国際博覧会担当大臣　赤澤 亮正

大阪・関西万博のテーマに対し、日本館がホスト国として掲げた主題は「いのちと、いのちの、あいだに」です。これは、人間に限らず、動物、植物、さらには無機物なども含めたあらゆるものの連鎖を指し、それらが次へと繋がっていく大きな「循環」へのアプローチです。この思想の根底には、古来より日本人が持つ自然観や、「儚(はかな)さ」「季節の移ろい」といった独自の美意識の再発見があり、未来を生きるヒントを過去から探求するという視座があります。

この壮大なテーマを具現化するため、私たちは従来のプロセスを逆転させ、常に「展示体験」を最優先としました。建築、展示、コミュニケーションを全て連動しながら同時に進行させるという難度の高い手法を採用し、ハードとソフトが一体となった空間の創造を目指しました。

展示では、「ごみから水へ」「水から素材へ」「素材からものへ」という循環の物語を、親しみやすいキャラクターのリラックスした目線でナビゲートしました。私たちは、最新の情報知識を詰め込むのではなく、来場者が五感を通じて体感し、「すでに知っていたことを新たな視点を通じて新鮮な感覚で再認識する」ことに重きを置きました。

大きな声で注目を集めるのではなく、あえて小さな声で「ささやく」ようにメッセージを丁寧に積み重ねた結果、本館は、じっくりと噛みしめるほど新しい気づきに出会える多層的な空間として機能したと確信しております。

本館の構想と実現という困難を極めるプロジェクトに尽力されたすべての方々に深く感謝申し上げるとともに、日本館が提供した「循環」の視座が、次代の社会を考えるヒントとして、未来へと受け継がれていくことを願っております。

日本館総合プロデューサー／
総合デザイナー

博覧会主催国の日本政府のパビリオンとして、日本館には 181 万人もの来館者をお迎えすることができました。多くの関係者の尽力のもと、会期 184 日間にわたり円滑かつ充実した運営を行い、盛況のうちに会期を終えることができました。

国際交流や教育支援に取り組むなど、「いのち」に向き合いながら、SDGs に関する様々な活動に取り組んできた私にとって、地元関西にて日本で 20 年ぶりに開催される国際博覧会で、主催国である日本政府のパビリオンの名誉館長を仰せつかったことは非常に意義深く、深く心に刻まれる経験となりました。

「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマに、日本ならではの循環を大切にする文化など、日本館の魅力を伝える活動に取り組むことができたことは大きな喜びでした。日本館での体験を通じ、多くの皆様から持続可能な未来社会を感じて頂けたのではないかと思っております。

また会期中、様々な「ヒューマンパワー」を実感することができました。ナショナルデーでの文化交流や、国内外から訪れた来館者との交流を通じて、万博が人と人をつなぎ、多くのひらめきや気づきを生む場であることを改めて実感しました。会期を通じて、一人一人が互いの多様性を認め、対話や共創が生まれたことも印象的でした。

日本館名誉館長を無事果たすことができましたのは、多くの関係者の皆様のご尽力によるものであり、心より感謝申し上げます。日本館のテーマやレガシーは、人と人を通じて受け継がれ、未来に向けた行動や創造の糧になるものと信じています。ここで芽生えた学びや出会いが、皆様の心の中で大きな花として咲き誇り、未来へと広がっていくことを願い、ご挨拶とさせて頂きます。

日本館名誉館長

目 次

ごあいさつ 2
日本館のテーマ 8

Ⅰ はじめに 9
1 日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」を伝えた歩み 10
開幕に向けて 12
開幕! 14
展示に込めた想い 16
つながる、想い 18
レガシーは未来へ 21
2 大阪·関西万博の日本館 – 感じる日本館 – 22
気づく 24
触れる 26
つながる 28

Ⅱ 全体概要 31
1 2025年日本国際博覧会と日本政府出展 32
1.1 大阪·関西万博の開催決定 32
1.2 政府出展事業の推進 36
1.3 組織·体制 37
1.4 予算·契約 39
2 日本政府出展事業基本構想の策定 42
2.1 基本構想の検討 42
2.2 基本構想の概要 45
3 日本政府出展事業基本計画の策定 50
3.1 基本計画の検討 50
3.2 基本計画の概要 51
4 計画の具体化 56
4.1 事業の推進 56

Ⅲ 建築·展示 65
1 日本館の建築と展示の概要 66
1.1 日本館が目指したこと 66
1.2 建築で実現したこと 66
1.3 展示で実現したこと 67
1.4 写真で見る日本館 68
2 建築設計 76
2.1 建築設計に当たって 76
2.2 建築デザインの基本方針 77
2.3 建築設計 78
3 建築工事 86
3.1 建築工事事業者の選定 86
3.2 建築工事 86
3.3 建築記録 90
4 展示設計と制作 94
4.1 概要 94
4.2 展示基本設計 94
4.3 展示実施設計 95
4.4 展示制作·施工 97
［特別コラム］日本館と「火星の石」 経済産業省 大臣官房審議官(国際博覧会担当) 浦上 健一朗 112
4.5 展示維持管理 137
4.6 バイオガスプラントの設計と施工 138

Ⅳ 運営 143
1 日本館の運営の概要 144
1.1 運営の構想及び計画(基本構想、基本計画)(令和3年度) 144
1.2 基本計画の整理(令和4年度) 144
1.3 会期中の運営に向けて(令和5～7年度) 145
2 運営のための取組 146
2.1 実施計画の検討(令和5年度) 146
2.2 詳細計画の策定及びアテンダントの育成(令和6年度) 148
2.3 会期中の運営(令和7年度) 156
2.4 VIP接遇 179
2.5 日本館の184日 185

Ⅴ 広報·行事·催事 191
1 日本館の広報 192
1.1 広報における方針 192
1.2 広報に向けた計画·準備 192
1.3 実施した広報施策 200
1.4 オウンドメディアでの広報活動 205
1.5 バーチャル日本館 212
2 日本館の行事·催事 220
2.1 行事·催事における方針 220
2.2 公式行事 220
2.3 公式催事 224
2.4 その他 227

Ⅵ むすびに 231
1 閉幕後の日本館 232
1.1 大阪·関西万博の閉幕後 232
1.2 日本館の閉幕後の業務 232
1.3 日本館の建築·展示の再利用 234
2 後世に残る日本館 236
2.1 日本館のレガシー 236
2.2 ソフトレガシー 238
2.3 ハードレガシー 240
2.4 レガシーブック 242
3 「循環」の旅は果てしない未来へと続く 244
3.1 日本館の軌跡を振り返って 244
3.2 日本館が未来へとつなぐもの ～日本館の循環はいつまでも終わらない～ 245

資料編 247
プロジェクト年表 248
ナショナルデー及びスペシャルデー 一覧 249
日本館関連の主な報道実績一覧 250
国内　新聞 250
国内　テレビ 255
国内　ウェブ 263
国内　ラジオ 274
海外　テレビ·ウェブ 274
METI ジャーナル 275
日本館ウェブサイト配信一覧 276
おしらせ 276
日本館ライブラリ 277
コンニチハ!日本館 277
公式Webマガジン「月刊日本館」 278
日本館SNS投稿一覧 280
来館者アンケート 284
日本館レガシープロジェクトアンケート 290
日本館に携わった主な人々 294
事業主体 294
日本館基本構想·基本計画関連 295
日本館建築関連 296
日本館展示·運営·広報関連 298
日本館協賛等関連 300
日本館催事　登壇者·協力者 301

本記録は、経済産業省による政府出展事業、これに基づく日本政府館の建築、展示、運営、広報などの取組を対象としています。また、本記録に記載された人名、役職名、団体·機関名等の表記は当時のものです。

［日本館のテーマ］

いのちと、いのちの、あいだに

— Between Lives —

人間だけではありません。

すべての動物や植物は、あらゆるモノは、そして社会でさえも、

ひとつの役目を終える瞬間に何かが受け継がれ、

カタチを変えながら新たな役目を獲得する、というつながりの中に存在します。

そんな「いのちといのちのあいだ」に目を向けてみると、

この世界は無数の「小さな循環」によって成り立っていることに気づくはずです。

これからの豊かさとは、すべてのいのちに敬意を払いながらその意味や価値を見つめ、

大きなつながりの一部となることで生まれるはず。

そしてそれは、この国に息づいてきた自然観や美意識に他なりません。

「いのちと、いのちの、あいだに」

はじまりもおわりも存在しないひとつの循環の中で、

あなたは何を感じ、何を考え、何を受け継ぐでしょうか。

I

はじめに

1　日本館 のテーマ
「いのちと、いのちの、あいだに」を伝えた歩み

2　大阪・関西万博の日本館 – 感じる日本館 –

1 日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」を伝えた歩み

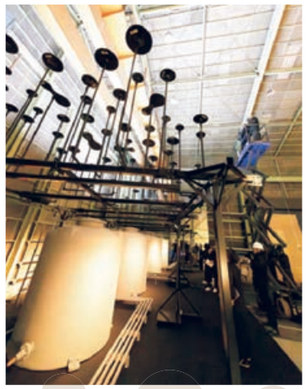
2025（令和7）年4月13日から10月13日までの184日間、日本国際博覧会に政府出展として開館し、
テーマである「いのちと、いのちの、あいだに」を
累計約181万人の来館者を始め、多くの人々に伝え続けた日本政府館。
しかし、184日間だけでなく、2020（令和2）年7月に第1回基本構想ワークショップを
開催して以来、約5年にも及ぶ歩みがありました。
この空間を生み出した膨大な人の熱量、その想いを受け取り、学び、次代に引き継いでいく来館者の方々、
そして、解体されてもなお「いのち」の循環として次の創造へと向かったレガシーたち。
この巻頭の写真集では開館から閉館まで「日本館の184日」を中心に、
開幕前·閉幕後の取組にも焦点を当て、振り返っていきます。

2025
04
12

開幕に向けて

注がれる夢、具現化していく想い

起工式


内部確認会の様子

著作　株式会社サンリオ　©2026 SANRIO CO., LTD.

国立極地研究所より運び込まれた「火星の石」

天皇皇后両陛下が日本館をご視察（提供：2025年日本国際博覧会協会）

秋篠宮皇嗣同妃両殿下が日本館をご視察（提供：2025年日本国際博覧会協会）

開館セレモニー

日本館名誉館長就任式

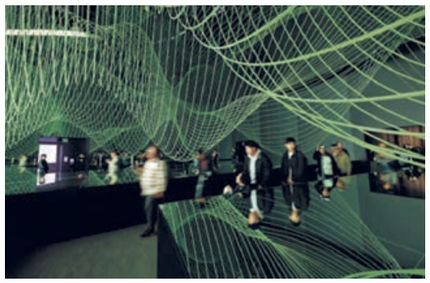
開館式

テストラン

2025 04 13 開幕！

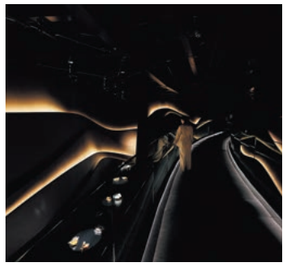
「いのちと、いのちの、あいだに」体験の日々が始まった

開館を目前に、来館者の皆様へ日本館名誉館長がご挨拶



展示に込めた想い

「循環」を体験する3つのエリア



「ごみ」から「水」へ

Plant Area

万博会場内の「ごみ」を分解し、いのちの源である美しい水へ。
繊細で偉大な、微生物の可能性を発信。

「水」から「素材」へ

Farm Area

食品、医薬品、燃料、繊維にも。
藻類（そうるい）を生かす新技術で社会課題の解決へ。

著作　株式会社サンリオ　©2026 SANRIO CO., LTD.

「素材」から「もの」へ

Factory Area

時代を超えて受け継がれる
「やわらかく作る」という
循環型ものづくりの精神。

つながる、想い

VIPの接遇や催事にも取り組み、想いをたくさんの方々へ

愛子内親王殿下のご視察（提供：2025年日本国際博覧会協会）

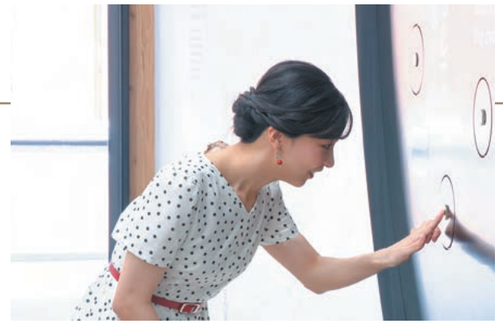
ナショナルデーの接遇風景

日本館 バイオガスプラント見学ツアー

環境学習イベント
「『循環』の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう」

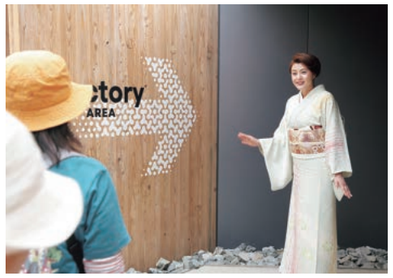
入館前の来館者に、観覧のポイントを紹介

設計者とまわる日本館建築ツアー



佳子内親王殿下のご視察（提供：2025年日本国際博覧会協会）

悠仁親王殿下のご視察（提供：2025年日本国際博覧会協会）



日本館名誉館長が来館者をお出迎え

夏休み自由研究イベント
「藻（も）っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～」

七夕イベント

2025
10
13

レガシーは未来へ

想いはつながり、受け継がれていく

10月6日における行幸啓（提供：2025年日本国際博覧会協会）

日本館がもっと楽しくなる！ 予習ツアー

日本館公式ショップ

閉館式で経済産業省の茂木正首席国際博覧会統括調整官が挨拶

日本館名誉館長による閉館宣言

日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～

来館者お見送り

「火星の石」の搬出

次の未来へ、撤去作業を整然と進めた

著作　株式会社サンリオ　©2026 SANRIO CO., LTD.

日本館レガシープロジェクト　著作　株式会社サンリオ　©2026 SANRIO CO., LTD.

日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」～文化、技術、そして未来へ～

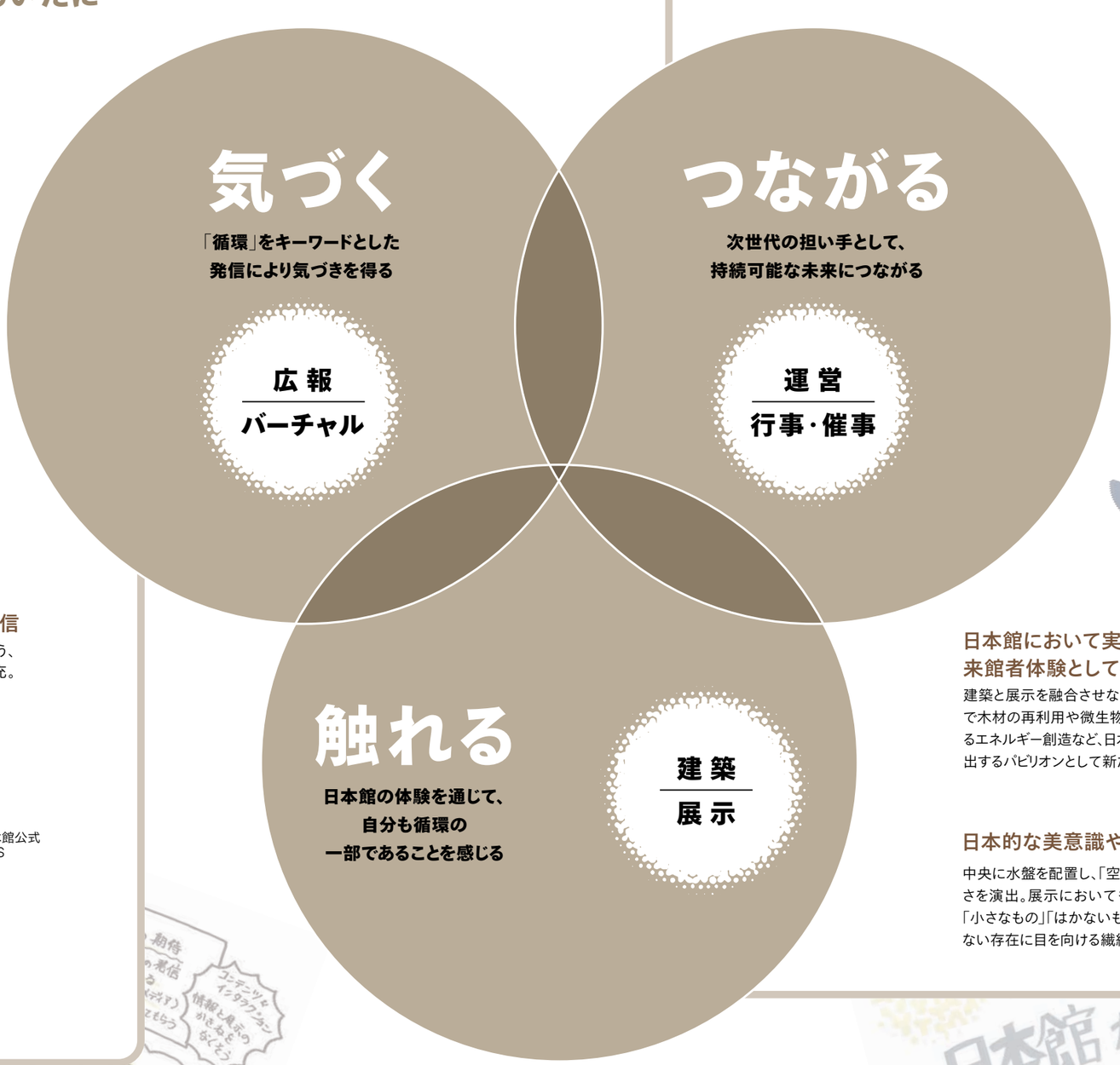
いのちはめぐる。想いもめぐる。

2 大阪・関西万博の日本館－感じる日本館－

［日本館のテーマ］ **いのちと、いのちの、あいだに**

日本館は、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」をホスト国としてプレゼンテーションする拠点であり、当該テーマの具現化や、日本の取組の発信等を行うことが重要な役割となる。「今の日本」を体験する具体的な「もの」や「こと」の展示だけではなく、その根底にある思想や考え方に踏み込むことを主眼に、来館者に「情報を理解」し、「情報を感じて」もらう日本館を目指した。

日本政府出展事業
（日本館）基本構想



会期前から興味喚起を促進

会期前から日本館コンセプトや魅力の浸透を図り、若者を含む幅広い層への情報発信や、来館促進に努めた。また、コンセプトを自分たちのこととして捉えるきっかけ作りも目指した。

会期中ならではの多様な気づきの機会を即時発信

来館者に日本館のコンセプトをより深く理解してもらえるよう、日本館ウェブサイトやバーチャル空間での「体験」機会も拡充。SNSでも即時発信を積み重ねた。

公式Webマガジン「月刊日本館」

日本館公式
SNS

バーチャル
日本館

開館式

設計者とまわる日本館建築ツアー

環境学習イベント「『循環』の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう」

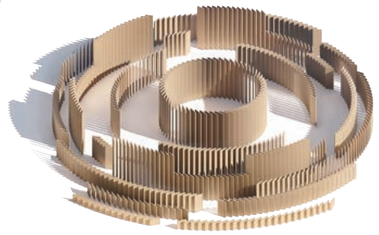
夏休み自由研究イベント「藻（そう）っと知りたい藻類（そうるい）のひみつ～日本館で自由研究～」

人や世界と、広くつながる

多言語対応や音声ガイド等を通じて、海外からのVIPも含めた来館者に対して日本ならではの価値観である「循環」や日本の美意識の浸透を図った。

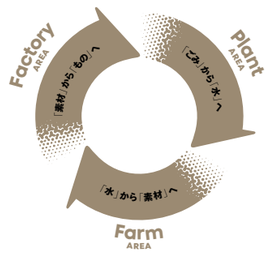
次代へつながる

日本館で得た気づきを自分の言葉で語れるよう、体験の機会づくりを行った。コンテンツの一部はレガシーとして残せるようプロジェクトを推進した。



日本館において実際に循環を創出し、来館者体験として提供する

建築と展示を融合させながら検討を進めていくことで木材の再利用や微生物の働き、生ごみの分解によるエネルギー創造など、日本館そのものが「循環」を創出するパビリオンとして新たな展示体験を提供した。



日本的な美意識や価値観に触れる

中央に水盤を配置し、「空虚」がもつ静かな力と美しさを演出。展示においても微生物や線香花火など「小さなもの」「はかないもの」に宿る美に着目。見えない存在に目を向ける繊細な感性を表現した。

2020（令和2）年より始まった日本館基本構想は脈々と受け継がれ、　　感じる日本館を経て、レガシーとして次世代へ伝わっていく

気づく

「循環」をキーワードとした発信により気づきを得る

広報
バーチャル

日本国内で開催される万博における日本館だからこそ感じてもらうべき「日本という存在の根源にある思想や考え方」について深く理解してもらえるよう会期前から会期後まで多様な共有機会を作った。

会期前から興味喚起を促進 | 公式Webマガジン「月刊日本館」

日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」。その根底にある「循環」の価値を知ることで、日本館をより深く楽しむための公式Webマガジンを作成し、公開。「循環」の概念紹介から始まり、「分解」「発酵」「生産」、さらには「藻類」「こわれやすく作る知恵」「日本の美意識」など個々のテーマを全12号・12回にわたって発信。私たちのすぐ身近にある循環を見つめながら、これからの社会の在り方や、持続可能な未来へのヒントを共有した。

Issue 01 いのちと、いのちの、あいだに
誰かのいのちは何かにつながっている

Issue 02 おわりは、はじまり
私たちと共に生き、私たちを支えてくれる「微生物」

Issue 03 おいしさの小さな原動力
私たちの暮らしに身近な循環のかたち「発酵」

Issue 04 小さな働き者たち
「微生物」も人間もかけがえのない循環の一員

Issue 05 水物語
様々に形を変えながら循環していく「水」

Issue 06 藻類が地球を救う!?
「藻類」が持つ無限の可能性

Issue 07 輝け！ウルトラ藻類
地球のいろんな生物の生活を支える「藻類」

Issue 08 捨てない哲学
「捨てない」の向こう側

Issue 09 生まれ変わる力
ごみと未来、その間にあるもの

Issue 10 それいけ、みんなのGX
環境負荷を減らしながら経済成長を目指すGX（グリーントランスフォーメーション）

Issue 11 やわらかく作る
やわらかく作る知恵と技術が歴史を織りなし、未来へ続いていく

Issue 12 季節は変わり、まためぐる
「循環」からひもとく日本の美意識

SNS、日本館ウェブサイトを通して、会期中ならではの日本館の魅力を幅広く発信 | SNS・ウェブサイト・バーチャル

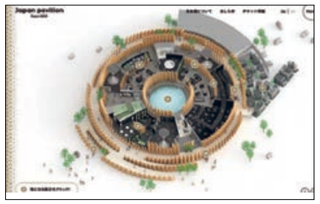
SNS による即時発信に加え、多様なコンテンツを共有する場として日本館ウェブサイトを充実させた。

日本館公式SNSアカウント

「循環」と日本館の価値に気づいてもらえるようなライトなコミュニケーションツールとして会期前・会期中を通じて運用。X、Instagram、Facebookという三つの主要SNSを活用し、日本館への興味喚起、コンセプトの発信を進めた。

日本館まるごとガイド

日本館がどんなパビリオンで、どのような体験が待っているのか。「循環」をテーマに誕生した日本館を、より深く理解するためのオンライン・ガイドブックを日本館ウェブサイト上で展開した。

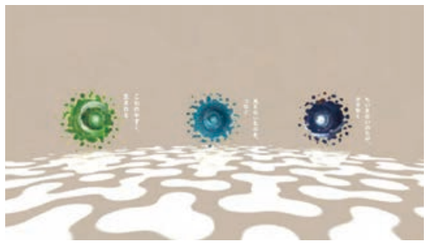


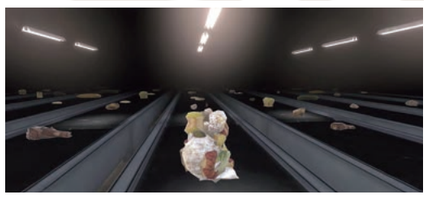
Voices きかせて、日本館

来館者やアテンダントに日本館を通じた感想・気づきを宣言してもらい、会期中にインタビュー記事として配信した。これにより、来場のための関心喚起を行うだけでなく、来館による「気づき」を広く共有することを図った。

バーチャル日本館

万博会場に来場できない方でもいつでも気軽に来館できるバーチャル日本館では、来館者は「当事者」となって、ごみから水、水から素材、素材からものへの循環を体験できるようにした。





触れる

建築
展示

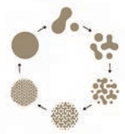
日本館の体験を通じて、自分も循環の一部であることを感じる

はじまりもおわりもない円環状の構造に、再利用を前提とした木材による印象的な外観。その中の展示も多岐にわたる。一見ばらばらなようで、全てに通底する理念は「循環」。パビリオンを一周することで、来館者に自らの周囲にある身近な「循環」に気づく機会を提供し、持続可能な社会実現のための行動変容を促す。そのため、来館者の体験価値を起点に、展示物や言葉、音響、内装や建築空間などを高いレベルで融合させた。「情報の理解」だけではなく、「情報を感じて」もらう空間を目指した。

日本館において 実際に循環を創出し、来館者体験として提供する | 体験空間の創造 |

日本館のビジュアルシステム

日本館は、ビジュアル全体を代表するシンボルマークも一つの「いのち」であると考え、設計した。呼吸し、成長するかのように分裂と融合を繰り返しながら、絶えず変化を続けるデザインで、「いのちと、いのちの、あいだに」あるものに目を向ける、という日本館の存在意義を体現することを目指した。



ロゴは時間とともに
形を変えることで、いのち
の循環を表現する

CLTの活用

建築思想を体現するための大きな特徴は、円を描くように立ち並ぶ無数の「木の板」。その隙間から内部を見ることができ、中と外、展示と建築の連続によって、日本館のテーマにもある「あいだ」を来館者が意識できる仕組みとした。ここで使用されたのが、CLT※。板を繊維方向が直交するように複数枚重ねた木材で、大型建築物を木造で可能にした。CLTを外部・内部に露出させる特徴的な建築表現を実現。万博閉幕後に日本各地でリユースされるという次への「循環」も可能にした。

※Cross Laminated Timber : 直交集成板

建築と展示の融合 ～いのちのリレーを体現した建築～

円環状の構造体によって、いのちのリレーを体現。「循環」を表現するため、「入口と出口」「表と裏」「内と外」といった境界を設けず、全てが自然に融合し、一体となるようにデザインした。

バイオガスプラント ～ごみを食べる日本館～

本来はものにとって「終(つい)の場」である生ごみ処理施設に、生ごみを分解して電気や水を生み出す設備を一体化。再生のための設備、先端技術とクリエイティブ、各種コンテンツを融合させることで、ショーケースの中に飾られた展示物ではなく、実際に稼働している状態をリアルに体験できる、本当の意味で「生きた」パビリオンを実現した。

日本的な美意識や価値観に触れる | 展示体験の設計 |

3つのエリアで構成される館内をぐるりと一周することで、日本文化の根底にある「循環」の意義を理解し、自分自身も、その果てしなく壮大な物語の一部であることを感じてもらえるよう設計した。エリアごとに親しみのあるキャラクターがナビゲートすることで、来館者が展示の理解を深められるようにした。

「素材」から「もの」へ Factory Area

©Fujiko-Pro

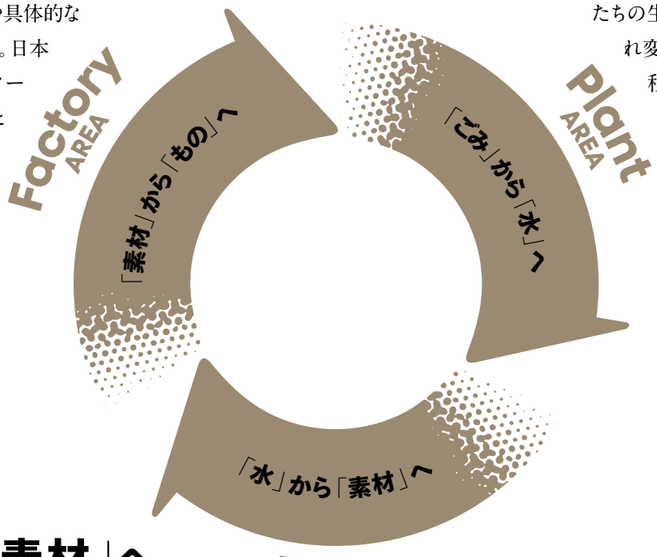
日本の「ものづくり」に焦点を当てたFactory Area（ファクトリーエリア）。資源を無駄にせず、修理や修繕を重ねることで長く使い続けられるものを作るという、日本ならではの「循環型ものづくり」の考え方や具体的な社会実装の姿を紹介。日本を代表するキャラクター「ドラえもん」が案内役としてナビゲート。

©Fujiko-Pro

「ごみ」から「水」へ Plant Area

「微生物」の働きに着目したPlant Area（プラントエリア）。世界中のアーティストやブランドとのコラボレーションで大人気のクマ型フィギュア「BE@RBRICK」が登場し、ごみが私たちの生活に役立つ形へと生まれ変わるまでの「循環」の過程を楽しくナビゲート。

© 2026 MEDICOM TOY



「水」から「素材」へ Farm Area

「藻類」が主役となるFarm Area（ファームエリア）。普段はあまり意識されることのない藻類だが、化石資源への過度な依存や食料不足など、様々な課題を解決し得る存在として注目されている。藻類に扮した「ハローキティ」が登場。

著作　株式会社サンリオ
©2026 SANRIO CO., LTD.

つながる

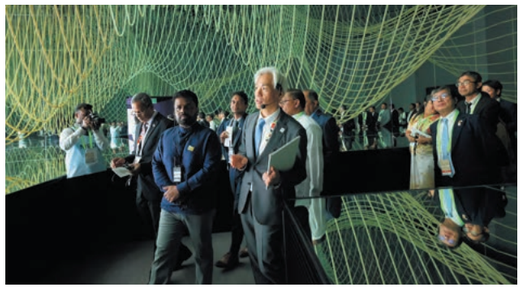
次世代の担い手として、持続可能な未来につながる

運営
行事・催事

日本ならではのコンセプトを、来館を通じて深く理解していただけるよう、様々な体験機会を企画するとともに、それらの体験が快適に、安全安心に行えるようアテンダントを始めとする各スタッフの運営体制を整備した。レガシー構築や継承にもつながるよう、各種プロジェクトやイベントも実施した。

人や世界と、広くつながる | VIP対応 |

万博を訪れたVIPの接遇の場としての役割を担う政府館として、国内外のVIPの接遇を実施。
それを通じて、日本と世界とのつながり、多くの人々とのつながりづくりに努めた。



スリランカ大統領の接遇風景

赤澤亮正 内閣府特命担当大臣（経済財政政策担当）の開館式ご挨拶

日本館名誉館長に藤原紀香氏が就任。接遇や広報に尽力いただいた

開館式など各種行事を実施した

記念品を通じた理念の継承

VIPに贈呈する記念品は日本政府としてVIPを迎えるにふさわしいものであるだけでなく、日本館のコンセプトや理念を来館後も想起してもらう手段として活用した。

VIPをお迎えするのにふさわしい記念品を準備

次代へつながる | 一般来館者対応 |

主に次世代の担い手となる子どもや若者（万博チルドレン）を対象に、日本館に関わる情報・体験で得た気づきを自身の言葉で言語化・共有する機会を設け、持続可能な社会の実現に向けた気づき・行動変容の促進へのきっかけを作った。

各種ツアーの催行

「設計者とまわる日本館建築ツアー」「日本館 バイオガスプラント見学ツアー」「日本館がもっと楽しくなる！予習ツアー」の三つのツアーを催行。ツアーと合わせて展示を見ていただくことで、日本館について理解が深まり、その根底にある「循環」及びそれを実現する技術への関心を高めることを図った。

設計者とまわる
日本館建築ツアー

日本館 バイオガスプラント
見学ツアー

日本館がもっと楽しくなる！
予習ツアー

催事による体験機会の提供

次世代を担う万博チルドレンに「循環」の理念を発信するエデュケーショナルな館として数々の催事を企画。子どもたちが未来の実践者としてアクションを起こすための体験機会を提供した。

日本館トークイベント
～宇宙・循環・つながるいのち～

日本館トークイベント
日本館からつながる「循環」
～文化、技術、そして未来へ～

環境学習イベント
『『循環』の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう」

夏休み自由研究イベント
「藻っと知りたい藻類のひみつ
～日本館で自由研究～」

日本館アテンダントによる解説

日本館のテーマ「循環」への関心を高め、万博来場時における日本館への来館意向につなげるとともに、テーマのさらなる理解やその後の行動変容につなげた。

「持ち帰る気づき」に寄与する配布物等

リーフレットを配布し、巡回時だけでなく持ち帰って理解を深める一助に。また火星の石体験を「唯一無二」のものとするため、固有の番号つきの観覧証明書を発行。公式ショップの日本館グッズも持ち帰られることで「気づき」に寄与した。

リーフレット

「火星の石」
観覧証明書

日本館グッズ

日本館レガシープロジェクト

テーマ・理念を会期後も次世代へレガシーとして残していくことを目的に、参加者同士による対話・共創を通じて、循環について考え、伝える全三部構成のワークショップを実施。

日本館体験・ワークショップ
（第二部）

ジュニア世代へのレクチャー
（第三部）

Ⅱ

全体概要

1　2025年日本国際博覧会と日本政府出展

2　日本政府出展事業基本構想の策定

3　日本政府出展事業基本計画の策定

4　計画の具体化

1 2025年日本国際博覧会と日本政府出展

2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）は、2018（平成30）年11月に開催地が日本に決定した。その後、開催計画の具体化を進め、2020（令和2）年12月に登録申請書が博覧会国際事務局（以下、BIE）で承認された。新型コロナウイルス感染症による未曾有の危機にさらされながらも自国開催となる博覧会のテーマを実現すべく、日本政府出展事業の準備を着実に進めていった。

1.1 大阪・関西万博の開催決定

国際博覧会の意義

国際博覧会は、人類の科学的・文化的な成果や新たな未来像を提示する国際的な祭典である。

日本は、1867年パリ万国博覧会から多くの国際博覧会に参加し、1970（昭和45）年に初めて日本で開催された日本万国博覧会（大阪万博）以降、万博の自国開催を契機として、インフラ整備や都市開発などを通じて日本自身が大きな飛躍を遂げるとともに、科学的・文化的な成果や新たな未来像を提示するなど、国際社会に大きく貢献してきた。

一方で、日本万国博覧会（大阪万博）から半世紀が経過し、日本と世界を取り巻く環境も大きく変化した。経済発展が進む一方で、少子高齢化への対応、温室効果ガス等の気候変動対策、生物多様性保護など、一つの国だけでは解決できない地球規模の様々な課題が人類の前に立ち現れており、持続可能な社会の構築と豊かな社会生活との両立をいかに達成すべきかが求められている。

そのような中、2005（平成17）年に開催された2005年日本国際博覧会（愛知万博）では、人類の活動の変化と地球環境への影響を始めとした人類共通の課題に対する理解を助け、その解決に向けた道筋のあり方を発信した。このように、現代の国際博覧会は、万博という場に世界の叡智とベストプラクティスが集い、多様な価値観を尊重し合いながら未来に向けて一人ひとりが行動し、未来がより良い方向へと変わっていくことを目指すといった意義を有している。

誘致活動から開催地決定へ

国際博覧会を誘致するに当たり、数年にわたって、多くの関係者が検討を重ねてきた。2016（平成28）年11月に大阪府が「『2025日本万国博覧会』基本構想案」をとりまとめ、政府に提出したことを受け、同年12月に経済産業省では経済界代表や各界の有識者、地方自治体の代表者で構成される「2025年国際博覧会検討会」を設置し、我が国が開催国に立候補する判断を行うに当たっての必要な事項について検討を重ねた。大阪・関西万博の開催意義について、「国際博覧会そのものが有する意義」に加えて、「2025年に開催する意義」「世界にとって日本／関西・大阪で開催する意義」、「日本全体と関西・大阪にとっての開催意義」の四つの視点から整理し、「2025年国際博覧会検討会報告書」として公表した。2017（平成29）年4月、大阪誘致に向けて立候補及び開催申請を行うことを閣議了解し、同年9月、BIEに立候補申請文書を提出した。

2018（平成30）年11月に開催された第164回BIE総会では、日本のほか、ロシア、アゼルバイジャンが誘致に向けてプレゼンテーションを行った。同日行われた投票では、上位2か国で決選投票を行った結果、日本92票、ロシア61票の投票結果により開催地が日本に決定した。

開催地決定から万博の登録申請へ

日本での開催が決定し、2018（平成30）年12月21日には、世耕弘成経済産業大臣が国際博覧会

開催概要

名称：2025年日本国際博覧会
略称：大阪・関西万博
開催場所：夢洲
開催期間：2025年4月13日～10月13日（184日間）

テーマ：
いのち輝く未来社会のデザイン
Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ：
・いのちを救う（Saving Lives）
・いのちに力を与える（Empowering Lives）
・いのちをつなぐ（Connecting Lives）

コンセプト：
未来社会の実験場- People's Living Lab –

日本で開かれた国際博覧会

●博覧会全体	日本万国博覧会	沖縄国際海洋博覧会	国際科学技術博覧会	国際花と緑の博覧会	2005年日本国際博覧会
開催期間	1970 年 3 月～9 月 （183 日間）	1975年7月～1976年1月 （183日間）	1985年3月～9月 （184日間）	1990年4月～9月 （183日間）	2005年3月～9月 （185日間）
開催地	大阪府吹田市千里丘陵 （351ha）	沖縄県国頭郡本部半島 （101ha）	茨城県筑波研究学園都市 （100ha）	大阪府・鶴見緑地 （140ha）	名古屋東部丘陵（長久手町・ 豊田市、瀬戸市）（173ha）
テーマ	人類の進歩と調和	海ーその望ましい未来	人間・居住・環境と科学技術	自然と人間との共生	自然の叡智
出展参加	国内：政府、地方公共団体 3 政府機関、28 民間団体 国外：76 か国、4 国際機関	国内：政府、沖縄県、7 民間団体 国外：36 か国、3 国際機関	国内：政府、茨城県 27 企業・グループ 国外：47 か国、37 国際機関	国内：政府、大阪府、大阪市 ほか 325 企業・グループ 国外：82 か国、55 国際機関	国内：政府、愛知県、名古屋市 ほか 179 企業・グループ 国外：121 か国、4 国際機関
総入場者数（万人）	6,422	349	2,033	2,313	2,204
●政府参加事業 会場面積（m^2）	敷地面積：290,898 総延床面積：22,030	敷地面積：282,893 総延床面積：34,413	敷地面積：115,260 総延床面積：47,223	敷地面積：35,000 総延床面積：10,476	敷地面積：10,120 総延床面積：8,914
出展施設	①日本館 ②日本庭園	①海洋文化館 ②海洋生物園 ③海浜公園 ④アクアポリス	①テーマ館 ②歴史館 ③こども広場 ④エキスポプラザ ⑤つくばエキスポセンター	政府苑 広場・庭園・回廊／自然・科学館 文化・伝統館／産業・技術館 都市・環境館／生活・未来館	長久手日本館 瀬戸日本館
経費（億円）	建設費：82 運営費：15	建設費：280 運営費：66	建設費：267 運営費：62	建設費：65 運営費：37	建設費：92 運営費：155

博覧会全体と政府出展事業推進の歩み

年	博覧会全体	政府出展事業
2017（平成29）年	4月　2025年国際博覧会検討会報告書を公表 2025年国際博覧会の大阪誘致に向けた立候補と開催申請を閣議了解 9月　BIEに2025年国際博覧会の大阪・関西誘致に向けたビッド・ドシエ（立候補申請文書）を提出	
2018（平成30）年	11月　第164回BIE総会が開催される（2025年国際博覧会の開催地が日本に決定） 12月　「第1回2025年に開催する国際博覧会関係閣僚会議」を開催	
2019（平成31/令和元）年	1月　大阪・関西万博具体化検討会を開催 一般社団法人2025年日本国際博覧会協会を設立 5月　平成三十七年に開催される国際博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律（万博特措法）が施行。万博特措法に基づき、一般社団法人2025年日本国際博覧会協会が博覧会協会として指定 10月　一般社団法人2025年日本国際博覧会協会が公益社団法人に認定 12月　「第2回2025年に開催する国際博覧会関係閣僚会議」を開催 登録申請書の提出に係る閣議決定	
2020（令和2）年	6月　公益社団法人2025年日本国際博覧会協会に「感染症対策検討会議」を設置 9月　国際博覧会推進本部を設置 12月　第167回BIE総会が開催される（登録申請書が承認される）	7月　第1回日本館基本構想ワークショップを開催 9月　第2回日本館基本構想ワークショップを開催 10月　第3回日本館基本構想ワークショップを開催 11月　第4回日本館基本構想ワークショップを開催
2021（令和3）年		1月　第5回日本館基本構想ワークショップを開催 4月　日本政府出展事業（日本館）基本構想を発表 5月　日本館総合プロデューサー／総合デザイナーに佐藤オオキ氏が就任 10月　第1回 2025年大阪・関西万博　政府出展事業検討会議を開催 12月　第2回 2025年大阪・関西万博　政府出展事業検討会議を開催
2022（令和4）年	7月　大阪・関西万博　開幕1000日前イベント「1000 Days to Go!」を開催	2月　第3回 2025年大阪・関西万博　政府出展事業検討会議を開催 3月　日本政府出展事業（日本館）基本計画を策定
2023（令和5）年	4月　2025年日本国際博覧会名誉総裁に秋篠宮皇嗣殿下が御就任 2025年日本国際博覧会　起工式を実施 11月　大阪・関西万博500日前関連イベントを開催	1月　第4回 2025年大阪・関西万博　政府出展事業検討会議を開催 4月　日本館ウェブサイトを開設 9月　日本館起工式
2024（令和6）年	4月　大阪・関西万博 開幕1年前イベント～ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。～を開催	1月　第5回 2025年大阪・関西万博　政府出展事業検討会議を開催 「コンニチハ!日本館」を開設 4月　公式Webマガジン「月刊日本館」第1号を公開 （以後開幕までに全12号を公開） 7月　公式SNSの開設 9月　展示公開第1弾「Farm Area」 10月　アテンダントユニフォームの公表 12月　展示公開第2弾「Factory Area」
2025（令和7）年	1月　2025年日本国際博覧会名誉会長に石破茂内閣総理大臣が就任 3月　秋篠宮皇嗣同妃両殿下がお成り 4月　開会式 天皇皇后両陛下の行幸啓　会場御視察・開会式御臨席 秋篠宮皇嗣同妃両殿下のお成り　会場御視察・開会式御臨席	1月　展示公開第3弾「Plant Area」 3月　日本館名誉館長に藤原紀香氏が就任 開館式・内覧会 4月　日本館開館

担当大臣に任命された。また、同日「第1回2025年に開催する国際博覧会関係閣僚会議」が開催され、大阪・関西万博の概要及び今後のスケジュールが提示された。

日本での開催が決定したことを受け、2020（令和2）年5月までにBIEに対して、登録申請書を提出することが求められるため、2019（平成31）年1月に、経済産業省が大阪・関西万博具体化検討会を開催し、論点の洗い出しや、今後の進め方の確認を行った。当検討会は、27人の産学官の有識者からなる委員で構成された。その後、万博計画具体化検討ワーキンググループを8回開催し、検討結果を登録申請書の作成に活用した。そして、2019（令和元）年12月、「第2回2025年に開催する国際博覧会関係閣僚会議」で大阪・関西万博の登録申請を行うことが決定した後、同日、登録申請書の提出に係る閣議決定が行われた。

その1年後、2020（令和2）年12月第167回BIE総会にて、大阪・関西万博の登録申請が承認された。

なお、政府では「平成三十七年に開催される国際博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律（以下、万博特措法）」を制定し、2019（令和元）年5月に施行した。万博特措法に基づき、経済産業大臣が「一般社団法人2025年日本国際博覧会協会」（同年10月に公益社団法人化）を大阪・関西万博の準備・運営法人として指定したほか、内閣総理大臣を本部長とする「国際博覧会推進本部」を設置した。こうして、大阪・関西万博の円滑な準備及び運営に関する施策を総合的かつ集中的に推進していくこととした。

1.2　政府出展事業の推進

基本構想の策定（令和2～3年度）

経済産業省では、2025（令和7）年に開催される大阪・関西万博において、ホスト国の政府館として来館者を魅了するパビリオンを出展するため、今後の建築及び展示の設計、施工を通じた具体化のフェーズにおいて、軸となる基本構想の検討に入った。

基本構想の検討に当たって、9人の有識者による「日本館基本構想ワークショップ」を2020（令和2）年7月から開催し、検討の末、2021（令和3）年4月に「日本政府出展事業（日本館）基本構想（以下、日本館基本構想）」を策定した。

基本計画の策定（令和3年度）

日本館基本構想で打ち出したテーマを具体化するために、日本政府館（以下、日本館）の展示体験や建築、来場前後の体験の進め方、パビリオン運営、体制やスケジュールについて、検討を進めていった。

日本館総合プロデューサー／総合デザイナーに就任した佐藤オオキ氏などを委員とする「2025年大阪・関西万博　政府出展事業検討会議」を2021（令和3）年10月に立ち上げ、日本館基本構想を基に、日本館への期待や盛り込むべき要素について、8人の有識者が議論した。そして、2022（令和4）年3月、「日本政府出展事業（日本館）基本計画（以下、日本館基本計画）」を発表した。

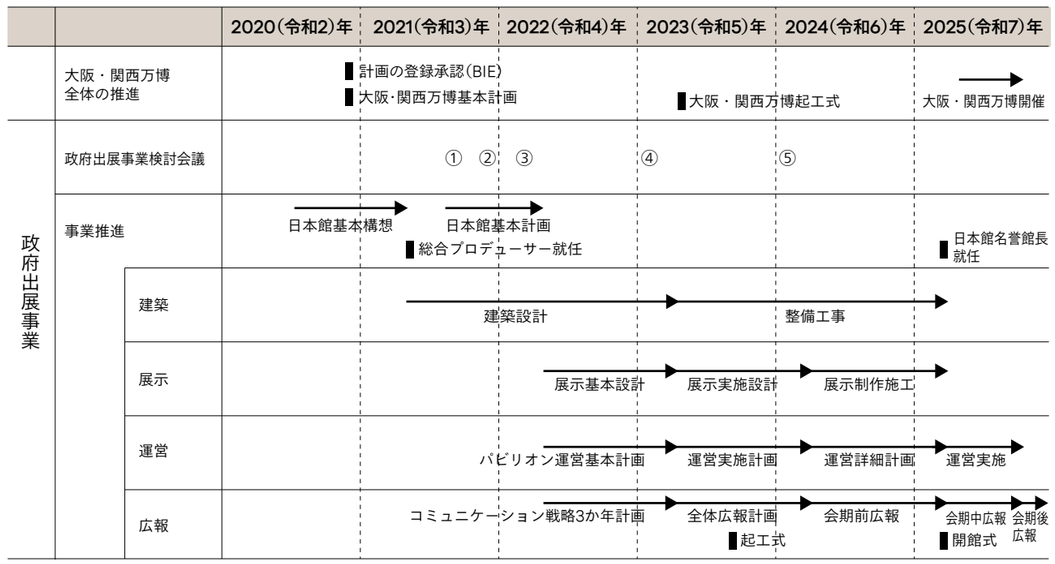
計画の具体化（令和4年度から開会）

令和4年度からは、日本館基本計画に基づき、総合プロデューサーの監修の下、日本館に係る建築、展示及び広報等の具体化を進めた。

具体的には、建築については、予定どおりの竣工に向けた建築工事の着実な実施。展示については、展示内容の検討推進・展示工事の着手、展示コンテンツ制作。広報については、広報施策等の検討、行事・催事計画の策定や施策実施。運営等については、運営計画の策定、計画に基づくスタッフの採用、準備などを、民間の技術・知見を活用しながら効率的に遂行した。

こうした準備を通じて、2023（令和5）年9月に起工式を実施、2025（令和7）年2月に日本館の竣工、大阪・関西万博開幕に先立ち、同年3月には、会場内のEXPOナショナルデーホール（レイガーデン）にて日本館の開館式を開催し、開幕を迎えた。

政府出展事業 工程表



1.3　組織・体制

政府における推進体制

日本政府出展事業の推進に当たっては、経済産業省が全体統括を担った。その際、体制づくりにおいては、ホスト国としての責任を果たしつつ、国際的な舞台で日本独自の価値を効果的に発信することを主眼に置き、企画立案・建築・展示・広報などの全領域を横断的に統括できる組織構造を設計した。特に、準備期間の制約や関係者の多さを踏まえ、決定と実行を迅速に結びつけるための意思決定ルートを明確化し、官民の役割分担を早期に固めた。

体制の設計は、博覧会推進室を中心に、国際的な視点（海外パビリオンとの調和と比較に耐える展示・運営水準の確保）、資源循環の活用「CLT[※1]（直交集成板）」（以下、CLT）や先端技術の発信を通じた日本の強みの提示」、来館者体験重視（単なる展示ではなく、社会課題を自分事として捉えられる場の創出）といった観点で進められた。

この構想に沿い、分野横断の有識者やクリエイターを早期に招聘（しょうへい）し、設計・施工・コンテンツ制作・広報を一体化させる司令塔機能を確立。結果として、日本館は計画段階から開幕に至るまで、明確なコンセプトの下で統一感ある推進体制を創出した。

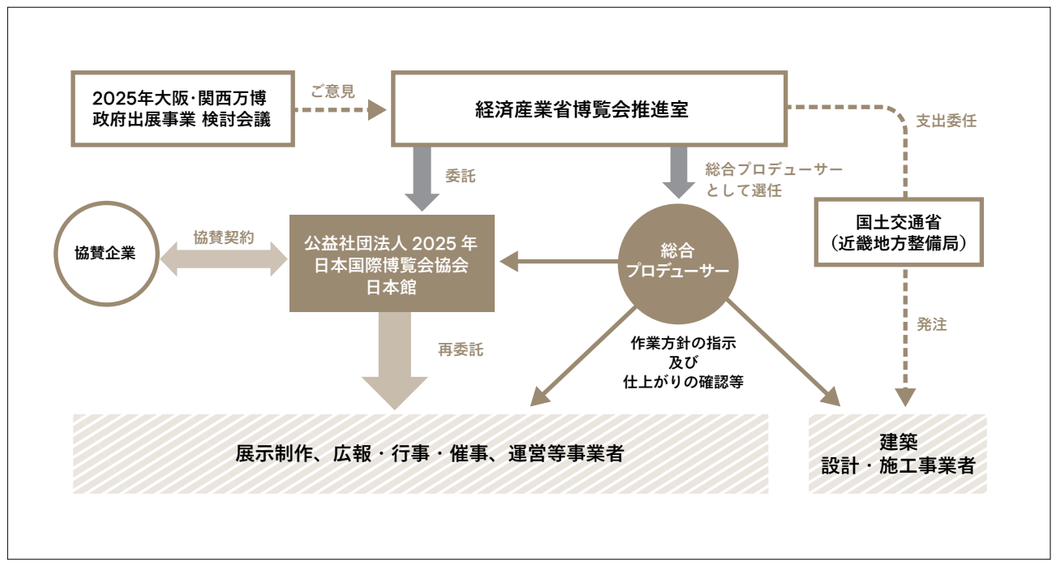
また、経済産業省では、日本政府出展に当たって、内閣官房や国土交通省とも連携して日本政府出展事業を進めた。

「国際博覧会推進本部」や「関係府省庁連絡会議」を設置して諸施策の推進、連絡体制を整備するとともに、この推進本部で決定された「2025年大阪・関西万博アクションプランVer.1」において、日本館におけるCLTの活用を通じてCLTの魅力のPR等を図ると位置付けるなど、日本館建築でのCLT活用の促進を行った。

また、法令に基づき経済産業省から国土交通省近畿地方整備局に支出委任を行い、日本館の設計・建設を進めた。

※1 CLT
Cross Laminated Timberの略称で、ひき板を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料

全体組織図



日本館総合プロデューサー／総合デザイナー、日本館名誉館長

日本館総合プロデューサー／総合デザイナー

日本館コンセプトの実現を統括するため、日本館総合プロデューサー／総合デザイナーが設置された。これは、多様な関係者を直接的かつ一元的に指揮・監督できる体制を確保することを目的としたものであった。選任に当たっては、展示及び建築の両分野における高度な専門知識と国内外における顕著な実績、国際的な展示会等の大規模事業における総合監修の経験、並びに我が国の文化・価値観を国際社会に的確に発信できるといった観点から検討した。そして、その遂行に最もふさわしい人物として、ミラノ万博の日本館ギャラリーや東京2020オリンピック・パラリンピック聖火台のデザインを手掛けた佐藤オオキ氏を、2021（令和3）年5月に任命した。

日本館総合プロデューサー／総合デザイナーは、日本館を構成する展示体験・建築・コミュニケーション等の各要素を横断的に監修し、各分野に対し指示・提案等を行った。また、日本館総合プロデューサー／総合デザイナーとして、会期前には日本館ウェブサイト上で「コンニチハ!日本館」のページを立ち上げ、日本館の検討の進行状況や、建築、展示等について積極的な発信活動を行い、日本館をプロモーションする役割も務めた。

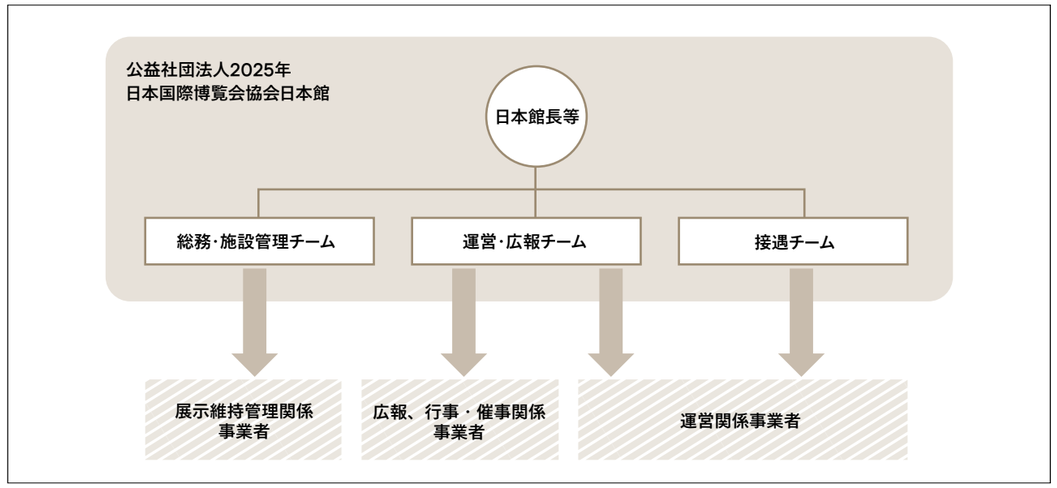
日本館名誉館長

日本館を代表し、国内外から訪れるVIPの接遇を行うなど日本館の魅力を広く発信するため、日本館名誉館長（以下、名誉館長）が設置された。名誉館長には、国民各層に幅広い支持があること、大阪・関西万博のテーマや日本館の狙いを自身の言葉で分かりやすく語ることができること、関西出身であること、SDGsに関する様々な活動を行っていること、等を踏まえて俳優の藤原紀香氏を任命した。

2025（令和7）年3月に武藤容治経済産業大臣が藤原紀香氏に任命状を交付し、就任記者会見を行った。

名誉館長は、日本館開館式、大阪・関西万博開会式等の公式行事へ積極的に出席した。その他、日本館来館者等の出迎え、政府出展事業関連イベントへの出席や、テレビ、新聞等のメディア取材も精力的に受けるとともに、自身のSNSでも積極的に発信し、まさに、日本館の「顔」としての役割を果たした。

会期中体制図



公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会

日本館出展に関わる政府出展事業は令和5年度以降、経済産業省から公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下、博覧会協会）へ委託して実施した。博覧会協会では経営企画室がその業務を担当していたが、2025（令和7）年1月には、経営企画室から日本館が一つの局として独立し、博覧会協会日本館において、日本政府出展に関わる業務を担当することとなった。

博覧会協会日本館では、日本館に係る経済産業省等との連絡調整、総務・施設管理、運営・広報、接遇に関する業務を担った。

政府出展事業の核となる企画立案は経済産業省が担いながら、企画に基づく現場での展示制作・検証、行事・催事の実施やそれに関わる広報対応等は、民間の技術・知見を活用しながら効率的に業務を遂行するため、民間事業者へ再委託を行った。

また、一部の日本館の展示や運営関係の物品、キャラクターライセンス等については、募集要領等に従い、協賛者を選定した。その結果、多くの企業・団体に協賛いただくとともに、日本館への寄附による支援もいただいた。

1.4　予算・契約

日本政府出展事業における予算については、令和2年度から執行を開始し、大阪・関西万博の閉幕後である令和8年度にかけて、7年間予算措置を行った。

日本政府出展事業における予算は、設計・建築の費用と展示・運営等の費用で構成され、このうち、設計・建設については法令に基づき国土交通省近畿地方整備局に支出委任を行った。また、展示・運営等については運営実施計画を策定する令和5年度から一体的運営を見据え、経済産業省から博覧会協会に事業の委託を行った。

会期中委託事業者	株式会社日建設計／日本館展示等コンソーシアム共同企業体／カナデビア株式会社／株式会社日本デザインセンター／大日本印刷株式会社

協賛企業・団体（ご協賛いただいた規模に応じ、3区分に整理）	
プレミアムパートナー	テイケイ株式会社
メジャーパートナー	慶應義塾大学COI-NEXT（共生アップサイクル）、金沢大学COI-NEXT（多糖類バイオプラ循環）、エス.ラボ株式会社、株式会社DigitalArchi、株式会社放電精密加工研究所・共創プロジェクト／MATSURI（バイオエコノミー推進共創イニシアチブ）
オフィシャルパートナー	エムシーファッション株式会社／東レ株式会社／株式会社KAORUKO／カナデビア株式会社／株式会社メディコム・トイ／TOTO株式会社／株式会社カネカ／帝人フロンティア株式会社／株式会社マキシン／株式会社goyemon／福助株式会社

協力企業・団体	
展示協力（五十音順）	京都府／国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）／神宮司庁／積水化学工業株式会社／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所／株式会社タカラトミー／株式会社ちとせ研究所（ちとせグループ）／東武タワースカイツリー株式会社／独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）／ナガセケムテックス株式会社／株式会社日建設計／株式会社モルテン

寄　附	
	株式会社CCHサウンド／回（ぐるり）プロジェクト（福島県浪江町発日本酒造り）／株式会社ワークマン／ミウラ化学装置株式会社／株式会社アール・グラージュ・インターナショナル／一般社団法人日本和紙クラフト協会

政府出展事業 契約一覧

契約名	契約期間	契約相手	金額(単位:千円)
■令和2年度当初予算			
大阪・関西万博日本館政府出展事業 (大阪・関西万博日本館に係る事前調査及び基本構想策定業務)	R2.5.14～R3.3.31	(株)ADKマーケティング・ソリューションズ	29,902
大阪・関西万博日本館政府出展事業 (大阪・関西万博日本館に向けたSDGs関連調査及び 日本館構想検討に係る国連との連携企画事業)	R2.7.8(契約変更:R3.3.26) ～R3.3.31	(株)電通	5,431
■令和3年度当初予算			
大阪・関西万博日本館政府出展事業 (基本計画策定等に係る業務)	R3.9.10(契約変更:R4.2.18) ～R4.3.31	(株)電通	179,957
大阪・関西万博日本館政府出展事業 (大阪・関西万博に向けたSDGs及び SDGs+beyondに関する調査及び 国連との連携企画事業)	R3.10.26 (契約変更:R4.3.23) ～R4.3.31	(株)電通PRコンサルティング	17,600
大阪・関西万博日本館政府出展事業 (2025年大阪・関西万博日本館の建築設計と 一体的に行う展示総合設計等業務)(国庫債務負担行為)	R4.3.30(契約変更R5.1.27) ～R5.3.31	(株)日建設計	88,790
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務 ※明許繰越、R4執行	R3.11.16～R5.6.30	(株)日建設計	204,000
大阪・関西万博日本館(仮称)敷地調査業務	R3.12.10～R4.3.25	(株)リークス開発	7,630
大阪・関西万博日本館(仮称)敷地調査等業務 ※明許繰越、R4執行	R4.6.4～R4.8.22	(株)メーサイ	1,172
■令和4年度当初予算			
大阪・関西万博日本館政府出展事業	R4.5.26(契約変更:R5.3.28) ～R5.3.31	(株)電通、(株)ソトコト・プラネット、 (株)大栄環境総研、(株)丹青社、 (株)電通ライブ、(株)日本デザインセンター、 日本工営(株)のコンソーシアム	319,650
大阪・関西国際博覧会政府開催準備事業 (日本館の理解促進と大阪・関西万博の機運醸成等を図る事業) ※明許繰越R5執行	R6.2.9～R6.3.29	(有)戸田商事	14,943
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館(仮称)設計業務 ※明許繰越、R5執行	R3.11.16～R5.6.30	(株)日建設計	368,440
大阪・関西万博日本館(仮称)設計(第1期)その2業務 ※明許繰越、R5執行	R5.7.28～R6.3.31	(株)日建設計	135,861
大阪・関西万博日本館(仮称)敷地調査等業務	R4.6.4～R4.8.22	(株)メーサイ	753
■令和4年度補正予算			
大阪・関西万博日本政府出展事業 ※明許繰越R5、事故繰越R6執行	R5.4.12(契約変更:R5.12.26、 R6.4.1)～R7.3.31	(公社)2025年日本国際博覧会協会	3,549,082 (7,696)※2
(博覧会協会契約分)			
コミュニケーション企画制作等業務	R5.4.13～R6.3.31	(株)日本デザインセンター	149,050
建築設計と一体的に行う建築展示支援・調整等業務	R5.5.25～R6.3.29	(株)日建設計　大阪オフィス	171,556
展示実施設計・運営実施計画等業務	R5.5.25(契約変更:R6.3.29、 R6.11.15)～R7.3.31	日本館展示等コンソーシアム共同企業体 (代表者(株)丹青社)	1,776,894
施設整備事業(バイオガス発電プラント設計・施工等)	R5.6.1(契約変更:R6.3.29) ～R7.3.31	日立造船(株)	998,216
広報・催事・バーチャルパビリオン企画制作等業務	R5.6.26～R6.3.31	大日本印刷(株)	73,434
CLT発注等業務	R5.12.27(契約変更:R6.3.29) ～R7.3.31	(一社)日本CLT協会	372,458
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事	R5.7.21～R7.2.28	清水建設(株)関西支店	1,940,000
■令和5年度当初予算			
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事	R5.7.21～R7.2.28	清水建設(株)関西支店	2,089,067
大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事監理業務	R5.7.29～R7.2.28	(株)日建設計	63,800
■令和5年度補正予算			
大阪・関西万博日本政府出展事業 ※明許繰越R6執行	R6.4.1～R7.3.31	(公社)2025年日本国際博覧会協会	7,319,166 (40,242)※2
(博覧会協会契約分)			
施設整備事業(バイオガス発電プラント設計・施工等)	R6.4.1～R7.3.31	日立造船(株)	324,799
展示制作・施工等業務及び運営詳細計画・実施準備等業務	R6.4.1～R7.3.31	日本館展示等コンソーシアム共同企業体 (代表者(株)丹青社)	6,055,587
広報・催事・バーチャルパビリオン企画制作等業務	R6.4.1～R7.3.31	大日本印刷(株)	484,130
コミュニケーション企画制作等業務	R6.4.1～R7.3.31	(株)日本デザインセンター	224,455
建築設計と一体的に行う建築展示支援・調整等業務	R6.4.1～R7.3.31	(株)日建設計　大阪オフィス	191,708
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事	R5.7.21～R7.2.28	清水建設(株)関西支店	8,863,311
■令和6年度当初予算※1			
2025年国際博覧会事業費 (大阪・関西万博日本政府出展事業)　※明許繰越R7執行	R7.4.1～R8.3.31	(公社)2025年日本国際博覧会協会	200,000 (9,904)※2
(博覧会協会契約分)			
展示制作・施工等業務及び運営実施業務(維持管理)	R7.4.1～R8.3.31	日本館展示等コンソーシアム共同企業体 (代表者(株)丹青社)	190,096
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事	R5.7.21～R7.2.28	清水建設(株)関西支店	1,500,022
大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事監理業務	R5.7.29～R7.2.28	(株)日建設計	85,250
大阪・関西万博日本館(仮称)設計(第2期)その2業務	R6.4.12～R7.2.28	(株)日建設計	130,900
大阪・関西万博日本館床補修工事	R7.8.8～R7.10.13	清水建設(株)関西支店	3,850
■令和6年度補正予算(一般会計)※1			
2025年国際博覧会事業費 (大阪・関西万博日本政府出展事業)　※翌債R7執行	R7.2.27～R8.3.31	(公社)2025年日本国際博覧会協会	1,420,068 (763,346)※2
(博覧会協会契約分)			
施設運営事業(バイオガス発電プラント運転管理等)	R7.4.1～R8.3.31	カナデビア(株)	121,715
広報・催事・バーチャルパビリオン企画制作等業務	R7.4.1～R8.3.31	大日本印刷(株)	383,702
コミュニケーション企画制作等業務	R7.4.1～R8.3.31	(株)日本デザインセンター	87,010
建築設計と一体的に行う建築展示運営等支援・総合調整業務	R7.4.1～R8.3.31	(株)日建設計　大阪オフィス	64,295
■令和6年度補正予算(エネルギー対策特別会計)※1			
資源自律経済加速関係主体連携促進事業費 (大阪・関西万博日本政府出展事業)　※明許繰越R7執行	R7.4.1～R8.3.31	(公社)2025年日本国際博覧会協会	4,380,010 (124,713)※2
(博覧会協会契約分)			
展示制作・施工等業務及び運営実施業務(展示・運営)	R7.4.1～R8.3.31	日本館展示等コンソーシアム共同企業体 (代表者(株)丹青社)	4,255,297
■令和7年度当初予算・令和7年度補正予算※1			
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館解体工事	R7.11.18～R8.11.20	清水建設(株)関西支店	1,873,300
■令和8年度当初予算※3			
(国交省支出委任分)			
大阪・関西万博日本館解体工事(予定)	未定	未定	300,000
合計額※4			35,091,954

※1 令和6年度以前執行分は確定額(2026(令和8)年1月時点)を、令和7年度執行分は契約額を記載
※2 金額欄のうち、かっこ書きは博覧会協会直執行部分を記載
※3 令和8年度当初予算は予算要求段階(2025(令和7)年12月時点)の金額を記載
※4 金額について、令和6年度以前執行分は確定額、令和7年度以降執行分は契約額(但し、令和8年度当初予算は予算要求額)を用いて計算(2026(令和8)年1月時点)
(注)端数処理のため、合計が一致しない場合があります

2 日本政府出展事業基本構想の策定

日本館は、大阪・関西万博の掲げるテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」をホスト国としてプレゼンテーションする拠点となる。この日本館の方向性について検討するため、2020（令和2）年7月から日本館基本構想ワークショップを開催し、2021（令和3）年4月、出展目的・建築空間・設計・展示の在り方、日本館テーマ、推進体制等を盛り込んだ「日本館基本構想」を策定し、公表した。

2.1 基本構想の検討

検討経過

基本構想の検討に当たって、2020（令和2）年7月から2021（令和3）年1月の間に、9人の有識者による全5回の日本館基本構想ワークショップを開催した。

ワークショップの実施に当たっては、活発な議論が行われるよう、展示企画、空間デザイン、情報発信、リサーチなどの各分野において国内外で卓越した実績を有する7人のクリエイターを、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に対して「日本館」としてどう向き合うのかを表現できる構想力や創造性といった観点で選定・起用した。また、ワークショップの設計、運営をサポートするワークショップファシリテーターとして、京都大学総合博物館准教授の塩瀬隆之氏、プロジェクトマネージャーとしてデザインオフィスnendo代表／デザイナーの佐藤オオキ氏を起用した。

また、日本館基本構想ワークショップと並行して、建築家や大学教授等有識者からヒアリングを実施した。若手クリエイターの感性と、日本を代表する学識経験者、有識者の重厚な知見を組み合わせることで、政府出展事業（日本館）の基本構想をより充実したものとすることを目指した。

日本館基本構想ワークショップ検討メンバー

委嘱内容	氏名	所属／役職
企画・展示コンテンツクリエイター	田中 みゆき	キュレーター／プロデューサー／東京都渋谷公園通りギャラリー学芸員
	南澤 孝太	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授
空間デザインクリエイター	平賀 達也	ランドスケープアーキテクト／株式会社ランドスケープ・プラス 代表取締役
	平田 晃久	建築家／京都大学教授／平田晃久建築設計事務所
情報発信・リサーチクリエイター	市原 えつこ	メディアアーティスト
	指出 一正	株式会社sotokoto online 代表取締役／ソトコト編集長
	太刀川 英輔	NOSIGNER 代表／デザインストラテジスト／慶應義塾大学大学院特別招聘准教授
ワークショップファシリテーター	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館 准教授
プロジェクトマネージャー	佐藤 オオキ	デザインオフィスnendo代表／デザイナー

日本館基本構想ワークショップ

日本館の方向性について、コロナ禍に配慮したウェブ会議なども交えつつ基本構想案を検討した。

日本館基本構想ワークショップ開催概要

	日付	主な議題
第1回	2020（令和2）年7月30日	日本館の概要説明、日本館のターゲット及び各構成要素に関する意見交換
第2回	2020（令和2）年9月15日	日本館の来場者体験に関する意見交換
第3回	2020（令和2）年10月20日	コロナ禍による変化及び2025年の未来像に関する意見交換
第4回	2020（令和2）年11月27日	日本館のステートメントに関する意見交換
第5回	2021（令和3）年1月29日	日本館基本構想案に関する意見交換

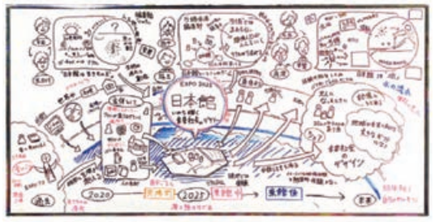
第1回［2020（令和2）年7月］

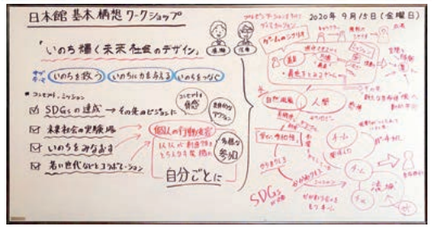
第1回日本館基本構想ワークショップでは、経済産業省から大阪・関西万博の構想について説明があった後、グループワークと全体共有を通じ、参加者間での意見交換・ブレインストーミングを実施した。

意見交換は「日本館に訪れる人として誰を対象にするか」という問いから始まった。その後、未来を作る子どもを対象として、展示・情報発信・空間設計のチームに分かれて議論を進めた。主な意見として、サイエンスをテーマに置くことや五感を活用した展示の提案等があった。

また、情報発信と展示の垣根を無くすことやサステナビリティを考慮した素材の使用が提案された。未来志向のコンテンツや体験を通じて、多様な人々が共感できる場を創出することが多くの有識者の意見として出た。

あった。最後は、若い世代が新たな未来を創造する、「万博チルドレン」として生まれ育つことを目標とすることで締めくくられた。





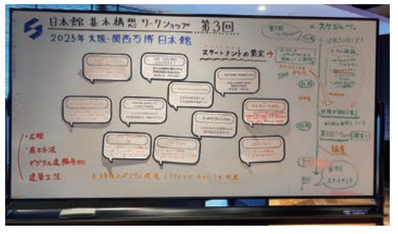
第2回［2020（令和2）年9月］

第2回日本館基本構想ワークショップでは、大阪・関西万博日本館の来館者体験について意見交換が行われた。有識者からは日本館を単体のパビリオンではなく、様々な要素が絡む体験の場とすることが提案された。子どもに理解しやすいテーマ設定や、ゲームを通じて来館者を事前にファン化するアイデアが挙げられたほか、バーチャル日本館を作り、会期前からSDGsやサイエンスを学べる仕組みづくり、物理的に会場にいない人とも共時性を持って体験できる方法が求められた。

また、水をテーマにした編集軸についても提案が

第3回［2020（令和2）年10月］

第3回日本館基本構想ワークショップでは、最初に経済産業省が、「地域材の活用を通じたSDGsの推進について（資料作成：内閣官房、林野庁、国土交通省、環境省）」と題し、CLTの活用意義やCLTを活用したプロジェクト等について説明した。その後、コロナ禍を経て変わったと思うこと、自分たちは5年後をどう迎えると思うか等について、参加



者間で意見交換がなされた。

意見交換では、コロナ禍でデジタルへのマインドシフトが進んでいることから、その前提で準備をしていく必要があることや、ポストコロナにおいて、距離を超えて集まることのメリットをいかに伸ばしていくかが重要という意見が挙がった。

さらに、空間、時間、身体を超える共体験という要素や、多様な個性が組み合わさることで新しい価値が生み出されるという要素を日本館に取り入れるべきという意見があった。最後には、今は自然とどのように共生しないといけないかが問われているという問題提起があった。

第4回［2020(令和2)年11月］

第4回日本館基本構想ワークショップでは、日本館のステートメントについて意見交換を行った。いのちが関わることで、社会ができているという共生感や、万博によって人の成長が促されたこと（万博チルドレン）を伝えていくべきという意見が挙がった。

一方で、テクノロジーは大事な要素だが、トレンドがあるため長期的な目線で考えた際にテーマの中心に据えると古びやすく危険といった指摘や、テクノロジーを使用すること自体が目的ではなく、テクノロジーという手段を使って何を達成したいか考えるべきといった、テクノロジーに関する指摘もあった。

第5回［2021(令和3)年1月］

最終回となる第5回日本館基本構想ワークショップでは、経済産業省から基本構想案が提示され、それを基に意見交換を行った。提示された基本構想案に対し、各参加者は、境界のない不完全なもの同士が関わりあいながら新しいまとまりを生んでいるという内容が盛り込まれていることや多様性について表現されていること等を評価した。

また、基本構想案を社会に浸透させるための仕掛けづくりとして、日本館が様々な分野のプレイヤーをつなぐハブになることや、万博の気風を地域で伝える機会を持続的に設ける必要性が強調された。また、日本館が多様な関係を築く場となることを期待するコメントが挙がった。

ステートメント
及び
基本構想案その他項目に対しての意見出し

基本構想案を社会に浸透させるための
仕掛けづくり

有識者ヒアリング

2020(令和2)年12月～2021(令和3)年3月にかけて、展示コンテンツの核の一つとなるSDGsに関する展開例の調査、事例収集等を行うために、建築家や大学教授等の5人の有識者に対し、ヒアリングを行った。

こうした日本を代表する学識経験者、有識者の知見を日本館基本構想ワークショップに組み合わせていくことで、日本政府出展事業（日本館）の基本構想をより充実したものとすることを目指した。

なお、有識者に対しては、建築工程と建物空間におけるSDGs達成への寄与や、世界的SDGsの潮流における日本の取組の評価、日本的価値観の反映・表現方法などについてヒアリングを行った。

有識者ヒアリング

ヒアリング対象者	実施日	主要質問事項
大野 秀敏 建築家、都市構想家、東京大学名誉教授／アプルデザインワークショップ代表取締役	2020(令和2)年12月10日	建築工程及び建物空間におけるSDGs達成への寄与など
川久保 俊 法政大学デザイン工学部建築学科准教授	2020(令和2)年12月10日	同上
佐藤 真久 東京都市大学環境学部教授	2021(令和3)年1月6日	世界的SDGsの潮流における日本の取組の評価 教育とSDGsなど
山極 壽一 京都大学元総長、人類学者	2021(令和3)年2月2日	万博が果たすべき使命 日本的価値観の反映、表現方法など
蟹江 憲史 慶應義塾大学政策・メディア研究科教授／国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー	2021(令和3)年3月2日	世界的SDGsの潮流における日本の取組の評価 万博で紹介すべきSDGs事例など

※役職は当時

2.2　基本構想の概要

全体概要

日本館基本構想ワークショップや有識者ヒアリングを経て、2021(令和3)年4月に「日本館基本構想」を策定した。

大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を踏まえて検討を重ねた結果、日本館基本構想では日本館のテーマを「いのちと、いのちの、あいだに-Between Lives-」と定めた。このテーマは、来場者が様々ないのちといのちの「あいだ」を見つめることで、それぞれのいのちの尊さや互いに支え合っている存在であることを自覚するとともに、自分たちがほかのいのちと共創しながら大きな循環を生み出す大切さを学び、社会課題を自分事として捉え行動変容につなげていくという発想に立ち、設定した。

日本館基本構想では、大阪・関西万博のホスト国として日本政府出展事業のあるべき姿として、目的と使命やテーマのほか、それを体現する建築・空間設計、展示、コミュニケーション（広報・行催事）、運営の在り方について、以下の構成のとおりまとめた。

1 2025年大阪・関西万博開催の意義
2 日本政府出展事業の目的と使命
3 出展に際しての視点
4 日本館の主題
5 日本館を通じた来場者体験
6 建築・空間設計の在り方
7 展示の在り方
8 コミュニケーション（広報・行催事）の在り方
9 運営の在り方
10 今後の進め方

日本政府出展事業（日本館）基本構想

基本構想の内容

日本館の出展意義等

日本館基本構想をとりまとめるに当たって、「1 2025年大阪・関西万博開催の意義」では、開催意義の歴史的な変遷を踏まえ、大阪・関西万博として目指すべき方向性を示した上で、過去の日本政府出展事業を振り返り、今回の日本政府出

展事業の目的と使命について定義を行った。

これまで日本で開催されてきた国際博覧会における日本政府出展事業は、それぞれの時代に向き合い、世界と共に課題を解決することを使命としてきた。日本館基本構想を検討していた2020(令和2)年は、新型コロナウイルスの感染拡大により全人類が危機にさらされ、これまで当たり前だと考えていた生活様式の変更を余儀なくされ、誰もが「いのち」や「生きる」ということに向き合う一年だった。

一方で、デジタルネットワークがこれまで以上に生活に入り込み、生き方が変容し、価値観の多様化が一層顕著に現れることとなった。このような背景を踏まえ、「2 日本政府出展事業の目的と使命」として次のとおり位置付けた。

「いのち」という原点に立ち返り、一人一人のいのち、また地球という母体の中で生かされる様々ないのちに向き合う。そして、この土壌を大切な次世代のいのちへと受け継ぐために、持続循環型の仕組みを前提としながら、個々人の選択が自由に拡がり、互いに尊重され、自己実現できる社会を目指す。
不完全ながらも共生の中で輝く「いのち」たちが作り出す未来社会を、2025年に日本館は世界と共にデザインする。

こうした日本政府出展事業の目的と使命を踏まえ、ホスト国として、大阪・関西万博全体のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に関する日本独自の取組を世界に発信することや、「未来社会の実験場」として、特にSociety5.0の実現に資する技術やシステム開発、試験的導入を推進し、大阪・関西万博後の社会実装に結びつけること、子どもたちのための社会教育の場として、子どもたちの参加体験を重視し、計画段階からの共創にも挑戦し、次世代(万博チルドレン)の育成に努めること等を盛り込み、「3 出展に際しての視点」として整理した。

- 日本独自の取組を世界に発信
- SDGsの達成に貢献
- 新たな技術やシステムの試験的導入を推進
- 日本のテクノロジー等の可視化・加速の契機
- 特に若い世代の新たな才能の飛躍の機会創出
- 子どもたちの参加体験を重視し、次世代(万博チルドレン)を育成
- 新たな「いのち」の在り方を定義するような機会提供
- 個人の行動変容の促進
- 地球規模の社会課題について自分事化
- 会期前から日本館に主体的に関わる人口の拡大

テーマ―いのちと、いのちの、あいだに―

日本政府出展事業の出展に際しての視点を整理した上で、「4 日本館の主題」として今後の日本政府出展事業を検討する上で重要な核となる、日本館の『テーマ』と『テーマコンセプト』、『テーマステートメント(テーマに込めた意義・背景)』について、明確化した。

『テーマ』
いのちと、いのちの、あいだに
-Between Lives-

『テーマコンセプト』
来場者は、他者と自分、人と人以外、生物と非生物など、様々ないのちといのちの「あいだ」(境界・差異・関係性)を見つめることで、それぞれのいのちの尊さや、互いに支えあっている存在であることを自覚する。自分たちが大きな地球の中で生きていることに気付き、他のいのちと共創しながら大きな循環を生み出す大切さを学ぶ。こうした一連の体験を経て、SDGsに代表される社会課題を自分事として咀嚼し、未来社会のつくり手としての行動変容を促す。

『テーマステートメント(テーマに込めた意義・背景)』
2020年、新型コロナウイルス感染症の発生と拡大により、私たちはかつてない分断と価値観の揺らぎを体験し、自分たちのいのちと繋がりの大切さにもう一度向き合うことになった。その一方では、コロナ禍において世界がロックダウンしている間に、自然環境は急速な改善を見せた。新型コロナウイルス感染症の痛みの中で、私たちは生態系と共生するきっかけとヒントも得たのかもしれない。この両面性ある特別な経験は奇しくも、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会」とはなにかを深く考える契機となった。

なかでも強く実感したのは、私たちは決して一人では生きていけないということではないか。私たちはどのような状況においても、他者とのコミュニケーションや様々な生物との繋がりを必要としている。地球は長い時間をかけて、生態系を変化させ、いのちの源である水は循環し、多様な生命が繋がる生態系を育んできたが、その環境は劇的に変化している。だからこそ、人類以外の生命や環境との相互作用のなかで、それぞれの環世界を尊重しながら、いのちの在り方を見つめ直すことは重要な意味を持つだろう。

一方でデジタル空間や宇宙など、新たなフロンティアの存在がますます身近になり、私たちは、空間や時間を超えた繋がり、人と人の繋がりを紡ぎ出す方法を獲得しつつある。こうした時代認識を踏まえ、日本が古来有する万物への畏敬や死生観・自然観を基に、完全無欠ではない一つ一つのいのちが、それぞれの輝きを放ちながら力を合わせ、互いに共鳴しあい、未来社会を構築することを実感する日本館を提案したい。それぞれのいのちが響き合い、共に地球の未来を創ることを体現すべく、地球を中心としたデザインの観点も踏まえ、世界と共にいのちの在り方を考える場としていく。

故に、日本館はパビリオンという枠をも超え、地球環境とデジタルな世界とを相互に繋ぎあう有機的なプラットフォームとなり、準備・計画段階から、多様なプレイヤーの参加を受け入れる。あらゆる応答は祝福され、参加者の関わり方により、パビリオンのコンテンツは生物のように進化する。日本館に参加する人たちは皆、自らの選択によって様々に変化する物語を体験し、その選択が未来に繋がることを実感する。

日本館は未来が生まれる場であり、他者・コミュニティ・地球環境と「関わりしろ」を持ちながら、全ての参加者を主体として迎え入れる。そして、日本館を体験した少年少女たちは万博チルドレンとして、誰もが一回り成長し、未来社会を実現するクリエイターとなるだろう。

日本館を通じた来場者体験

次に、「5 日本館を通じた来場者体験」として、パビリオンの来場前(会期前～会期中)と来場中(会期中)、来場後(会期中～会期後)の三つに分けて以下のように整理した。

1 パビリオン来場前(会期前～会期中)
- 会期前から多くの人が日本館の作り手として関与できるとともに、日本館のコンテンツを体感したうえで来場。

2 パビリオン来場中(会期中)
- パビリオンは来場者の選択や情動に呼応する設計。
- デジタル空間にも日本館のコンテンツを配置し、相互に連動。
- 「来場」という概念を拡張し、多様な来場手段を提供。

3 パビリオン来場後(会期中～会期後)
- 展示で得た学び・気付きを自分自身の言葉で言語化する機会を設ける。
- 社会課題や未来の人類社会の在り方を自分事として捉え、日常生活の中でアクションを起こす人を増やす。
- 会期後も日本館コンテンツの一部はレガシーとして残せるよう検討。

建築や展示等各分野の在り方

そして、日本館基本構想では政府出展事業の

テーマを具現化していくに当たって、基礎となる建築・空間設計、展示、コミュニケーション（広報・行催事）、そして運営の4つの在り方について、内容をまとめた。

「6 建築・空間設計の在り方」では、それ自体が来館者体験の一部となるような展示と建築の融合など、以下のような在り方を掲げた。

・展示と建築の融合による一貫した来場者体験の創出
・建設サイクル全体を通じた循環システムの構築
・会期前からの参加者の巻き込み
・屋内外を通した敷地空間の柔軟な活用
・サステナブルな資源利用

「7 展示の在り方」では、当事者意識を持って「いのち」と向き合う体験や、デジタル空間と連動した体験に重点を置き、以下のような在り方を掲げた。

・来場者の主体性を重視した多層展示
・ダイバーシティを実感する展示体験
・自分事化を促す双方向展示体験
・循環動線の連関を意識した空間構成
・リアルとデジタルの相互連関
・自分の「いのち」と向き合う体験
・大阪・関西万博後の社会実装につながる展示

「8 コミュニケーション（広報・行催事）の在り方」では、積極的な情報発信を行うことで、会期前からコミュニティを拡大していくことや、未来を担う子どもたちとの対話の場を提供すること等として以下のような在り方を掲げた。

・会期前からのコミュニティ拡大
・未来を担う子どもたちとの対話
・多様なプレイヤーを発信主体として巻き込む
・アカデミアと連携し、サイエンスコミュニケーションの機会に
・SDGs + beyondに関するフォーラムの開催

「9 運営の在り方」では、運営も来館者が接するパビリオンの一部であることを意識し、ハード・ソフトの両面からバリアフリー化を図ることや、運営に関わる人のダイバーシティ確保へ配慮すること等以下のような在り方を掲げた。

・バリア／ストレスフリーなパビリオン運営
・主客一体の体現
・感染症対策も踏まえた安全安心な体制構築

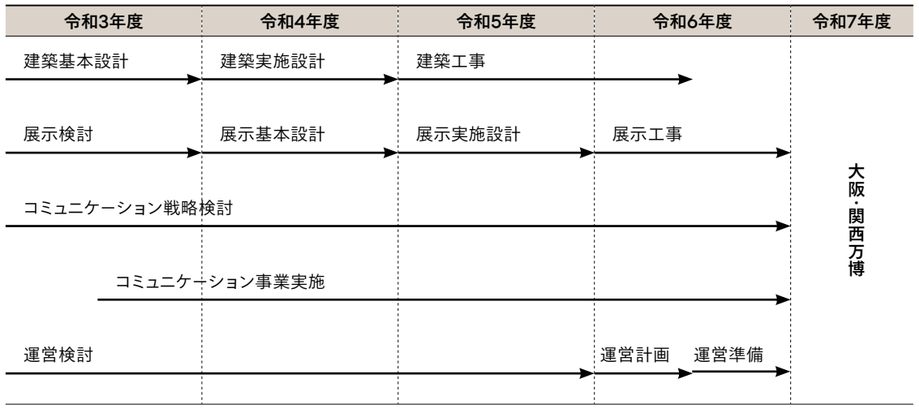
日本館基本構想検討後の進め方

日本館基本構想策定後から大阪・関西万博閉幕までの主なスケジュールを提示した。

また、今後の日本館の検討に当たっての推進体制も提示した。経済産業省の下、日本館を構成する建築や展示等の分野特性に応じた推進体制を構築し、それらを横断的に監督し、各分野に対し指示・提案等を行うような建築・展示等の専門的な知見を有する有識者として総合プロデューサー（仮称）を配置することとした。

令和3年度は、日本館基本構想で提示した建築、展示、コミュニケーション（広報・行催事）、運営の在り方を軸にして、以降より具体化していくための日本館基本計画の検討に入った。

日本館基本構想策定後のスケジュール（2021（令和3）年4月時点）



3 日本政府出展事業基本計画の策定

「日本館基本構想」策定後、各要素を具体化し、今後の実施方針を示すため、2021（令和3）年10月に有識者を招聘し、2025年大阪・関西万博政府出展事業検討会議を立ち上げた。2022（令和4）年3月、日本館の目指す来館者体験や、展示のコンセプト等を盛り込んだ「日本館基本計画」を策定し、公表した。

3.1 基本計画の検討

検討経過

経済産業省では、日本館基本構想で策定した日本政府出展の方針並びに建築・空間設計や展示、コミュニケーション（広報・行催事）、運営等の各要素を具体化し、今後の実施方針を示すために、基本計画を策定することとした。そのため、2021（令和3）年10月に8人の有識者を招聘し、「2025年大阪・関西万博政府出展事業検討会議」を立ち上げた。

政府出展事業検討会議では、国際的な文化・芸術活動や企業経営を通じた高度なマネジメント経験、幅広いネットワークを活かした調整能力、並びに日本文化や美意識を国際社会に効果的に発信してきた実績を踏まえ、サントリーホールディングス株式会社代表取締役副会長・サントリー美術館館長の鳥井信吾氏が座長に就任した。

会議委員にはデザインオフィスnendo代表・日本館総合プロデューサー／総合デザイナーの佐藤オオキ氏や、京都大学総合博物館准教授の塩瀬隆之氏等、各方面で活躍する有識者8人が名を連ねた。政府出展事業検討会議は、各委員から日本館に盛り込むべき要素について意見を交換する場とし、大阪・関西万博の「顔」となる日本館のコンテンツの充実を目指した。

また、基本計画の検討と並行して、経済産業省では建築設備基本設計関係者への与件提示や、展示案において重要な位置付けとなるバイオガス発電や藻類（そうるい）培養の実現可能性についても検証を行った。

さらに、市民からの声も広く集めることを目的として、関西2府4県の参加者を募り、日本館や大阪・関西万博がどうあるべきか、地域の未来を考えるための市民参加型の取組「万博未来編集部ローカルツアー」を開催した。その後、同取組は全国各地でも開催した。

政府出展事業検討会議委員

氏　名	所属／役職
池坊 専好	華道家元池坊 次期家元／公益社団法人2025年日本国際博覧会協会理事／大阪・関西万博シニアアドバイザー
古賀 信行	一般社団法人日本経済団体連合会 審議員会議長
コチュ・オヤ	株式会社Oyraa代表取締役
佐藤 オオキ	デザインオフィスnendo代表／日本館総合プロデューサー／総合デザイナー
塩瀬 隆之	京都大学総合博物館 准教授
千 宗室	茶道裏千家家元 大阪・関西万博シニアアドバイザー
鳥井 信吾〈座長〉	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副会長 サントリー美術館館長
米良 はるか	READYFOR株式会社 代表取締役 CEO

※役職は当時

政府出展事業検討会議

	日　付	主な議題
第1回	2021（令和3）年10月26日	日本館への期待や盛り込むべき要素について、有識者から意見を収集
第2回	2021（令和3）年12月2日	日本政府出展事業（日本館）基本計画骨子（案）について説明した後、有識者から意見を収集
第3回	2022（令和4）年2月16日	日本政府出展事業（日本館）基本計画（案）について説明した後、有識者から意見を収集

政府出展事業検討会議

日本館の今後の実施方針を示す基本計画を策定するため、畠山陽二郎商務・サービス審議官を代表とした経済産業省商務・サービスグループ博覧会推進室を事務局とし、座長の鳥井信吾氏を中心に、コロナ禍に配慮したウェブ会議なども交えつつ、有識者から意見を集めた。

第1回［2021(令和3)年10月］

第1回政府出展事業検討会議では、経済産業省から2021（令和3）年4月に公表した日本館基本構想や、今後の日本館の検討について説明を行った後、各有識者から日本館への期待や、盛り込むべき要素について意見を集めた。

主な意見として、近年の万博の日本館は全く違う内容でも背骨は同じであり、今回も一つの想いをリレーのようにつないでいく場であると良いといった期待のほか、盛り込むべき要素として、デジタル化が進んだ社会を見せることや、テーマやコンセプトを分かりやすく伝え、自分事化できるような設計にすることといった意見が挙がった。

政府出展事業検討会議の様子

第2回［2021(令和3)年12月］

第2回政府出展事業検討会議では、第1回の意見を踏まえて第2回までの間に作成した「日本政府出展事業（日本館）基本計画骨子（案）」について経済産業省から説明した後、有識者から意見を集めた。

有識者からは、骨子（案）の内容について肯定的に捉えた上で、「いのちと、いのちの、あいだに」というテーマが抽象的な概念であることから、参加者が理解しやすく心に残るようなものにすべきではないか、準備段階から人々が関われる仕組みを考えるべきではないか、展示表現でアニメの応用はどうか、といった意見が挙がった。また、万博が終わった後の利用も考えていく必要があるといった示唆があった。

第3回［2022(令和4)年2月］

第2回政府出展事業検討会議を経て、経済産業省が基本計画骨子（案）の内容をより具体化して作成した「日本政府出展事業（日本館）基本計画（案）」の説明を行った。

有識者からは、日本館を訪問した証となるキラーコンテンツがあると良い、コンセプトをよりシンプルにすべきではないかといった提案や、万博チルドレンを中心に誰もがわくわくできる出展にすべき、体験は子どもたちにとってその後の人生のきっかけとなるようなものにしたいなど、子どもに焦点を当てた意見が多数出た。

以上の議論を踏まえて、経済産業省ではさらに検討を重ね、基本計画の精緻化を行った。そして、日本館の目指す来館者体験や、展示のコンセプト等を盛り込んだ日本館基本計画を2022（令和4）年3月に策定し、公表した。

日本政府出展事業（日本館）基本計画

3.2 基本計画の概要

全体概要

3回にわたる政府出展事業検討会議を通じて、2022（令和4）年3月にとりまとめた日本館基本計

画では、大阪・関西万博の開催意義や日本館の検討の視点をあらためて整理した上で、展示体験や建築、来場前後の体験、運営についての方針を示した。そして、最後に今後の進め方として、体制とスケジュールについても示した。項目としては以下の内容となる。

1 はじめに
2 大阪・関西万博　開催の意義
3 日本館の検討の視点
4 展示体験について
5 建築について
6 来場前後の体験の進め方について
7 パビリオン運営
8 体制
9 スケジュール

基本計画の内容

1.はじめに

冒頭で、基本計画は日本館基本構想を基に、日本館の各事業を具体化し、今後の実施方針を示すものと定めた。

2.大阪・関西万博　開催の意義

基本計画の冒頭にて、大阪・関西万博の開催意義についてあらためて記載した。

大阪・関西万博は、世界が危機に直面した新型コロナウイルス感染症を経て企画される初めての万博となり、そのテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であることから、世界が様々な課題に直面する中で、参加者一人一人に対し、「いのちが輝くとはどういうことか」を問いかける。

さらに、地球規模の課題への対応を豊かさの中に織り込みながら、いのち輝く未来社会を実現していくために、何をすべきかを問いかける。

大阪・関西万博では、それらの問いに対する世界の叡智とベストプラクティスを結集する。

大阪・関西万博は、参加者一人一人が未来社会に向けた気づきを得るきっかけをつくり、そのような気づきを参加者が自らの社会生活に活かしていくことで、いのち輝く未来社会への営みを加速する「場」となっていくことをめざす。

3.日本館の検討の視点

開催の意義を踏まえ、会期中を見据えた今後の日本館の様々な検討に当たって重要な視点として、政府出展事業検討会議の議論に基づき、以下の四つの視点をまず初めに掲げた。

1 大阪・関西万博テーマの具現化
2 日本の取り組みの発信
3 次世代・多様性ある主体による参画機会の確保
4 国際的相互理解の促進

4.展示体験について

日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに -Between Lives-」及びテーマコンセプトをあらためて記載した上で、テーマを踏まえた日本館の在り方（コンセプト）について、「循環」に焦点を当て来館者体験・展示体験に分けて整理した。

日本館が目指す来館者体験

日本館が目指す来館者体験については、来館者自らが他のいのちとのつながりや循環の中で生かされている存在であり、地球といういのちの束の一部であることに気づく機会を提供すること、また、地球で起こっている持続可能性の問題を「自分たちのこと」として認識し、「炭素中立型の経済社会」や「循環型社会」といった未来社会の実現に向けたアクションを促すことと整理した。

展示体験の柱

●循環の体験

循環（いのちのつながり）の体験として、日本館において一つの循環を創出し、象徴的な来館者体験を提供することを目指した。その一つとして、二酸化炭素や廃棄物を循環に戻していく技術・仕組みを実装し、その結果生み出されたものを来館者が食する等の体験を提供することとした。

こうした体験を通じて、二酸化炭素や廃棄物に対して様々な役割があるという認識の変化のきっかけを提供するとともに、発展的に循環のサイクルをつないでいくことで持続可能で豊かな未来社会を構築していく可能性への気づきの機会の提供を目指した。

●循環と共にある社会の実現に向けて

持続可能で豊かな未来社会を目指すためのアクションを来館者に促すため、そのきっかけとなる展示体験を来館者に提供することを目指した。日本文化や技術、日本的な発想を手掛かりに、以下の3つの要素に着目した展示体験を提供することを目指した。なお、3つの要素については、下記のとおり、とりまとめた。

循環を見据えたものづくり（要約）

日本には、着物の生地を最後まで使い切る工夫など、美しさや機能性を実現しながら、ものを長く使い別の用途に再生するための考え方や技術が息づいてきた。こうした日本文化のあり方を示しつつ、使い終わったら次のものにつないでいくことの重要性を訴える。同時に、製品がどのように作られ、捨てた後どのように処理されるかに関心を持つことが持続可能な社会に向けて重要であることの気づきを促し、来場者の行動変容へとつなげる。

はかなく小さな生き物（要約）

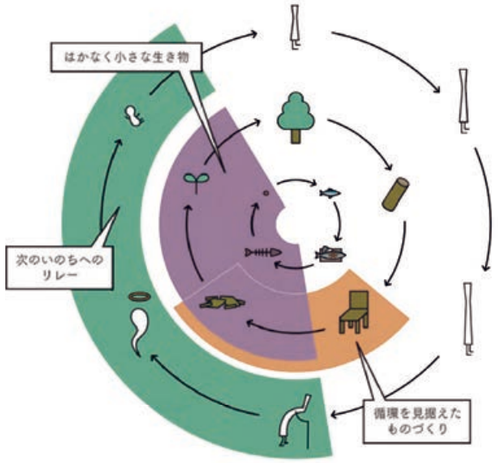
産業革命以降、人類は地球環境に大きな影響を与える存在となった。人類の営みについて、持続可能性の観点から見直し、他の生き物と共存・共栄していくための現代的なあり方が求められている。そこで、自然の循環に寄り添いながら豊かな未来社会を築いていくためには、微生物の活用が一つのヒントとなる。

多様性に富む微生物の活用の可能性を示しつつ、はかなく小さな生き物としての人間が、人間自身も含めた様々な生物と、多様性を尊重しながら共存・共栄していくことの重要性を示唆する。

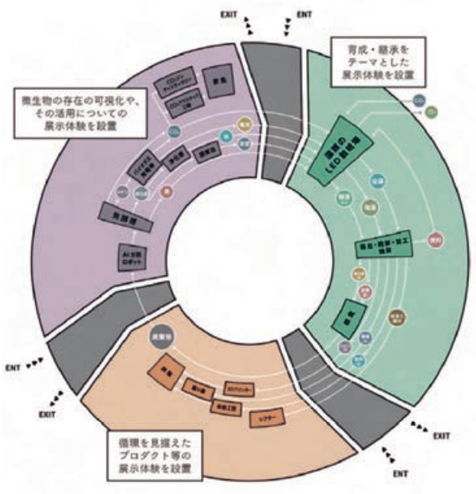
次のいのちへのリレー（要約）

未来社会を構築していくためには、見えないものを含めてリレーをしながら次のいのちを育てていく必要がある。

未来の作り手たる一人一人が、持続可能で豊かな未来を構築するため、技術や知恵、社会をいかに発展させ、いかに次世代に伝えていくべきかを問いかける。



いのちの循環を支える要素



日本館の展示構成案

こうした展示体験を提供することで、持続可能で豊かな未来に向けた気づきを得た来館者がそれぞれに具体的な行動を起こしていくことを目指した。

5.建築について

建築については、展示と建築の融合、建築における循環への配慮を重点に掲げた。

展示と建築の融合については、カーボンリサイクル技術を活用したプロダクトの実装、万博会場から出される生ごみを利用したバイオガス発電の実装、日本館から生み出された素材を加工し来館者自身が楽しめる機会の提供を前提とした建築とし、展示だけではなく、建築と一体となった表現とすることで、一貫した来館者体験を創出することを目指した。

また、SDGs及びカーボンニュートラルの達成や資源循環の実現の観点から、日本館では、3R（リデュース・リユース・リサイクル）+Renewable（リニューアブル）を積極的に推進するとともに、博覧会協会の建築ガイドライン・調達コード等に準拠するなど、環境負荷低減や、ユニバーサルデザインの実現を目指した。

建築材料についてはCLT等を活用し、万博閉幕後はこれを再利用につなげていくこととした。

6.来場前後の体験の進め方について

来場前後の体験について、コアとなるコンテンツの設計、コミュニケーション施策の実施、日本館における体験（会期中）、レガシー（会期後）の四つに分けて、今後の具体的な進め方を整理した。

コアとなるコンテンツの設計:令和4年度～

数多ある情報・コンテンツに埋没しないよう、日本館のコンセプトの発信に求心力をもたせることや、キーメッセージやキービジュアル等の開発を進めることを目指した。また、キービジュアルの開発に当たっては、以下の点に留意した。

✓館内サイネージや各種コミュニケーション媒体における柔軟な運用が可能なビジュアル・システムを採用する。
✓生物のように変化し続ける循環型グラフィック形態をもち、縮尺や外形の変化、面的なパターン展開などに対応できる汎用性を持つビジュアル・システムを検討する。
✓日本館という名称を広報物等に用いる際のビジュアルは、上記ビジュアル・システムと整合的な形とする。

コミュニケーション施策の実施:令和5年度～

会期前から、日本館のコンセプトの浸透、関係人口の増加や、日本館のコンセプトを自分事として捉えるきっかけを作るため、以下のような企画を実施することを目指した。

✓日本館に対する理解・共感の端緒とするため、日本館のコンセプトとともに、そこに至るプロセスをコンテンツとして広く公開する。
✓日本館や大阪・関西万博がどうあるべきかを考える市民参加型ワークショップを全国各地で実施する。
✓日本館のコンセプトと親和的な取り組みを行う企業・団体の取り組みとのコラボレーションを通じた施策を実施する。
✓上記の実施に当たってはデジタル空間を有効活用する。

日本館における体験:会期中

会場における展示体験に加え、日本館のコンセプトの理解促進・メッセージ発信を目的に、幅広い層の関心を喚起するため、以下のようなデジタルならではの手法、あるいはリアルとデジタルの相互補完による施策を検討することを決めた。

（例）✓コンセプトに関連の深い人間以外のいのちへの憑依体験
✓事前のコミュニケーション施策と連動した参加型、創発型イベント　等

レガシー:会期後

日本館に関わる体験で得た気づきを自身の言葉で言語化する機会を設けることを検討するとともに、コンテンツの一部をレガシーとして残せるように検討することと定めた。

7.パビリオン運営

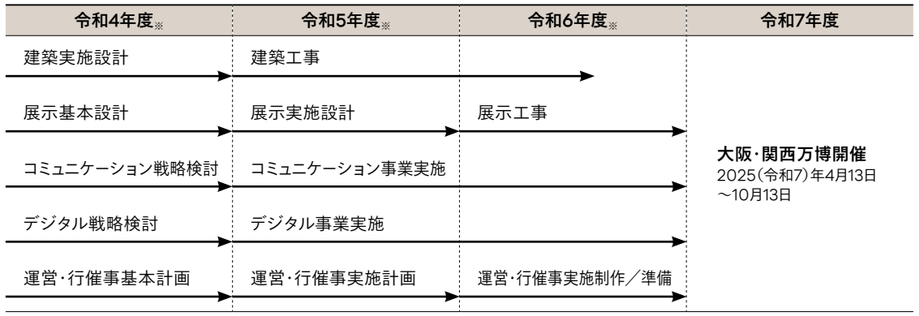
パビリオン運営については、バリアフリー運営を目指すこととしたほか、多言語対応を行うこと、環境負荷の削減に配慮した運営を行うこと、感染症、暑熱対策等、来館者の安全性を最優先とした安全性配慮を行うこと、さらに混雑対策を行うことと整理した。

8.今後の進め方

体制については日本館を構成する各要素を横断的に監修し、各分野に指示・提案等を行う総合プロデューサーを配置し、日本館全体の総合的なデザインを実施する総合デザイナーも兼ねることとした。加えて、サポート体制として専門家を配置し、日本館の進捗状況について、有識者から意見を集めるための有識者会議を実施することを決めた。さらに、日本館基本計画策定後の大阪・関西万博閉幕までの主なスケジュールを整理した。

令和4年度以降は、日本館基本計画の策定を経て、建築・展示の設計や、コミュニケーション戦略及びデジタル戦略の検討を進めるほか、運営・行催事基本計画の策定を進めることとなる。

日本館基本計画策定後のスケジュール（2022（令和4）年3月時点）



※有識者会議

Topic

万博未来編集部ローカルツアー

全国的な機運醸成につなげていく取組の一環として、市民からの声も広く集めることを目的として、2021(令和3)年12月～2022（令和4）年2月にかけて、関西2府4県の参加者を募り、日本館や大阪・関西万博がどうあるべきか、地域の未来を考えるための市民参加型の取組「万博未来編集部ローカルツアー」を全6回開催した。各回、オンラインワークショップ形式で実施し、京都大学総合博物館の塩瀬隆之准教授を始めとした有識者がゲストクリエイターとして登壇した。参加者はエリア編集長とクリエイターとのトークセッションを通じて、地域課題や未来を考える視点を養い、参加者間でグループワークを行った後、結果を発表して共有を行った。アンケート結果では、参加者の満足度が非常に高く、地域活動や大阪・関西万博への興味関心に好影響を与えたことが分かった。この市民参加型ワークショップは、その後全国各地で開催された。

4 計画の具体化

「日本館基本計画」を策定した2022（令和4）年以降、大阪・関西万博開幕に向けて、日本館の建築や展示等といった基本計画の実現を目指し、専門的知見を有する事業者の協力を得て、歩みを進めた。また、建築、展示の事業と並行して、日本館の事前広報活動や広報ツールの充足を積極的に行い、開幕に向けた盛り上がりを促進した。

4.1 事業の推進

推進経過

日本館基本計画の策定を受けて令和4年度からは展示、建築等における具体的な検討に着手し始めた。そして令和5年度以降から事業者の選定、建築・展示・運営等の実施計画の策定並びに施工といったように段階的に実施を進めた。

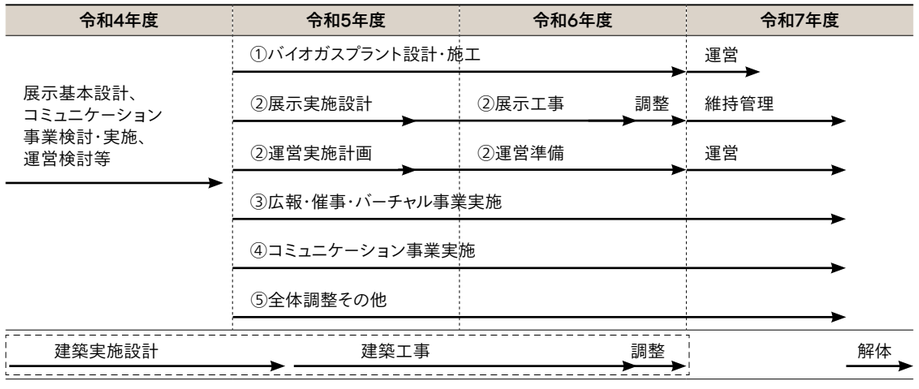
日本館の建築は経済産業省からの支出委任により国土交通省近畿地方整備局が担うこととされ、建築設計や整備工事の執行が進められた。また、日本館建築に係る体制が構築されたことに伴い、2023（令和5）年9月には、日本館の建築着工に先立ち、建設工事の安全と成功を祈念して起工式を執り行った。

また、建築以外の政府出展事業については、経済産業省から博覧会協会に委託して、事業の核となる企画立案を進めながら、企画に基づく現場での展示制作・検証、行事・催事の実施やそれに関わる広報対応等は、専門的な知見を有する事業者に再委託して、民間の技術・知見を活用しながら効率的に遂行した。こうした検討経過は、政府出展事業検討会議委員に適時報告を行い、意見を踏まえながら、事業を推進した。

政府出展事業検討会議

	日付	主な議題
第4回	2023（令和5）年1月18日	日本館の建築、展示、広報等に関する進捗状況について、有識者に報告
第5回	2024（令和6）年1月23日	日本館の進捗状況、前回の検討会議における意見の検討状況について、有識者に報告
個別	2024（令和6）年9月	日本館の開館に向けた準備状況について、有識者に報告

令和4年度以降のスケジュール



設計・建築

日本館基本計画の策定に伴い日本館に係る建築の基本設計・実施設計を開始。2023（令和5）年9月の起工式を経て、建築を開始した。そして、2025（令和7）年2月をもって日本館が完成した。

日本館の建築は、円環状の構造体によって、いのちのリレーを体現し、ホスト国のパビリオンとしてVIP諸室等を擁している。最大の特徴は、円を描くように立ち並ぶ無数の木の板で、その隙間から内部を見ることができ、中と外、展示と建築の連続によって、日本館のテーマにもある「あいだ」を来館者が意識できる仕組みになっている。この木の板は、万博閉幕後に日本各地でリユースされることを前提に、転用しやすい企画・工法を採用したCLTで構成された。

本事業は一貫した来館者体験を創出する上で、展示計画と建築設計を一体的に進めるプロセスを取る必要があり、総合調整（プロジェクトマネジメント）を博覧会協会への委託事業を通して実施した。

展示・プラント

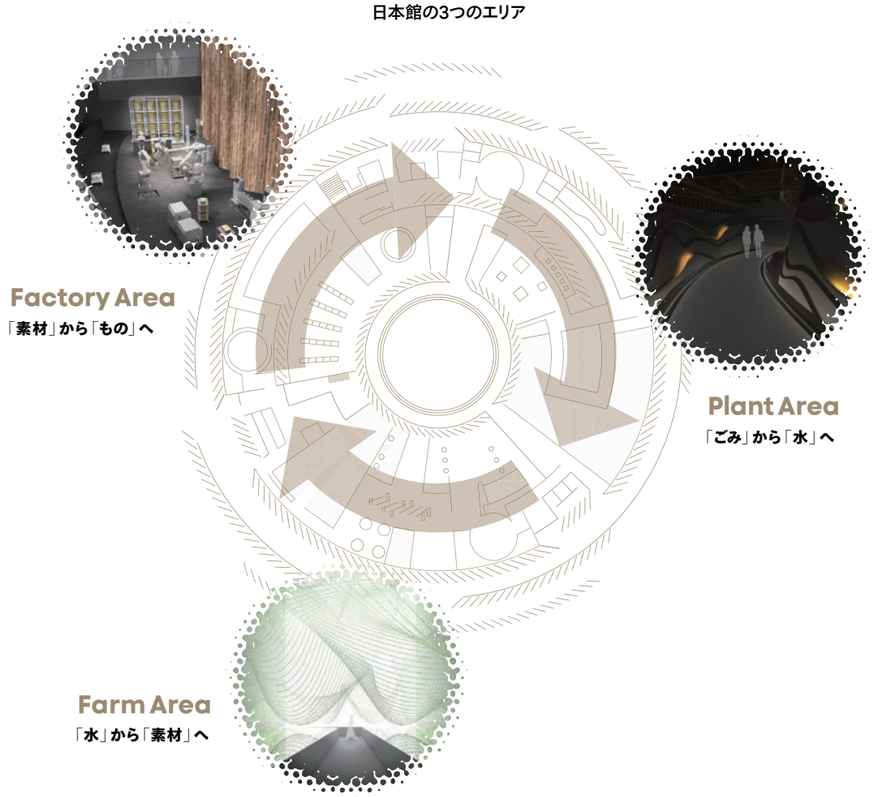
建築の進行に合わせて令和5年度から展示制作を開始した。展示制作の過程においては、総合プロデューサーが監修し、表現等に関する調整を重ねて、制作を進めていった。また、日本館基本計画に示された展示体験の柱である循環の体験として、万博会場で出た生ごみを、微生物の力で水やバイオガスへと分解し、さらにバイオガスを使って電気を生み出すバイオガスプラントを実装した。

展示制作においては、循環のテーマの具体化に当たり、日本館基本計画で提示した「循環を見据えたものづくり」、「はかなく小さな生き物」、「次

バイオガスプラント

日本館外観

日本館の3つのエリア



のいのちへのリレー」という3つの柱を軸に、各エリアの名称を「Plant Area」、「Farm Area」、「Factory Area」と設定した。

なお、日本館のバイオガスプラントは、万博会場で出た生ごみを、微生物の力によって、水やバイオガスなどへ分解する装置として1日当たり約1トンの生ごみを処理する能力があり、発生したバイオガスは回収し発電に用いられ、生み出された電力は実際に日本館で活用された。

Plant Area（「ごみ」から「水」へ）

このエリアでは、目には見えない小さないのちである微生物の働きによって、万博会場から出た「ごみ」が分解され、あらゆるいのちの源である美しい水へと姿を変えていく様子を表現した。「ごみ」を乗せて進むベルトコンベア、発酵タンクや微生物の営みと躍動の演出、微生物の力で分解される器、日本が誇る濾過技術による水の浄化プロセスを展示。さらに、火星に水があることを示す貴重な試料である、日本の南極観測隊が南極で発見した世界最大級の火星の石を展示し、サンプルに実際に触れていただける体験を提供した。

Farm Area（「水」から「素材」へ）

植物が地上に誕生するはるか前より光合成を行ってきた藻類は、食品を始め、抽出した原料から医薬品、燃料、プラスチック、繊維などの幅広い分野へ応用され、化石資源への過度な依存や食料不足など、様々な課題を解決し得る存在として注目されている。Farm Areaでは、この藻類の力と、日本が誇るカーボンリサイクル技術により、様々な「素材」が生まれていく様子を紹介。カーボンニュートラルを始め、持続可能な社会を実現する鍵となる藻類や微生物の力を知ることができる展示とした。

Factory Area（「素材」から「もの」へ）

「ごみ」から生まれた物質やエネルギーは、素材へと生まれ変わり、当該エリアで、人の生活で活躍する「もの」へと姿を変える。日本文化に息づく、「もの」を長く大切に使う思想とそれを叶える手法は、持続可能な社会へ向かうヒントとしても注目されている。Factory Areaでは、「もの」が生まれ、「ひと」の手でかたちを変え、受け継がれていくことも、いのちと同じ「循環」と捉え、展示で表現を行った。

Japan pavilion Expo 2025

日本館 Japan pavilion Expo 2025

日本館ロゴ·ビジュアルシステムデザイン

ユニフォームデザイン

運営·接遇

運営も来館者が接するパビリオンの一部であることを意識し、政府出展事業の体験の効果を高めるものとして検討を行った。日本館基本計画を基に、2022（令和4）年から運営·接遇の基本方針の検討を開始した。日本館は、世界各国のVIPを接遇し、同時に一般来場者からも高い関心を集めるパビリオンとなることから、2023（令和5）年からVIP接遇も含めた運営実施計画の策定を行い、2024（令和6）年には、アテンダントの採用も開始し、研修の実施を行うなど、循環のテーマを分かりやすく伝えるための準備を進めた。2025（令和7）年には運営詳細計画として、日本館全体マニュアルのほか、アテンダントやエスコートスタッフなど業務ごとの詳細業務マニュアルを策定した。

日本館は、開館時間（9:30～21:00）を通して全ての来館者に快適で楽しい時間を過ごしていただくことを目指し、ユニバーサルデザイン音声ガイド端末、軟骨伝導イヤホン貸出、筆談アプリや翻訳アプリによるサービス提供を行った。

なお、日本館のアテンダントユニフォームは、「日本の美意識を纏う」をコンセプトに制作された。着心地、動きやすさなどの機能性に加え、環境に配慮した素材の使用や、閉幕後のリサイクルなど、着物の構造を基に様々な工夫が盛り込まれた。

広報·バーチャル

令和4年度は、日本館基本計画で示した来場前後の体験の進め方に沿って、3か年のコミュニケーション施策ロードマップを策定し、戦略的な情報発信をしていく計画を立てたほか、日本館のテーマを基に日本館ロゴ·ビジュアルシステムを作成、日本館ウェブサイトの構築に当たって、ロードマップを策定した。

令和5年度は、これまでの計画を踏まえ、さらにターゲットを明確化した全体広報計画を策定し、

様々な広報媒体を活用して日本館の循環のテーマを伝えていくことを決めた。具体的には、2023（令和5）年4月には日本館ウェブサイトを開設、日本館ウェブサイト上で公式Webマガジン「月刊日本館」（以下、「月刊日本館」）の公開を行い、政府出展事業の情報発信に努めるとともに、日本館の展示内容等を4回に分けて段階的にプレスリリースし、その都度、経済産業省においてプレスブリーフィングを行うことで、日本館の認知と存在感を形成し、万博全体の盛り上がりにも寄与した。

また、バーチャル日本館の制作を2023（令和5）年から開始し、2025（令和7）年4月にバーチャル万博の公開とともにオープンした。以下が各広報の概要である。

日本館ウェブサイト

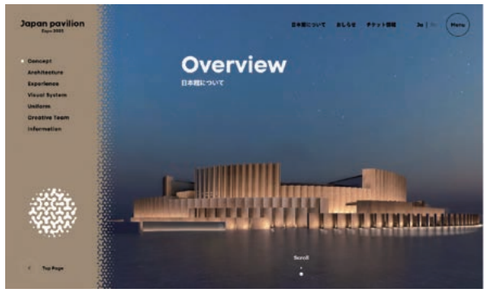
ロゴデザイン並びにビジュアルシステムの策定を受けて政府出展事業の情報を発信するために2023（令和5）年4月に「日本館ウェブサイト」を開設した。日本館ウェブサイトは日本館の以下のコンテンツにより構成された。

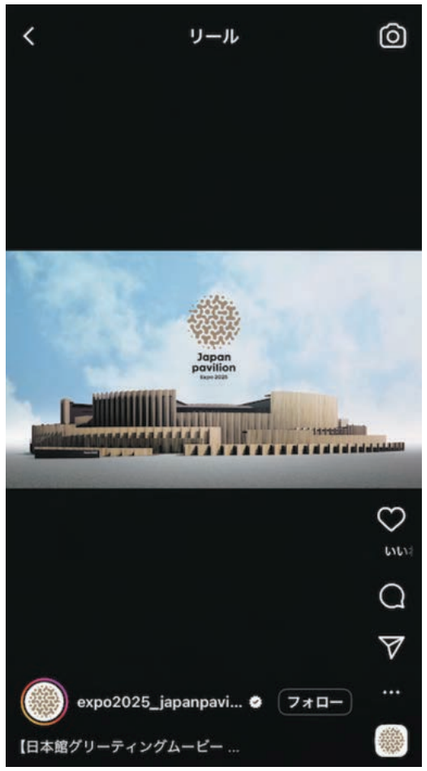
日本館について

日本館のコンセプトや建築、体験、ビジュアルシステム、ユニフォームといった、基本的な情報について記載した。また、「おしらせ」として展示内容や日本館運営に関わる情報について適宜発信するほか、協賛企業·団体等の情報についても掲載を行った。

日本館まるごとガイド

日本館の3つのエリアの見どころと、それぞれの展示に込められた想いやそれを支える技術を紹介した。訪れる前も、訪れた後も、日本館をより深く理解できるガイドブックを目指し作成した。





月刊日本館（左上）、日本館ウェブサイト（左下）、Instagram 公式アカウント（右）

日本館ライブラリ

日本館についての深い理解を促すため、これまでの万博における日本政府出展事業の紹介、大阪·関西万博日本館の特集記事を集約した。インタビュー記事や、パートナー企業の紹介資料等を掲載した。

公式Webマガジン月刊日本館

日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」の根底にある「循環」という難しい概念を、分かりやすく伝え、より多くの人に興味·関心を持ってもらうことを企図して、全12号からなる「月刊日本館」を、開幕1年前の2024（令和6）年4月13日から発行し、日本館ウェブサイトにて公開した。「循環」再ハッケン!をテーマに、いのちの循環や微生物の働き、藻類の可能性、ごみの本質、日本の美意識など、専門家による多彩な記事を写真やイラストとともに分かりやすく紹介し、大人だけでなく、次世代を担う子どもたちにも興味を持ってもらえるような工夫を行った。

公式SNSによる広報

2024（令和6）年7月よりソーシャル·ネットワーキング·サービス（SNS）であるX（旧Twitter）、Instagram、Facebookのアカウントを開設し、日本館の情報を発信した。これらのアカウントでは、日本館の最新情報の発信のほか、「月刊日本館」との連動コンテンツや、様々な切り口から「循環」を紹介するSNS独自企画を発信するなど大人から子どもまで、幅広い年齢層に対し、積極的に情報発信を行った。

バーチャル日本館

大阪·関西万博のバーチャル会場であるバーチャル万博~空飛ぶ夢洲~に、「バーチャル日本館」を開設した。バーチャル日本館では、時間と空間の制約を超えて世界中の人々がスマートフォンやPCのアプリケーションで楽しむことができ、「いのちと、いのちの、あいだに」をコンセプトに、日本の文化が培ってきた、あらゆるいのちの「循環」が表現された。バーチャルならではの特性を活かして、ゲーム体験の要素を取り入れるとともに、来館者は「当事者」となって、「ごみ」から「水」、「水」から「素材」、「素材」から「もの」への循環を体験することができた。

音声ガイド

来館者が日本館をより深く楽しむために「音声ガイド」を制作し、日本館ウェブサイトに公開した。来館者は日本館内に掲載された二次元コードを読み取ることで、スマートフォンから音声ガイドを再生することができ、各展示のコンセプトや見どころについての音声を聞きながら日本館の展示を観覧することで、日本館への一層の理解を深めることを促した。

制作物

デジタル広報ツールの他に、複数の広報ツール制作を行った。それらは大別すると下記の3種に分類できる。

パンフレット·リーフレット

会期中は日本館の来館に当たって、VIPにはパンフレット、一般来館者にはリーフレットを用意した。日本館の展示概要やその背景の説明等を記載し、スムーズな理解を促すツールとして制作した。さらに、音声ガイドの活用を促すため、リーフレットの表紙に二次元コードを付すなどの改訂を会期中に行った。また、海外の方も含めた多くの方の理解を促進するよう多言語への対応も行い、パンフレットは日·英の2言語、リーフレットは日·英·仏·西·韓·中（簡体）·中（繁体）の7言語版を制作した。

日本館VIP向けパンフレット

日本館リーフレット

記念品

国内外のVIPに向けた贈答用の記念品として、タンブラー（新潟県燕市）や、カップ3個セット（佐賀県有田町）、珪藻土コースター（石川県輪島市）、スクエアポーチ（愛知県尾州地域）の4品を用意した。これらの4品を、日本館のテーマ性と海外VIPのニーズを捉えたギフトという視点とともに、デザイン、日本らしさ、持ち帰りやすさ、使いやすさといった利用者視点、コストという点も踏まえて選定した。

日本館公式ショップ

日本館内外二つの公式ショップで販売されるグッズは、単なる商品ではなく、展示体験の一部という大切な位置付けとして、総合プロデューサーによる丁寧な確認の下、製作を進めていった。日本館の外観イラストを用いた商品のほか、展示と関連した「BE@RBRICK」や「ハローキティ」、「ドラえもん」といった日本を代表するキャラクターが描かれたTシャツやピンバッジ、クリアファイル等を製作し、さらに展示協力者の宇宙航空研究開発機構（JAXA）等との調整を経て「SLIM」のマスコットチャームなどの宇宙関連グッズを会期中に追加販売した。このように国内外を問わず、大人から子どもまで愛されるキャラクターを用いた商品や、日本館のテーマ・コンセプトに基づいた商品展開を行い、日本館来館の思い出となる多数の商品を用意した。

行事・催事

2023（令和5）年以降、催事基本計画を策定し、催事基本計画を基に、戦略的に日本館に関する行事・催事を企画し、日本館に対する機運醸成に努めてきた。以下が主な各行事・催事の概要である。

起工式

建設工事の安全と成功を祈念して、2023（令和5）年9月に夢洲の博覧会会場で日本館の起工式を開催した。起工式には、政府関係者や国会議員、大阪府知事・大阪市長のほか、日本館基本構想ワークショップ・政府出展事業検討会議委員、地元自治体関係者、関係企業代表者など70人が出席した。当日は、中谷真一経済産業副大臣が主催者挨拶を行い、佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナーから日本館のコンセプトを発信した。

起工式

日本館名誉館長就任式

大阪・関西万博開幕の1か月前となる、2025（令和7）年3月に藤原紀香氏の日本館名誉館長の就任式を経済産業省で行った。就任式では、武藤容治経済産業大臣から藤原紀香氏に、任命状が手渡された。世間に広く認知される藤原紀香氏に、名誉館長として日本館を代表し、日本館の魅力を広く発信いただいた。

日本館名誉館長就任式

開館式

2025（令和7）年3月、EXPOナショナルデーホール（レイガーデン）にて、4月の開幕に先立ち開館式を開催した。開館式には、政府関係者や国会議員、政府出展事業検討会議委員、地元自治体関係者、関係企業代表者など、377人が出席した。また、日本館の開館を祝し、赤澤亮正内閣府特命担当大臣（経済財政政策）、大串正樹経済産業副大臣、高橋克法国土交通副大臣を始め、佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナー、藤原紀香名誉館長ら11人による開館セレモニーを行った。さらに式典後に、出席者を日本館にご案内し、内覧会を実施した。

開館式

催事

次世代の担い手となり得る子どもや若者層を始めとする万博チルドレンを対象に、日本館に関わる情報・体験で得た気づきを自身の言葉で言語化・共有する機会を創出するため、会期中に日本館は万博会場や館内などで、五つの催事を主催した。

循環をテーマにしたトークイベント形式での催事のほか、2025（令和7）年8月から10月にかけて大学生が日本館のレガシー継承に取り組む「日本館レガシープロジェクト」を実施した。当イベントに日本館基本構想の策定からご協力いただいている京都大学総合博物館の塩瀬隆之准教授をファシリテーターとして迎え、8月下旬から約50人の大学生が、子どもたちが循環型社会について考えるきっかけとなる“問い”を作るワークショップ等を開催した。10月にはこれらの大学生が全国四つの中学校の生徒に日本館のテーマ・理念を伝える授業に臨んだ。このように、日本館の催事を通じたつながりを契機として、日本館のテーマ・理念をいかに分かりやすく伝え、継承していけるのか、レガシーづくりそのものに若者の力を採り入れ、循環型社会の実現に向けたアクションを起こすきっかけを提供した。

閉館式

日本館レガシープロジェクト

日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～

日本館トークイベント 日本館からつながる「循環」
～文化、技術、そして未来へ～

閉館式

2025（令和7）年10月13日の閉幕日に、関係者や従事者へのねぎらいを目的として、日本館にて閉館式を執り行った。閉館式は閉館後の21:20に、茂木正経済産業省首席国際博覧会統括調整官による開会の辞を受けて開始した。佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナーのビデオメッセージや藤原紀香名誉館長による挨拶から、会期中を振り返るスライド上映へと移り、各事業者からの業務終了報告を受け、黒田紀幸日本館長の閉会の辞により閉館式を締めくくった。

III

建築·展示

1　日本館の建築と展示の概要

2　建築設計

3　建築工事

4　展示設計と制作

1 日本館の建築と展示の概要

日本政府館（以下、日本館）は2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）の掲げるテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を、ホスト国としてプレゼンテーションする拠点であった。「いのちと、いのちの、あいだに」というテーマを基に、いのちを取り巻く、多彩な「循環」を、建築と展示が一体となり、体現する建築・展示の実現に努めた。

1.1 日本館が目指したこと

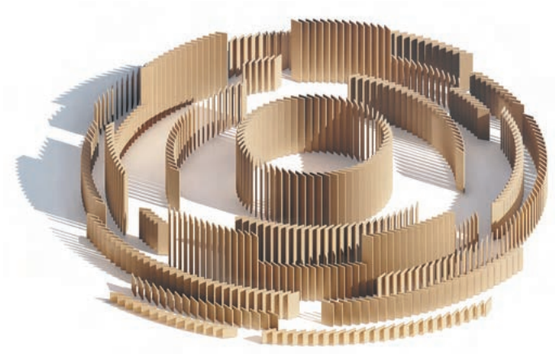
日本館は、「いのちと、いのちの、あいだに」というテーマを踏まえ、大きな「循環」を生み出す大切さを学ぶとともに、未来社会への作り手としての行動変容を促すような来館者体験を、建築と展示一体で創出することを目指した。

今回は、日本で開催される万博における日本館であるため、具体的な「もの」や「こと」の展示だけではなく、思想や考え方に踏み込むことが必要である。こうした認識の下、日本文化には自然との関わりにこそ大きな特徴や魅力があることを重視し、自然環境を背景に生まれる「循環」こそが、日本的な思想や歴史に加えて新たな社会を形作るテクノロジーとも紐づきながら、未来を生きるためのヒントになり得ることを伝えていくことを目指した。こうしたことについて、会期中、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下、博覧会協会）によるインタビューにおいて、佐藤オオキ日本館総合プロデューサー／総合デザイナーは以下のように述べている。

「情報があふれ、加速度的に変化していく時代であることを踏まえ、日本古来の考え方や精神性に目を向けました。自然と人との共存は日本の過去の中にあると、国内外の方に伝えたい。そして、死はネガティブなものではなくて、知識を受け継いだり、他の動植物の栄養になったり、次のいのちとのあいだに、必ずつながりや循環がある。そのプロセスを意識して、いのちの魅力を感じられる建築や展示としました。」

1.2 建築で実現したこと

日本館の建築では、円環状の構造体によって、いのちのリレーを体現した。最大の特徴は、円を描くように立ち並ぶ無数の木の板で、板と板の隙間から内部を見ることができ、内部と外部、展示と建築が連続してつながり、日本館のテーマにもある「あいだ」を来館者が意識できる仕組みとしたこと。この木の板は、循環を象徴する材料であり、閉幕後に日本各地でリユースされることを前提に、転用しやすい企画・工法を採用したCross Laminated Timber※1（直交集成板）（以下、「CLT」）で構成した。またVIP諸室等を設け、ホスト国のパビリオンとして迎賓の拠点の機能を持たせた。



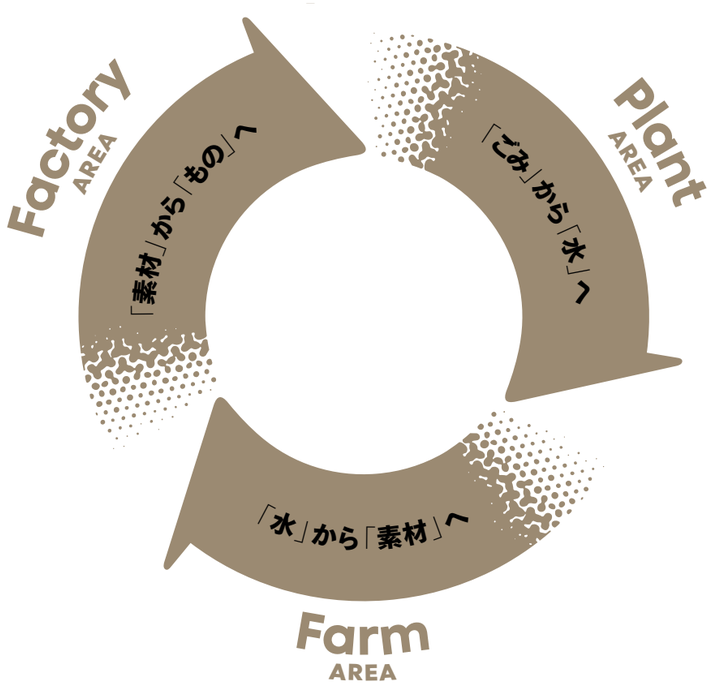
円環状の構造体によっていのちのリレーを体現

1.3 展示で実現したこと

日本館の展示では、循環型社会の実現に向けたアクションを来館者へ促すことを見据え、テーマである「循環」を、日本館を一周して来館者に感じていただくことを重視して、展示物やメッセージ、音響、内装や建築空間がお互いに融合しながら発展していく空間を目指した。

展示空間では、「はかなく小さな生き物」、「次のいのちへのリレー」、「循環を見据えたものづくり」という3つの柱を軸に「ごみから水へ」「水から素材へ」「素材からものへ」といった循環を表現した3つのエリアを設けた。また、展示体験の柱である循環の体験の一部として、万博会場の生ごみを集め、微生物の働きによって、水やバイオガスなどへ分解する装置としてバイオガスプラントを実装した。

建築材料の循環イメージ

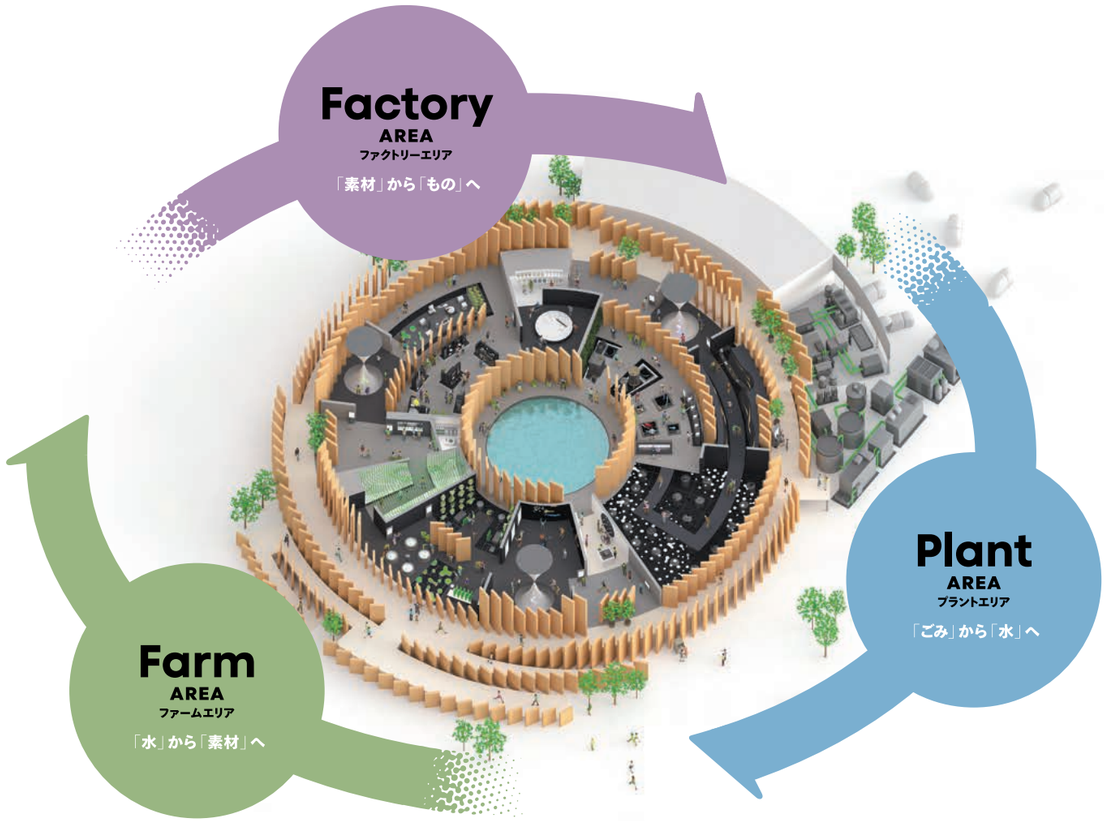


※1 Cross Laminated Timber　ひき板を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料

1.4　写真で見る日本館

日本館のテーマである「いのちと、いのちの、あいだに」の具現化を目指し、建築は無数の「木の板」が生み出す中と外の連続によって、来館者に「あいだ」を意識してもらうきっかけを創出した。そして3つのエリアによる連続する展示の中で循環の過程をインスタレーション※2で体験可能とした。

加えて、日本館は迎賓施設としての機能も有した。全てが自然に融合し、一体となるような円環状の建築と、その中で展開する展示やVIP諸室の表現について、写真を用いて外観から外周通路、展示エリア、そしてVIP諸室までを順に紹介する。



外観から展示エリアへ

ファサード側外観

鳥瞰

※2 インスタレーション
空間の中に素材を配置し、それらを含めた全体を作品として見せる展示技法

パビリオン入口

CLT、杉羽目板パネル

地場産 砕石

三和土（たたき）仕上げ

外周通路　昼景

外周通路　夕景

館内エントランス

Plant Area

万博会場から出た「ごみ」が分解され、いのちの源である「水」へと生まれ変わるさまを示すPlant Area。日本館に併設した、微生物の力を活用してごみからエネルギーを生み出す「バイオガスプラント」と連動し、「ごみ」が微生物によって分解され、新たな姿に生まれ変わる過程を紹介した。展示を通じて、地球の循環を支える微生物の働きを体感できる空間とした。

「ごみは、いのちのはじまりだ」
館内のベルトコンベアでは「ごみ」をモチーフにしたカトラリー等のオブジェを流し、循環のはじまりを示した。

「発酵で発光中?」
発光パネルを用いて「ごみ」を分解する微生物の生命力を演出した。

「未来を映すまっさらな水」
微生物によって分解された「ごみ」が、清らかな水となるさまを水盤を用いて表現した。

「発見! 火星でも水は循環する」
火星由来の隕石の展示や映像によって、未来や宇宙における水の循環を紹介した。

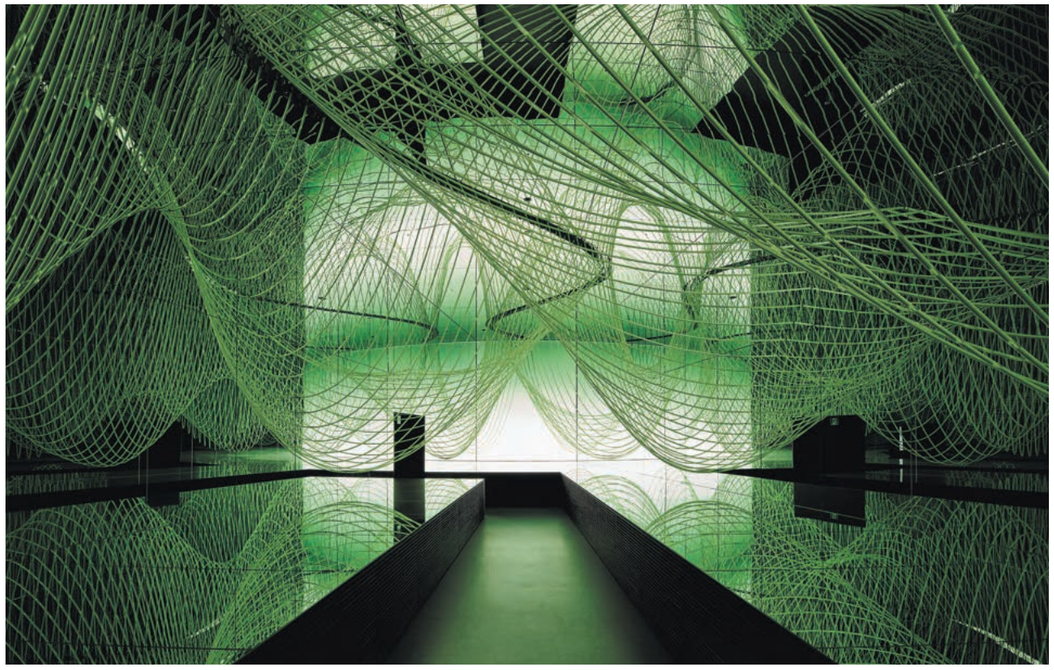
Farm Area

「ごみ」の分解により生まれる「水」。そこから誕生する藻類（そうるい）が、ものづくりの「素材」として生まれ変わる場所がFarm Area。持続可能な社会の実現に大きな可能性を持つ藻類の力と、日本が誇るカーボンリサイクル技術により、CO_2を原料にバイオ燃料、プラスチック、食品などの素材を生み出す技術を紹介した。

「CO_2でなに作ろう?」
CO_2を表現したガスボンベとCO_2から作られた生分解性の器を展示した。

「個性いろいろ藻類のフシギ」
32種類の「ハローキティ」を用いて、藻類の特徴的な形状を親しみやすい形で来館者に伝えた。
著作 株式会社サンリオ ©2026 SANRIO CO., LTD.

「比べてナットク、藻類の秘めるポテンシャル」
植物や食品との比較により藻類の可能性を示した。

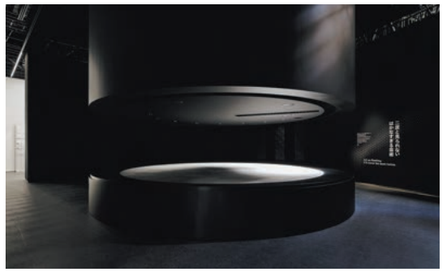


「いのちみなぎる藻のカーテン」
フォトバイオリアクターと呼ばれる巨大な培養装置のチューブや鏡面を用いて藻類の生命感を演出した。

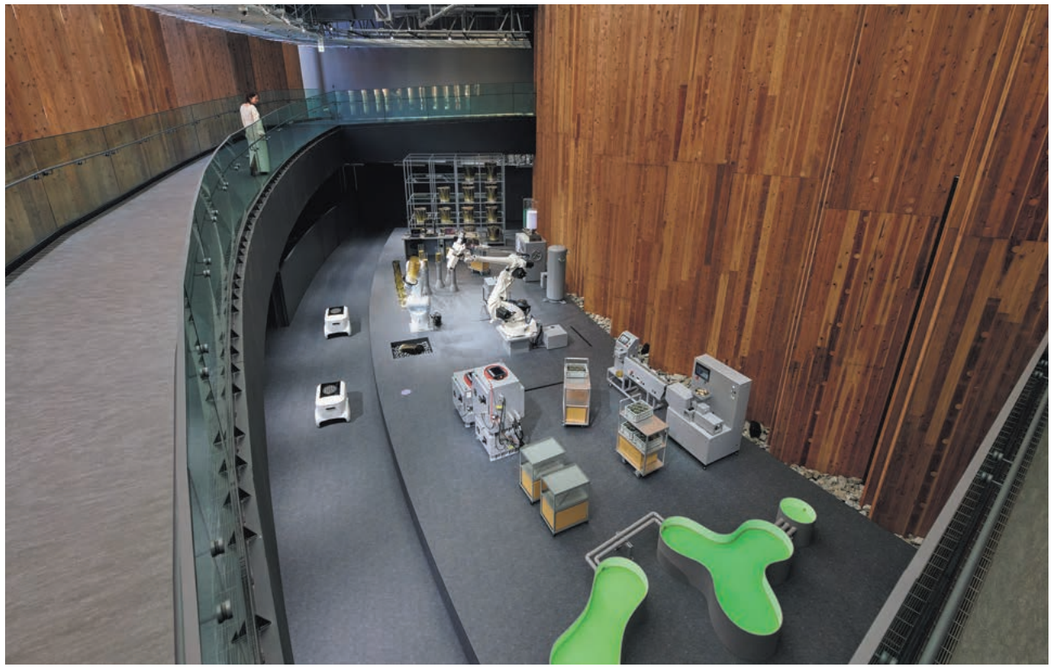
「やわらかなギャラリー」
日本の伝統的な道具や建物と現代のプロダクトを新旧で比較して、ものづくりにおける「やわらかさ」を紹介した。

Factory Area

「ごみ」から生まれた物質やエネルギーが、「素材」へと生まれ変わり、人の生活で活用される「もの」へと姿を変えるFactory Area。資源を無駄にせず、修理や修繕を重ねることで長く使い続けられるものを作るという、日本ならではの「循環型ものづくり」の考え方や具体的な社会実装の姿を紹介した。

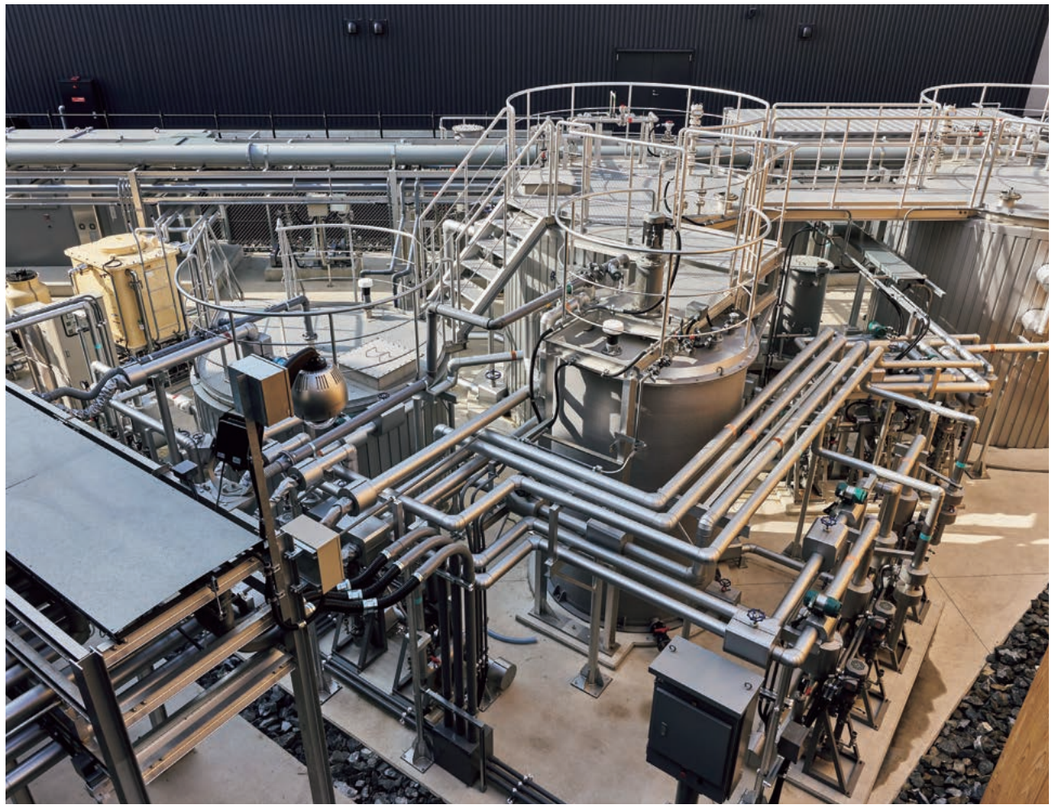


「二度と見られないはかなすぎる芸術」
珪藻土に水滴で描画した絵が消える展示を設置し、循環によるはかなさを示した。



「かたちになってかたちを変えてこんにちは」
ロボットアーム型3Dプリンタを用いて、藻類を混ぜ込んだ素材からスツールを作る、最先端のものづくりを示した。

バイオガスプラント

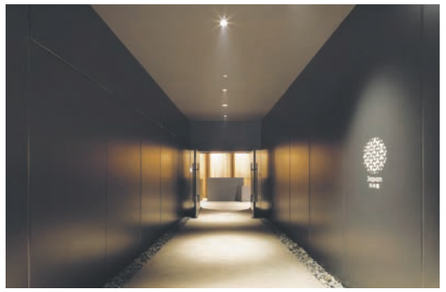


バイオガスプラント 屋外機器置場

バイオガスプラント 案内サイン

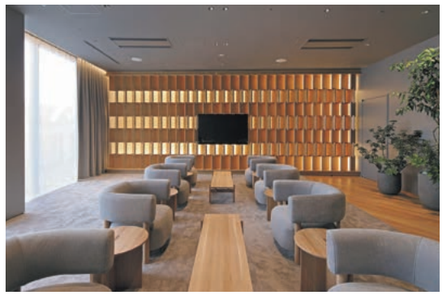
バイオガスプラント 構内

VIP諸室



VIPエントランス通路

VIPエントランス



貴賓室（水・MIZU）

VIPラウンジ（風・KAZE）

VIPラウンジ（風・KAZE）

日本館の模型

応接室（空・SORA）

ゲストルーム1（光・HIKARI）

2 建築設計

日本館では、建築自体が来館者体験の一部となるよう、展示と建築を融合し一体となった表現とすることで、一貫した来館者体験を創出するとともに、3R（Reduce・Reuse・Recycle）+Renewableの積極的な推進、ユニバーサルデザインの実現や建築材料の再利用など、循環を意識して建築設計を進めた。

2.1 建築設計に当たって

設計者の選定

日本館の建築設計は、国の機関が設置する建築物として、国土交通省営繕部門（近畿地方整備局）が所管することが法律で定められている。これに基づき、所管省庁である経済産業省からの委任を受け、国土交通省近畿地方整備局が設計を担った。営繕事業では、省庁が必要とする建築物について、所管省庁が発注者として要件を定め、国土交通省営繕部門が設計・工事監理を行う仕組みとなっている。

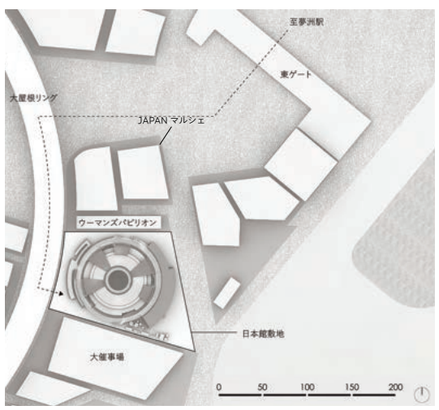
設計者の選定には、より一層の客観性が求められるため、外部有識者を含む「大阪・関西万博日本館設計業務に関する技術提案書評価委員会」を設置して、技術提案書の評価などを行った。公募に応募した参加資格を有する4者に対し、公募型プロポーザル方式により、技術提案書評価委員会がヒアリング等により評価を行い、株式会社日建設計を選定した。

立地場所

日本館の建設予定地は、大阪府大阪市此花区夢洲（ゆめしま）中1丁目の万博会場内における東ゲートゾーンに用意された。2025（令和7）年1月にOsaka Metro中央線の新駅として開設された夢洲駅からアクセスが近い、大屋根リング東の外側に位置する。敷地面積は約1万2,950㎡であり、会場全体のパビリオンの中でも最大級の敷地が用意され、会場内におけるシンボル的な役割を担った。

敷地図

西側に大屋根リング、北側にウーマンズパビリオン、東側に管理用道路を挟みJAPANマルシェ、南側に大催事場がそれぞれ隣接する。また、敷地境界東側から西側に向け約2mの高低差がある。建設予定地は広大なため、埋め立てられた時期の異なる地盤の境界線が南北に走り、新旧の地盤の圧密差や不同沈下[※3]への配慮が必要であった。



日本館周辺図

施設規模

本施設は延床面積約1万1,000㎡、建築面積約8,200㎡、地上2階建て、最高高さ13.2m、鉄骨造+CLT耐震壁の構造である。

設計に係るガイドラインに基づき、平面の50%以下を高さ18m以下とすること、大屋根リング敷地境界線から建築物を10m以上離し、道路との距離を確保することなどを遵守した。

なお、建築費用を削減するため、高さ縮減及び3階取止めの設計変更により、前述の最高高さとなった。

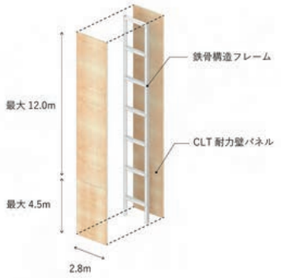
2.2 建築デザインの基本方針

従来の博覧会で出展されたパビリオンは、展示内容と関係を持たせないホワイトキューブと呼ばれる展示方法で空間を作ることが一般的であった。今回は展示と建築を融合した表現とすることで、一貫した来館者体験を創出するために展示計画と建築設計を一体的に進めるプロセスを経ることで、展示と建築の融合に挑んだ。展示内容に応じて、膜屋根[※4]により自然光を取り入れた明るく開放的な吹抜け空間、トップライトからCLTを照らす柔らかい光の空間、暗く低い天井高により展示に集中できる空間、中央水景による象徴的な外部空間など、屋内外／明暗／気積[※5]の大小など、様々な「展示環境」を作り、実体験として展示のストーリーを五感で感じることができるパビリオンであることを建築方針とした。また、建築と展示の融合を実現するため、展示計画の調整を、建築設計の担当者が牽引した。

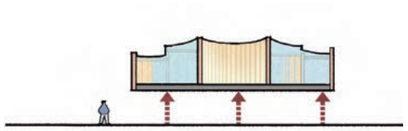
パビリオンテーマの体現

展示コンセプトである「いのちと、いのちの、あいだに」に基づき、CLTを雁行させながら円環状に無数に反復させることにより、「いのちのリレー」「いのちの循環」を建物として体現した。

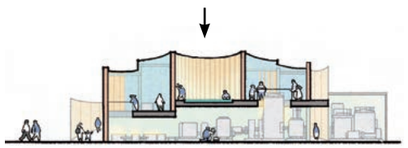
また、いのちの循環を象徴的に表わす展示の一つとして、建築と別途設計を進めていたバイオガスプラントを併設。万博会場で出る生ごみを回収し、微生物の働きで発酵分解させることで発生するバイオガスを用いて、パビリオン敷地内で発電することとした。構造としては、展示鑑賞空間を2階レベルに上げ、1階を設備やプラントヤードとして計画し、立体的な鑑賞を可能とした。



CLT構造ユニットを建ち並べる



01展示空間を持ち上げる



02持ち上げた展示空間下部にプラントヤードを挿入

03プラントと観覧動線を断面的に分けながら大小無数の吹抜けで視覚的につなぐ

※3 不同沈下
建物の各位置が不均一に沈下する現象、床の傾きの原因となる

※4 膜屋根
ガラス繊維などをコーティングした軽量な膜材料を使用した屋根のこと

※5 気積
室内の空間の総量のこと

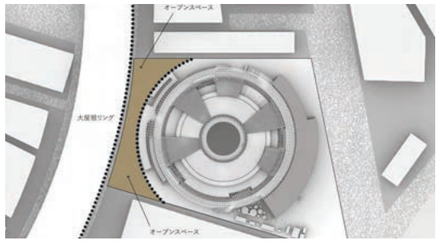
環境配慮を実践するデザイン要素

木は森から適切に伐採し、新たな苗を育て循環することで、カーボンオフセット※6を促進する持続可能な資源である。日本館はCLTを主とした約1,600㎥の国産木材の利用により、約1,060トン※7のCO_2を貯蔵した計算となる。会期期間を考慮し、CLTは屋内外共に表面を無塗装とすることで、解体後の再転用・再利用の幅を狭めない計画とした。

2.3　建築設計

大屋根リングに対する計画

大屋根リングの円弧に対して、日本館は逆向きの円弧を描くことで、リングとの間に離隔を確保し、敷地西側にオープンスペースを形成した。



敷地配置図

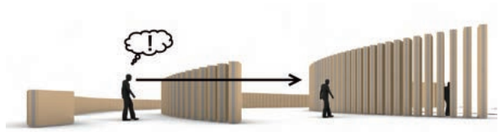
館名サインやフラッグポール、待機列形成場所や公式ショップ店舗用のトレーラーハウス、キャラクターオブジェを効率良く配置した。また、大屋根リングは巨大な高さであることに対し、日本館はリングに近づくほど徐々に高さを低くする、丘状のスカイラインとすることで、圧迫感のない来館者のアクセス空間とした。

アクセス

敷地西側（大屋根リング側）に来館者のアクセス、敷地東側には運営迎賓等のサービスアクセスを集約し、北東角に迎賓用車両の出入口、南東角にプラント及びサービス車両の出入口とプラントヤードを配置した。各機能のアクセスを明確に分離することで管理しやすい計画とした。

外周通路

外周通路は格子状の屋根により日差しに守られ、立ち並ぶ木の板の合間から、展示室内や外部が垣間見え、心地良い海風が通り抜ける、内外を曖昧につなぐ縁側空間とした。展示フロアにおいても、隆起する地形のように様々なレベルに展示空間が展開され、大小様々な吹抜けや傾斜路を介し、異なる視点で展示を立体的に体験できる空間構成とした。



内外を曖昧につなぐ縁側空間

安全性とユニバーサルデザイン

「人と人がつながる誰もとり残さない共創の世界を創り出す」のコンセプトの下、誰もが使いやすいユニバーサルデザインについて学識経験者を始め障がい当事者からなる有識者32人の構成員と計6回のワークショップを行い、基本設計段階から現場段階まで障がいのある当事者の意見を反映する枠組みとした。進入路・休憩スペースや展示室の動線計画、トイレ・授乳室・カームダウン・クールダウン室を中心に、ヒアリングだけでなく仮組みで作成して具体的に体験確認した上で、素材や各寸法を丁寧に合意決定するプロセスとした。特に外周通路のスロープ勾配を1/20以下として手摺（てすり）と床見切材を一筆書きに設けることで、誘導ブロックに代わる白杖利用者等の円滑な誘導方式を実装した点が特徴的である。

動線環境

来館者は敷地西面のスロープ入口から外周通路へ入場し、異なる3つの展示エリアの入口へアプローチする動線とした。また、中央の水盤エリアを含む全ての2階展示室は、スロープを緩やかにすることにより、車椅子利用者と健常者が同じ展示空間を体験できる動線計画とした。外周通路には木陰となる休憩所やトイレ、カームダウン・クールダウン室、授乳室などをバランス良く配置することで、長時間の鑑賞体験動線へ配慮した計画としている。

ゾーニング計画

本施設は展示テーマを受け、ひとつながりの円環状のゾーニングとした。展示鑑賞ゾーンを展示計画に応じて3種類に分け、その外側に外周通路を設けることにより、各ゾーンへのアクセスの選択性を高めるとともに、回遊性を持たせた平面構成とした。敷地西側には緩やかなスロープによる来館者のアプローチ経路を設け、一般来館者動線と反対側の敷地東側に施設の管理・運営・迎賓ゾーンを効率良く集約した。また、全ての来館者動線を2階に持ち上げ、いのちの循環の主展示である微生物の分解・育成・生成するプラント機能を吹き抜けを介した1階に集約することで、立体的な鑑賞空間を構成した。

平面計画

外周通路直径約95m、展示室直径約80m、水盤中庭は直径約30mの平面規模として計画した。位置や形状の最適化及び施工性の合理化のために正円の同心円グリッドで計画し、放射方向は12°ピッチ×30分割の扇状の架構式構造※8とした。

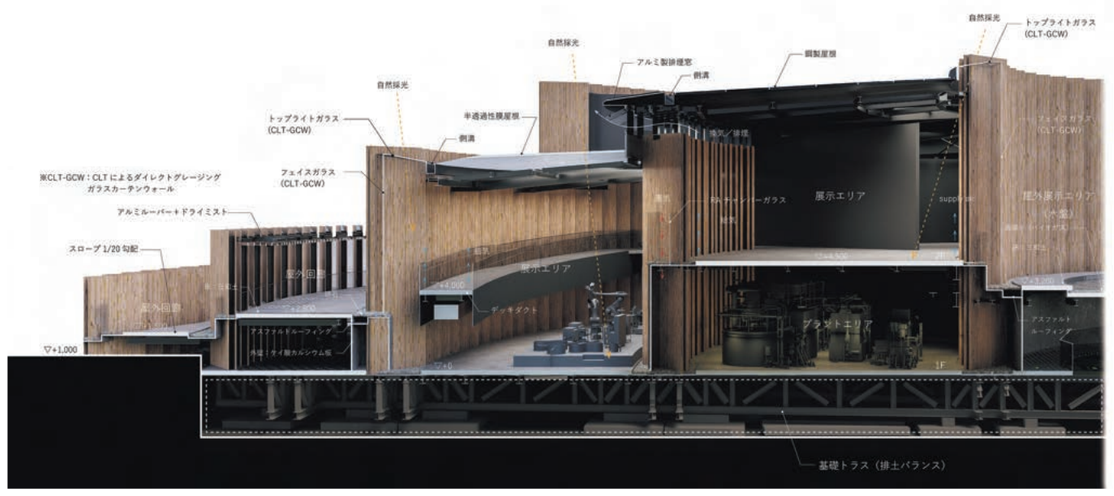
VIP対応

敷地北東に迎賓用車寄せを配置。管理棟1階にVIPラウンジやVIP諸室等のVIPエリアを計画し、独立したVIPエリアから2階展示エリアへと移動するVIP専用エレベーターを設置することでセキュリティに配慮した。

VIP諸室

VIPラウンジ、応接室、貴賓室について、本木やグレートーンで構成し、日本館の建築や展示エリアと親和性を持たせながらも、それぞれ「和紙」「漆喰（しっくい）」「木組」などの日本の伝統的な素材や技術を用いたアートウォールを設け、日本館のVIP諸室等としてふさわしい空間とした。さらに、ゲストルーム1とゲストルーム2の2室を設けた。また、VIPエリアは1階南東のAエリアと切り離して1階北東にゾーニングし、独立した車寄せと駐車場を配置した。エントランスはCLT壁で出迎える計画とし、2階展示室

※6 カーボンオフセット
排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方
※7 林野庁「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法について」に記載の算出式を基に計算
※8 架構式構造
柱や梁等の細長い部材で床や屋根等を支える構造



日本館 断面図

エリアへのVIP専用エレベーターを設けた。

管理棟

円形の建築に合わせて同心円で沿うような円弧の形状とする計画とした。1階にはVIP諸室及びプラントエリア、2階には管理・運営エリアを配置することで明確な機能配置を行い、運営スタッフと展示室を近接・短縮化した動線計画により効率の良い施設サポートを行える計画とした。

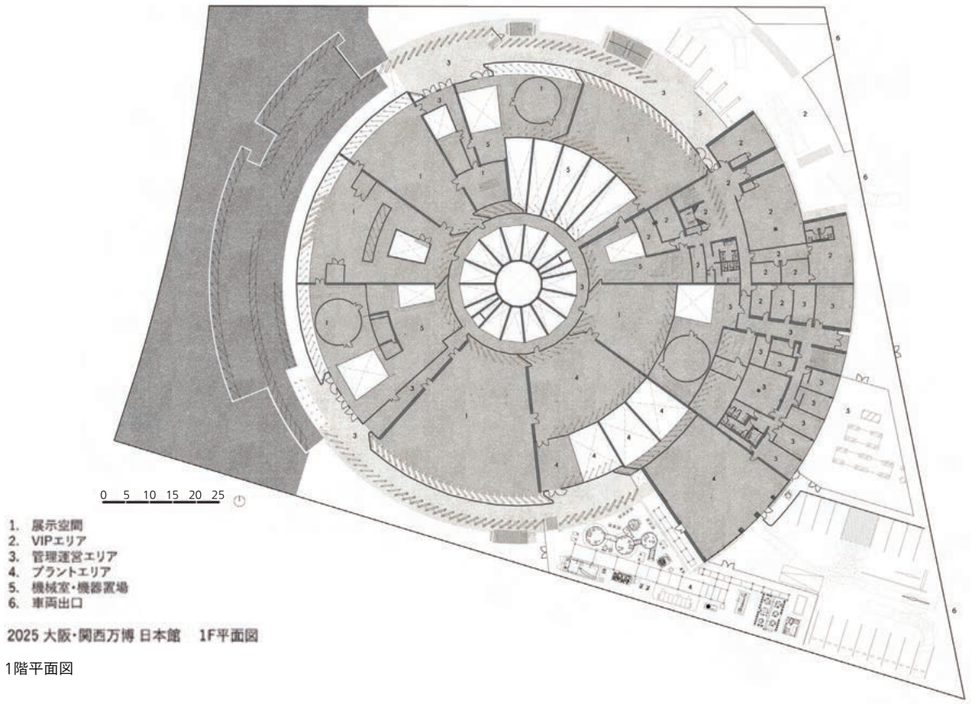
トイレの設置計画

国の文化・慣習の違いも考慮し、全てをオールジェンダーにするのではなくオールジェンダーのトイレゾーンを1か所（Cエリアエントランス：男女兼用個室×5・多目的個室×1・男子個室×3）、男女別のトイレゾーンを2か所（A・Bエリアエントランス各：男子小×3、男子大×2、男子洗面×2、女子×3、女子洗面×2、多目的個室×1）、大きめトイレゾーンを1か所（外周通路：男女兼用個室×2、多目的個室×2）を設置する計画とした。博覧会協会が定めるパビリオン設計におけるユニバーサルデザインガイドラインに則った設計とすることはもちろんとして、ユニバーサルデザインワークショップ（以下、UDWS）での障がい当事者である有識者とも丁寧に意見交換を行うことで有識者・利用者の声を反映させた色・素材・コントラスト・器具配置・扉・案内板などを決定した。大きめトイレに近接して授乳室やカームダウン・クールダウン室も設けた。

建築現場での情報提供

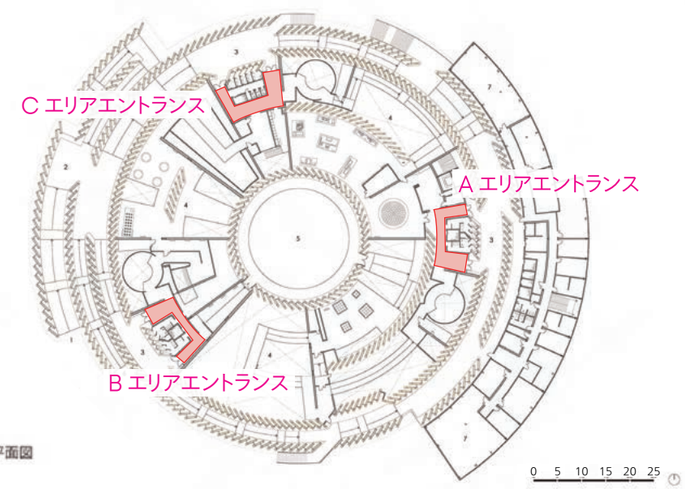
実施設計では、フルBIM※9化により、建築設計のみならず展示設計者や施工現場など多くの関係者と視覚的に意思疎通が可能となるよう設計体制を整えた。展示の設計や施工計画への共通のツールとして活用した。

※9 BIM
建築物に関する3次元の形状情報と属性情報を用いて設計する手法、Building Information Modelingの略



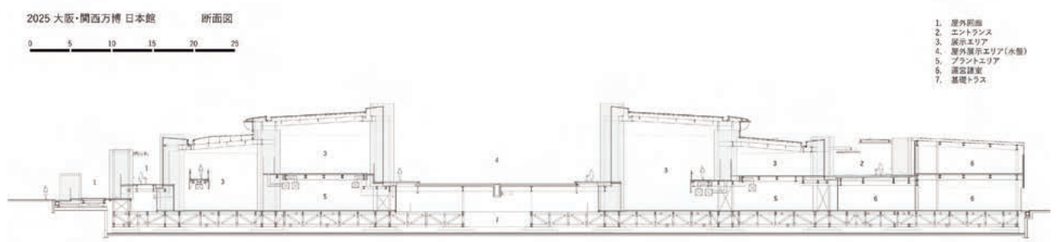
2025 大阪・関西万博 日本館　1F平面図

1階平面図



2025 大阪・関西万博 日本館　2F平面図

2階平面図



断面図

立面図（南）

立面図（西）

外装計画

立ち並ぶCLTをシンプルに見せるため、ガラスを直接構造体に固定する計画とした。この計画に基づく施工に当たり、2点特徴的な工程を経た。1点目は、CLTに風圧力が作用した際の変形追従[※10]についての検証作業を取り入れたことである。本件のガラス枠となる壁ユニットは、変形がやや複雑なものとなっており、この複雑な変形に対し、どのようにガラスがスライド[※11]やロッキング[※12]しながら変形追従するのか、変形時のガラスとCLTとのクリアランスなど詳細図化して検証を行い、変形追従が可能であることを確認したことで、よりミニマムで無駄のないディテールとすることができた。また、CLTは木材としての特性上、反りや収縮などの変形を免れ得ず、それに伴いCLTガラスが接した際のガラスの応力集中についても、FEM解析[※13]で確認した。2点目は、壁ユニットのCLTに金属枠を介さず、直接ガラスをグレージング[※14]させる工法を採用したことである。実績の少ないシーリング材と木材の相性については接着力試験と防汚試験を事前に実施し、その妥当性を確認し金属枠を不要としたことで、余分な材料を削減できただけでなく、解体後のCLTの再利用の幅を狭めないことにも寄与するディテールとすることができた。この施工は、木材とガラス取合いの可能性を広げただけでなく、部材点数の少ない工程やコストに寄与できる仮設建築物の外装材として、あるべき姿の一解答を示した。

自然素材

日本政府出展事業である日本館は、日本政府出展事業（日本館）基本計画（以下、日本館基本計画）を踏まえ、3Rについても配慮して設計した。日本の伝統的な建築デザインの特徴は、自然素材の素材感を活かし、装飾を排し、緊張感のあるシンプルな構成の中にまとめ上げている。そうした考えに基づき、日本館で採用した主な材料は、木、土、石、鉄、ガラスという、自然由来のリサイクルがしやすいものを用いた。また、随所に使用した砕石は、地元大阪府茨木市産の石材を使用した。外周やVIPエリアの床舗装仕上げは真砂土による三和土仕上げとした。透水性のある土系舗装とすることで屋外の暑熱に効果があり、会期後は舗装面を砕いて土に還すことができるため、産業廃棄物の縮減に配慮した。

CLT、杉羽目板パネル

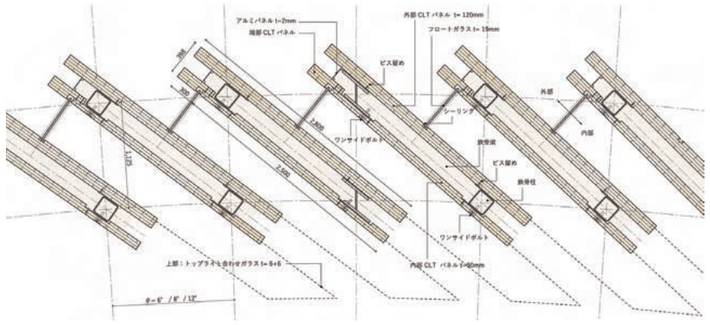
地場産 砕石

三和土仕上げ

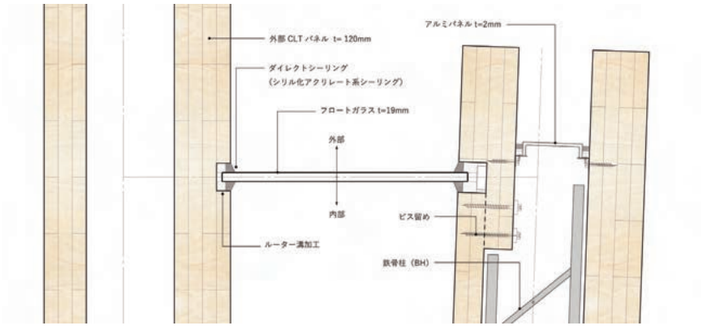
CLT構造耐力壁

最大幅約3m×高さ12mのCLTを建物の円周方向に沿って雁行して配置することで、四角い板で円形の建物を構成した。国産CLTの製作限界の大判面材がそのまま立ち上がったシンプルな構成を際立たせるため、鉄骨による架構とし、壁フレームを2枚のCLTで両側から挟み込むことで、内外ともにCLTを象徴的に表した。使用するCLTは、会期後には解体の上、返却・リユース等が行われる計画としている。このため、加工を最小化し、部分的な溝加工や穴あけ加工のみで使用できる計画とした。CLTは解体のしやすさや解体後の再利用に配慮して、接着剤等は一切用いず、構造用ビスとボルトの組み合わせによって、容易で精度の高い施工が可能な乾式接合とした。構造性能の確認試験を実施し、接合部の耐力・剛性の検証を行うとともに、試験体を用いて、施工性・解体性の確認も実施した。パネルは内壁側を3層、外壁側は保護層を加えた4層とし、その保護層部分に溝加工を行うことで、ガラスを直接嵌（は）め込む、CLTを際立たせるシンプルな外装計画としている。建物全体で、約1,600㎥のCLTを活用した。

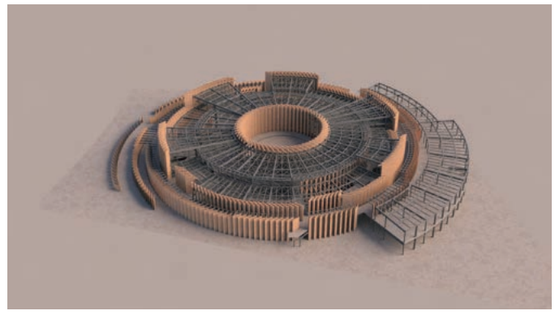
※10 変形追従
構造物が外力などによって変形した際に、その変形に適応し、損傷を最小限に抑える性能
※11 スライド
上下段のパネルが水平方向にずれ合って追従すること
※12 ロッキング
パネルが1枚ごとに面内方向に微小回転して追従すること
※13 FEM解析
複雑な構造物を数値的に解析する手法のこと、構造解析など多くの分野で活用されている
※14 グレージング
ガラスを取り付ける（はめ込む）工事



CLTユニット平断面図



CLTユニット部分詳細図



CLTと鉄骨による構造モデル

耐震要素となるCLT

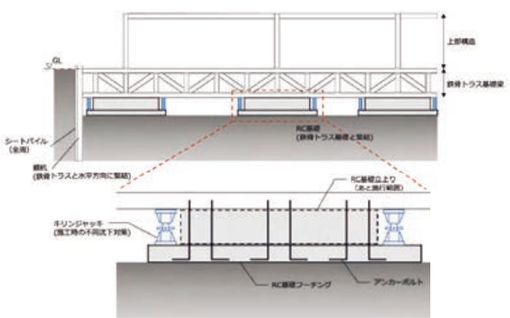
基礎トラス

構造計画

建物の構造は、フレキシビリティの高い展示空間の実現と、CLTを象徴的に表現することを両立させるため、主架構を鉄骨造とし、耐震部材としてCLTを用いたメリハリのある架構を形成した他、中小断面鉄骨から構成される放射方向の1フレームラーメン架構[※15]を均等ピッチで配置し、円周方向は各フレーム間を小梁で接続するだけのシンプルな構成で合理的に円形プランを形作った。そして、CLT耐震壁を平面計画の外周・中間・内周部分に配置することで、バランスの良い耐震架構を実現した。さらに、個々のCLT耐震壁を雁行型に配列し、雁行方向は外周・中間・内周の各円周上において、相互に反転させている。これにより、内部の展示計画に伴い床位置が不連続となる本建物固有の事象に対する解決を図っており、円形プランの各ゾーンにおいても、地震で建物がねじれるような揺れを合理的に防ぐことができた。このCLT耐震壁は、①展示空間の領域区分機能、②建築物の内外壁の機能、そして③耐震部材という複数の役割を担っており、展示・意匠・構造が一体となる計画を目指した。

地盤沈下に柔軟に対応する基礎計画（基礎トラス+排土バランス）

建築予定地は広大な埋立地に位置しており、主として粘性土層の圧密沈下[※16]への対応が必要となった。そこで、地盤面より約2.5mを掘削し、排土重量[※17]と建物重量とのバランスを確保した直接基礎（排土バランス基礎）を採用した。さらに、柱軸力が不均一になった場合の局所沈下にも対応できるよう、剛強で変形追従性能が高い鉄骨トラス基礎梁により、柱軸力を分散させることで、沈下差の平準化を図る計画とした。また、敷地東側と西側で埋立時期が異なる敷地特性を持つため、両者の沈下差が大きく発生する懸念があった。このため、施工時に生じ得る不同沈下への対応として、基礎部分にジャッキスペースを設け、レベル調整を行うことが可能な計画とした。そして、沈下計測と、ジャッキアップの閾値（いきち）を設定の上、事前解析等を行いながら、工事を進めた。



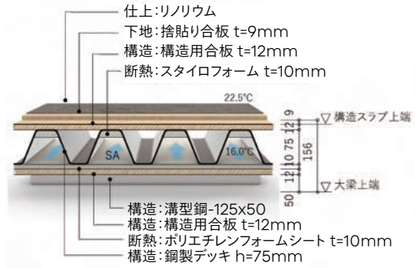
ジャッキスペース

空調計画

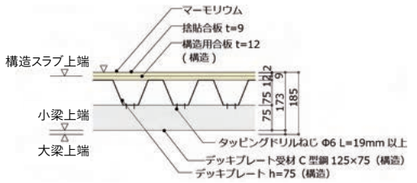
展示室という大空間における最適な設備計画として、居住域空調を採用した。会期中に最も厳しい条件となる夏季のシミュレーションを行い、床面に吹き出し口から高さ2m以上にレターン[※18]を設けることで、来館者が滞在する高さのみを快適な空調エリアとし、最小限のエネルギー消費を実現できる計画とした。

資材の転用に向けて

展示空間の床には、構造用合板とデッキプレートをビスで一体化させた乾式合成床を用いた。これは軟弱な埋立地盤の負荷に配慮し、建物重量を削減するためのものであり、歩行感・振動性状については、実大実験にて確認を行った。デッキプレートと鉄骨梁の接合については、会期後に容易に解体・転用ができるよう、溶接接合は行わず、タッピングドリルねじ[※19]を用い、乾式で接合できるディテールとした。さらに、デッキと合板との間のスペースに冷気を循環させる空調計画とすることで、ダクトの資材を低減させた。この統合型の床システムを施工床面積の約7割程度に採用することで、コンクリート使用量を大幅に削減した。また、空調のダクトは段ボールダクトを用いて省資源化を図った。



デッキダクト



乾式合成床

建築設計経過表

2021（令和3）年6月	第1回技術提案書評価委員会
2021（令和3）年10月	設計者特定
2021（令和3）年11月	基本設計開始
2022（令和4）年6月	基本設計完了
2023（令和5）年6月	博覧会協会 実施設計書受理
2023（令和5）年6月	実施設計完了
2023（令和5）年7月	意図伝達業務の開始
2023（令和5）年7月	現場会議の開始
2023（令和5）年9月	起工式
2025（令和7）年2月	博覧会協会 展示設計書承認申請書受理
2025（令和7）年2月	建築工事竣工
2025（令和7）年3月	展示工事竣工
2025（令和7）年3月	開館式

※15 ラーメン架構　柱と梁を一体的に接合して構成される構造形式のこと、広い空間を確保できる
※16 圧密沈下　時間の経過とともに土中の水分が抜け、沈下が起きる現象
※17 排土重量　取り除かれた土砂の重量
※18 レターン　空調設備における室内の空気を吸い込むための吸込口
※19 タッピングドリルねじ　部材に下穴不要でねじ立てしながらねじ込むことができるねじ

3 建築工事

建築工事において、日本館全体の解体性の向上や建設副産物の抑制の実現に加え、施工面で工事手順を可視化させるためITネットワークやDX技術を用いた。デジタル技術の活用により作業方法の検証を効率化させたほか、環境に配慮したサステナブルな建設資材を活用し、施工を進めた。

3.1 建築工事事業者の選定

日本館の建築設計は、国の機関が設置する建築物として、国土交通省営繕部門(近畿地方整備局)が所管することが法律で定められている。これに基づき、所管省庁である経済産業省からの委任を受け、国土交通省近畿地方整備局が設計を担った。営繕事業では、省庁が必要とする建築物について、所管省庁が発注者として要件を定め、国土交通省営繕部門が設計・工事監理を行う仕組みとなっている。

工事者の選定には、入札公告(一般競争入札総合評価落札方式)により2度の開札を行ったが予定価格の制限の範囲内での応札がなかった。これを踏まえ、入札・契約手続きを再入札ではなく随意契約とし、本工事の事業者として清水建設株式会社を選定した。

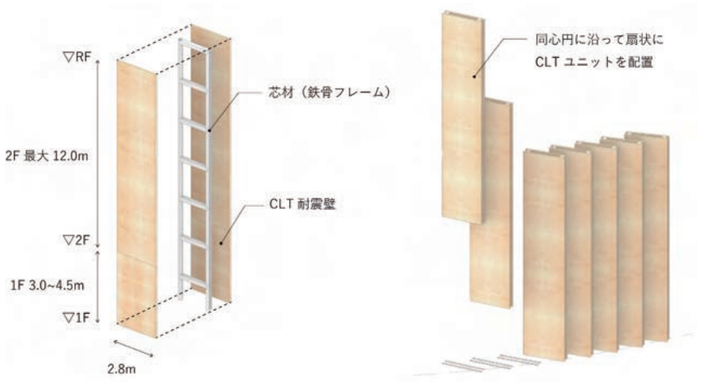
3.2 建築工事

環境負荷低減や効率的な施工を目指し、CLTの活用に加えて、ITネットワークやDX技術を活用した。また、ユニバーサルデザインを実現するために、UDWSを開催し、参加者の意見を施工に取り入れ、環境だけでなく来館者にも配慮した。

CLT材の対応

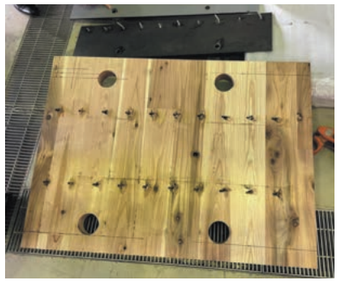
CLT耐力壁の概要

建築では施工性と再利用を踏まえた解体性について配慮し施工した。解体を考慮した結果、大判でプレーンなCLTと鉄骨をビス、ワンサイドボルトで乾式接合[※20]する構造とした。CLT耐力壁は鉄骨をCLTで挟み込む架構のため、施工手順を考慮し接合部の詳細検討を行った。屋外側のCLTを先行して施工し、次に屋内側を施工する順番となるよう計画した。屋外側のCLTは鉄骨躯体に溶接したプレートにビスで留め付けて接合し、プレートをワンサイドボルトで締め付けて接合した。



CLT外貼り架構システム

CLT接合部実大試験体の試験状況


試験体の解体状況

CLT耐力壁の構造性能の確認

CLT壁の構造耐力上の安全性を確認するため、接合部試験を実施した。CLT壁の接合部実大試験及び接合部要素試験により、CLT壁が高い変形性能を持つことを確認した。実大試験で確認した接合部の剛性と耐力の結果を受けて、架構の検討を行った。また、試験体を用いて施工性と解体性の確認を行っており、試験体の解体時にワンサイドボルトの共回りが発生しないことを確認した。

不同沈下対策(計測状況、ジャッキアップ対応)

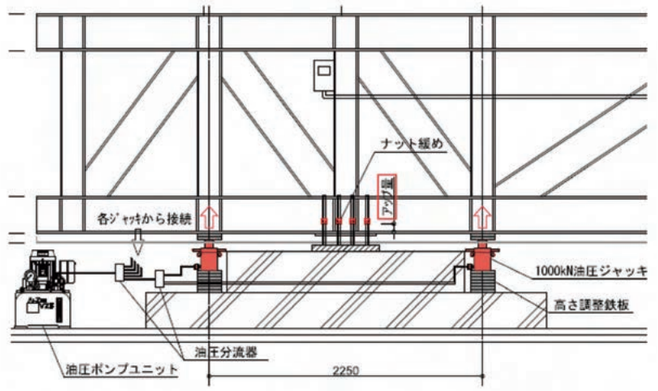
日本館敷地の東側と西側では、埋立工事の施工時期が異なることにより、建築工事着工から閉幕までの約2年間で、32㎝の沈下差が発生する懸念があり、対策が求められた。

不同沈下対策として、高精度、耐久性、耐候性に優れた水盛式沈下計測器を新旧埋立地の境界付近に計20箇所、建築全体の挙動を計測するために計5箇所、合計25箇所に設置した。規定値以上の計測が確認された場合は直ちに監理者へ報告する連絡体制を整え、早急な対応体制を整備した。管理規定値以上の沈下対応策としては、油圧式ジャッキアップシステムを採用。油圧ジャッキは経済性への配慮として常設ではなく、水平への調整時に一時的に使用する計画とした。

3R対応(施工段階)

3R(Reduce、Reuse、Recycle)活動推進により建築工事から排出される建設廃棄物の最終処分量をゼロとする、ゼロエミッション施工を実施した。工

※20 乾式接合
ボルト接合の事を乾式、溶接接合の事を湿式接合という



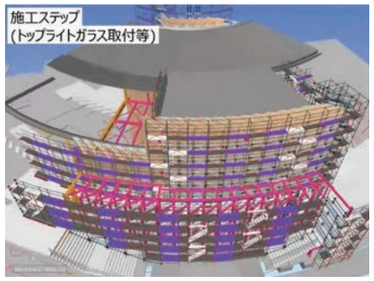
ジャッキアップ詳細図

事に建設副産物を総合的に管理・集計するためのシステムを活用することで計画的に仮設材や使用材などの建設副産物を削減した。

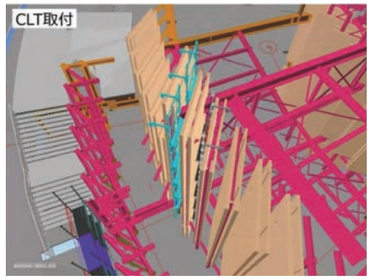
また、総排出原単位と最終処分率の数値をリアルタイムで確認することによって、作業員の分別意識の向上を図り、混合廃棄物の発生を抑制し、約97%の再資源化率を達成した。

DX技術（BIM）活用

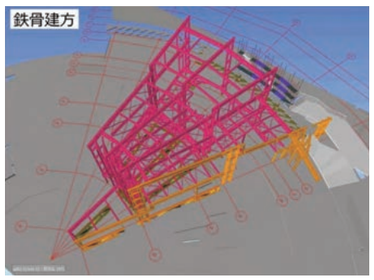
日本館の建設では、設計段階から施工、運用までのプロセスを3D画面上で検証できるBIM(Building Information Modeling)を導入した。鉄骨データ、足場データ、仕上データ、設備データを合成し、4Dステップ図や動画を作成することで、施工手順を可視化するとともに、効率的な作業方法を検証することにBIMを活用した。足場においては、外部足場・CLT間足場・内部足場・CLT間の狭小足場など、全ての足場計画をBIMにて作成。事前に足場材の綿密な数量積算を行い、計画どおりの足場組立を実施するとともに、足場の適切な配置と必要数量の搬入について、計画的に実施することが可能となった。



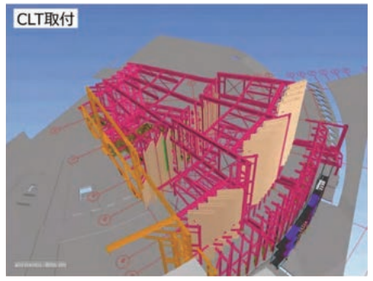
施工ステップ



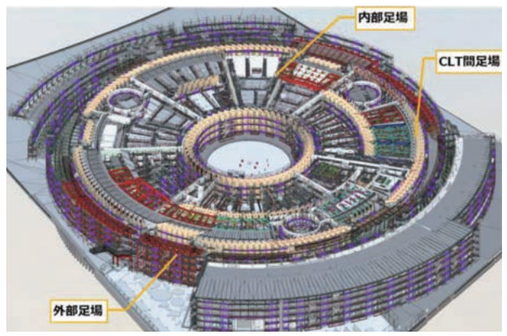
CLT取付



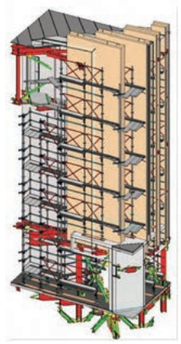
鉄骨建方

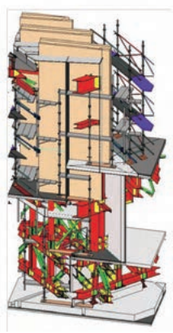


CLT取付



足場全体図


狭小足場


ビケ足場

UDワークショップ（施工段階）

誰もが使いやすいユニバーサルデザインを具現化するため、「施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン」で示された「障がい当事者等の参画による評価と意見反映～ユニバーサルデザインワークショップの積極的奨励～」に基づき、学識経験者を始め実際に障がいのある有識者など計25人が参加する「大阪・関西万博日本館UDワークショップ（施工段階）」を設置した。UDワークショップでは、スロープとトイレの現地検証を行った。スロープでは、視覚障がい者が一人で移動できるように、連続した手摺・床面のレールガイド・ラインガイドによる、新たな設備誘導を導入した。トイレでは、タイプの違うトイレを用意し、全体として多様な人が使いやすいバランスで配置するとともに、近年のニーズであるオールジェンダーへの対応を個室型、子育て・ファミリー対応や発達障がいへの対応を大きめトイレなどで計画した。基本設計段階から障がい当事者及び学識経験者の意見を設計・施工内容に反映した。

ワークショップ委員（施工段階）

氏　名	所属／役職
三星昭宏（委員長）	近畿大学名誉教授
高橋儀平	東洋大学名誉教授
尾上浩二	DPI日本会議副議長
六條友聡	NPO法人ちゅうぶ代表理事
鈴木千春	障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議運営委員
西村秀樹	滋賀県視覚障害者福祉協会
渡部安世	NPO法人兵庫県難聴者福祉協会 バリアフリー部長
大竹浩司	公益社団法人大阪聴力障害者協会
吉川ひとみ	アクセス関西ネットワーク
小尾隆一	社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 常務理事
太田まさ	Life hospitality management service
神徳佳子	NPO法人WACわかやま副理事長
その他オブザーバー13人	

UDワークショップ（設計段階）開催概要

	日付	検討テーマ
第1回：日本館の概要説明	2022（令和4）年6月7日	参加者への日本館の概要説明
第2回：第3回以降WSのテーマ設定	2022（令和4）年7月12日	以降ワークショップのテーマ設定
第3回：移動・休憩検討会	2022（令和4）年8月8日	階段のスロープ化に関する通路計画について
第4回：トイレ検討会	2022（令和4）年8月9日	トイレの設置数、ジェンダーレス対応について
第5回：誘導検討会	2022（令和4）年8月30日	白杖を沿わせた通路計画について
第6回：とりまとめ	2022（令和4）年12月12日	とりまとめ

UDワークショップ（施工段階）開催概要

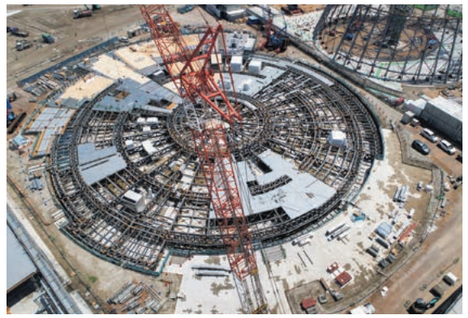
	日付	検討テーマ
第1回：全体会議	2023（令和5）年12月19日	UDワークショップの目的とスケジュール等
第2回：モックアップ検証①（場所：日本館工事現場）	2024（令和6）年1月16日	スロープ・誘導関係（床材、手すり・レールガイド・ラインガイドの設置位置・形状等）
第3回：モックアップ検証②（場所：会議室）	2024（令和6）年6月25日	トイレ関係（内寸、仕上げ材料、配色、視覚障がい者用警告ブロック、フラッシュランプ設置位置等）
第4回：全体会議	2024（令和6）年11月28日	とりまとめ

UDワークショップ

3.3　建築記録

事業概要	
件名	大阪・関西万博　日本館
事業主体	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
発注者	経済産業省（展示・バイオガスプラント工事）、国土交通省近畿地方整備局（建築本体工事）
竣工年月	2025年2月
建設地	大阪府大阪市此花区夢洲中1丁目
敷地面積	約12,950㎡（12,950.97㎡）
建築概要	
建築面積	約8,200㎡
延床面積	約11,000㎡
階数	地上2階
最高高さ	約13.2m
主体構造	鉄骨造（CLTと鉄骨が複合された構造）
CLTユニット数	合計約1,600㎥（うち貸与材約860㎥、支給材約740㎥）
外周通路羽目板パネル	233組 鹿児島県産杉材 約170㎥
設備概要	
電気設備容量	2,750kVA（単相変圧器500kVA×3台、三相変圧器500kVA×1台、750kVA×1台）
主冷熱源容量	1,541kW（DHCより冷水受入）
電気設備容量	受電は万博会場敷地全体で特高受電、日本館には高圧2回線で受電 半年以上の会期のため非常用発電機を設置 展示エリアは内装及び電気工事を別途展示工事施工
機械設備	熱源設備:DHCより冷水受入 空調設備:単一ダクト空調機方式（展示エリア）、FCU+外調機方式（管理エリア）、個別パッケージ方式（サーバー室、MDF室） 換気設備: 第一種換気（空調機+排気ファン）:展示エリア 第二種換気（外調機）:管理エリア 第三種換気（排気ファン）:トイレ、倉庫
衛生設備	給水設備:上水1系統給水、受水槽+加圧給水ポンプ 給湯設備:局所方式（電気温水器） 排水設備:建物内汚水雑排水合流式、敷地内汚水・雨水分流式 消火設備:閉鎖型スプリンクラー、放水型スプリンクラー、補助散水栓 ドライミスト設備:外周通路

施工経過



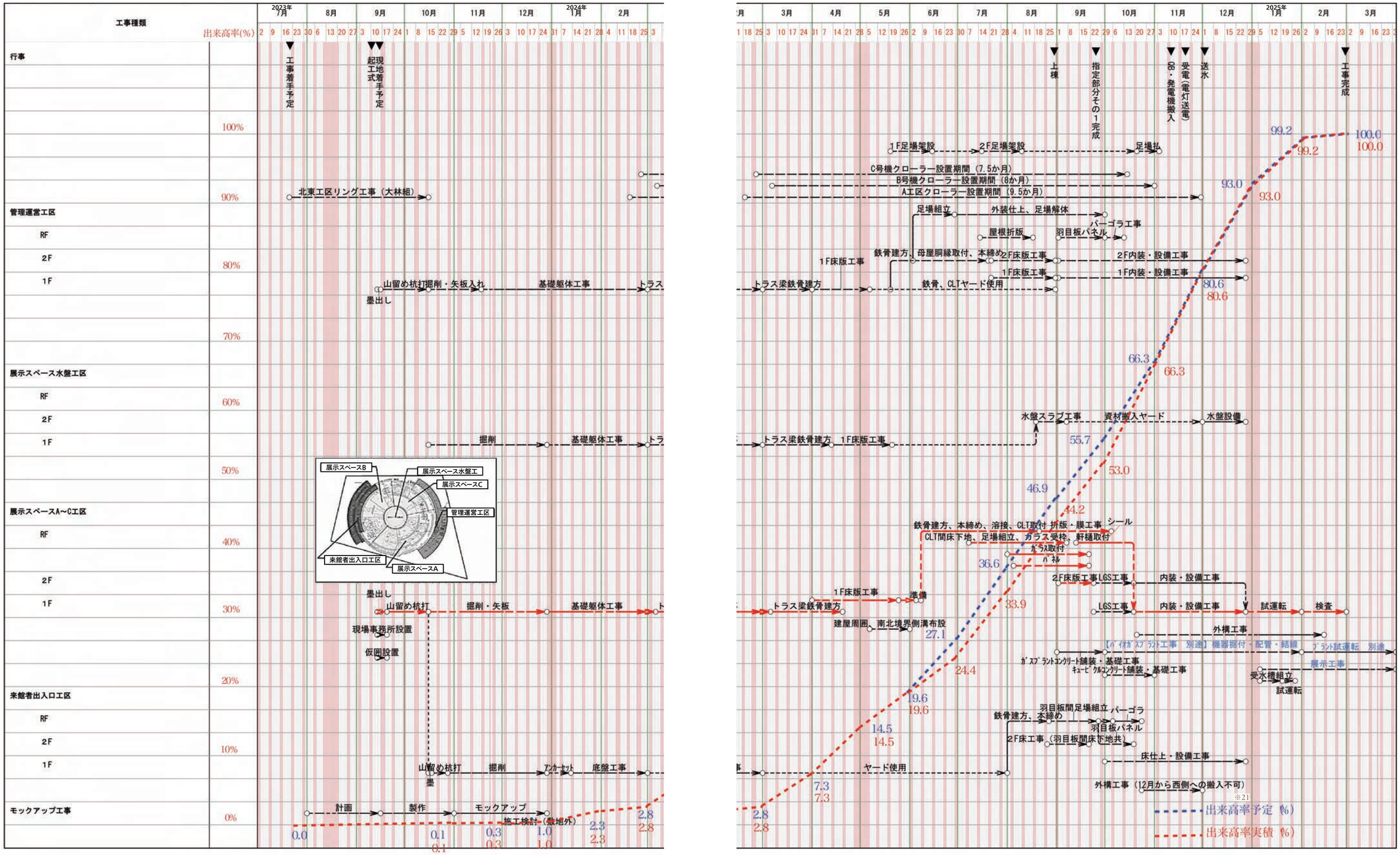
施工経過（空撮）

施工経過

建築工事経過表

2023（令和5年）7月	工事請負契約	2024（令和6年）6月	CLT受入開始
2023（令和5年）8月	実施設計承認	2024（令和6年）7月	屋根・外装工事着手
2023（令和5年）8月	工事開始許可	2024（令和6年）7月	内装工事着手
2023（令和5年）9月	起工式	2024（令和6年）8月	上棟
2023（令和5年）9月	現地着工、山留め着手	2024（令和6年）9月	指定部分その1完成
2023（令和5年）11月	掘削着手	2024（令和6年）11月	受電
2024（令和6年）3月	トラス梁鉄骨建方着手	2024（令和6年）12月	NHK「ゆく年くる年」撮影協力
2024（令和6年）3月	1階床板工事着手	2025（令和7年）2月	完了証明書交付
2024（令和6年）5月	鉄骨建方着手	2025（令和7年）2月	工事完成
2024（令和6年）6月	2階床板工事着手	—	—

建築工程表



※21 出来高率　施工全体の作業項目数量に対する累計施工完了数量の割合

4 展示設計と制作

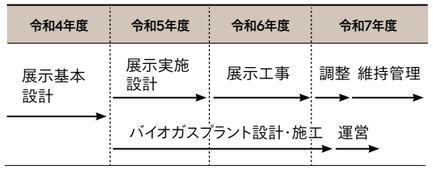
日本館では、来館者に、「循環」に関する理解促進及び循環型社会実現のための行動変容を促すことを主眼とした。この思想を基に、「ごみから水へ」、「水から素材へ」、そして「素材からものへ」といったエリア及びバイオガスプラントの設計を行った。そして、来館者自身が館内を巡ることで、自分自身が大きな循環の一部だと体感できることを目指し、展示の計画及び工事を行った。

4.1 概要

「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマに循環などを展示体験の柱に掲げた「日本館基本計画」を踏まえ、令和4年度以降は政府出展事業として、展示及びバイオガスプラントの設計と制作を進めた。

日本館内の展示については、令和4年度に基本設計、令和5年度から実施設計に着手し、令和6年度から順次制作・施工を進め、会期中は来館者の展示体験に資するよう維持管理に努めた。

また、展示体験の一部を担う日本館に併設するバイオガスプラントについては、令和4年度に基本設計、令和5年度から6年度にかけて実施設計と施工を進め、会期中は安全な運転管理に努めた。



展示スケジュール

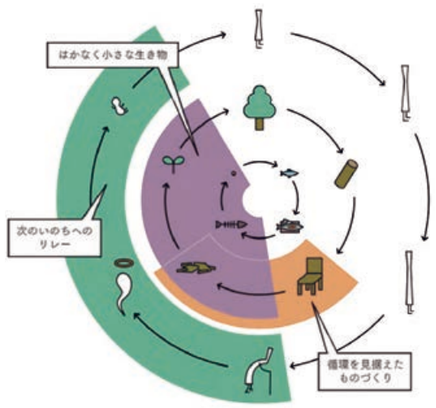
4.2 展示基本設計

基本計画

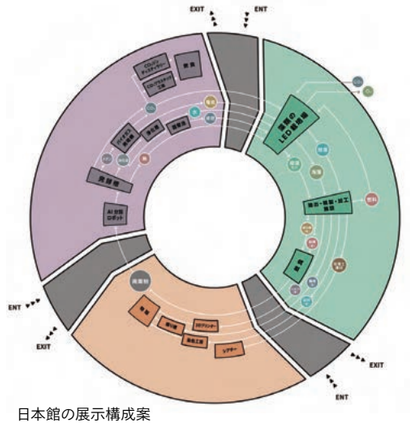
いのちのつながりの「循環」を示すために、3つのエリア構成で日本館の展示を計画した。各エリアを、微生物の存在とその活用を示すAエリア、育成や継承をテーマにしたBエリア、循環を見据えたプロダクトを配置するCエリアとして設定した。また「循環」を展示のみではなく建築も含めた空間全体で表現することを目標とした。加えて、バイオガスプラントを設置し、生ごみから電気や水を生み出して実際に館内で活用することで、「生きたパビリオン」としての展示体験の実現を目指した。

展示基本設計

「日本館基本計画」に基づき、展示基本設計として展示ストーリーや実現可能性の検討を行った。展示体験の3つの柱として定めた「循環を見据えたものづくり」、「はかなく小さな生き物」、「次のいのちへのリレー」の体現を目指し、建築図及びパース図に基づいた技術的な実現可能性の検証、体験を含めた会場運用などの各要素を踏まえ、建築・展示・運営が三位一体となって、訴求力の高い展示となるよう展示基本設計を進めた。



いのちの循環を支える要素


日本館の展示構成案

4.3 展示実施設計

事業者選定

大阪・関西万博の政府出展事業における展示実施設計業務は、経済産業省から委託を受けた博覧会協会が民間事業者に再委託する方式を採用して進めた。

展示実施設計の業務については、民間事業者等の知識やノウハウ等を活用し、多岐にわたる分野での円滑な調整と実施が必要であることから、業務計画提案公募により受託事業者を募集した。

2023(令和5)年3月から同年4月に事業予定者選定委員会の書面審査を実施し、3人の選定委員会委員による採点を行った。

展示への詳細な検討内容や「循環の体験」の実現性、実績を評価し、日本館展示等コンソーシアム共同企業体を展示実施設計業務の事業者として選定した。

総合プロデューサーの指揮の下で行った展示基本設計で描かれた展示の姿を具現化すべく、日本館展示等コンソーシアム共同企業体は令和5年度から展示実施設計業務を担い、展示の設計、制作を行った。主な業務として、フィジビリティの検討や展示制作に必要な図面の作成、展示協力・協賛を依頼する事業者との連絡調整、モックアップ及び展示物を制作した。これらの業務を行い、ステークホルダーとの連携を図りながら展示の精度を高めた。

協賛者の公募

事業者の選定等と並行して、2023(令和5)年6月から博覧会協会が協賛者の公募手続きを進めた。これは、日本館を出展するに際し、多くの来館者に日本の優れた点や魅力等をより広く感じていただくことで、日本が誇る製品、技術、文化等を積極的に発信するために公募するもので、キャラクター、一部の展示制作等を対象に実施した。結果として、「BE@RBRICK[※22]」「ハローキティ」「ドラえもん」のライセンスや「ロボットアーム型3Dプリンタ」等の展示を日本館に協賛いただけることになった。

展示実施設計

概要

展示基本設計で描き出した展示内容の具現化を目指しつつ、品質の担保や演出効果の向上、施工の効率化を行うため令和5年度からほぼ全ての展示コーナーについて、モックアップの制作を行った。

モックアップの制作に当たって、日本館の実際の展示環境に近づけるために、明るさや広さが日本館と同等の条件を持つ複数箇所の大型倉庫を使用した。

モックアップの制作は日本館展示等コンソーシアム共同企業体が行った。制作においては半年間の会期における耐久性も加味し検討の上、落とし込みを行った。各展示につき2回から3回の確認会を実施し、総合プロデューサーを始め、経済産業省、国土交通省近畿地方整備局、博覧会協会、株式会社日建設計が立ち会った。建築設計を担当する株式会社日建設計とは密な連携を図り、モックアップの制作で得た展示物の情報を建築にも落とし込んだ。

そして、2024(令和6)年7月から建築工事中の日本館に先行して一部展示の搬入を行った。施工フェーズでは建築との調整を進め、照明の調整による演出効果の向上を目指した。また、展示基本設計で描き出した展示空間の特徴を来館者により分かりやすく伝えるため、展示名についても当初定めていたAエリア・Bエリア・Cエリアを Plant Area・Farm Area・Factory Areaと呼称し、2024(令和6)年9月に公表した。この3エリアを

※22 BE@RBRICK
世界中のアーティストやブランドとのコラボレーションで大人気のクマ型フィギュア

一周することで「循環」を体験できる設計であることや会場内の生ごみを回収しバイオガスプラントで水や電気を生み出して館内で活用するなど、実際に「循環」を生み出したことは日本館の特徴の一つである。

展示制作・施工スケジュール

		2024年 8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
Plant Area	Plant-01				造形物設置 →		演出・照明調整等 →		
	Plant-02				一部先行設置（ベルトコンベア）造形物設置・仕上げ工事	仕上げ工事 →			
	Plant-03			PJ設置		現場設置（タンク） →			
	Plant-04						現場設置 →		
	Plant-05			下地工事		現場設置 →			
	Plant-06			下地工事		現場設置			
	Plant-07					壁フェイクグリーン →		ダミー機器・床LED →	
	Plant-08	現場設置 現場工事 →							
	Plant-09					現場設置 →		石展示 →	
Farm Area	Farm-01				造形物設置	設置	演出・照明調整等 →		
	Farm-02				下地工事 →		PJ他 現場設置 →		
	Farm-03						造作設置 →		
	Farm-04			現場設置		現場設置			
	Farm-05					現場設置 →		演出・照明調整等	
	Farm-06						什器設置+展示品設置 →		
	Farm-07				内装工事 PBR関連 吊物工事				
	Farm-08						造作設置+展示品設置 →		
Factory Area	Factory-01					造形物設置 →			演出・照明調整等
	Factory-02					現場設置 →		演出・照明調整等	
	Factory-03						造作設置+展示品設置 →		
	Factory-04		下地・造作工事			機器設置 →			
	Factory-05						内装・造作工事		商品搬入
外構・外周			CLT照明 →				WifiAP →	ベンチ →	
サイン・グラフィック							サイン各所 →		

※「Plant-XX」「Farm-XX」「Factory-XX」は各エリアの展示空間のことを示しており、その詳細はP.99、P.115、P.127を参照

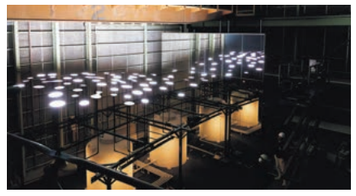
主要なモックアップの検証

① Plant Areaのモックアップ検証

Plant-02は「ごみ」を運ぶベルトコンベアを見学しながら、壁に流れる光に沿って通路を進む展示空間としており、照明の照度や造形壁のデザインについて検討した。通路（スロープ）下への間接照明の追加や、壁面の照明の速度並びに動き方について調整を施した。

また、Plant-03は大小様々な形の発光パネルを設置し、Plant-02から流れてきた光を微生物に見立てダイナミックに舞わせる空間演出を計画した。モックアップで光の動きを確認する中で、点滅するような演出から、光が深呼吸をしたり、移ろったりする演出へと変更を加えた。そして、当初に使用を検討していたプロジェクター機器を導光板に変更し、実施に向けて機器の再選定やインターフェースの再選定を行った。

Plant-02 確認会



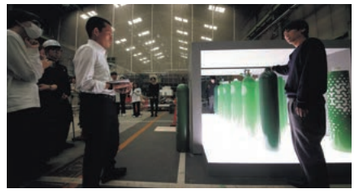
Plant-03 確認会

② Farm Areaのモックアップ検証

Farm-02では物質やエネルギーをモチーフにした「BE@RBRICK」が壁や床を移動する様子を映像によって表現する展示とした。壁面は塗装仕上げとクロスで比較し、床面もマーモリウム（グレー並びに黒）、塩化ビニール（黒）の素材で見え方を比較することで表現方法を追求した。最終的に、床面に塩化ビニール（黒）、壁面にCLTとミラーを使用し、天井を黒の配色とした。

Farm-02 確認会

Farm-03は発生するCO_2を表現するためにトンネルとそこから流れ出てきているガスボンベを置く展示とした。トンネル壁の出幅、ボンベの色味、ボンベのロゴデザインや照明の当て方について検証を重ねた。



Farm-03 確認会

そして、Farm-05は来館者に親しみやすく藻類の形状を示すために、藻類に扮した32種類の「ハローキティ」が壁面に並ぶ展示として、壁面塗装色、展示物への照明の当て方、塗装の色艶に対して検証を行った。

Farm-05 確認会

③ Factory Areaのモックアップ検証

Factory-04では「珪藻土」を敷き詰めた円盤の上に、ノズルから水滴を滴下して絵を描き、乾いて消えていく様子により「循環」を表現しようとした。モックアップの制作を進める中で、描画だけでなく、描画と滴下音をシンクロさせて演出効果を高める方針へと転換し、描画、音、さらに照明も含めて一体的に考えて調整した。音響演出については、描画によって生まれる滴下音のリズムに合わせ、新しい打楽器を奏でるようなイメージとし、描画については、桜や日本の伝統文様をモチーフに、水滴でも最適に絵が描かれるよう、組み合わせや点描の密度感など調整を行った。

Factory-04 確認会

制作・施工用図面等の作成

モックアップの制作と並行して、建築事業者とのプロジェクト総合定例会議を行い展示の施工図を制作したほか、総合プロデューサーと日本館総合定例会議、協力会社と分科会として複数の会議を開催し、各所協議・合意形成を図りながら進行した。

各展示エリア名称の公表

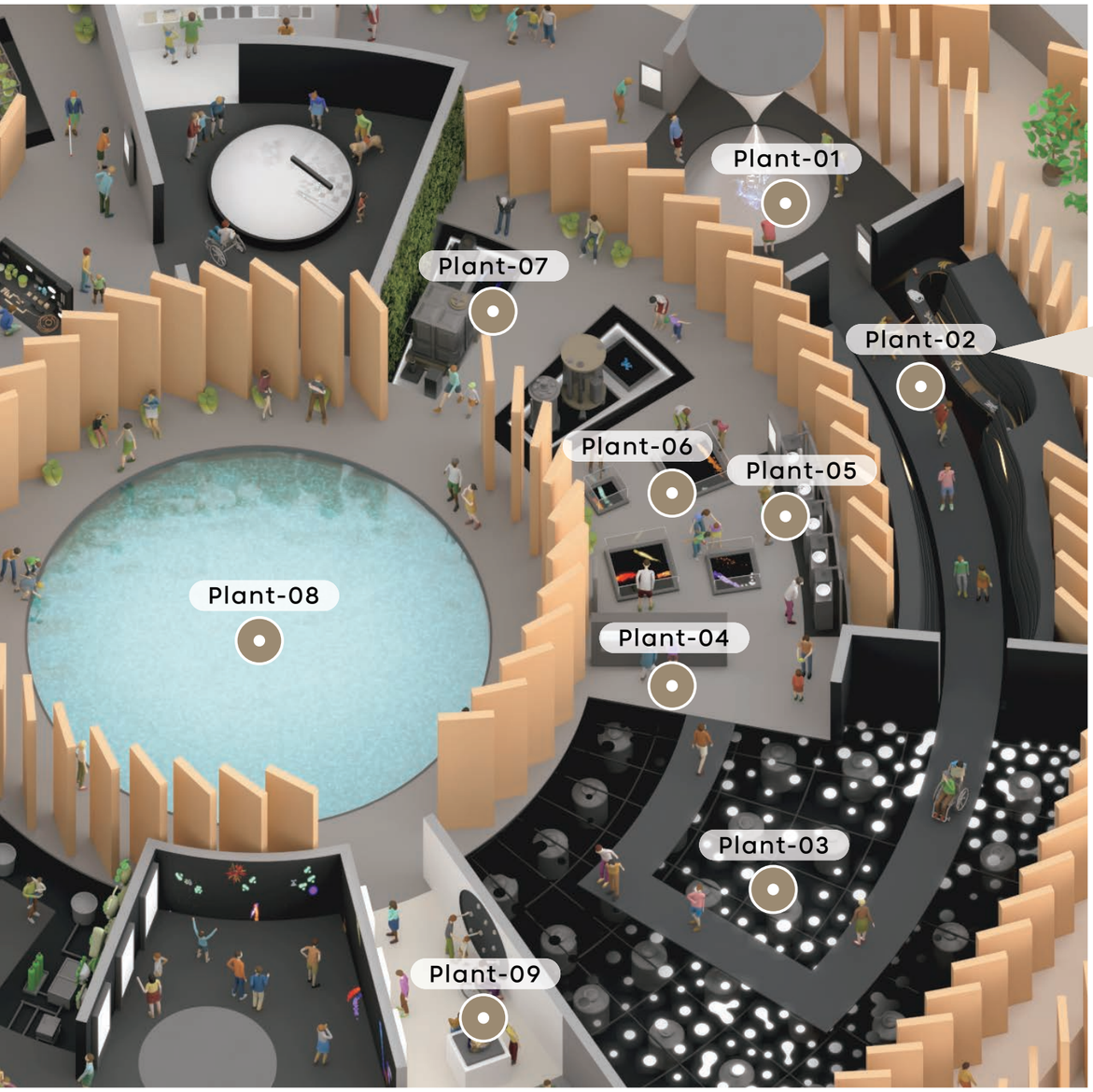
2024（令和6）年9月に各展示エリアの名称を公表した。日本館は、「Plant Area」「Farm Area」「Factory Area」の3つのエリアで構成され、日本文化の特徴の一つである「循環」の創出を目指すことを世間に広く発信した。

4.4　展示制作・施工

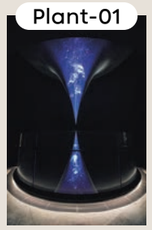
2024（令和6）年から、建築工事途中の日本館の中で展示の調整を始めた。実際に日本館内で制作を進める過程で、展示の見え方や音響など、来館者の体験価値を向上させるために調整を行い、展示物の精度を高めた。その他、展示体験をより深いものへとするため、案内サインを始め、各種制作を行った。

「ごみ」から「水」へ

目には見えない小さな生き物である微生物。微生物は、地球上の様々な場所で食べ残しや「ごみ」などの有機物を分解し、他の生物が生きていくために必要な環境を整えている。日本館には、微生物の力を活用してエネルギーを生み出す「バイオガスプラント」も併設されるなど、「ごみ」が微生物によって分解され、新たな姿に生まれ変わる過程を紹介した。展示体験を通じて地球の循環を支える微生物の働きを体感可能なエリアとした。

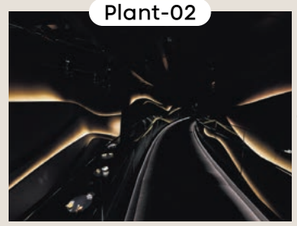


Plant Area



Plant-01

いのちといのちのあいだを見つめる砂時計 P.100



Plant-02

ごみは、いのちのはじまりだ P.101

Plant-03

発酵で発光中? P.102

Plant-04

日本が誇る隠れた料理人、その名も麹菌 P.103

Plant-05

目が離せない、微生物の無限の可能性 P.105

Plant-06

生ごみが、水になって熱になって、電気になってCO_2になって、養分になって P.106

© 2026 MEDICOM TOY

Plant-07

従業員は微生物、水の「再生工場」 P.107

Plant-08

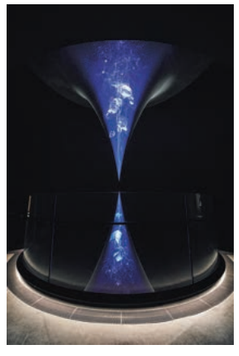
未来を映すまっさらな水 P.108

Plant-09

発見！ 火星でも水は循環する P.109

© 2026 MEDICOM TOY

Plant-01 いのちといのちの あいだを見つめる砂時計



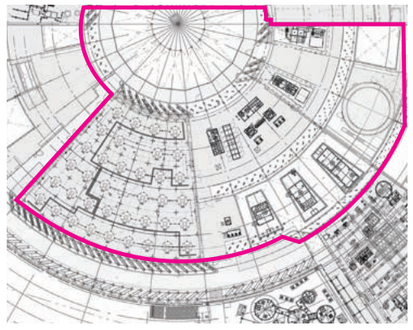
展示の概要

部屋の中央に二つの円錐を上下対称に突き合せたような大きなオブジェがある。その姿は、砂時計や鍾乳石に着想を得たもので、上半分は重力に従って崩れゆく「終わり」を、下半分は伸びやかに成長する「はじまり」を表現している。二つは対等に、絶えず変化を繰り返しながら循環し続ける。オブジェ全体は白くて滑らかな表面で直径6m、高さ9m。片側からの照明でオブジェに光と影を作り、その影の部分に映像を投影し、見る角度によって印象が変わる。

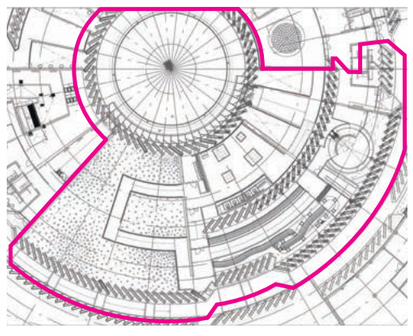
映像では、「人工物」を象徴するキューブが水に変わる様子を描き、役目を終えたものが、次のいのちの源となることを表現している。

展示の演出

直径6m、高さ9mのオブジェはいのちが持つ鋭さを表現すべく鋭利な突起になっており、程良い緊張感を演出した。オブジェの造形と映像をどちらも際立たせるために、立体的なオブジェの一方から照明を当ててオブジェの輪郭を浮かび上がらせつつ、反対側からプロジェクターで映像を投影する。これにより影の中に映像が現れるように演出し、見方によって様々な印象を楽しめる展示空間とした。



Plant Area 展示平面図 1階



Plant Area 展示平面図 2階

また、庇（ひさし）をつけることで、プロジェクターを隠し、近くに行くほどオブジェが上下に拡張していくように見せることが可能となった。

映像表現

「ごみから水へ」、いわば「おわり」と「はじまり」を象徴する砂時計型の上下2段に別れたオブジェとしてPlant Areaの入口へ配置した。オブジェに投影された映像は、下段に映る「人工物」を象徴するキューブ状の物体が、上段で「次のいのちの源」を暗示する「水」に変化する様子を表す。

また、2台の高輝度4Kプロジェクターを用いて、高精細な映像を表現した。映像演出は約1分間で繰り返し流れる設定とした。映像としてプロジェクターで、美麗な「青い世界」を映し出し、生まれたばかりの水の清らかさを来館者に印象付けた。

システム概要

・サイズ:直径6m／高さ9m
・材質:FRP（繊維強化プラスチック）

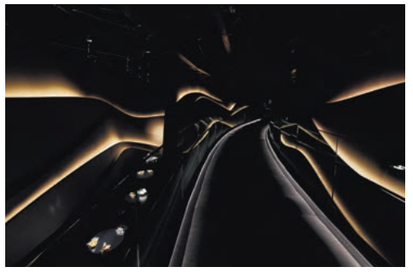
〈映像システム〉

DLP®プロジェクター（15,000lm・4K）×2台

〈音響システム〉

・2-wayフルレンジスピーカー×2台
・コラムスピーカー×2台
・サブウーファー×2台

Plant-02 ごみは、いのちのはじまりだ



展示の概要

窓から見下ろすと、長さ28mのベルトコンベアが万博会場で出る「ごみ」をモチーフにしたカトラリー等のオブジェを載せて流れ、その周囲では自走式ロボットが稼動している。

先に進むと薄暗い洞窟のような長さ25mの通路が現れる。ベルトコンベアに乗った、野菜や果物の皮、ストローやカトラリーなどの「ごみ」が次第に闇に吸い込まれる。光が先へと続く壁に現れ、隣の空間へ進む。この光は、役目を終えた「ごみ」が再び生まれ変わる、その息吹を表したものである。光の演出は、生命感を感じさせるようにデザインしている。

循環型社会を支える技術的背景

多くの人が集まる万博会場では、会期中毎日、生ごみが出る。日本館ではそれをEVトラックで搬入し、敷地に併設したバイオガスプラントで実際に発酵させ、バイオガスを生成。このバイオガスで発電した電力は、日本館で活用した。さらに、発酵の副産物として出た水は、浄水システムできれいな水へ。浄化した水は、後述する日本館の水盤でも実際に活用。「ごみ」をエネルギーや資源として再活用する取組は、さらに発展が期待される分野である。日本でも、廃棄食品の再利用や、地域への電力供給など取組は各地で少しずつ進んでいる。

空間づくり

洞窟のような長さ25mの暗闇の中で、歩くうちに変化を感じることができる空間とした。最初に「ごみ」を運ぶベルトコンベアを登場させ、設備の背後にある小窓からバイオガスプラントの一部を覗（のぞ）かせた。さらにその先では左右の壁に4段の光のラインを流し、「蛍の群れ」や「流星群」のように複数の光を同時多発的に発生させた。光の粒子は暖かみを感じる印象とするため、2,700Kの電球色を採

用した。光は役目を終えた「ごみ」が再び生まれ変わる、いのちの息吹を表現した。そして展示物が浮かび上がる背景を作り出すため床と壁とベルトコンベアは黒(N-15)を配色し、光を強調する背景を構成した。

展示の演出

通路左の階下では延長28mのベルトコンベアによって「ごみ」が運び込まれる様子を表現した。ベルトコンベアが流れる階下ではFactory-02(かたちになってかたちを変えてこんにちは)にも登場する自走式ロボットが稼働している。また、カトラリーや段ボール、野菜や果物の皮などを模したオブジェを、万博会場から出る様々な「ごみ」と設定して登場させた。それらをスポットライトで照らして、来館者にその存在を印象付け、通路を挟む光の流れや溜まり、動く速度、色温度は生命感を感じられるように調整を施した。光の加速度は「蛍」や「流星」などをモチーフに、できるだけ自然で、生きている印象となるように設定した。

システム概要
·サイズ:長さ25m／高さ4m
·照明:LED2,700K
·ベルトコンベア延長28m
〈音響システム〉
·2-wayフルレンジスピーカー×11台
·サブウーファー×2台

Plant-03 発酵で発光中?

展示の概要

このバイオガスプラントを模した展示空間では、37台の発酵タンクのオブジェが広い空間に並び、およそ700枚の発光パネルがうねり、光の粒子がダイナミックに舞っている。光には2種類あり、一つは前のコーナーで「ごみ」から変化した光、もう一つは微生物の息づかいを表現した光である。「ごみ」から変化した光は、深呼吸のように点滅しタンクを照らし、そこで「ごみ」の分解が行われている様子を表現している。微生物の光を、波打つように配置し、海や山など自然界の起伏を感じさせる。光は儚(はかな)く、しかし力強く明滅し、時には波のように動き、いのちの躍動感を表現している。

循環型社会を支える技術的背景

生ごみ由来のバイオガスの利活用は、CO_2の排出を実質的にゼロにする「カーボンニュートラル」を実現するに当たり、世界的に注目される重要な技術の一つである。生ごみに含まれている野菜や果物などの植物由来の物質は、もともと自然界にあるCO_2を吸収して育ったもの。それを活用したバイオガス発電によって大気中にCO_2を排出しても、CO_2の総量は増えない、という考え方である。生ごみを発電に活用することで燃やす「ごみ」の量も減り、CO_2排出量の抑制に貢献できる。生ごみはエネルギーを生み出すだけでなく、未来をより良くするアイデアの糧にもなろうとしている。

空間づくり

壁面は一部がミラーになっており床面に灯った光がどこまでも広がるかのような幻想的な空間を演出した。2つの壁の全面に貼った鏡が八の字の配置の合わせ鏡となり、空間が円環状にどこまでも広がって見えるように演出した。そして音響に関しては、光の動きに対して連動するようなサラウンド設計を行い、視覚と聴覚のそれぞれから展示空間に対する没入感を与える設計を行った。

展示の演出

発光パネルにより生まれる無数の光が壮大なスケール感と幻想的な光の明滅を生み出す展示として制作した。この展示では2種類の光を登場させた。一つをPlant-02から流れてきた「ごみ」から変化した光、もう一つを「ごみ」を分解しようとする微生物を表す光として、それぞれ深呼吸するように点滅させた。これらの光の点滅はスケール感を印象付ける波形の動きを多めに加え、光の下で巨大な発酵タンクの並ぶ姿を、うっすらと浮かび上がらせた。タンクの光は電球色、発光パネルは昼白色といったように光の色温度を意図的に変えることで、それぞれのレイヤーを明確化した。

システム概要
·照明:LED2,700K
·導光板:6,500K
·備品:発光パネル約700枚
·備品:発酵タンク37台
〈音響システム〉
·2-wayフルレンジスピーカー×20台
·サブウーファー×2台

Plant-04 日本が誇る隠れた料理人、その名も麹菌(こうじきん)

展示の概要

日本の食文化を支える「麹菌」の遺伝子の多様性を、線香花火をモチーフにした繊細なオブジェで表現している。味噌(みそ)や日本酒を作る上で欠かせない麹菌は、異なる個性を持ち、地域ごとに大切に受け継がれている。オブジェの形や色は、味に関わりの深い特徴を中心に、麹菌の六つの遺伝情報を数値化したもので設計している。12点のオブジェは、透明樹脂の素材を使用し、3Dプリンタで製造し、様々な色のグラデーションに仕上げられている。

循環型社会を支える技術的背景

特定の菌だけを増殖させる菌の純粋培養に初めて成功したのは、19世紀のドイツといわれている。しかし、室町時代の文献には、麹菌を培養する「種麹屋」が全国の酒蔵などに菌を卸していたという記述がある。つまり日本人は、14世紀頃には既に純粋培養を実現させ、それを商業的にも活用していたようなのである。麹菌は、突然変異で毒素を生成しなくなったカビ菌。それを日本人が見つけ、活用し、育んできたのが日本の発酵文化である。

空間づくり

日本食文化を支える「麹菌」の遺伝的な多様性をデザインの比較により、楽しめるよう線香花火をモチーフとした繊細なオブジェを展示する空間とした。麹菌のオブジェは計12点あり、ガラスケース内に横一列に展示する形とした。背後の面発光照明により、それぞれのオブジェが浮かび上がる。また、音響面の制作について、Plant-04が比較的広い空間となりコーナーごとの断片的な音が点在すること、自然光が入る明るい空間であることを考慮して環境音を中心とした音作りを行った。

展示の演出

麹菌が持つ様々な遺伝的特性、とりわけ焼酎や味噌などの「味」に関わりの深い特徴を色や形で表現するためにショーケースに麹菌を模したオブジェを配置した。オブジェの色や形は、麹菌の遺伝データベースを基に設計し、麹菌の個性を反映している。設計では、麹菌の遺伝データベースから、味に関わる酵素の強さや菌の成長速度などの特徴的なパラメーターを抽出し、本展示用に開発したアルゴリズムを用いて、展示物の色や形状を設定した。

この設計データから、透明樹脂3Dプリンタによってオブジェを造形し、グラデーション色の塗装で仕上げた。

システム概要
・展示:高透過ガラスケース
・照明:LED5000K・15W
〈映像システム〉
・65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉(Plant-04～05共通)
・2-wayフルレンジスピーカー×8台
・サブウーファー×4台

醤油

醤油

味噌

味噌

白味噌

清酒

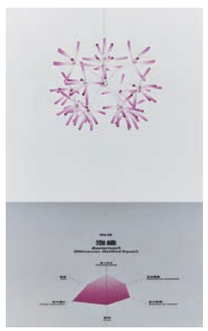
清酒

みりん

焼酎

焼酎

甘酒


泡盛

Plant-05 目が離せない、微生物の無限の可能性

展示の概要

「生分解性プラスチック」でできたお椀状の器が、水槽内で分解される様子を5段階で展示している。器のサイズは直径23㎝、高さ13㎝。水槽は高さが3mあり、250ℓの水が湛えられている。その中で、微生物の働きにより器がCO_2と水になる様子を展示している。器には、最初に桜の花の形の穴が現れ、次に分解が進むとやがて桜の枝と花が現れ、一部は「散る」ように落下する。この過程を通じて、時とともに移ろう儚さと、そこに美意識や価値を見出す「日本の感性」を表現している。

循環型社会を支える技術的背景

生分解性プラスチックは、微生物による分解が進むことで自然に戻るのが特徴。植物油、デンプンといった原料の違いのほか、分解を可能にする環境も土壌、湖沼、海など様々な種類がある。中でも海は、地表の多くを占めるにも関わらず、分解に長けた微生物が少なく、本来は生分解が起こりにくい環境である。この器で使われているのは、高い技術力によって、微生物が作り出し、海水中での分解を可能にした生分解性プラスチックで、一般的なプラスチックと同じように使用できる。日本の化学メーカーが開発したこの技術は、環境負荷が少なく、海洋プラスチック問題の解決も期待されている。

空間づくり

循環をつなぐ「分解」の営みと向き合う場として、微生物の力で生分解性プラスチックの器が少しずつ分解されて自然に還っていく様子を、分解の進行度ごとに五つの水槽を並べて示した。微生物による分解を儚げに演出するために照明を落とし、通路の照明を抑えた空間の中で水槽の光がオブジェを照らし出すように調整した。暗闇に灯る水槽の光が刃のように徐々に現れていく桜の形を浮かび上がらせた。

こうして循環をつなぐ「分解」の営み自体の美しさに静かに向き合う空間として設計した。

展示の演出

水槽内に直径23cm、高さ13cmの五つの器を浮かべて、微生物によるプラスチックの段階的な分解を表した。目に見えない微生物がまるで器を彫刻作品としてデザインしているような印象を人々に与えることを目指して制作を行った。また、壁沿いに設置した水槽は本体トップまでの高さを3.28mとし、厚さ15mmのアクリルガラスを使用し、一本当たり250ℓの水を蓄積している。そして水槽内で生命感を演出するために、気泡の量やタイミング、配置やバランスなども考慮して調整を加えた。

映像表現

生分解性プラスチックの器が微生物によって分解される様子を補足するための映像を制作した。分解の進行を表現するためにタイムラプス※23のような技法を用いて映像を表現した。生分解性プラスチックがポロポロと崩れ、水とCO_2へと変わる様子を示した。

システム概要
・水槽:H1,000mm×D550mm×W550mm×5本
・照明:LED5,000K・15W
・材質:アクリルガラス15mm厚
・水量:各250ℓ
〈映像システム〉
・65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉(Plant04～05共通)
・2-wayフルレンジスピーカー×8台
・サブウーファー×4台

Plant-06 生ごみが、水になって 熱になって、電気になって CO_2になって、養分になって

© 2026 MEDICOM TOY

展示の概要

床面に設置した4面の高輝度LEDモニターには、「BE@RBRICK」の、遠近感や奥行きを表現した高精細な映像を映し出している。5体の「BE@RBRICK」はそれぞれ、水、電気、熱、CO_2、養分(窒素)を表している。いずれも、微生物が生ごみを分解することによって生まれる物質やエネルギーである。4面のモニターが連動し、「BE@RBRICK」は動線に沿って生き生きと流れていき、「生まれ変わった瞬間」「誕生の喜び」を表現している。水の「BE@RBRICK」はとなりのコーナーに向かって流れ、他の「BE@RBRICK」は次のFarm Areaに進む。

循環型社会を支える技術的背景

館内のバイオガスプラントの発酵タンクでは、生ごみを分解させる過程でバイオガスが発生する。バイオガスは燃料として有効活用できるため、燃焼させて発電機を回し、熱を電気へ変換することができる。バイオガスに含まれるCO_2は、分離装置で抜き出して、再利用ができるようにし、実際にCO_2ボンベをバイオガスプラントから搬出し、環境省の委託事業として大阪ガス株式会社が実証実験を行う会場内のメタネーション施設で活用した。水分と養分は、分解後に残る泥に含まれている。水分は浄水してきれいな水に、養分は乾燥させてコンポスト(たい肥)にすれば、次のいのちを育むこともできる。

空間づくり

床面に設置した4枚のモニターの中で「BE@RBRICK」たちが「ごみだったもの」から微生物によって分解され、元気よく飛び出す展示を制作した。床面にモニターを設置するといった観点から、映像に没入感を持たせることを意識している。具体的には大小の「BE@RBRICK」で、くっきり見える個体と焦点が合っていない個体を登場させ、映像の遠近感・奥行を表現した。そして、この空間は以降の展示やエリアをつなぐ役割も果たしている。ここでは5種の「BE@RBRICK」たちが次のFarm Area方面へ向かって進む。さらに、Plant-08を目指す水の「BE@RBRICK」のみPlant-07に向かって流れ、それ以外は来館者をその先の展示空間に誘って移動するように制作した。また、足元から聞こえる「BE@RBRICK」たちの鳴き声は要素ごとに異なる個性を持たせ、水・電気・熱・CO_2・養分(窒素)の属性を異なる音で表現した。

展示の演出

床面のモニターの中で生き生きと飛び回る「BE@RBRICK」によって、「ごみ」が物質やエネルギーへと生まれ変わる様子を表現した。映像制作では、「BE@RBRICK」たちの誕生の瞬間と、その後、動線に沿って流れていくように移動する様子を来館者に見せるために動きの調整を行った。また細かな映像の動作として、生き生きとした動きや演出によって「生まれ変わった瞬間」「誕生の喜び」を表現した。そしてPlant-02の死や終わりを想起させる直線的な動きと比較し、「魚」のように生命感を感じさせるため、加速する動きを意識した。「BE@RBRICK」は誕生するときに物質やエネルギーの名前を記し、個体名を分かりやすく表現した。

© 2026 MEDICOM TOY

映像表現

「BE@RBRICK」が床に設置したモニターの中を泳ぎ、来館者を誘導するための映像を制作した。高輝度LEDモニターにより「BE@RBRICK」たちの映像を高精細に映し出した。5種類の「BE@RBRICK」を、一目で要素が分かる特徴を備えたデザインとした。デザインの決定後、映像ソフトを用いて3Dモデリングを行った。また、演出として、来館者を誘うような動作を取り入れ、動線に沿わせて動かした。

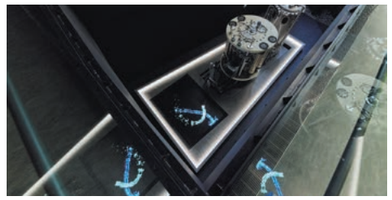
システム概要
・展示:高輝度LEDモニター4枚
〈映像システム〉
・LEDビジョン(Pixel Pitch:1.85mm)
－2,000mm角×2台／1,500mm角×1台／1,000mm角×1台
〈音響システム〉
・ラインアレイスピーカー×4台－4set
・サブウーファー×1台－4set

Plant-07 従業員は微生物、水の「再生工場」

© 2026 MEDICOM TOY

展示の概要

前のコーナーで生まれた水の「BE@RBRICK」がこのエリアにやってきて、フィルターからタンクへと通り抜け、美しい水色に変化し、外へ飛び出していく映像を映し出している。これは日本が誇る濾過(ろ)技術による水の浄化プロセスを象徴的に表現している。通路の左下には浄水システムの設備が、右下には浄化した水を送る設備がライトアップされているのを見ることができる。



© 2026 MEDICOM TOY

循環型社会を支える技術的背景

日本で浄水技術が発展した背景には、水資源を取り巻く厳しい現実があった。世界の中でも降水量の多い国である一方、人口密度が高いため、国民1人当たりの降水量は、世界平均の4分の1程度といわれている。そこで、海水の淡水化や都市下水の再生に取り組み、様々な技術を実用化しようとする動きが積極的に進められてきた。中でも「逆浸透膜(RO膜)」という、水分子より大きい不純物を除去できる濾過膜による水処理技術では、世界

※23 タイムラプス
一定の間隔で撮影した複数の静止画を連続再生し、時間経過を短縮して見せる映像手法

トップクラスともいわれており、水資源が限られる地域などでも存在感を発揮している。

空間づくり

日本の濾過技術を用いた水の浄化プロセスを象徴的に示す水の「再生工場」として、浄水システムの設備と水盤に水を送るための装置を設置した。階下に設置した設備を、展示フロアの通路から観覧する空間とした。水の浄化システムを来館者に理解してもらうため、二つの設備を設置し、設備の稼働の様子を通路から覗き込むような表現方法を採用した。

展示の演出

浄水装置を設置した目的は、水の浄化プロセスを来館者に伝えることだった。モニターの映像を通じて「硝化菌」と「脱窒菌」、ろ過膜による水の浄化について紹介した。そして、「ごみ」から生まれた浄水が次の展示「水盤」へと辿(たど)りつく様子を示す役割で、浄水を水盤に送る装置を設置した。

システム概要
装置:水の浄化装置、水盤に水を送る装置
〈映像システム〉
・LEDビジョン(Pixel Pitch:1.85mm)
−2,000mm×1,500mm×2台
〈音響システム〉
・ラインアレイスピーカー×4台−2set
・サブウーファー×1台−2set

Plant-08 未来を映すまっさらな水

展示の概要

屋外空間の前には巨大な水盤が拡がる。直径19mの水盤は、微生物の働きによって、「ごみ」が全てのいのちの源としての水に生まれ変わることを象徴。日本館の中心に広がる中庭は、人々が水や自然と向き合う場所となっている。

あえて何も置かない「無」の展示とすることで、自分の心と向き合う時間を作り出している。水盤を囲う木の壁の隙間から見える日本館の様々な展示も、万博が終われば、全て解体され、循環の中に戻る。

空間づくり

通路を抜けた先で、これまでの展示で分解されてきた「ごみ」を「水」になった姿で来館者の前に大々的に現した。日本館の中心にあるこの空間を「空虚」として、あえて意味を持たせないことで円環状の「循環」が主体となるように計画した。空間造形では、水盤の縁の立ち上がりを小さくすることで浄化された水と来館者がダイレクトに向かい合えるよう考慮した。この設計は、安全面を損なわずに空間演出の効果を最大限発揮するための高さにすることで、車いすの脱輪などにより来館者が水盤へと落下する危険を防いだ。

CLTの活用

水盤の周りを囲むCLTの隙間からはそれぞれのエリアの展示空間が垣間見え、日本館全体の循環を感じることができる空間としても機能した。

照明演出

日没後には照明を点灯させることで、水盤が呼吸するかのように光が揺らめく幻想的な演出を加えた。呼吸に見立てたランダムな光の動きと、CLTに沿って円を描くかのような光の動きにより、日本館の外壁であるCLTパネルを幻想的に照らした。照明に3,000Kの色温度を採用することで、木の温もりを表現した。また、照明からの距離が遠ければ対象物を照らす明かりが弱くなるため、照明器具は小型ながら、光の到達距離が長く、CLT全体を照らし出すことができるものを採用した。

音響

水及び自然と向き合うエリアとして静謐(せいひつ)な音作りを意識した。日本庭園で伝統的に用いられる水滴が音を生み出す仕掛け「水琴窟(すいきんくつ)※24」をイメージして、水滴の音が静かに響く「水が奏でる音」を表現した。

展示の演出

ごみがPlant-01からPlant-07までの展示を通じて分解され、水となり来館者の前に姿を表す場として巨大な水盤を制作した。水盤は水深10cm(底面に敷き詰めた石5cm含む)の深さとした。定期的に少しずつ排水することで、水を循環させて浄化し、常にきれいな状態を保持した。

システム概要
・サイズ:直径19m、水深10cm
〈音響システム〉
・地面設置用フルレンジスピーカー×16台
・照明:屋外用グラディ3,000K・36W

Plant-09 発見! 火星でも水は循環する

展示の概要

展示スペースの正面には、2000(平成12)年に日本の南極観測隊が発見した世界最大級の火星由来の隕石「Yamato000593」を展示し、左手の壁面には、10個の火星由来の隕石の欠片が埋め込まれ、触れることができる。隕石は重さ13kgあり、解析の結果、水がなければ生成されない鉱物が発見された。さらに2024(令和6)年、アメリカの研究チームから「火星の地下に、大量の水が液体として存在している」という研究結果が発表された。水がある。それは、火星に生態系が育まれる可能性をも示す、驚くべき発見だった。

こうした意義を示すため、展示スペースの右手に3台のモニターを設置し、宇宙、特に火星における水の循環や活用を紹介する映像を流した。一つ目は、火星の「水の循環」が氷と水蒸気の循環であること、二つ目は、火星で水をエネルギーとして利用する方法を各国が協力して研究していること。そして三つ目では、宇宙基地で生活するための方法として、汗や尿を浄化して生活用水として再利用するシステムを紹介している。

循環型社会を支える技術的背景

水は電気分解によって水素と酸素に変わり、得られた水素が貯蔵・運搬しやすいエネルギー源になる。それが、宇宙へ進出しようとする人類の未来を考える上で、水がカギを握る理由の一つ。火星でそれが実現できれば、ロケットの燃料として利用することで、地球と火星の往復も可能となり、火星に生活の拠点を作ることができるかもしれない。

世界各国も、水の探索に立ち上がっている。宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)の「火星衛星探査計画(MMX)」は、世界で初めて火星衛星からサンプルを採取し、水の痕跡を見つけるべく計画が進行している。さらにアメリカ・カナダ・イタリア・日本は共同で火星の水資源を探索する「マーズ・アイスマッパー計画(MIM)」を進めている。火星の石はいま、人類の夢の道しるべにもなっている。

展示の意義

国立極地研究所の南極観測隊が昭和基地の近傍で採取した火星由来の隕石は、世界最大級

※24 水琴窟
地中に埋めたかめに水を張り、その水面に水滴を落としたときに立てる微妙な音を楽しむ仕掛け

の大きさを誇るとともに、火星にかつて水が存在していた証拠となる粘土鉱物を含んでおり、生命の起源に関わる手掛かりになり得る大変、学術的価値の高い試料である。こうした貴重な試料を国立極地研究所の協力を得て展示することは、大阪・関西万博が掲げるいのちというテーマに深く関わるとともに、1970年の日本万国博覧会での月の石が月探査計画の進展を背景としたように、これから各国が協力して月を経由し火星を目指していくという人類全体の動きを象徴するような意義を有する。

触ることのできる火星由来の隕石

鑑賞するだけではなく火星由来の隕石を身近な存在として体感していただくために、展示エリアの壁面に10個の火星由来の隕石の欠片を埋め込み、実際に触れることができる展示空間とした。

空間づくり

日本館の中心にある象徴的な「水盤」の次に、「水」が宇宙規模で循環している可能性を来館者に気づいていただくきっかけとするため、展示スペースの正面に火星由来の隕石を展示した。

また、Plant Area最後の展示エリアという点を空間づくりにおいて重視した。このため、これまでの展示体験とは区別し、これまでの展示エリアで基調としていた黒・グレーの壁色から切り替え、こちらでは白色を基調色とすることでエリアのゴールとして位置付けた。

音響

デジタル音でのエフェクトによって宇宙感、未来感を表現した。エリアの最後の空間はあまりインパクトを残しすぎないことを重視した音づくりを行った。

展示の演出

展示方法

火星由来の隕石は貴重な試料として国立極地研究所に保管されていることから、展示に当たり当研究所と同等の保管条件が求められた。温度、湿度をリアルタイムで計測し一定環境を保持したことに加え、展示室のセキュリティ面について検討の上、展示した。

配布物

世界最大級の火星由来の隕石を観覧した記念として、「火星の石」観覧証明書を配布した。3種類のカードデザインを作成し、計100万枚の各カードに1枚1枚異なるシリアルナンバーを印字することで唯一無二の証明書とした。

映像表現

「循環」と火星由来の隕石の関係を説明するために、「火星の水の循環」「浄化システム」「火星の水エネルギー」という切り口で、宇宙空間において行われる「循環」について解説した三つの映像を放映した。

火星由来の隕石を展示として採用した理由に、「水」が関係することを、三つのモニター映像によって紹介した。映像の一部はJAXAが監修し、火星の水から燃料を生み出す研究など未来社会に向けた活動を紹介した。三つの映像を通じて水の「循環」の必要性を訴えかける内容とした。

<u>システム概要</u>

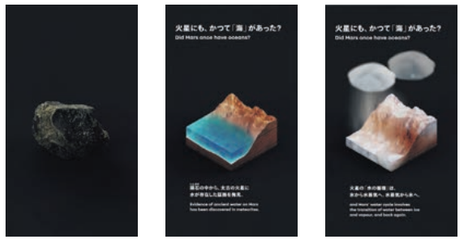
〈映像システム〉
・65インチ液晶ディスプレイ×3台

〈音響システム〉
・2-wayフルレンジスピーカー×4台
・サブウーファー×1台

Plant-09 展示映像紹介

映像1 火星にもかつて「海」があった?

火星における「水」の存在について解説した。2025（令和7）年現在、火星に水は発見されておらず、かつてあった海が氷となっていることを伝えた。そして火星の「水の循環」は、氷から水蒸気へ、水蒸気から氷へと絶えず変化を繰り返し、循環していることを示した。



映像2 「火星の水」を、未来のヒントに。

映像1で紹介した「火星の水」調査のために行われる国際的な取組について解説した。人類の活動領域を広げるために、火星の水を燃料として応用する取組について取り上げた。

映像3 火星で生活するカギも「循環」にある。

三つ目の映像は、水の「循環」を主題にした内容である。映像の中で、火星で暮らした場合に必要となる生活用水の調達方法として、人体の水分を利用する方法を示した。具体的には尿や汗として排出された水分を浄化する仕組みを解説した。また、宇宙基地において、この小型かつ軽量であり省エネルギー、メンテナンスフリーの浄水システムが実証され、現在も進化していることを示した。

特別コラム　日本館と「火星の石」

経済産業省　大臣官房審議官（国際博覧会担当）［肩書は開幕時］
浦上　健一朗

「火星の石」を展示する――日本館の当初の展示構想には存在しなかった計画が持ち上がったのは、開幕まで残り一年を切った2024年の5月初頭になってからだった。「計画が持ち上がった」などと表記するのは、少し誇張が過ぎるかもしれない。当時は、万博会場内で宇宙に関連した展示をもう少し充実できないか、という漠然とした問題意識があったに過ぎないからだ。関係者へヒアリングを進めていく過程で、まったく偶然にも聞き及んだのが「一般には知られていないが、文部科学省傘下の研究機関の倉庫に、＜お宝級＞の隕石が保管されている」という一片の情報だった。

一体、どのような「お宝」なのか？　何らイメージも展望もないまま、連休の合間に立川の国立極地研究所を訪ね、まずは現物を確認してみることになった。Yamato000593と標識を付されたその石は、隕石保管庫のケース内におもむろに置かれていた。説明を聞くと、火星から飛来した隕石として世界最大級。南極観測越冬隊が昭和基地の近傍で発見し、火星表面にかつて水があったことを示す貴重な学術標本でもあるとのことであった。

一目見て、私は、その石に魅せられてしまった。ナクライトと呼ばれる隕石が持つ独特の輝石の光沢。大気圏突入時の衝撃と摩擦を想起させる漆黒の紋様。その「風貌」からして、路傍の石とは明らかに異なる、特別な存在感を放っていた。研究者たちは、ある種の神々しさをまとったこの石を「ご神体」と呼んでいた。

来歴を聞けば聞くほど、この石には、奇跡としかいい表しようのない確率での「偶然の出会い」が凝縮されていることも分かった。1千万年以上も前に火星を離れ、宇宙空間を何億キロも漂流した末に地球の引力圏に到達したという奇跡。たまたま南極大陸に落下したが故に何万年も地球上で摩耗せず天然保存されていたという奇跡。日本が南極に観測隊を継続的に派遣し続け、隊員に隕石専門家を擁していたから発見できたという奇跡。目の前にある石が火星由来であることを人類が識別し得たこと自体が、奇跡の複合連鎖が結実した結果であった。

地球外から飛来した隕石が過去の水のありかを指し示す。地球上の生命を育んだ海も、生命の起源となったタンパク質や元素類さえも、宇宙からもたらされた可能性がある。この石は、いのちは星屑に連なるという、生命と宇宙の運命的な繋がりという科学的ロマンへ誘うものでもあった。

さらに、私の脳裏をかすめたのは、55年前の大阪万博で展示された「月の石」が大盛況を博した万博の社会的記憶である。アポロ計画が進行中だった時代精神の表象が「月の石」であったとするならば、月を経由して火星を目指そうとする2025年の人類のフロンティアを指し示すのは、「火星の石」ではないか。こうした時代性を帯びたストーリーも、万博の記憶を引き継ぐ日本人の心には響くのではないかと思えた。

極地研究所の関係者のご厚意により、そして彼らの優れた広報マインドもあって、大阪・関西万博での展示プランには早い段階から好意的な反応をいただき、検討は本格化していった。

「火星の石」のストーリーラインは、2024年9月17日の齋藤経済産業大臣の記者会見で対外的に発信された。生命の起源を示す学術的な価値も高く、万博のテーマである「いのち」に深く関わる展示となり、月を経て火星を目指す人類の挑戦の方向性を象徴的に示すものである、とその意義が強調された。幸い、新聞やテレビで大きく取り上げられ、各国や企業の出展するパビリオンの展示内容が明らかになっていない開幕半年前の時点で、「火星の石」は万博の目玉的なアイテムになるのではないかとの期待が込められていった。

次なる課題は、このメッセージ性に富む隕石を、会場内のどこに、いかなる文脈で展示するかという点だった。万博会場にはJAXAの展示企画も準備が進んでいたが、スペースが限られ、隕石を展示するのは難しそうであった。日本独自の学術上の成果物であり、万博に付随したストーリー性を纏うリアルな科学標本。これは、日本政府の直営する日本館に展示するのがよい、というのが直感だった。

特に難題だったのは、＜循環＞という主題を掲げた日本館の展示構成に、いかにして「火星の石」のストーリーを接合するかという点だった。展示チーム内では文字通り喧々諤々の議論が行われた。循環に火星隕石を関連付けるという「後付け」の話は、唐突で荒唐無稽だと受け取られていたに違いない。

だが、調査を進めると意外な「着地点」が見つかった。地球上とは異なる特殊な形態であるが、「火星でも水が循環している」という科学的仮説が提起されていたのである。火星に水が存在していた証拠である火星隕石は、火星内部の水循環を示すシンボルともなりうる。それならば、日本館が多層的に曼陀羅のように示している「循環」の一類型と整理できるのではないか。将来の人類が火星を往復する際には、火星の水資源を循環利用する必要があるのではないか。宇宙大のスケールで見れば、星屑の循環で星も生命も輪廻を繰り返していくのではないか。＜循環＞のテーマに引き付けたストーリーのアイデアがいくつも集まり、「火星の石」は日本館の展示に正面から位置付けられることになった。様々な知恵と工夫を授けていただいた佐藤オオキ総合プロデューサーを始めとする関係者に感謝の思いは尽きない。

通常は一般公開されず、温度管理された隕石庫の中で保管されている、貴重な科学標本である。輸送にも、半年間の展示にも、相当な配慮が必要となった。展示ゲージの温度管理、輸送手段の確保、会期中の警備や保険付保といった途方もない実務的論点が続出したが、日本館チームは膨大な調整作業を着実にこなしていった。

せっかく展示するからには、実際に手で触れられるようにしてはどうか？　館内の狭い通路で来館者の滞留を招かないよう、いかに導線を工夫すべきか？　来館者が記念として持ち帰る「観覧証明書」を配布してはどうだろうか？――限られた検討時間の中で、前向きな改善アイデアを少しでも実現しようと、関係者は文字通り奔走し続け、無事に会期末まで駆け抜けることができた。

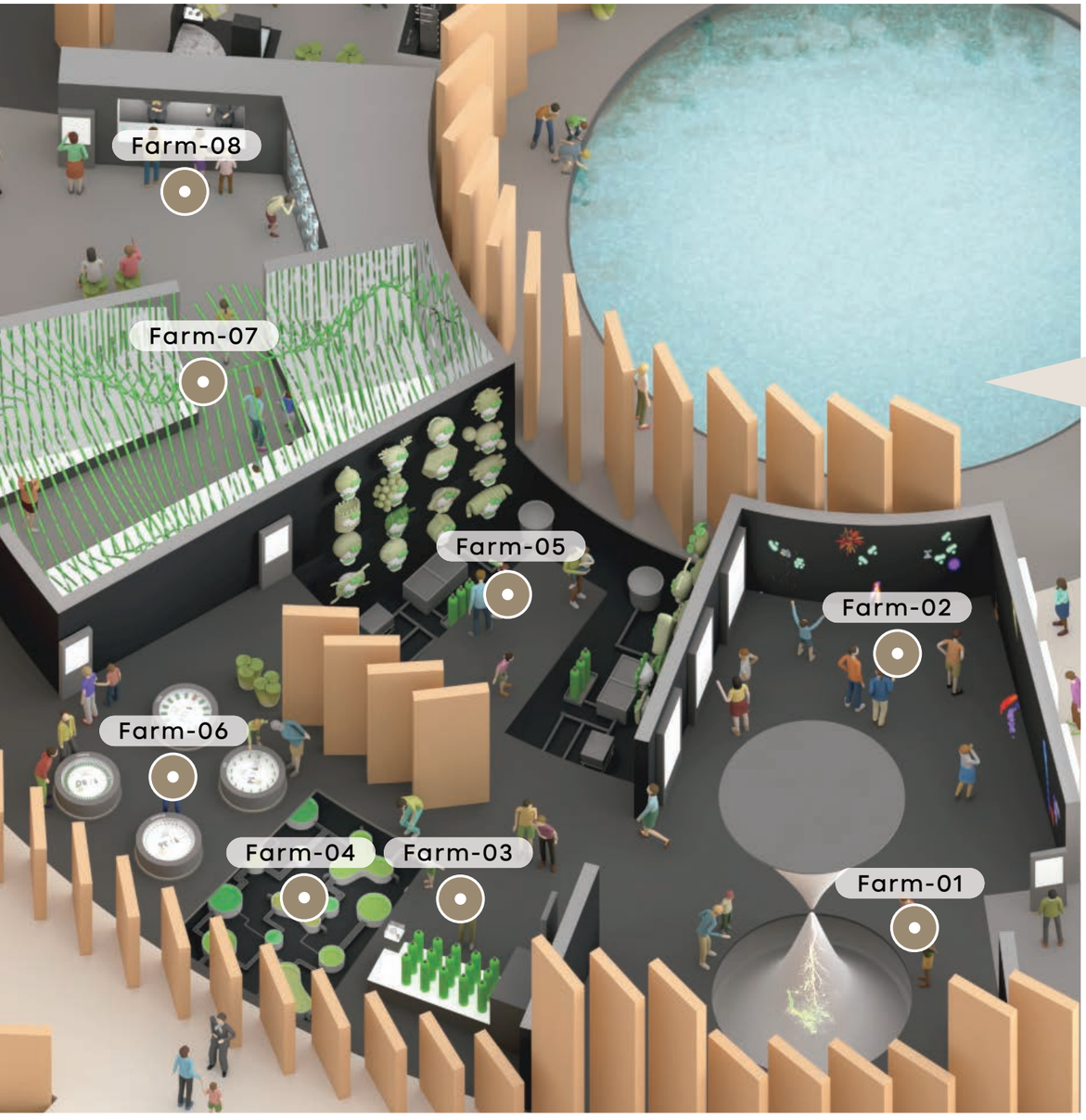
日本館の「火星の石」は、循環という主題をより俯瞰的に押し広げただけでなく、特に理工系の知的好奇心をより強く刺激し、来館者が持ち帰る「気づき」の幅を広げてくれたのではないだろうか。また、火星に生命の痕跡を辿る三菱未来館、地球消滅後の生命の輪廻を達観するパソナ館「生命進化の樹」など、他のパビリオンの掲げるテーマと横糸を繋げる副次的な共鳴効果もあったように思う。

人類は、まだ火星の石を実際に採取して地球に持ち帰ったことはない。しかし、火星探査のプログラムは現実のものとなりつつある。日本館を訪れた子どもたちは、やがて人類が火星に新たな足跡を刻む日を目撃することだろう。そうした挑戦を通じて、生命の起源や宇宙との連関にも新たな知見が更新されていくはずである。

大阪・関西万博の日本館で「火星の石」を見て触った少なからぬ人たちが、宇宙大の循環やつながりに思いを馳せ、人生に豊かさをもたらす何かを見出すのであれば、展示に関わった者として望外の喜びである。その裏側に多くの関係者の尽力があったことを特にここに記しておきたい。

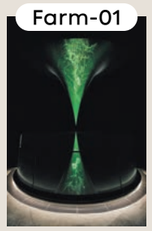
「水」から「素材」へ

普段はあまり意識されることのない藻類だが、化石資源への過度な依存や食料不足など、様々な課題を解決し得る存在として注目されている。Farm Areaでは、大きな可能性を持つ藻類の力と、日本が誇るカーボンリサイクル技術により、CO_2を原料にバイオ燃料、プラスチック、化粧品、食品などの素材を生み出す技術を紹介した。



Farm Area

Farm-01



いのちといのちのあいだを見つめる砂時計 P.116

Farm-02

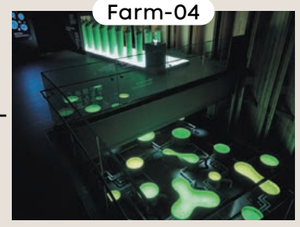
リレーはめぐる姿を変えて P.116

© 2026 MEDICOM TOY

Farm-03

CO_2でなに作ろう? P.118

Farm-04



ここは水族館住んでいるのは、誰? P.119

Farm-05

個性いろいろ藻類のフシギ P.120

著作　株式会社サンリオ
© 2026 SANRIO CO., LTD.

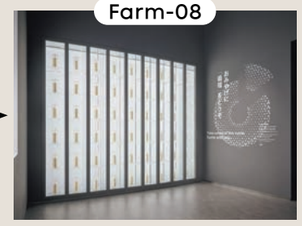
Farm-06

比べてナットク、藻類の秘めるポテンシャル P.123

Farm-07

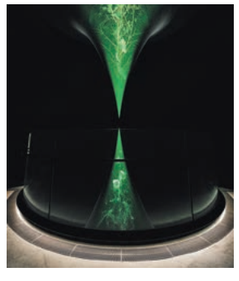
いのちみなぎる藻のカーテン P.124

Farm-08



おみやげに「循環」をどうぞ P.125

Farm-01 いのちといのちのあいだを見つめる砂時計



展示の概要

この展示スペースの中央にも、二つの円錐を上下対称に突き合せたような大きなオブジェがある。

ここの映像では、水から植物が生まれ成長する様子を描き、小さな物質やエネルギーがつながって、新たないのちが生まれることを表現している。

展示の演出

砂時計型の上下対称のオブジェを配置し、Farm Areaのテーマである「水」から「素材(植物)」が生まれる様子を示す映像を表現した。「ここから何が始まるのだろう?」と来館者にまず興味を持ってもらうことを意図して制作を行った。当展示をエリアの入口に配置し、結界やゲートのような役割を持つ展示として機能させた。

音響

Farm Areaで共通モチーフとなっている「ストリングス(弦楽器)」をはじくような音をBGMに使用した。音で空間を包み込みつつ、オブジェの中心に音を集中させるようなイメージを重視した。

映像表現

プロジェクターの上半分は重力に従い崩れる「おわり」として、下半分は重力に逆らい成長する「はじまり」として映像で表現することをコンセプトとした。プロジェクターでは、下半分から水が、上半分から植物が生まれる様を示しFarm Areaのテーマ、「いのちが本来のかたちを変えながら、素材へと生まれ変わる様」を表現した。

また、映像はPlant-01で変化した「水」からはじまり、最後に鮮やかな緑の植物を発現し、来館者にきれいな水から生まれた植物の生命力の強さを印象付けた。

システム概要
- ・サイズ:直径6m／高さ9m
- ・材質:FRP(繊維強化プラスチック)

〈映像システム〉
- ・DLP®プロジェクター(15,000lm・4K)×2台

〈音響システム〉
- ・2-wayフルレンジスピーカー×2台
- ・コラムスピーカー×2台
- ・サブウーファー×2台

Farm-02 リレーはめぐる姿を変えて

© 2026 MEDICOM TOY

展示の概要

高さ4.6mの壁と床には、9台の高輝度プロジェクターから映像が投影され、Plant Areaから飛んできた水や熱、電気やCO_2、養分を表すクマのフィギュア「BE@RBRICK」たちが、いきいきと床や壁を動き回っている。そして「BE@RBRICK」が微生物と合体し、花火のように打ち上がり、医薬品、食品などに変化する様子を見ることができる。

その先の3台のモニターで、微生物を活用した新たなものづくりの可能性を紹介している。微生物は生ごみを水とCO_2に分解したり、有機物を分解して発酵食品を作ったりと、私たちの暮らしに欠かせない存在である。しかし、それだけではなく、微生物はバイオプラスチックや機能性素材等の化学品、燃料、タンパク質や飼料等の食品を生産する「バイオものづくり」にも活用されている。また、CO_2を資源に変える微生物の研究が進められており、持続可能な社会の実現に向けた重要な技術となっている。

循環型社会を支える技術的背景

ものづくりの現場では、石油など化石資源を使用することが多く、それらを燃焼させる過程で、CO_2が排出されている。微生物がCO_2から生成する素材などを利用すれば、資源が枯渇する心配がなく、CO_2の増加も抑えられる。こうした生物を活用したものづくりが「バイオものづくり」。とりわけ、カーボンニュートラル社会を目指してCO_2の排出を抑制する新たな技術の分野では、世界をリードする技術が日本から生まれている。例えば、「CO資化菌」は、CO_2から変換できるCO(一酸化炭素)を基に物質を作る性質がある微生物。生ごみ処理施設から出るCO_2を生かした実用化が進行中である。CO資化菌が優れているのは「高機能接着剤」など、化石資源からしか作れなかった貴重な製品も作れるところ。世界のものづくりを、化石燃料に依存しない形へと一変させる可能性を秘めた技術なのである。

空間づくり

合計9台の高輝度プロジェクターを用いて、高さ4.6mの壁と床を「BE@RBRICK」が泳ぐ、映像中心の空間とした。「BE@RBRICK」は一度階下に潜り、その後4.6mの壁に沿って上昇する。壁の中で「BE@RBRICK」たちは藻類や微生物の働きにより、新たな素材に変化する。この生まれ変わりを楽しげな様子として感じさせるために、「BE@RBRICK」を花火に変化させ表現した。

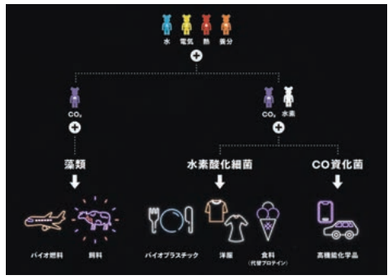
音響

この展示では軽いタッチでワクワク感が伝わるような親しみやすい表現を意識した。「BE@RBRICK」の鳴き声、生き物たちのざわめきが感じられるSEやBGMを設定し、生命感を持たせた表現を行った。また、パーカッション、ハンドクラップを活用した楽しげなリズムを採用しており、抽象的にエフェクトをかけた花火の効果音が鳴り響く空間とした。

展示の演出

映像で、様々な物質やエネルギーを象徴する「BE@RBRICK」が、生産を担う微生物を意味するビジュアルシステムと合体し、洋服や飛行機の燃料、アイスクリームなどの、人々の暮らしを豊かにする様々なものへと生まれ変わる様子を表現した。

映像において、微細藻類、水素酸化細菌やCO資化菌など、ものづくりを化石燃料に依存しないかたちへと一変させる可能性を秘めた微生物の働きに焦点を当て、こうした生産者としての微生物の働きによって「もの」を生み出す可能性を示すことを目的とした。



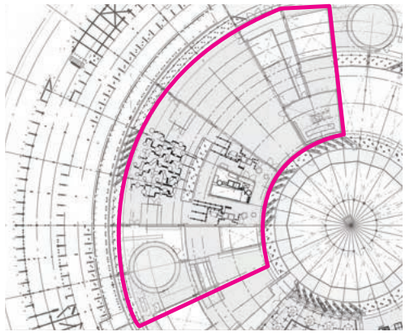
© 2026 MEDICOM TOY

映像表現

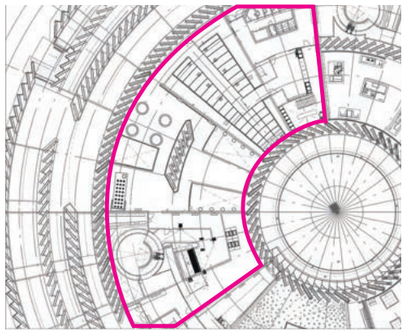
ここで登場する「BE@RBRICK」は壁や床を移動した末に花火に変化するといった複雑な動きをとった。床から壁への移動をシームレスに行うために動きや速さ、軌道などの検証を行いながら映像を制作した。

システム概要
- ・照明:LED5,000K
- ・壁:クロス仕上げ

〈映像システム〉
- ・DLP®プロジェクター(15,000lm・4K)×9台
- ・65インチ液晶ディスプレイ×3台



Farm Area 展示平面図 1階



Farm Area 展示平面図 2階

〈音響システム〉
・2-wayフルレンジスピーカー×8台
・サブウーファー×2台

Farm-03 CO_2でなに作ろう?

展示の概要

日本館のバイオガスプラントで発生したCO_2を詰めた24本の緑色のボンベを並べた。その先にはCO_2を原料として生産した「生分解性プラスチック」のお椀を置いた。

排出量の問題が話題に上ることが多いCO_2であるが、このFarm Areaでは、CO_2はものづくりの原料となる。「生分解性プラスチック」は、役目を終えると、再び微生物によって分解され、自然へと戻る素材である。

循環型社会を支える技術的背景

この「生分解性プラスチック」を、石油や植物からではなく、CO_2から作ってしまおうという研究が日本で行われている。この先端技術の鍵となるのが、「水素酸化細菌」という微生物で、「CO_2を食べる」という特徴を持っている。

CO_2を養分(炭素源)として取り込むことで、体内に素材のもととなる成分を作る性質を利用して作られる生分解性プラスチックは、「生産」「分解」の両面で環境にやさしいのが特長。日本のメーカーが自社工場の土から見つけた菌を改良した新技術で、従来は難しかった海水中での生分解ができるようになったという。

空間づくり

CO_2が循環してお皿やボウルといった「もの」に生まれ変わる可能性を示唆するための展示として制作した。訴求ポイントを「循環による、CO_2からものへの生まれ変わり」に定めた。発生するCO_2を表現するためにガスボンベを置き、展示ケースには水素酸化細菌というユニークな微生物がCO_2を食べて作った最先端の原料を基に生産した生分解性プラスチック製の器を設置した。

音響

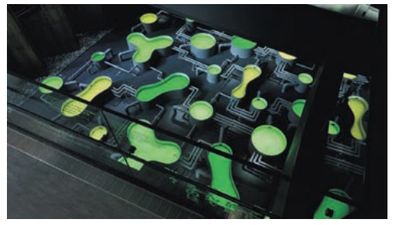
ここまでは、新たな「素材」への生まれ変わりを表現するためにパーカッションの音などを用いたにぎやかなBGMを採用していたが、ここでは一つの空間に配置した数多くの各展示の鑑賞に集中し、藻類の生育の様子を体感していただくため、一転して静かな空間とした。そのため、穏やかに、そして落ち着きを取り戻す音づくりを意識してBGMを制作した。このコンセプトに基づきボリュームも意図的に小さく設定した。

展示の演出

展示物としてトンネルから運ばれ出てくるガスボンベを設置した。これは濃縮したCO_2を詰めたガスボンベがトンネルを通り、まるでPlant Areaから運ばれてきたかのように表現するためだった。これらのガスボンベを目立たせるために床からライトアップしたステージ上に配置した。

<u>システム概要</u>
・展示:ガスボンベ×24台
・照明:LED5,000K
〈映像システム〉
・65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉(Farm-03〜06共通)
・2-wayフルレンジスピーカー×22台
・サブウーファー×5台

Farm-04 ここは水族館 住んでいるのは、誰?



展示の概要

階下には42台の水槽が並び、「ボツリオコッカス」という藻類を育成している。明るい緑色や深い緑色など、それぞれの個性を持って光る水槽は、藻類の多様性を表し、水面に反射した光の穏やかな揺らめきは、生命感を演出している。

循環型社会を支える技術的背景

藻類の起源は、約35億年前。長い時間をかけて水中で進化を重ね、約5億年前には一部が陸上へ進出したといわれている。藻類の一部がコケ植物・シダ植物へと進化し、やがて現在の植物が生まれる。その進化を繰り返す過程で、また長い年月をかけて地中に積み重なり、石油や石炭などの化石資源へと変化した。つまり、小さな藻類は途方もなく長い時間をかけて、現代の生活を支える大きなエネルギー源となっているのである。

水槽で育つボツリオコッカスは、エネルギー問題と環境問題を同時に解決する手法として、世界中から期待を集めている。特に石油の主成分である炭化水素を大量に生産する特性を実用化しようと、様々な大学や企業などで研究が進められている。

空間づくり

化石資源への過度な依存や食料不足など、様々な課題を解決し得る存在として注目されている藻類にフォーカスした。

ビジュアルシステムをモチーフにした水槽の中で他の生物と同様に生きる「いのち」として、藻類にフォーカスした展示を制作した。当展示は、水槽の稼働の様子を見せることを意図して空間造形を行った。水槽の一部はFactory AreaのFactory-02にも設置しており、藻類を素材にしてものづくりを行うFactory Areaの展示とのつながりを表現した。

空間構成

来館者が2階の通路から階下の稼働フロアに並んだ水槽を眺めて鑑賞できる構造とした。また、3種類の緑色に発光する水槽は藻類の多様性を演出した。そしてこの発光が壁面のCLTに映し出され、穏やかな揺らめきを生み、生命感を演出した。

展示の演出

藻類にフォーカスした展示として培養設備を制作した。まず藻類を育成する様子を視覚的に伝えるために42台の水槽を設置。次に、石油の主成分

である炭化水素を大量に生産する藻類の一種、ボツリオコッカスを飼育するために培地調整タンクや冷却用のチラーなどの機材を配置した。そして、常に新鮮な水を循環させるために、全ての水槽に水流を生み出すサーキュレーターを装着し、各水槽を通水管で連結した。これらの設備により藻類の育成を行った。展示により、一つのいのちとして成長し、生きる藻類の姿を来館者に伝えた。

システム概要
・展示:FRP及びアクリル水槽42台
・設備:冷却用チラー
・設備:サーキュレーター
・照明:LED5,000K
〈音響システム〉(Farm-03～06共通)
・2-wayフルレンジスピーカー×22台
・サブウーファー×5台

Farm-05 個性いろいろ藻類のフシギ

著作　株式会社サンリオ
©2026 SANRIO CO., LTD.

展示の概要

様々な課題を解決する多様な藻類への関心を高めるため、実在する藻類に扮した世界中で大人気の「ハローキティ」を展示し、藻類の魅力や可能性を親しみやすく表現している。それぞれの大きさはおよそ1m、グリーンを主体としたシンプルなカラーリングで、合計32種類の藻類をモチーフにしている。階下に見える大きな装置は、実際に藻類を育てている設備の一部である。

循環型社会を支える技術的背景

数十mの大型藻類やμm(マイクロ)(1mmの1000分の1)の微細藻類など、藻類は進化の過程で、形も大きさも性質も個性豊かに枝分かれした。現在、自然界には30万種以上の藻類が存在するといわれている。丸い「マリモ」、三角の「ミスミケイソウ」、四つ葉のクローバーのような「シアワセモ」、正十二面体の「ブラールドスフェラ」など、それぞれがとても個性的である。

食料になったり、燃料を作ったり。あらゆる分野での活用が期待される藻類。日本人にとっては昔から身近な存在だった。現存する日本最古の和歌集「万葉集」には、「藻」や「玉藻」、「藻塩」という表現で藻類が何度も登場。実に百首近くの歌が詠まれている。

空間づくり

来館者が多種多様な藻類を楽しみながら理解することを目的に世界的に有名な「ハローキティ」を用いた展示を制作した。オブジェの制作では、細胞や突起の表現に関して、楕円や柔らかい曲線を用いた。これにより藻類に親しみを持って特徴を理解できるよう表現した。また配色では、展示として統一感を出すために、グリーン3色を使ったカラーリングとした。それぞれの仕上げにもこだわった。本体を「艶消し」で仕上げている一方で、目の部分は「魂が宿っている印象」を出すために、艶のある仕上げとした。さらに藻類の丸みに合わせて、リボンの形状を柔らかい曲面形状に仕上げる工夫を行った。

展示の演出

多様な藻類の形を来館者に理解してもらうことを重視し、32種類のオブジェの設置を行った。見せ方において、各「ハローキティ」を5,000Kの照明で照らし、影ができるだけ生まれないよう考慮した。

システム概要
・照明:LED5,000K
・素材:木工
・塗料:ウレタン塗装

ウチワヒゲムシ属 ヘリコイデス種

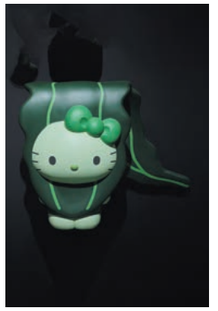
スジタルケイソウ

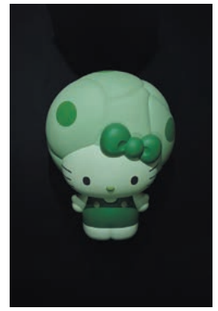
マリモ

トゲイカダモ

ヒジキ

クビレヅタ


マコンブ


カルシディスクス

ウチワヒゲムシ属 ギガス種

ブラールドスフェラ

レンマーマンニア

オカメケイソウ

ミノヒゲムシ

オオヒゲマワリ(ボルボックス)

クシダンゴケイソウ

スピルリナ

著作 株式会社サンリオ ©2026 SANRIO CO., LTD.

ワカメ

イカダケイソウ（クサリケイソウ）

シアワセモ

カザグルマケイソウ

ミスミケイソウ

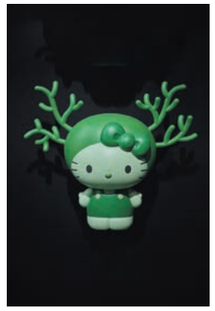
ボウアオノリ

コエラストルム

ボツリオコッカス

コナミドリムシ（クラミドモナス）

ネオフラギラリア


モズク

フクロノリ

カサノリ

クロレラ

サンカクガサネケイソウ

ミカヅキモ

著作 株式会社サンリオ ©2026 SANRIO CO., LTD.

〈映像システム〉
･65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉（Farm-03～06共通）
･2-wayフルレンジスピーカー×22台
･サブウーファー×5台

Farm-06 比べてナットク、藻類の秘めるポテンシャル

展示の概要

直径2mの四つの円形の展示台では、大豆･ひまわり･杉･牛といった日常的に見慣れたものと藻類の持つ優れた特性を対比している。藻類は物質の生産効率に優れ、CO_2の吸収量が高く、同量の水でより多くのたんぱく質を生産できる。また光合成に必要な光と水さえあれば育ち、化石燃料に頼らず、地球に優しいものづくりが可能である。藻類は砂漠や荒れ地でも培養できるため、何も作れなかった土地を新たなものづくりの舞台に変えることができる可能性がある。

循環型社会を支える技術的背景

化石燃料への依存から脱却を図る上でも、太陽から放出されるエネルギーを地球上で最大限に活用することに期待が集まっている。その重要な担い手となるのは、藻類による光合成。理由は、藻類が他の陸上植物と比較してオイルやたんぱく質などを生産する効率が高いこと。さらに、少量の水で生産できて、砂漠や荒地でも培養可能ということ。最小限の資源で最大限の効果を生み出す藻類は、私たちの生活を持続可能な新しいフェーズへと導くテクノロジーの一つとなり得ることを示した。

空間づくり

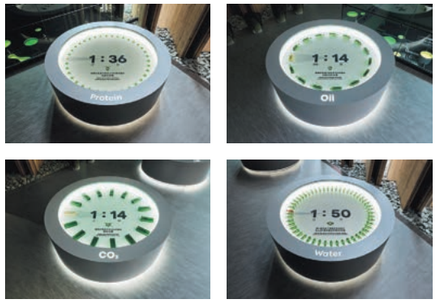
一般的に馴染みのない藻類の秘める力を来館者にとってイメージしやすくすることを目的として展示を制作した。

モニター映像

映像を放映する展示モニターを1台設置した。藻類のCO_2吸収や生産効率に加え、光とわずかな水でも生命活動が可能な微細藻類の特性について解説。藻類の特性の紹介により食品や資材の代替物としての可能性を訴求した。

展示の演出

たんぱく質の生産効率やCO_2の吸収量などを食品や植物と分かりやすい数値で比較して表現した。また、数値以外のビジュアルでも差異を表すために、比較対象の大豆･ひまわり･杉･牛と同形状の光造形技術を用いた樹脂で表現し、直感的な理解を促した。



また什器は側面発光の内照式で5,000Kとした。

<u>システム概要</u>
･照明:LED5,000K
〈映像システム〉
･65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉（Farm-03～06共通）
･2-wayフルレンジスピーカー×22台
･サブウーファー×5台

Farm-07 いのちみなぎる藻のカーテン

展示の概要

藻類の美しさと生命感を感じられる「森林浴」のような体験を提供する空間が広がっている。「フォトバイオリアクター[※25]」と呼ばれる巨大な培養装置によって、光エネルギーを効率的に吸収しながら、少量の水で藻類を育てている。空間には太陽光のような優しい光があふれ、高さ6mの天井から合計178本、総長1,457mのチューブを設置している。チューブ内には413ℓの培養液が入っており、「スピルリナ」という藻類が光合成を行い、有機物や酸素を生み出している。スピルリナは、ビタミン、ミネラル、たんぱく質などの栄養素が豊富で、食品としても活用されている。

循環型社会を支える技術的背景

藻類が光合成をするには、植物と同じく、水·光·CO_2が必要である。フォトバイオリアクター内のように水の中で光合成する微細藻類は、じつは陸上で光合成をする植物よりも、太陽から放出されるエネルギーの利用がとても上手である。少ない水でたくさんのCO_2を吸収し、エネルギー源となる有機物を生み出す「素材」として展示した。

空間づくり

藻類の生命力を示すために、藻類の培養に特化した装置であるフォトバイオリアクターを設置した。幾重にも重なったフォトバイオリアクターのチューブと照明を用いて、森林浴のような光があふれる幻想的な空間を制作した。フォトバイオリアクターの178本のチューブを、複雑かつ立体的で美しい曲線構造で空間を包み込むように配置した。波打つチューブの曲線が展示を見る位置や角度ごとに、空間の見え方を変化させた。また、天井、床、壁にミラーを設置したことで、景色が無限に反射する空間とした。鏡の反射により、来館者がどこまでも広がっていくような空間を感じながら順路を進んでいく展示体験を可能とした。

照明演出

照明は緑の色味を含んだ白色光（5,000K+GREEN）を採用した。この照明を展示空間に分散させず、正面の壁一面のみから照射した。淡い緑色の光を縦5.9m、横4.5mの壁から投射することで、藻類を育成させる太陽のイメージと生命感を表現した。また、照明を上にするほど暗く変化するグラデーションになるように調整し、夕陽や朝日を思わせる情緒的な空間に仕上げた。

展示の演出

合計178本、総長1,457mのフォトバイオリアクターのチューブを展示の要とした。チューブの中で計413ℓにも及ぶ培養液を流し、藻類の「スピルリナ」を育てることで、藻類の生命感を伝えた。

チューブが幻想的な空間を生み出すとともに、藻類の育成を行うことで、来館者に藻類の美しさ、エネルギッシュさを感じさせる、森林浴のような体験を提供した。

システム概要
·照明:LED5,000K+GREEN
·壁面:クリアミラー1.2m×64枚
〈音響システム〉
·2-wayフルレンジスピーカー×16台
·サブウーファー×4台

Farm-08 おみやげに「循環」をどうぞ

展示の概要

Farm Areaの最後となるこのコーナーでは、来館者に日本館の循環の理念を表す物を持ち帰っていただけるよう、会期前半は100%植物由来の生分解性プラスチックで制作したクリアファイルを、会期後半はスピルリナを原材料として使用したフリーズドライの味噌汁を配布した。これらに合わせ、配布カウンター右方向の棚に多数陳列しているボトルに、会期前半は生分解性プラスチックのペレット、会期後半はスピルリナの粉末を入れて展示した。

空間づくり

素材としての藻類が製品へ生まれ変わる空間を表現するために、2階に瓶を置く棚、1階にキッチンを模した空間を設置した。棚には粉末状の藻類を詰めたガラス瓶を横9列、縦6段で陳列した。そして、階下にキッチンのような空間を配置することで、Farm-04やFarm-07で紹介した藻類が製品に生まれ変わる様子を表現した。

展示の演出

配布物

この展示は、循環によって「ごみ」から生まれ変わった「もの」を来館者が持ち帰ることで日本館の循環をさらに外へと広げていくことを目的とした。そこで実際に「もの」として、会期前半には「カネカ生分解性バイオポリマー Green Planet®」で作ったクリアファイルを、会期後半の6月下旬からは藻類の一種である「スピルリナ」を使用した食品として、フリーズドライの味噌汁を配布した。

生分解性プラスチックのクリアファイル（協賛：株式会社カネカ）の配布

藻類由来の味噌汁（協賛：MATSURI）の配布

情報モニター

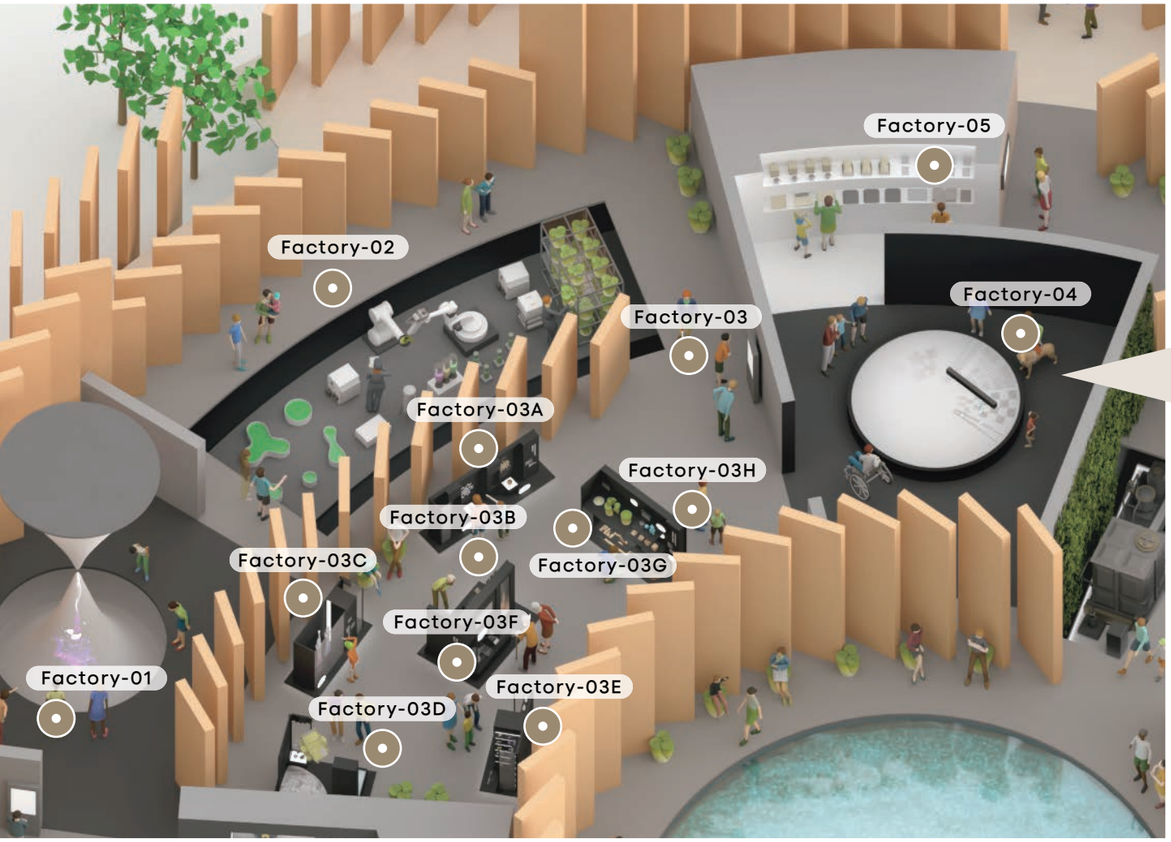
日本館の体験を終えた後、来館者の生活に「循環」の考え方を取り入れてもらうために補足説明用のモニターを設置した。モニター内の映像として、食品に生まれ変わった藻類を人が食事する様子をアニメーションで流した。藻類を取り入れた日常の食事を紹介することで、来館者に「藻類のリレーの走者」が次は来館者自身であることを伝えた。

システム概要
·照明:LED5,000K
〈映像システム〉
·65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉
·2-wayフルレンジスピーカー×4台
·サブウーファー×2台

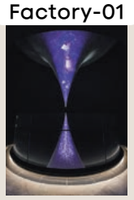
※25 フォトバイオリアクター
光エネルギーを効率的に利用し、少量の水で光合成を行う生物を培養する装置

「素材」から「もの」へ

日本のものづくりは、数百年以上前から現代に至るまで、「やわらかい」構造を志向し、資源や素材の「循環」という発想を強く意識してきた。Factory Areaでは、そんな資源を無駄にせず、修理や修繕を重ねることで長く使い続けられるものを作るという、日本ならではの「循環型ものづくり」の考え方や具体的な社会実装の姿を紹介した。



Factory Area



Factory-01

いのちといのちのあいだを見つめる砂時計 P.128

Factory-02

かたちになってかたちを変えてこんにちは P.128

Factory-03

やわらかなギャラリー P.130

Factory-03A

やわらかく作ることで、「長持ちする」 P.131

Factory-03B

やわらかく作ることで、「リレーする」 P.131

Factory-03C

やわらかく作ることで、「受け流す」 P.132

Factory-03D

やわらかく作ることで、「吸収する」 P.132

Factory-03E

やわらかく作ることで、「兼ねる」 P.133

Factory-03F

やわらかく作ることで、「耐えぬく」 P.133

Factory-03G

やわらかく作ることで、「受け継ぐ」 P.134

Factory-03H

やわらかく作ることで、日本館も「次へ生かす」 P.134

©Fujiko-Pro

Factory-04

二度と見られないはかなすぎる芸術 P.135

Factory-05

日本館の体験を、日常に持ち帰ろう P.136

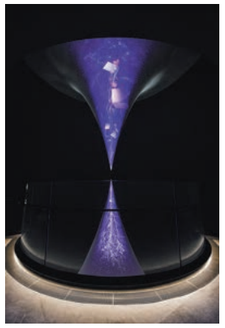
© TOMY

©2007 DreamWorks, LLC & Paramount Pictures Corporation.
® and/or TM & © TOMY. All Rights Reserved. TM & ® denote Japan Trademarks.

©2009 DreamWorks, LLC & Paramount Pictures Corporation.
® and/or TM & © TOMY. All Rights Reserved. TM & ® denote Japan Trademarks.

© TOMY. © 2023 Paramount Pictures Corporation.
All Rights Reserved. TM & ® denote Japan Trademarks.

Factory-01 いのちといのちのあいだを見つめる砂時計



展示の概要

この展示スペースの中央にも、二つの円錐を上下対称に突き合せたような大きなオブジェがある。

ここの映像では、植物から「人工物」を象徴するキューブが作られる様子を描き、いのちの連鎖が人の暮らしへとつながっていくことを表現している。

展示の演出

素材としての「植物」が、ものとしての「人工物」へと移り変わる様を高精細な映像で表現した。エリアの入口で、「素材」から「もの」への循環を表現することにより、エリアへの期待を高めさせた。

音響

音響は、未知のものとの遭遇をイメージし、焦燥や緊張を感じさせるような音づくりを意識した。そこで打楽器の音をベースにしたBGMを採用した。

映像表現

他の二つのエリアと同様に、砂時計を模したオブジェの展示を制作した。展示の中心となる映像に関してはCGソフトを用いて制作を行うことで、8K相当のクリアな映像表現を実現した。造形が浮かび上がる時間と映像が浮かび上がる時間を交互に訪れるように設計し、意図的な違和感を生み出した。

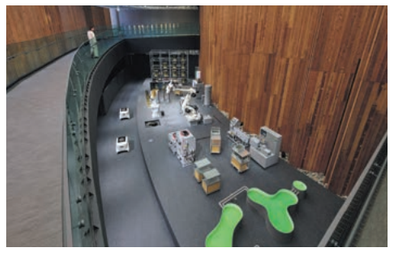
さらに、「ごみ」から始まったPlant-01とつながることで、一つのいのちが終わる瞬間、次のいのちが始まり、それが繰り返されていくといった切れ目のない循環を表現した。

システム概要
- ・サイズ:直径6m／高さ9m
- ・材質:FRP(繊維強化プラスチック)

〈映像システム〉
- ・DLP®プロジェクター(15,000lm・4K)×2台

〈音響システム〉
- ・2-wayフルレンジスピーカー×2台
- ・コラムスピーカー×2台
- ・サブウーファー×2台

Factory-02 かたちになってかたちを変えてこんにちは



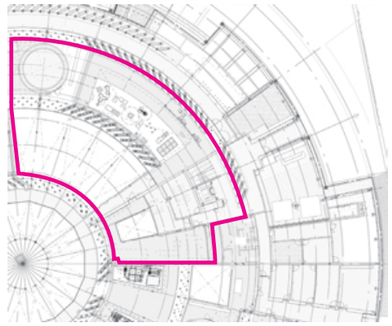
展示の概要

階上の通路から一望できる工場を覗き見ると、そこには、藻類と植物由来のプラスチックを混ぜ合わせる装置や粒状にする装置が並び、その素材を大小2基のロボットアーム型3Dプリンタで最新の3Dプリント技術によって椅子(スツール)を制作している。

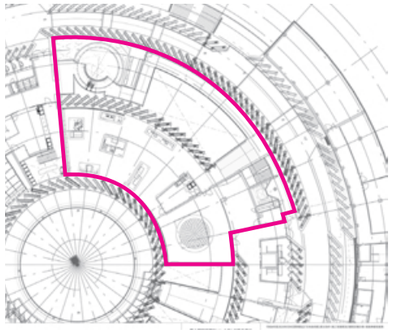
ロボットアームが作り上げたスツールは、解体しやすいよう三つのパーツに分かれ、色は藻類の配合量に応じて美しいグラデーションになっている。完成したスツールはコーナーの奥の棚に展示しているだけでなく、日本館内にも設置しているので、実際に座っていただくことができた。

循環型社会を支える技術的背景

藻類で作られたプロダクトが増えると、何がどう変わるのか? 例えば、子どもたちが遊ぶおもちゃや遊具の多くは、石油由来のプラスチック製である。植物由来のプラスチックなら、生産に用いるCO_2の排出も、廃棄した後の環境負荷も抑えることができる。用途が広がれば技術開発が進み、藻類だけでなく、様々な植物やバイオ由来の素材が生まれたり、機能性・実用性が磨かれたりもするだろう。誰もが、思いついたアイデアを形にできる時代である。普段使っている日用品、これが藻類の素材だったら…そんな視点から広がる未来の姿を考えてみることも、循環型社会の実現を進めていく上で大切な一歩だと来館者に気づきを与えるきっかけとした。



Factory Area 展示平面図 1階



Factory Area 展示平面図 2階

空間づくり

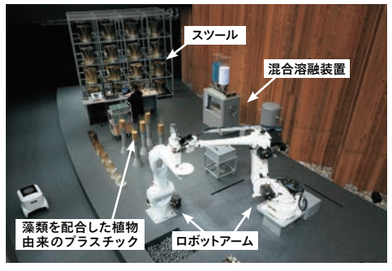
「素材」から「もの」への「ものづくり」を示すため、最新のロボットアーム型3Dプリンタや成果物の象徴としてスツールを設置した。空間は最新設備による「ものづくり」の全貌を見せることを目的とした。この考えに則り、空間は2階通路を歩く来館者が階下の設備を鑑賞する形とした。また、Plant AreaやFarm Areaのような黒を基調とした暗い空間とせず、天井に白膜を設置し、日光が入り込む明るい空間に仕上げた。これにより「もの」が生まれる明るい期待感を感じさせる空間とした。

照明演出

照明については5,000Kの明るさのLEDスポットライトを用いた。照明をロボットアームが最も目立つよう考慮して配置し、様々な設備の中で際立たせた。

展示の演出

2機のロボットアーム型3Dプリンタ「双鶴(Sokaku)」を中心とした最先端の設備を配置した。最新の3Dプリンタを設置したのは、最先端の「ものづくり」として藻類を混ぜこんだバイオプラスチック(「素材」)からスツール(「もの」)を生産する様子を表現するためだった。また、展示の表現を効果的に見せるために演者も配置した。



会期中の8月14日から19日までの6日間はスペシャルデーとして1日1個、計6個のスツールを製作した。

システム概要
- ・機材:3Dプリンタ装着大型6軸ロボットアーム×1台
- ・機材:スツール固定用小型6軸ロボットアーム×1台
- ・機材:藻類とプラスチックを配合する混合溶融装置
- ・機材:ペレット製造を行うリサイクルラボシステム
- ・機材:シェルフ
- ・機材:自走機
- ・展示物:藻類を配合した植物由来のプラスチック
- ・展示物:スツール 高さ45㎝／直径30㎝
- ・照明:LED5,000K

〈音響システム〉
・2-wayフルレンジスピーカー×8台
・サブウーファー×2台

Factory-03 やわらかなギャラリー

展示の概要

日本の「やわらかく作る」ものづくりを紹介している。伝統的な技術と、現代の技術を対比し、「ドラえもん」が案内役となり八つの展示台で紹介している。日本文化の根幹にある、決して自然に「抗わず」、「調和」しようとする姿勢に、日本人の志向や美意識が宿っている。現代社会の大きな課題である環境問題などを解決する糸口として、そこには重要なヒントが隠されていることを示している。

循環型社会を支える技術的背景

常識的に考えたら、丈夫な方が良いが、あえて「やわらかく」作る。すなわち、生まれ変わることを前提に作られたものたちは、こわれても簡単に直せたり、外から加えられる力をしなやかに受け止めたり、古くなったら、新しいものに作り替えることができる。昔から日本には、ものを循環させる工夫があふれていた。こうした日本のものづくりの知恵と技術が、現代まで受け継がれている。

空間づくり

多様なものづくりにおける「やわらかさ」「あえてこわれやすくする」を日本の伝統的なものと現代のプロダクトの新旧で比較して紹介する空間とした。JAXAを始めとした協力企業・団体に特別に貸与を受けた新旧の「展示物」を本物もしくは、本物に近い状態で什器に設置した。また空間づくりとして、来館者が理解しやすく、楽しんで鑑賞できる展示とするため、訴求方法の工夫を行った。

例えば展示物「流れ橋」などは映像・模型・機械動作・音楽の複合による鑑賞を可能とした。複数の情報を用いて展示を鑑賞することで映像視聴との違いを生み出し、関心を惹く展示空間として制作した。

照明演出

黒色の什器の配置を来館者に示すため、床部分に間接光を設置した。そして、什器内の照明は5,000Kを主体とし、目立たない器具を使うことで、来館者が展示物に集中できるような工夫を行った。

展示の演出

什器内のサインやテキストを照明で光らせ、展示のナビゲーターとして「ドラえもん」を採用。来館者に親近感を感じ、展示に興味を持っていただきやすい工夫を行った。ピンポイントに展示物やテキストを示すことで「ものづくり」に込められた工夫を効果的に紹介した。また、展示什器6台は高さや形状に差異を出し、ランダムな配置を行った。これは来館者に興味と自由に散策する感覚を持って各展示を鑑賞してもらうためであった。

システム概要
・什器:スチール組メラミン化粧板仕上げ
・パネル:内照式
・照明:内装式・スポットライト
〈映像システム〉
・65インチ液晶ディスプレイ×1台
・50インチ液晶ディスプレイ×1台
・43インチ液晶ディスプレイ×3台
・18.5インチ液晶ディスプレイ×5台
・55インチ透過型OLED サイネージ×1台
〈音響システム〉
・2-wayフルレンジスピーカー×8台
・サブウーファー×2台

Factory-03 やわらかなギャラリー展示紹介

Ⓐ やわらかく作ることで、「長持ちする」

伝統的な桶と組み立て式のサッカーボールを展示している。これらは、釘や接着剤で強固に作るのではなく、「軽く・弱く」組み立てることで、壊れた部分だけを取り替えて修理できるようにデザインされている。この発想は、ものを長く大切に使うための工夫を示している。

©Fujiko-Pro

Ⓑ やわらかく作ることで、「リレーする」

日本の仕立ての技術である和裁と、特殊な接着剤を紹介している。和裁は、着物を仕立てるとき、1枚の布を無駄なく使うことで、糸を引き抜けば布に戻すことができ、仕立て直しができる。使っているときは十分な強度を保ちながら、使い終わったら簡単に分解できる。
同じように、この接着剤は、使用時はパーツがしっかりと固定され、リサイクルされるときは特殊分解液によって接着力が弱まり、すぐに分解できる。いずれも、無駄なく再利用できることを示している。

©Fujiko-Pro

Ⓒ やわらかく作ることで、「受け流す」

日本古来の和釘と東京スカイツリーの制振技術を紹介している。和釘は木材の固い部分にぶつかると自ら曲がり、最後まで打ち込むことができる。東京スカイツリーの中心にある「心柱（しんばしら）」は、地震時に建物と逆の方向に振れることで建物全体の揺れを抑え、被害を最小限にする。どちらも、自然の力に抗うのではなく、柔軟に受け流すことで全体を守るという、日本のものづくりの知恵である。

©Fujiko-Pro

Ⓓ やわらかく作ることで、「吸収する」

「SLIM（スリム）」と「流れ橋」を紹介している。「SLIM」は、月面探査のために開発された小型月着陸実証機である。着陸時に脚部を壊れやすい構造にすることで機体への衝撃を吸収し、安全に着陸ができる。
一方、「流れ橋」として有名なのが京都府の木津川に架かる上津屋橋である。「流れ橋」は、川の増水時には橋桁が流される構造になっており、橋脚が残るため、すぐに橋を復旧することができる。上津屋橋は、今まで24回も流されながらも復旧している。どちらも、壊れて負担を吸収する発想で作られ、大きな成果を達成している。

©Fujiko-Pro

Ⓔ やわらかく作ることで、「兼ねる」

こちらの展示台では、変形ロボット玩具と風呂敷を紹介している。変形ロボット玩具「トランスフォーマー」は、乗り物や動物がロボットに変形し、複数が合体して巨大ロボットになるなど、役割に合わせて形を変えるアイデアが特徴である。
風呂敷は、包み方を変えることで様々な形や重さのものを持ち運べる万能な布である。江戸時代には火事に備えて布団の下に敷いて寝ている人もいたようである。どちらも、一つのものが多様な役割を果たす考え方が活かされている。

© ＴＯＭＹ

©2007 DreamWorks, LLC & Paramount Pictures Corporation.
® and/or TM & © ＴＯＭＹ. All Rights Reserved. TM & ® denote Japan Trademarks.

©2009 DreamWorks, LLC & Paramount Pictures Corporation.
® and/or TM & © ＴＯＭＹ. All Rights Reserved. TM & ® denote Japan Trademarks.

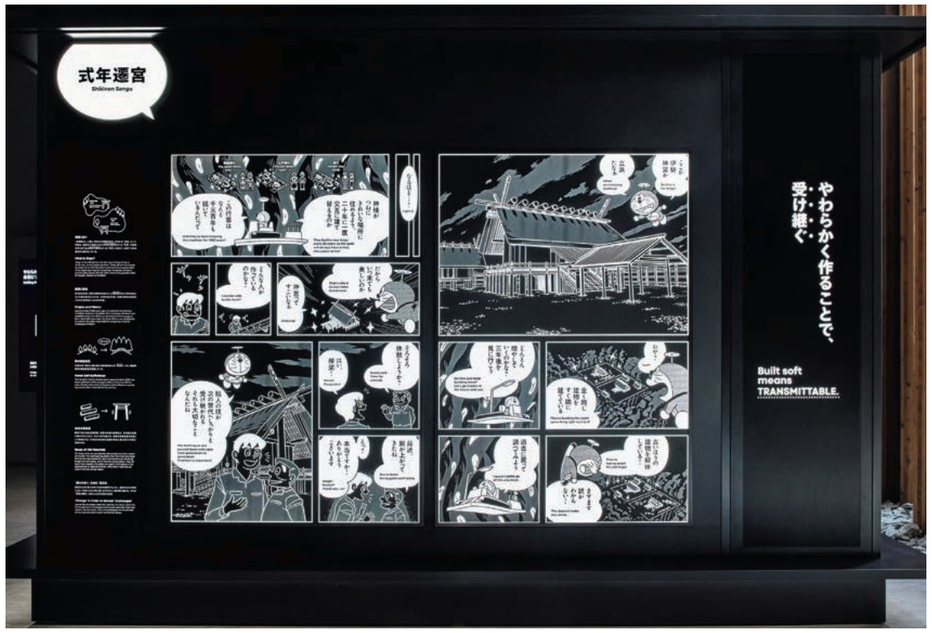
© ＴＯＭＹ. © 2023 Paramount Pictures Corporation.
All Rights Reserved. TM & ® denote Japan Trademarks.

Ⓕ やわらかく作ることで、「耐えぬく」

小惑星探査機「はやぶさ」のカプセルと焼杉を紹介している。「はやぶさ」のカプセルには、「ヒートシールド」が装備され、大気圏突入時に溶け出すことで、「打ち水」のように蒸発し、熱を逃し機体を守り抜いた。
一方、焼杉は、杉の表面を焼いて耐久性を高め、湿気や虫を防ぐ効果があり、一般的な外壁材の2～3倍長持ちする。どちらも、物を強く作る常識とは逆の発想で耐久性を実現している。

©Fujiko-Pro

Ⓖ やわらかく作ることで、「受け継ぐ」



伝統的な技術と現代の技術に通底する考え方を伝える展示として伊勢神宮の式年遷宮について紹介している。式年遷宮は、20年に一度、社殿や御装束神宝を新しくし、大御神に新しいお宮へお遷り願う神宮最大の神事である。1300年以上続くこの儀式は、常に新しく瑞々(みずみず)しい社殿で行われ、「変わらない」ために「変える」という考え方で、過去と未来をつなぐ重要な儀式となっている。

©Fujiko-Pro

Ⓗ やわらかく作ることで、日本館も「次へ生かす」

日本館では持続可能性を重視した素材と工法が使われている。建築には、再利用を見越して加工を最小限に抑えたCLTと呼ばれる板状の木材を使用している。アテンダントのユニフォームはリサイクル可能なポリエステル製で、年齢や性別を問わず、多様なスタイルで着用できるデザインとなっている。日本館のショップで使用している段ボールパッケージは、ひと捻りで小さく畳めるオリジナル構造を採用。スツールは藻類を混ぜた植物由来の素材で、接着剤を使わず組み立てられている。ベンチや案内表示板などもCLTを活用し、再利用しやすいシンプルなデザインである。
展示台では、スツールと段ボールパッケージは実物、それ以外はミニチュアで展示している。

©Fujiko-Pro

Topic

Factory-03A

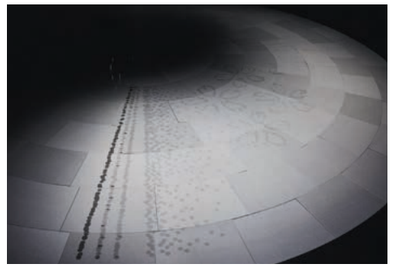
Factory-03F

Factory-03G　©Fujiko-Pro

「ドラえもん」によるナビゲート

各展示の「やわらかさ」や「こわれやすさ」の工夫について親しみやすい形で紹介するために国民的キャラクターの「ドラえもん」を用いた。漫画による表現のほか、サイネージによる簡易的なアニメーションやイラストにより展示内容の理解促進に努めた。

Factory-04 二度と見られないはかなすぎる芸術



展示の概要

珪藻土タイルを敷き詰めた直径6.2mの円盤の上に、水滴が落ちることで絵が描かれる。珪藻土は、ガラス質の殻を持つ藻類の化石からできる素材で、水に濡れると色が濃くなる性質がある。天井に設置した108個のノズルから、プログラムに沿って水滴を落とし、5分で1周する速度で回り続ける円盤上の珪藻土を濡らすことで、伝統的な和柄や桜の模様が浮かび上がる。水滴を制御する弁の開閉音は、小気味良い和太鼓のような音を奏でる。描かれた柄は次第に乾いて消え、再び水滴が落ちることで新たな柄が生まれる。

そのさまは、おわりとはじまりを繰り返す一つの「循環」を表している。

循環型社会を支える技術的背景

珪藻土は、「珪藻」と呼ばれる微細藻類の死骸が、海や湖の底にたまり、化石になったもの。珪藻は、現在も、海や川、池や湿り気のある岩や土に生息している。目に見えないほど小さな生きものであるが、海洋等で行われる光合成の量は、地球全体の約5分の1を占めるともいわれ、人のみならず生態系全体を支える大きな存在である。

ガラス質の殻を持ち、死んだあとは殻だけが残る。珪藻土はこの殻が無数に集まって形作られたものである。太古に存在したいのちは、珪藻土の特質となって、今日の暮らしに役立てられている。

空間づくり

珪藻土の持つ、水がすぐに乾く特性を用いて、時間とともに水の絵が数分で消えるグラフィックを展示し、「循環」を表現した。絵を描く際に排出する水滴の着地のリズムを打楽器のような音で表現し、描き出されるグラフィックと完全にシンクロさせ、展示効果の最大化を図った。

展示の演出

システム

108個のノズルを用いて水滴により日本特有の和柄や桜の絵を円盤に描いた。ここでは時間とともに絵が乾いて消えていく様子を繰り返し「生／はじまり」と「死／おわり」の循環を表現した。儚さを演出するため、直径6.2mの円盤を5分で1周するスピードでゆっくりと回転させた。また、システムにヒーターを採用し水滴の蒸発を早めたほか、模様が最も目立つ位置に照明を配置するといった工夫を施した。

情報モニター

情報補足用のモニターを1台設置し、映像の中で円形の珪藻土と水の発出機構のシステムや珪藻土の解説を行い、模様が生まれてから消える様子への理解を深めさせた。

システム概要
·展示物:珪藻土パネル×155枚
·サイズ:円盤直径6.2m
·照明:LED5,000K
·発出機構:滴下ノズル108個
·ヒーター:パネルヒーター
〈映像システム〉
65インチ液晶ディスプレイ×1台
〈音響システム〉
·2-wayフルレンジスピーカー×8台
·サブウーファー×2台

Factory-05 日本館の体験を、日常に持ち帰ろう

展示の概要

藻類の無限の可能性と未来を探る取組を紹介している。大きなショーケースでは、藻類を活用して作った燃料や塗料、化粧品や食料品などを展示している。

また、日本館公式ショップも併設しており、展示で登場するキャラクターグッズなど、日本館オリジナルの商品を販売した。

空間づくり

「循環」の考えを来館者の日常へとつなげることを目的に、「未来の日用品になりえる試作品」のショーケースとオリジナルグッズを購入できる日本館公式ショップの二つを配置した。白を基調とした空間とし、黒の配色の展示室との差別化を図った。なお、日本館公式ショップの詳細は第4章 運営において記述する。

ショーケース

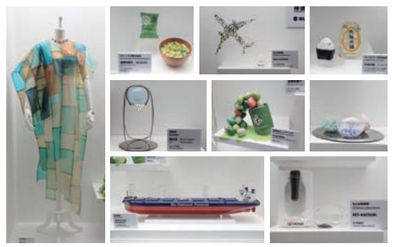
ショーケースは幅180cm、高さ220cm、奥行60cmのサイズで制作し、中に藻類の可能性を示す展示品を配置した。展示品として、食品や化粧品、衣類、燃料といった藻類由来の製品を配置した。

展示の演出

製品配置

ショーケース内では食品や化粧品といった藻類由来の9点の製品を展示した。ショーケース内の製品の選定基準を、藻類の可能性の訴求を行えるかどうかに定めた。これに則り、バイオ由来シートを生地に使用したドレスや藻類を具に加えた味噌汁、藻類由来のSAF(Sustainable Aviation Fuel:持続可能な航空燃料)及びそれをイメージした飛行機の模型といった藻類由来の製品を採用した。これは、化石燃料やプラスチック、食品の代替物となる藻類をサステナブルな社会づくりに欠かせない存在として来館者に再認識していただくため配置した。

システム概要
·材質:ガラスショーケース
·照明:LED面発光照明
〈音響システム〉
·2-wayフルレンジスピーカー×2台
·サブウーファー×2台

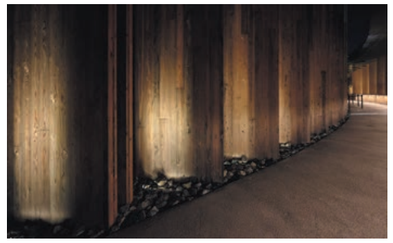


ショーケース 展示品

外構·外周

建物本体をCLTが覆う、円環状の構造をライトアップした。夜間も強く印象付けるため、約800灯の屋外用照明を使用した。CLTの足元に置いた照明は、高さのあるCLTの全面をカバーできるような器具を選定し、日没後から点灯するものとした。CLT1枚ずつを下から照らすことで、夜間もCLTの存在感を強調するとともに、パビリオン全体が浮かび上がるように、繊細ながらも存在感を放つ演出を実現した。さらに10分に1回、システム制御したプログラムによって約2分間の照明演出を行い、ゆっくりとランダムに照度を変化させることで、建物そのものが息づいているような印象をもたせた。

また、外構及び外周にはCLT材を用いたベンチを設置したほか、来館者に日本の豊かな自然環境を感じていただくため植栽を行った。プランターにはエリアごとに日本の在来植物や亜熱帯植物、針葉樹などの高木、中木、低木·地被を様々な組み合わせで寄せ植えし、身近な植物と遠く離れた植物を並べることで地球全体を巡るような体験を来館者に提供した。



サイン·グラフィック

サインシステムは日本館のビジュアルシステムに合わせて制作方針を定め、視覚的な一貫性とナビゲーションの利便性を向上させるデザインとして制作した。案内サインによって来館者が展示をよりスムーズに、意義深く体験できるようになることを目指した。

会期後にCLT材を再利用するという観点から、CLT面へのピンやビス止めの加工を避け、館内の壁面グラフィックは基本シート貼りにて施工した。カッティングシートを複数層重ねることで質感を表現した。

ふれあう伝話

大阪·関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」を体現するコンテンツとして日本電信電話株式会社と連携し、次世代情報通信基盤のひとつであるAll-Photonics Connect powered by IOWNを活用した「ふれあう伝話」を外周通路に設置した。日本館と関西国際空港をつなぎ、映像や音声に加えて振動により触覚を伝えあう、新しいコミュニケーション体験を提供した。体験を通じて、海外観光客には日本館への期待感を、来館者には国際的なつながりへの興味を喚起した。

4.5　展示維持管理

会期を迎えるに当たり、安全で円滑な運営を確保しつつ、来館者にとって満足感の高い日本館とすることを目的として、展示や施設の維持管理に努めることとし計画を策定した。

会期中は、この計画に基づき、日常点検、法定点検や、展示全体の総合的なメンテナンス作業を月次で行うとともに、博覧会協会が定める保険として、賠償責任保険や火災保険に加入した。さらに、必要に応じて展示や施設の修繕作業を定期的に行った。

また、雨天時に来館者動線上へ漏水があったり、外周通路の三和土素材の一部に窪みが生じたりといった会期前には予測していなかった事態が幾度となく発生したが、近畿地方整備局と適時適切に連携して建築施工者による修繕などの安全管理に努め、大きな事故なく閉館を迎えた。

なお、会期中、不同沈下に係る計測を継続したが、結果的に影響は極めて限定的であり、細かな位置調整を要する投影関連の展示にも影響を及ぼさなかった。

4.6　バイオガスプラントの設計と施工

設置目的

日本館では、未来において目指すべき「炭素中立型の経済社会」や「循環型社会」の一部を象徴的に来館者体験として提供することを検討した。具体的には、いのちといのちを発展的につなげ、一つの循環を創出する一連の体験を可能とするため、万博会場内から出た生ごみをメタン発酵槽の微生物の働きによって分解し、バイオガスを生成。電気やCO_2を作りだし、それらをプラントの電力や大阪ガス株式会社のe-メタン製造実証施設の原料としてリサイクル供給することとし、循環と共にある社会の実現の具現化を目指した。

処理の流れ

バイオガスプラントでは、生ごみを分解するとともに電力の生成と水の浄化を行った。

まず、万博会場内から生ごみを受入·前処理設備で収集後破砕し、メタン発酵設備で生ごみを分解することで、バイオガスを発生させた。そして、ガス利用設備でバイオガス発電機を用いて電気の生成を行った。

また、メタン発酵後の発酵液を汚泥処理設備で脱水した。脱水ろ液を排水処理設備で微生物の力によって浄化し、再利用設備で膜ユニットを用いて再利用可能な水とし、紫外線消毒した上で水盤に送水した。

主な設備

①受入·前処理設備

大阪·関西万博の会場には多くの飲食店があり、大量の生ごみが発生することを予測した。このバイオガスプラントでは、1日最大1トンの生ごみを受入、処理することを可能とし、受け入れた生ごみは、破砕装置によって細かく破砕。ここに水分調整として発酵液を加え、生ごみがメタン発酵するための準備を行った。最終的に会期中、約89トンの生ごみを受け入れた。

②メタン発酵設備

メタン発酵設備では、酸素のない状態で約37度に保ち、微生物が生きやすい環境を保った。水分調整された生ごみは、メタン発酵槽で微生物によって分解·発酵され、メタン60%及び二酸化炭素40%のバイオガスを発生させた。

③ガス利用設備

バイオガスに含まれるメタンガスを燃やして電気として日本館に供給する方法と、CO_2分離装置でCO_2を回収する方法の二つの方法でバイオガスを有効利用し、循環を具現化した。回収したCO_2は会場内の大阪ガス株式会社のメタネーション実証施設で一部活用された。

④汚泥処理設備

発酵液から汚れを取り除くために、専用の薬品を入れて大きな塊にしてから、汚泥脱水機で脱水。脱水汚泥と脱水ろ液に分け、脱水汚泥は場外へ搬出することにした。

⑤排水処理設備

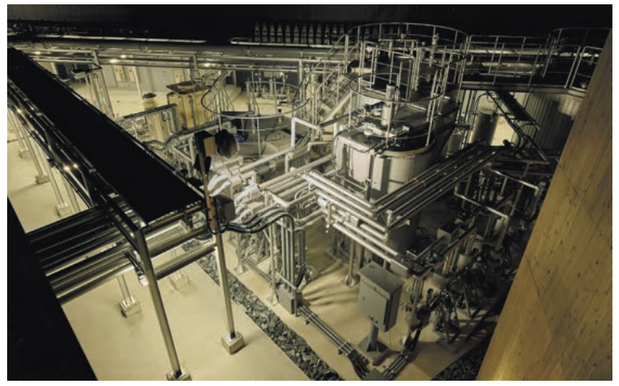
脱水ろ液は、微生物の働きを利用した浄化装置によって脱水ろ液中に溶けている汚れを分解。微粒子やバクテリア、高分子物質の除去が可能な膜を利用したUF膜ユニットにより、浮遊物質を含まない透過水にした。

⑥再利用設備

固体と液体を分離するための設備UF膜ユニットでとりきれなかったCOD（化学的酸素要求量）などを高い浄水性能を誇る逆浸透膜フィルターであるRO膜ユニットで分離し、紫外線消毒したのちに水盤へ送水したほか、濃縮水は下水道へ放流した。

⑦脱臭設備

各設備から集めた臭気は、高·中濃度臭気及び低濃度臭気ごとの、濃度に応じた処理を行った上で、大気へ放出した。

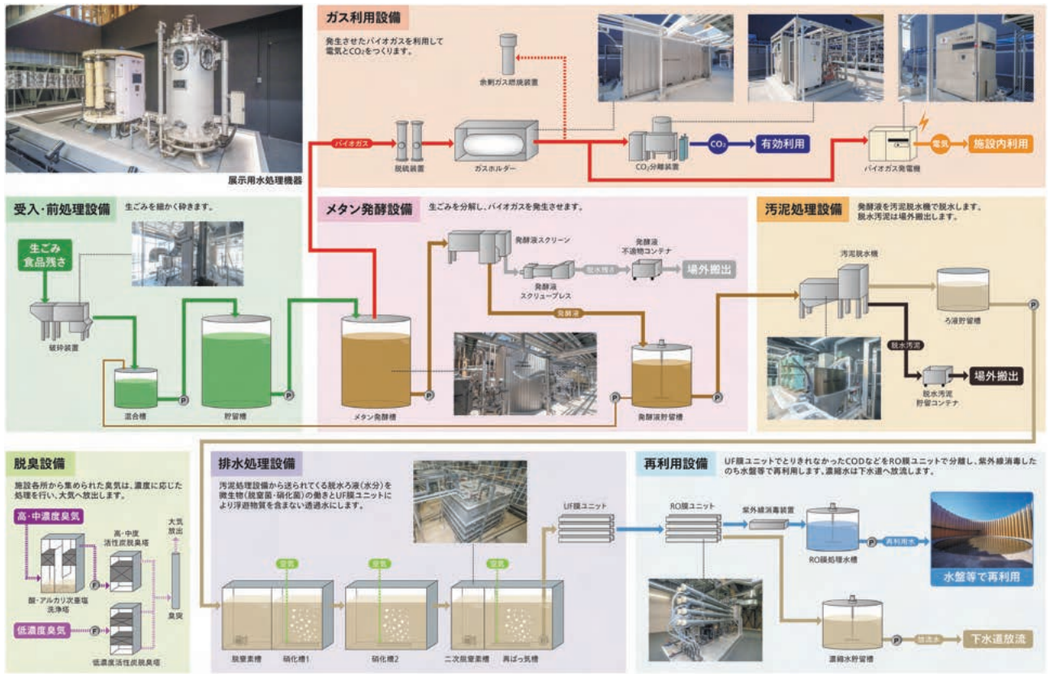


バイオガスプラント

メタン発酵槽

バイオガス発電機

バイオガスプラント処理フロー



■処理能力　1,000kg/日（食品廃棄物）
■発電能力　25kW×1基

各工程

①設計・施工

設計・施工等事業者であるカナデビア株式会社は「令和4年度大阪・関西万博日本政府出展事業におけるバイオガス発電設備設計業務」を受託し、2023（令和5）年6月から実施設計を開始した。そして、2024（令和6）年3月から施工に着手した。

屋外バイオガスプラントの設置エリアは建築・展示施工業者の日本館工事現場への進入ルートともなっており、バイオガスプラント設置に当たっては、関係者間の調整が必須であった。そのような中で、日本館の建築工事を担当する清水建設株式会社と搬入日、搬入時間、搬入車両台数などの綿密な調整を何度も行い、バイオガスプラントの先行設置期間を確保。建築・展示工事も同時並行できる工程を組むことで、工期内での完成を達成した。

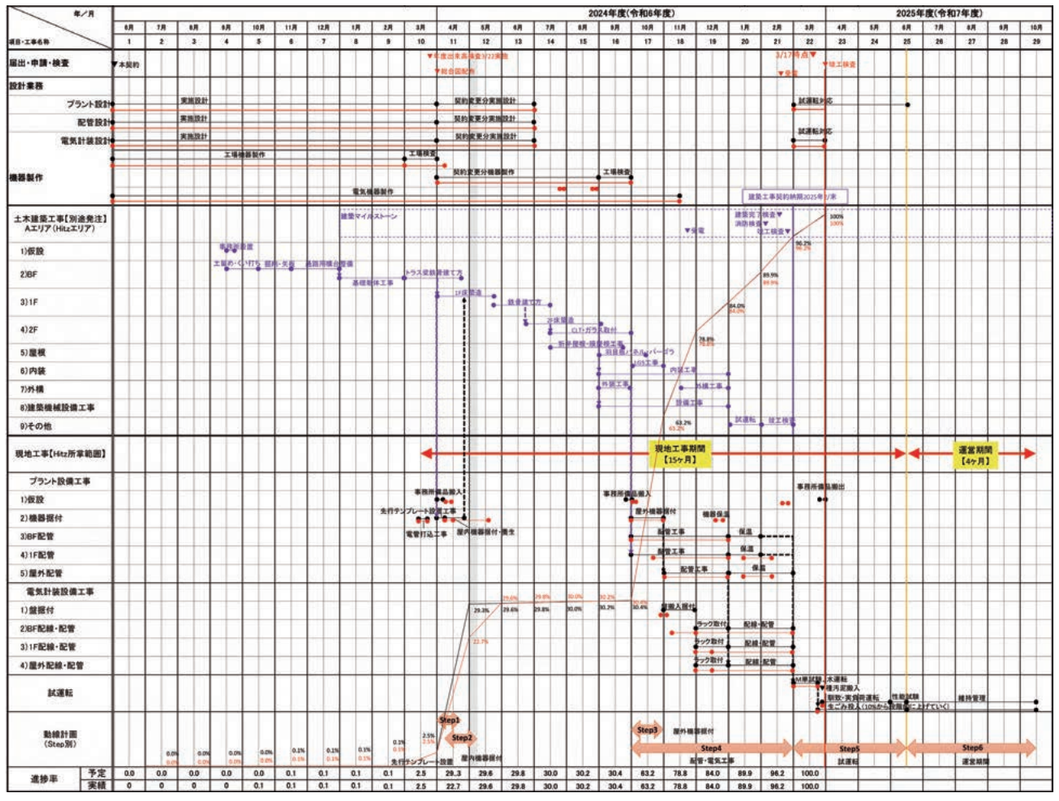
②試運転・運転管理・立ち下げ

バイオガスプラントのメタン発酵設備や排水処理設備は微生物の働きを利用している。これらの微生物を利用した処理の能力を発揮させるため、通常は試運転と呼ぶ立ち上げ運転を行う必要がある。日本館においても2025（令和7）年2月の工事完了後すぐに試運転を開始し、開幕後はごみの受入量を徐々に増やすなど能力を徐々に拡大した。

会期中は、所定の能力を発揮し続けられるよう日々24時間の運転管理に努めるとともに、特に臭気、騒音に関して来館者へ影響を及ぼさないよう生ごみ搬入作業や汚泥搬出作業については夜間に実施した。会期中の6月13日には騒音、振動などの性能確認試験を実施し、所定の基準値を満たすことを確認した。また、会期中に開催したプラントツアーに参加する来館者の安全管理のため、通路の清掃や設備の安全点検を実施した。

会期後は、生ごみの投入を止めてから一定期間はバイオガスが発生し続けることに留意し、メタン発酵設備を安全に停止するために必要な立ち下げ運転を行った。こうした計画に基づき、10月18日にバイオガスプラントを完全停止した。

バイオガスプラント工事工程表



バイオガスプラント工事概要

工事名称	工期	契約内容
令和4年度大阪・関西万博日本政府出展事業におけるバイオガス発電設備設計業務	2022年8月29日～ 2023年3月25日	計画設計業務
令和5年度2025年日本国際博覧会「日本政府館」施設整備事業（バイオガス発電プラント設計・施工等）	2023年6月1日～ 2025年3月31日 ※日本館建築スケジュール等の変更に伴う展示設計の変更調整により工期延長	実施設計業務及び機器製作・現地工事業務（配管工事、展示設備等を除く）
令和6年度2025年日本国際博覧会「日本政府館」施設整備事業（バイオガス発電プラント設計・施工等）	2024年4月1日～ 2025年3月31日	機器製作・現地工事業務（配管工事、展示設備等）及び試運転（種汚泥投入まで）
令和7年度2025年日本国際博覧会「日本政府館」運営事業（バイオガス発電プラント運転管理等）	2025年4月1日～ 2026年3月31日	試運転及び運転操作、保守点検、修繕等維持管理業務

バイオガスプラント工事工程

2024（令和6）年4月11日「機器据付前」

2024（令和6）年5月8日「機器据付状況」

2024（令和6）年6月21日「鉄骨組立状況」

2024（令和6）年5月29日「機器養生状況」

2024（令和6）年6月26日「鉄骨組立完了」

Ⅳ

運営

1　日本館の運営の概要

2　運営のための取組

1 日本館の運営の概要

日本政府館（以下、日本館）の運営に当たり、大きな流れとして、コンセプト・構想を設計し、それを体現するための方針・計画を定め、方針・計画に沿って具体内容を詰めていくという段取りで準備を進めた。1年ごとに、段階的に検討の具体化・精緻化を進めることで、スムーズに日本館の開館を迎えることを目指した。

1.1 運営の構想及び計画（基本構想、基本計画）（令和3年度）

日本政府出展事業（日本館）基本構想において、運営に当たっては、日本古来の文化やおもてなしを体現する、より良い空間や時間の創出を目指し、スタッフと来館者がその垣根を超えて共同で一つのパビリオンを作り上げる体験を生み出すことを構想した。

令和3年度に策定した日本政府出展事業（日本館）基本計画（以下、日本館基本計画）に基づき、「バリアフリー運営」「多言語対応」「環境配慮への対応」「安全性への配慮」「混雑対策」の5項目を中心に据えて運営基本計画、実施計画、準備を進めた。

また、来館者は多様な身体的特性を持つことを鑑み、最先端のデジタルテクノロジーの導入も視野に入れたハード・ソフト両面のバリアフリー・ストレスフリーなパビリオン運営を行った。例えば、デジタルテクノロジーを活用して入館者数の調整などを行い、待ち時間削減や混雑密集回避による安全性の確保を図る、あるいはデジタルデバイスの活用や多言語対応可能なスタッフの配置などにより、多様なニーズに対応可能な体制を整えた。さらに、感染症対策や台風などの悪天候時の緊急対応など、来館者の安全・安心を最優先とした万全な運営計画の検討・準備を行った。

1.2 基本計画の整理（令和4年度）

前年度に策定された日本館基本計画を踏まえ、具体的な実施を見据えて、運営の基本的な考え方等を整理した。整理に当たっては、一般来館者向けの「運営」とVIP向けの「接遇」に分けて検討を進めた。その上で、警備のように双方にまたがる事項については「運営」に集約して整理することとした。運営に関して整理した事項は下記のとおりである。

・運営の基本的な考え方
・接遇基本方針
・警備基本方針
・搬入出基本方針
・清掃の考え方
・諸室基本方針
・要員基本方針
・多言語対応
・採用計画
・バリアフリーの検討
・製作物基本方針

運営スケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運営・行催事計画 →	運営・行催事実施計画 →	運営・行催事実施制作準備 →	**大阪・関西万博開催** 2025（令和7）年4月13日～10月13日

・緊急時対応方針

これらの項目は日本館基本計画で設定した5項目に対応しており、運営及び接遇計画の詳細化を進める上での指針となった。

また、接遇に関しては来館するVIPの属性を想定した。

1.3 会期中の運営に向けて（令和5～7年度）

令和5年度

一般来場者やVIPなど来館者の種別設定、想定来館者数、観覧方法、事前予約と当日予約の割合など、実施プログラムの構成を検討した。また、それに伴う入退場動線の検討など、日本館運営に当たっての基本的な基準を設定した。

ほかにも、ユニバーサルデザイン・緊急時対応や警備、清掃の実施計画など、あらゆる来館者が快適に、安心して過ごせる環境づくりに必要な項目の洗い出し、準備も進めた。

令和6年度

前年度検討事項の具体化、精緻化を進めた。具体的には、プログラム構成や来館者数の設計、入退場動線、バリアフリー対応のためのツール選定などを行った。

また、来館者への応対に当たるアテンダントや警備等のスタッフの募集方針の決定、選考も行い、併せて、スタッフ間のやりとりに必要な無線系統の検討やアテンダントユニフォームの製作にも取りかかった。

令和7年度

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下、博覧会協会）は、大阪府及び大阪市と協力し、開会前の2025（令和7）年4月4日、5日、6日に、運営を試行的に実施する取組「テストラン」を行った。日本館もこれに参加し、運営に関する準備を進めた。

会期中は、前年度までに決定した方針・ルールにのっとり館内運用を行うとともに、運用を通じて生じた課題については随時対策を施し、より円滑な運営、スタッフも来館者も快適に過ごせる環境整備に努めた。

2 運営のための取組

日本館の体験を通じて自分も循環の一部であると感じてもらうことを目指したパビリオンの中で、来館者が安全安心で、かつ快適な「体験」ができるように、会期中の運営に向けて細部に及ぶ計画を組み立てた。その上で会期中に発生した課題に対し適時対処、かつ運営方法のアップデートを重ねていった。令和5年度以降の計画の組み立てから会期中の運営の検討は、経済産業省日本館チーム、博覧会協会日本館、運営業務の委託事業者［日本館展示等コンソーシアム共同企業体（以下、EC）］、広報業務の委託事業者の参加の下で進められた。

2.1 実施計画の検討（令和5年度）

運営の基本的な考え方

開館時間の設定

会場全体の開場・閉場時間や入場に関する規則等を踏まえ、開館時間を9:30～21:00と設定した。また、全ての時間帯において来館者の観覧時間や待機時間を考慮し、20分ごとに定員を設定し、入退館管理を行うことを決めた。

観覧プログラムの設定

来館者は、一般とVIPに区分した対応を行うことにした（接遇内容は別項で詳述）。

また、来館者の動線を鑑み、施設の面積や通路幅、展示内容・滞留時間などの条件を組み合わせた検証を実施し、3エリアの見学の時間帯と朝・夜の1エリア見学及び外周見学の時間帯の設定を行った。

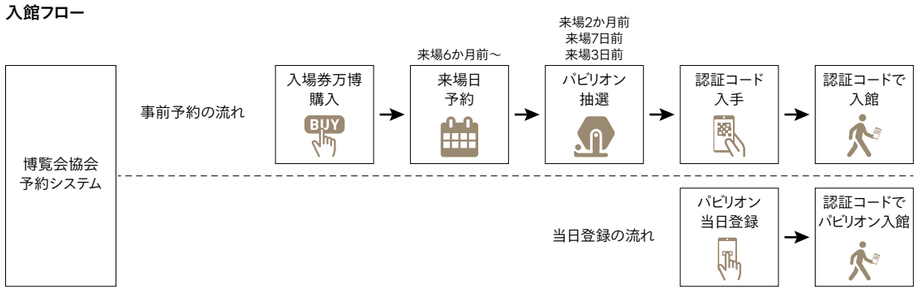
入館フロー

「博覧会協会予約システム」で事前抽選枠あるいは当日登録（予約）枠で予約取得の上、来館いただくフローを基本とすることを想定した。なお、事前予約日時・人数はパビリオンが設定し、当日登録（予約）は事前予約の50～70%程度の範囲を基準とした。VIPに対しては属性を想定して対応を行うこととした。

運営配置ポスト方針

運営事務局に運営業務統括／運営業務管理チーフディレクターを配置し、全体の運営管理を行うことを基本とした。現場には各担当ゾーンを管理するディレクター／アシスタントディレクターを配置し、その管理下で、安全管理と来館者へのホスピタリティを念頭に、館内外で死角を作らないアテンダントのポスト配置を行うことにした。その他、イレギュラーや混雑時に対応する遊軍アテンダント、VIP接遇を担当するエスコートスタッフなどを配置し、日々のパビリオン運営に当たることを決めた。

入館フロー



警備基本方針

鍵については、各諸室への入退場権限を7グループに整理して運用することとした。

また人的警備については、パビリオン施設警備、敷地内雑踏警備、巡回警備、要人警備に警備業務の種別を整理した。警備業務検定の有資格者など、教育・訓練を受けた豊富な知識・経験を有する警備員を主として構成することとし、開場時間（9:00～22:00）と夜間（22:00～9:00）の警備配置計画を策定した。

緊急時対応方針

安全管理における具体的施策として、以下の4点を定めた。1点目が、来館者の確認や把握、巡回などを通じた能動的な「防災・防犯管理」である。2点目が、現場に常駐する安全統括管理者として担当セクションの安全管理に当たる担当警備員・ディレクターを各担当セクションの施設の防災管理者としても機能させる「防災管理者の配置」である。3点目が、館内監視カメラと併せて、死角を作らないアテンダント及び警備員の配置を行う「事故を防止するスタッフ配置計画」である。4点目が、各関係者・アテンダントの「ヒヤリ・ハット」情報を全員で共有する「ヒヤリ・ハット運動による予防安全」である。また、パビリオンでの発生が想定される緊急事案、トラブル事案について、ケース別に対応方法や対応フローを構築し、緊急時対応マニュアルにまとめることを決めた。

搬入出基本方針

搬入出ルートについては、博覧会協会のガイドラインを確認次第、そのルートを遵守して日本館までの搬入出ルートを設定することとした。

車両の駐車台数については、施設内にVIP用として5台分を設定し、施設外には運営、展示、物販、博覧会協会日本館用に合わせて7台分を設定した。

清掃の考え方

清掃業務は「衛生性」「美観」「保全性」「安全性」の維持を目的として、日常的に行う清掃（日常清掃）と定期的に行う清掃（定期清掃）を適正に分け、計画的かつ統一的な方法で実施することを決めた。具体的には、清掃員は1日5人体制で対応に当たることを基本とし、展示エリア内・バックヤード・外周の清掃範囲や各範囲での清掃内容についても定めた。

また、排出されたごみについても、ごみの削減につながる取組を行うとともに、ごみの分別や取り扱いについては、博覧会協会のガイドラインに基づき対応することとした。

諸室基本方針

限られたスペースの中で効率的に運営できるように、1階（32室）、2階（19室）合わせて51諸室に関して、室内の配置や想定備品を検証した。

要員基本方針・採用計画

全体運営計画・実施準備に当たっては、運営責任者2人、副運営責任者3人（うちECからの委託事業者2人）、運営担当者3～5人を筆頭に、マニュアル作成を行うグループ、募集・採用・研修を行うグループ、搬入出業務対応を行うグループなど五つのグループに分けた。そして、各グループは必要に応じて、博覧会協会など関係各所との連携を行うことを決めた。

パビリオン運営には、管理者・ディレクター・アテンダント等、300人程度の人員を確保する必要があった。特にアテンダントは、各場所、及び多言語対応アテンダントや遊軍アテンダントを2交替制で配置すると約250人の採用が必要と想定された。そこで、最も人数の多いアテンダントの一般公募採用を中心に、募集・採用を進めることとした。

人員採用を進めるに当たり、①業務・配置、②募集、③選考、④研修、⑤業務実施の5項目に分け、各項目ごとのポイントを満たすことを基本的な計画方針とし、日本館のスタッフとしてふさわしい資質を備えた人材の確保・育成に努めた。

例えば、アテンダントの選考に当たっては、「印象」・「話し方」・「適性」・「意欲」・「協調性」の5項目を4段階評価し、さらに日本エス・エイチ・エル株

人材確保の考え方

区分	採用人数	求める人材	人材確保の方法
運営業務統括	3人	博覧会業務に携わった経験 イベント事業推進経験 施設運営管理／マネジメント経験	・運営委託事業者より人選・採用
運営業務管理 チーフディレクター	6人	イベント事業推進経験 施設運営管理／マネジメント経験	
運営管理ディレクター	18人	イベント現場運営・ディレクション経験 施設運営管理常駐管理者経験	・運営委託事業者より人選・採用 ・一般公募による採用も検討
運営管理 アシスタントディレクター	27人	イベント現場運営経験 施設運営管理経験	
アテンダント	243人	経験不問	・一般公募により採用
VIP接遇管理 チーフディレクター	3人	イベント・施設運営等における 接遇業務の管理・マネジメント経験	・運営委託事業者より人選・採用
VIP接遇管理 ディレクター	6人	国内外の接遇業務経験・マネジメント経験 語学対応経験	
VIP接遇管理 アシスタントディレクター	6人	VIP接遇経験 語学対応経験	・通訳・接遇等の専門会社による人員手配を想定
VIPエスコートスタッフ	36人	語学対応可	
庶務スタッフ	9人	事務職等、バックオフィス経験	・バックオフィス専門会社による人員手配を想定 ・一般公募による採用も検討

式会社が提供したOPQ適性検査(Occupational Personality Questionnaires)を用いて、選考時の参考とした。実際の採用者は特に、高い対人能力と協調性や、計画性と緻密(ちみつ)さを擁している傾向が高かった。

多言語対応・バリアフリーの検討

日本館におけるユニバーサルデザイン(UD)について、「ハードのUD」「ソフトのUD」及び心理的、感情的な側面に配慮した「心のUD」の三つの考え方をベースに、ガイドラインの内容を考慮し、様々な手段で配慮していった。

また、ガイドラインの内容を踏まえた対応基準を決定し、展示に関わるハード面のほか、ソフト面ではケアスタッフの配置を検討するなど、人的対応や安心できる雰囲気づくりなどを組み合わせ、可能な限りフォローすることを目指した。

アテンダントユニフォーム基本方針

「日本館にふさわしいデザイン」「気候・気温に対する配慮」「機能性」「耐久性」「環境・SDGsへの配慮」というユニフォームの製作条件に配慮し、ユニフォーム調達区分や、1セット当たりのアイテム数や鞄に収納する備品についても定めた。

2.2 詳細計画の策定及びアテンダントの育成（令和6年度）

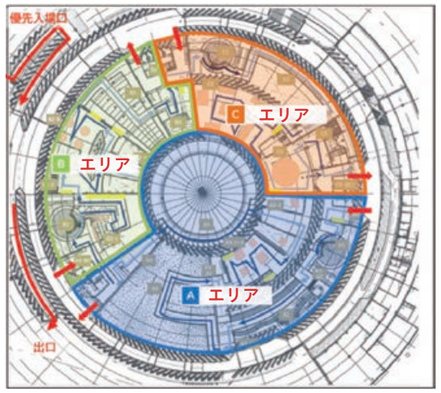
万博には地域・国境を超えて様々な人が訪れるため、それぞれの事情に応じて、常に来館者の視点に立ったきめ細かい対応を行う必要がある。また、既に定めた方針・計画に沿いつつ、人と人とのふれあいを大切にしながら「おもてなし」に努め、発信するメッセージに深い理解が得られるようサポートすることが求められる。さらに、ホスト国パビリオンとして、日本館には多くの国内外のVIPが足を運ぶため、ホスト国の責務としてVIPの接遇を円滑に実施する必要がある。

そこで、具体的なルールを記載した運営マニュアルを作成し、それに沿った運営を進めることとした。

観覧形態

事前予約での入館を基本とし、観覧形態は美術館等に似た自由観覧型を前提とした。基本的には一筆書きの強制動線で、観覧時間は平均40分程度を想定した。A～Cの3エリアについて、A→B→C、B→C→A、C→A→Bの3パターンを期間ごとに変えていく方式を想定し、各パターンの観覧経路と外周の人流についてシミュレーションを行った。また、会期中、カレンダーやシーズンに合わせて変化することが想定された来館者の動向に合わせて博覧会協会予約システムの運用と枚数設定を行えるよう、全期間を「会期当初」「GW期間」「VIP集中団体シーズン」「夏休み期間」「繁忙ピーク期」の5フェーズに分け、気候なども考慮に入れながら、前述の3パターン、「設計者とまわる日本館建築ツアー」、「日本館 バイオガスプラント見学ツアー」などに関する会期中のスケジュール構成を設計した。

なお、1エリアのみの観覧については予約なしでの受け入れを検討した。

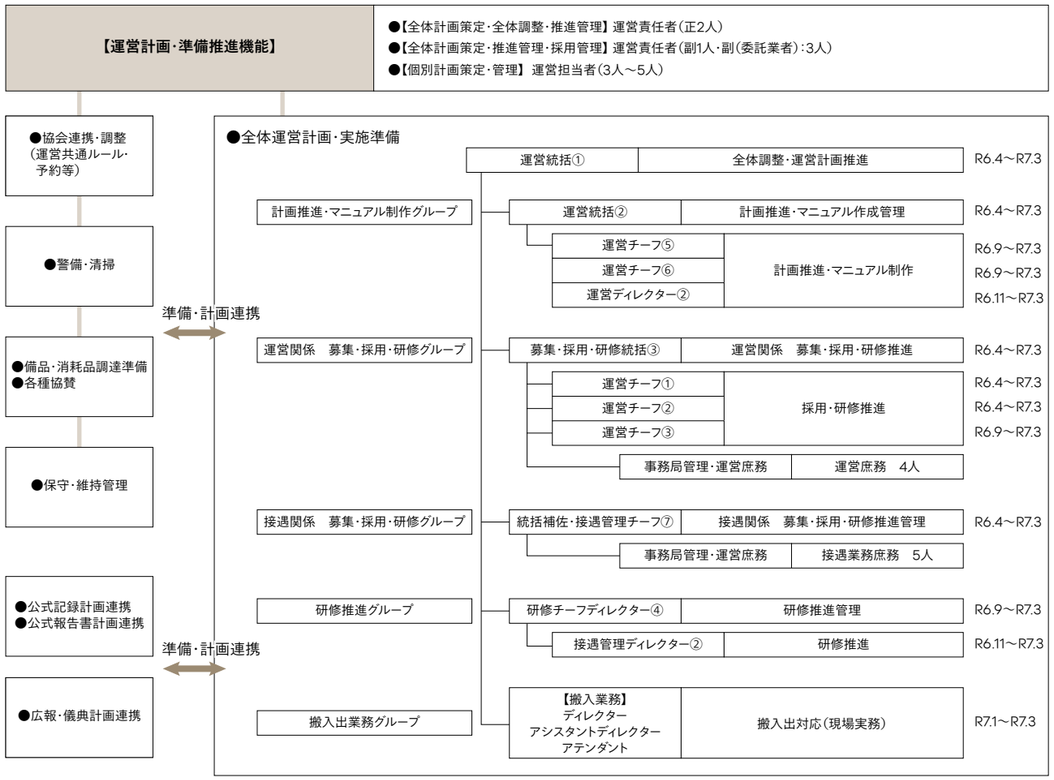


3エリアの区分

来館者数の設計

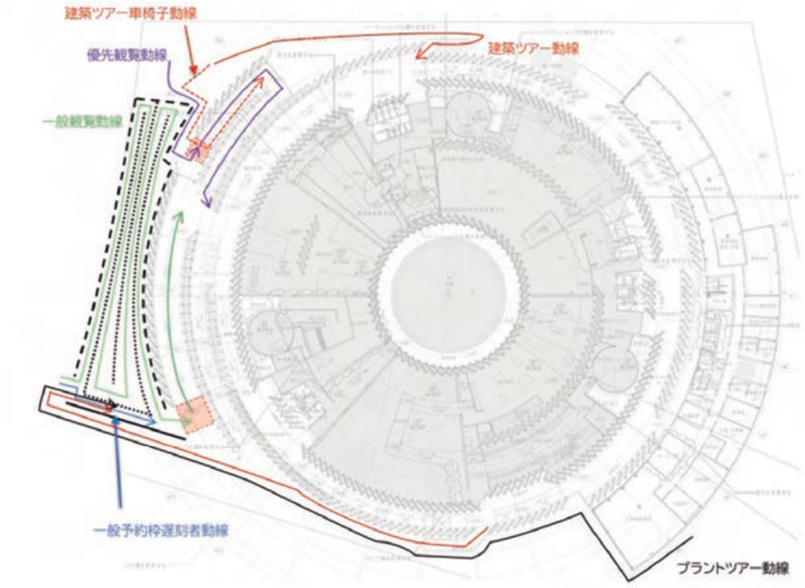
来館者数について、3エリア見学枠は全期間合計97万3,360人(5,290人／日×184日)と試算した。3エリア見学枠については、事前予約抽選(超早割・2か月前・7日前・空枠先着予約)、団体予約、特別ゲスト予約、当日登録(予約)などを想定した。

令和6年度の運営計画・実施体制

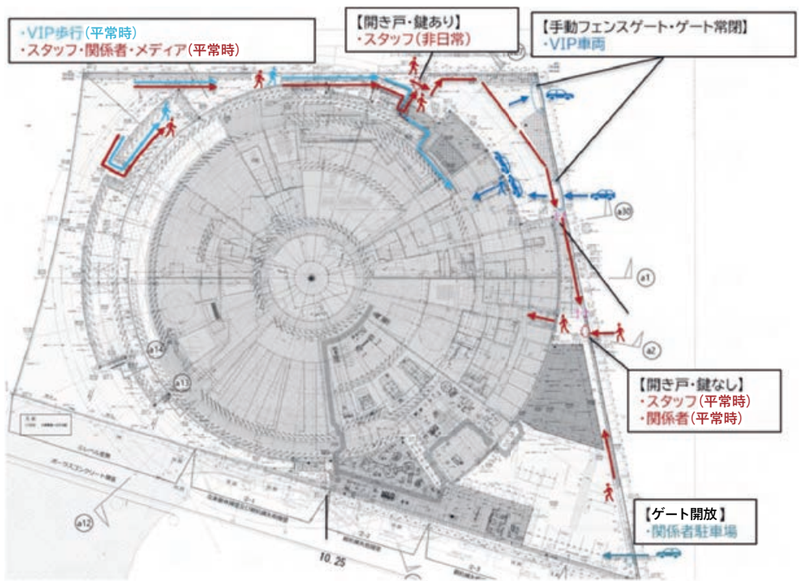


予約なし時間に行うことを検討していた1エリア見学枠は合計44万8,960人（朝1,520人／日＋夜920人／日×184日）と試算した。3エリア＋1エリアの見学で約142万人の来館者数になると試算した。

なお、1エリア観覧については会期直前に再検討した結果、3エリア観覧の優先入館者との同時運用が困難であったことなどから、行わないことが決まった。



一般来館者ルート



関係者・VIP来館ルート

入退場

一般来館者、VIP、関係者など、来館者のカテゴリーによって経路が異なるため、カテゴリーごとの入場経路・来場動線と入館チェックを行う担当配置を整理した。

一般来館者には博覧会協会の入場予約システムを利用し、二次元コードの読み取りによる着券処理を行った。万博会場への優先入場と日本館への優先入館のサービス付きチケット［株式会社JTBが1日300枚限定で販売（2,500円・アテンド付き4,500円）］の購入者については、優先入館口においてチケット券面を目視で確認し、回収を行った。日本館の職員については警備員が日本館パスを目視で確認を行った。

デジタルウォレットサービス（日本館3つのNFT）

万博全体のサービスである「ミャクペ!」「ミャクポ!」「ミャクーン!」を通じ、日本館の魅力を知っていただく機会を提供した。

・ミャクペ!…クレジットカードや銀行口座からチャージして使える二次元コード決済型の万博独自の電子マネーを指す。
・ミャクポ!…会期前から協力会社のキャンペーンやSDGs関連などのポイントプログラムで貯められるポイントを指す。貯めたポイントは日本館では「設計者とまわる日本館建築ツアー」など、万博関連の景品やサービス、特別体験に交換できる。
・ミャクーン!…万博関連のイベント参加やミャクペ!、ミャクポ!の利用で特別なNFT（非代替性トークン）がもらえる。

日本館には三つのNFTがある。また、これらのデジタルウォレット利用やイベント参加などで得られる経験値でステータスが決定し、ステータスに応じてイベントの優先席などの特典に応募できる「ミャクミャクリワードプログラム」を通じ、「設計者とまわる日本館建築ツアー」への予約ができるようにした。

「EXPO2025 デジタルウォレット」アプリ内の「EXPOまいにちクイズ」に正解すると「ミッション達成SBT（トークン）」を獲得でき、またミッション達成SBT保有者には、「ミャクミャクリワードプログラム」の経験値がプレゼントされる。

加えて、日本館を始めとするパビリオンの二次元コードから「EXPOパビリオン検定」に正答すると「合格証SBT」と経験値を獲得できた。

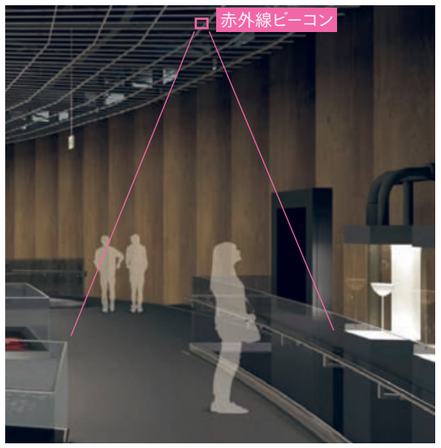
日本館NFT（日本館パース昼）

日本館NFT（日本館パース夜）

日本館NFT（日本館ロゴ）

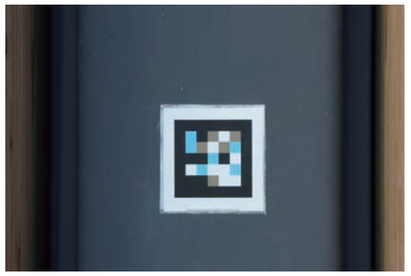
ユニバーサルデザイン対応

前年度に定めた方針を踏襲しつつ、障がいのある方への基本対応を定めた。例えば、入館から退館までの誘導オペレーションやスタッフ配置などのほか、赤外線ビーコンを活用した音声ガイド機器「オルフェオ」、視覚障がい者、多言語向けの移動を支援する音声情報提供アプリNaviLens（ナビレンス）などのガイダンス機材を整備し、視覚による情報が得にくい人でも、音声データで日本館の展示内容説明を聞いていただけるように配慮した。加えて、視覚障がい者の誘導機能を持たせた白杖レールガイドを設置した。



天井に赤外線ビーコンを取り付け、赤外線ビーコンから発射された赤外線を「オルフェオ」に搭載された赤外線システムが受信し、自動で音声を再生する。

音声ガイド機器「オルフェオ」



NaviLens

日本館諸室

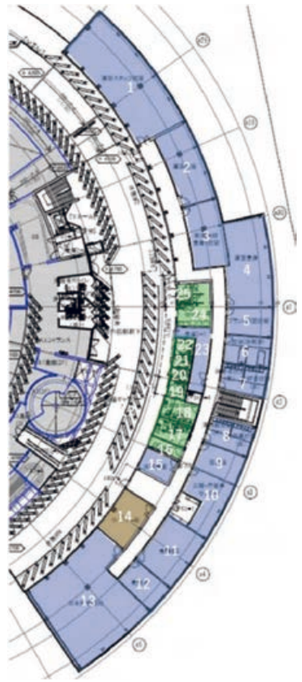
日本館内諸室について、限られたスペースの中で効率的な運営ができるように、面積や設備、動線などの諸条件を基に、用途の確認·変更や室名の設定を行った。

1階諸室

No.	室名	変更前（建築図面名称）
1	応接室　空	事務室5
2	ラウンジ　風	事務室4
3	貴賓室　水	事務室1
4	ゲストルーム2　大地	事務室2
5	ゲストルーム1　光	事務室3
6	控室	事務室8
7	応接室	事務室10
8	会議室2	事務室9
9	中央管理守衛室	
10	1F更衣室／男	更衣室男
11	1F更衣室／女	更衣室女
12	MDF室	
13	EPS1-1	
14	プラントスタッフ控室	展示プラントバイオガス控室
15	ごみ集積所	事務室11
16	VIP倉庫	事務室12
17	事務室1	事務室13
18	警察詰所	事務室14
19	1Fトイレ／女	運営用トイレ（女）
20	1Fトイレ／男	運営用トイレ（男）
21	1F多目的トイレ	多目的トイレ1-1
22	事務室2	事務室7
23	事務室3	事務室6
24	VIPトイレ／男	トイレ（男）2
25	VIPトイレ／女	トイレ（女）2
26	VIPパントリー	パントリー1

2階諸室

No.	室名	変更前（建築図面名称）
1	運営スタッフ控室	
2	2F更衣室／女	運営控室
3	2F更衣室／男	飲食物販倉庫·控室
4	運営倉庫1	
5	運営倉庫2	プラント運営控室
6	公式ショップ控室	仮眠室
7	藻類メンテ控室	技術者控室（男·女）
8	清掃員控室	
9	医務室	
10	広報·行催事室	広報·行催事センター
11	会議室1	会議室2
12	展示スタッフ控室	会議室1
13	日本館事務局	
14	機材ラック室	サーバー室
15	展示倉庫	共通倉庫
16	給湯室	パントリー2
17	2Fトイレ／女	催事者用トイレ（女）
18	2Fトイレ／男	催事者用トイレ（男）
19	外周トイレ／多目的1	HWC2-2
20	外周トイレ／男女1	WC2-2
21	外周トイレ／男女2	WC2-1
22	外周トイレ／多目的2	HWC2-1
23	運営倉庫3	倉庫2-1
24	授乳室	
25	カームダウン·クールダウン室	カームダウン·クールダウン



来館者対応（メディア、一般来館者、VIP）

メディアに対しては事前に受付場所・入口の場所を案内し、優先入館口から入館いただくこととした。

一般来館者に対しては、2023（令和5）年時点で概ね策定されていた一般観覧ルートに加え、ツアー時のルートを定めた。その際、車椅子利用者の動線も考慮した。

VIPについては車両と徒歩の動線を定め、それぞれのVIPの事情に応じて対応した。

スタッフの雇用手配

前年度に策定した人員採用計画に沿って、人員確保のための募集・選考・採用活動を具体的に進めた。

アテンダント

2024（令和6）年4月24日から7月31日まで、250人程度の募集を行った。アテンダントは、パビリオンの案内・誘導や展示説明などを行うスタッフであることや、ホスト国として日本館が公益性の高い性格を持つパビリオンであることを考慮し、一般公募を基本とした。これにより、主に関西エリアの素養ある人材をより多く確保することを目指した。

募集に当たっては、求人媒体を中心に展開したほか、近隣の大学・専門学校へのアプローチ、万博や日本館ウェブサイトでの告知などを行い、応募事務局で応募情報を集約する動線を設計した。

また、時給の設定は、同時期に募集を行い、かつ博覧会協会事業であるシグネチャーパビリオンと同じ1,950円とし、外国語手当として英語・中国語・韓国語のいずれかが話せるアテンダントには月額2万円を支給することとした。

開幕時点では265人のアテンダントが在籍することとなった。

エスコートスタッフ

エスコートスタッフは、多数の国内外のVIP対応が想定されることから、英語が話せることを必須とした。その他、イベントやレセプション、接客業務において外国語での対応経験を有する方、これらに準じる経験を有する方をターゲットとして、人材選定・確保を進めた。

募集に関しては、一般公募ではなく、VIP接遇に強みのある企業や語学スタッフが多数登録されている専門会社などに依頼し、適任者の紹介を受けた上で選考会を実施し、人材の獲得を図った。

開幕時点では30人のエスコートスタッフを起用することとなった。

警備

事件・事故を未然に防ぎ、館内秩序の維持に努めること、及び異常発生時には早期発見、対処を完遂できるよう、館内動線を案内しながら警備を行うこと、また、来客の応接に当たっては親切丁寧を旨とし、不快な印象を与えないよう、自覚を持った対応を行うことを目指した。そのため、教育・訓練を受けた豊富な知識・経験を有する警備員で構成することを図り、警備委託事業者において適任者の人選・採用が行われた。警備隊長と警備副隊長については所定の資格要件を満たすことを必須とした。

清掃関連

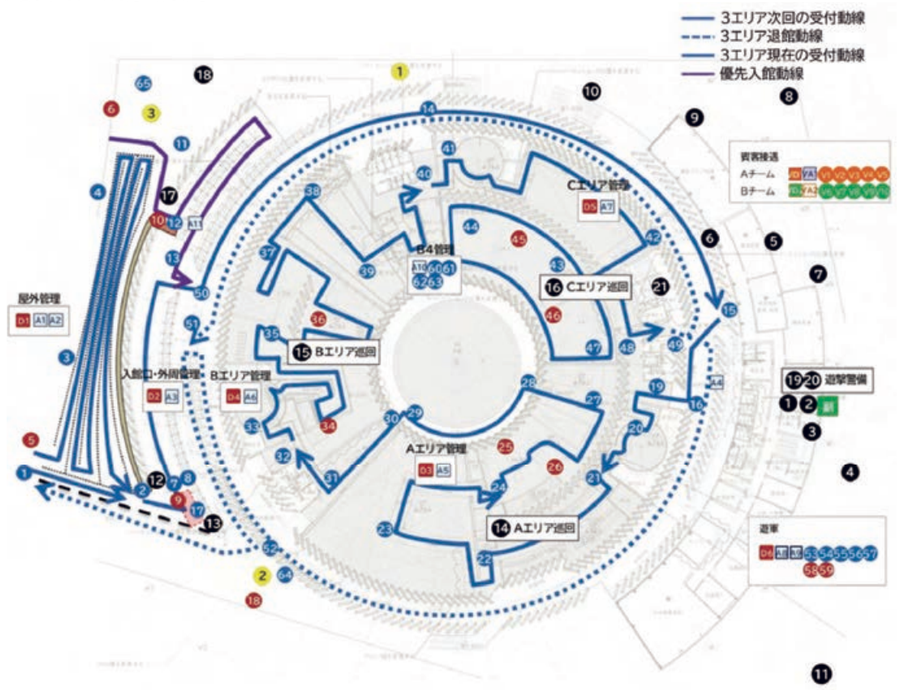
国際博覧会にふさわしいおもてなし空間として、全ての来館者や施設利用者が快適で衛生的に利用できる環境を創造・保持するため、清掃委託事業者において人材の選定・採用が行われた。清掃業務では、各エリアの清掃のほか、トイレットペーパー・石鹸（けん）水の補充や、水盤の粗ごみ除去、植栽への水やりを行った。各持ち場の業務範囲や清掃方法などを徹底し、来館者に不快な印象を持たれないよう周知を図った。

研修

日本館で業務に当たるアテンダントやエスコートスタッフは、日本館と人々をつなげる役割を担い、人と人との関わりにおいて、互いの気づきを成長や未来につなぎ、拡げていくことになる。これを研修の基本方針に据え、「自発的にアクションを起こす研修」「日本流のおもてなし」「日本代表としての存在意義の醸成」を柱として人材育成に努めた。

2024（令和6）年11月中旬に研修テキストによる通信研修を行ったのち、2025（令和7）年1月～3月に基礎研修（3日間）、専門研修（2日間）、応用研修（3日間）を三つのグループに分けて対面で行った。アテンダントへの研修は大阪市の「オーバルホール」で、エスコートスタッフへの研修は大阪市の「大阪御堂筋ビル」で行った。また、1月には研修コーディネーターによるディレクター研修（3日間）も実施した。その後、開幕直前の2025（令和7）年4月に万博会場の日本館において現地研修（12日

運営配置ポスト方針【全体配置】



パビリオン運営	記号	役割	担当
	統	運営業務統括	1人×2交代
	CD1 CD2	運営業務管理チーフディレクター	2人×2交代
	CD3	資客接遇管理チーフディレクター	1人×2交代
	庶D	庶務管理ディレクター	1人×2交代
	庶1 庶2 庶3	庶務スタッフ	3人×2交代
	VD1 VD2	資客接遇管理ディレクター	2人×2交代
	VA1 VA2	資客接遇管理アシスタントディレクター	2人×2交代
	V1～V5 V6～V10	資客接遇管理エスコートスタッフ	10人×2交代
	D1～D6	運営管理ディレクター	6人×2交代
	A1～A11	運営管理アシスタントディレクター	11人×2交代
	1～6	屋外誘導アテンダント	6P/9人×2交代
	7～12	改札/外周/UD音声ガイド雇出誘導アテンダント	12P/18人×2交代
	13～15	Plantエリア誘導アテンダント	13P/19人×2交代
	16～18	Farmエリア誘導アテンダント	8P/12人×2交代
	19～23	Factoryエリア誘導アテンダント	10P/15人×2交代
	24～29	出口・屋外ショップ誘導アテンダント	3P/4人×2交代
	30～35	遊軍アテンダント	5P/5人×2交代
	36 37	遊軍アテンダント（語学）	2P/2人×2交代
	41～45	B4業務アテンダント	4P/6人×2交代
	46 47	スタンプラリー管理アテンダント	2P/3人×2交代
	●は外国語対応スタッフ優先配置	アテンダント合計	65P/93人 × 2交代:186人

パビリオン警備	記号	役割	担当
	隊	警備隊長	施設警備・雑踏警備業務統括
	副1 副2	警備副隊長	警備隊長の補佐、統括業務補佐
	1	守衛室	守衛室管理
	2	受付	守衛室受付対応／守衛室管理
	3-4	関係者入口/通用口前	守衛室受付対応／通門管理
	5-6	VIP入口（車両/徒歩）	VIPエリアのセキュリティ管理
	7-8	VIP車両入出庫口	VIP車両入出庫時の安全管理
	9	VIP駐車場	VIP駐車場内の安全管理
	10	VIP（徒歩）入場扉	徒歩来場VIPの通門管理
	11	プラントヤード車両入出庫口	プラントヤード入出庫車両の安全管理
	12-13	一般来館者入口	入口周辺の安全管理
	14	館内巡回	Aエリア巡回・安全管理
	15		Bエリア巡回・安全管理
	16		Cエリア巡回・安全管理
	17	優先入場入口	優先入場入口周辺の安全管理
	18-19	VIP（徒歩）動線入口	徒歩来場VIPの入口動線管理
	20	遊撃（守衛室待機）	遊撃警備／イレギュラー対応
	21	2F EVホール前	EVホール通門管理
	1	警備ロボット1	VIP（徒歩来場）動線巡回監視
	2	警備ロボット2	公式スタンプエリア監視
	3	警備ロボット3	オリジナルスタンプエリア監視
		警備員合計	警備隊長 1P 副隊長 1P 警備員 21P/32人

間）を行った。エスコートスタッフはVIP研修（5日間）を別日程で実施した。

・基礎研修…スタッフとしての基礎知識と「おもてなし」マインドの醸成を図り、接遇の基礎マナーや日本館の基礎知識・業務内容などを学んでもらった。

・専門研修…日本館スタッフとして必要なホスピタリティを考えて実践してもらうことやコミュニケーション能力などの向上を狙った。具体的には、展示説明練習、スピーチトレーニングなどのほか、ユニバーサルデザインワークショップ（以下、UDWS）委員の渡部安世氏や、特定非営利活動法人 DPI日本会議副議長の尾上浩二氏に基調講演を行っていただき、その後ユニバーサルマナー研修などを行った。講演では聴覚障がいや感覚過敏の方への応対方法に関する実体験や、日本と世界のユニバーサルデザインの比較、日本の課題などをお話しいただいた。

なお、UDWS委員の選定経緯は下記のとおりである。

①国土交通省近畿地方整備局主幹のUDWSにて、UDWS委員の研修参加への要望があり、ユニバーサルデザイン研修の一環としてUDWS委員に講演をいただくこととした。

アテンダント 専門・応用研修テキスト

専門研修の様子

②国土交通省近畿地方整備局を通じてUDWS委員長より、「複数の障がい当事者に登壇してもらうこと」、「全般的なことを語れる人、聴覚障がいを持つ人、視覚障がいを持つ人の3人程度」という条件の下、適任と思われる委員候補を選出いただいた。

・応用研修…基礎・専門研修を踏まえ、応用として自ら考え、行動するスキルを育むことを狙い、基礎・専門研修を踏まえたスピーチトレーニング、ポスト別練習、総合ロールプレイングなどを行った。

・ディレクター研修…管理者として必要となる意識や在り方、必要なスキル、知識を中心に研修コーディネーターによる研修を実施した。

・現地研修…配置業務のオペレーションや具体的なパビリオン運営業務の把握、緊急時対応などについて、ケーススタディ形式で体得する研修を行った。

・VIP研修…VIP接遇業務における基礎的な心得、立ち居振る舞いから、実践的な対応の理解と習得を徹底的に教育することを目指し、VIP接遇研修、VIP対応に伴う業務研修を行った。

アテンダントユニフォームの製作

クリエイティブディレクターの中田優也氏が手がけたアテンダントユニフォームは、協賛者である東レ株式会社から提供された。「日本の美意識を纏（まと）う」というコンセプトに基づき製作され、日本の伝統衣装である着物の構造を基に、余白を大切にする日本的な感覚を体現したデザインで、年齢や性別を問わず、多様なスタイルで着用できるように設計された。また、植物由来のポリエステル繊維や、使用済みのペットボトルを原料としたリサイクル繊維など、環境に配慮したサステナブルな素材も活用している点が特長であった。

2.3　会期中の運営（令和7年度）

日本館に関わるスタッフが適切な対応を行い、円滑な運営ができるようにルールを定めた。また、日本館の運営に際して生じた課題にも対応し、適宜ルールやプログラムを策定・更新していった。

館内の運用

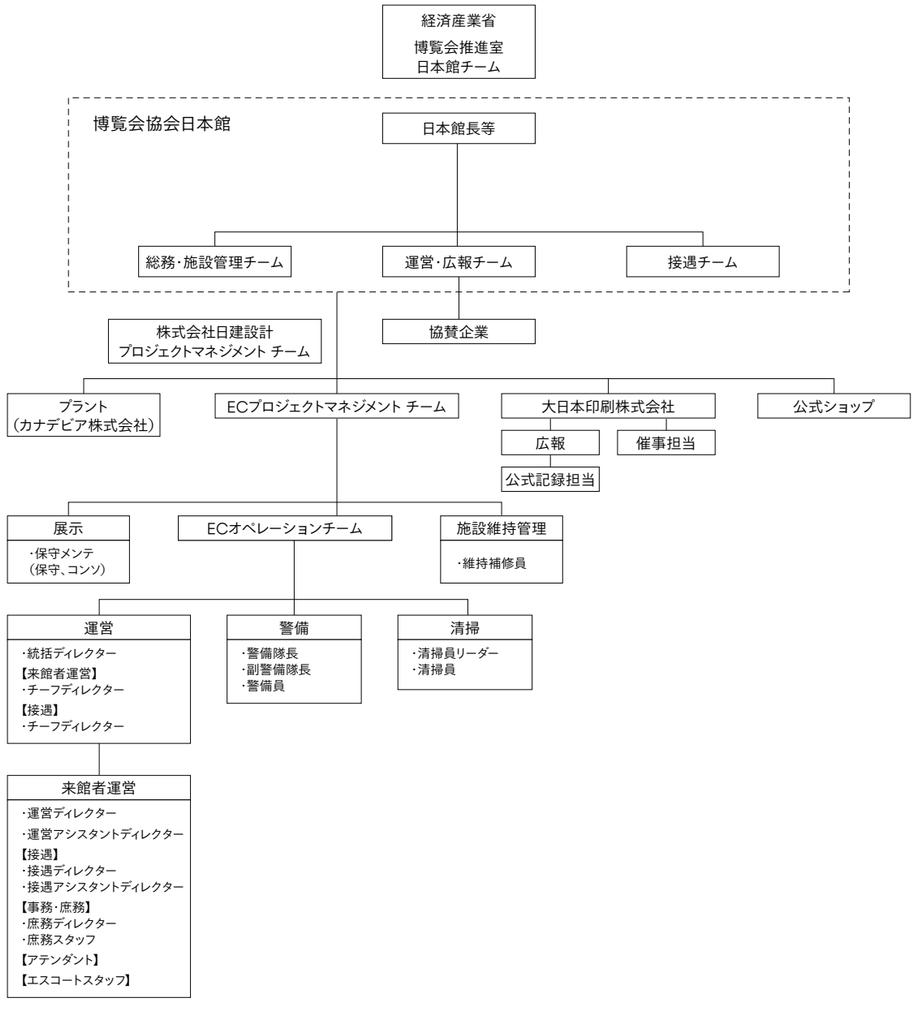
組織体制と役割

日本館長以下、総務・施設管理チーム、運営・広報チーム、接遇チームで構成される博覧会協会日本館の下、運営に関わる各チームが連携をとれる体制を整えた（組織体制図）。事務局長を始めとする管理者や関係事業者などの緊急連絡先、火災時・事故時などの館外の緊急連絡先を一覧で整理したほか、各事業者の出退勤時間などについても定めた。

関係者入退館における基本事項

東ゲートまたは西ゲートにて、関係者入場証（以下、AD証）で入場後、日本館では関係者入口から日本館パスで入館することとした。

組織体制図



鍵の管理

館内の扉は、日本館パスによるカードキー式電子錠のほか、シリンダーキーで解錠する扉もあり、シリンダーキーの管理については運営委託事業者が行った。

カードキー（日本館パス）は各スタッフに紐付け、所属グループや男女などによって異なる解錠権限を事前に設定した上で貸与した。また、カードキー紛失時も即時対応できるようにした。

シリンダーキーについては、扉を開ける必要が生じた際に運営委託事業者に借用依頼を行ってもらい、貸与する形とした。

バックヤードの使用方法

関係スタッフが使用可能な控室（休憩室）と更衣室を館内の所定の場所に用意した。

控室（休憩室）内での冷蔵庫利用及び飲食は可能とした。ただし、私物を置くことや私用のコンセント使用などは禁止した。

更衣室は男女とも1階と2階に1室ずつ設け、ダイヤル式施錠のロッカーで所有物の管理などを行ってもらった。共用スペースであることから、においの強いものは原則持ち込まないこと、整理整頓を心がけてもらうようにした。

アテンダントとしての心得

「一人ひとりが日本館」というキャッチコピーを掲げ、勤務中は「アテンダント」としての自覚と責任を持ち、業務にふさわしい言葉遣い、態度、身だしなみを心がけることとした。具体的には勤務態度や接客マナー、身だしなみに配慮することや、来館者を歓迎する心、常に来館者から見られている意識を持ち、行動や態度に注意することを促した。

また、AD証を利用した他館への入館や、ユニフォーム着用のままでの来館者・来場者用の施設の利用を禁止するなど、来館者・来場者にとって安心で快適な空間を保つためのルールも設けた。

バックヤード図

2F-1 運営スタッフ控室

2F-10 広報・行催事室

2F-13 博覧会協会日本館

アテンダントの職場環境向上に向けた取組

ディレクターとのコミュニケーション促進や投書箱の設置を通じて、アテンダントが働きやすい環境の向上を目指し、冷水サーバーや個別空調の追加設置などを実施した。また、6月にアテンダント等で結成された労働組合（アテンダント等の雇用元会社において結成）からの意見も踏まえて、適宜職場環境向上のための具体的な運用ルールの見直しに努めた。

清掃対応

日本館の清掃業務は、基本的に次の4項目を目的として業務を実施した。

・人の健康を守る「衛生性」
・人に快適さを与える「美観」
・建築物の機能を長持ちさせる「保全性」
・建築物各室の安全を確保する「安全性」の維持

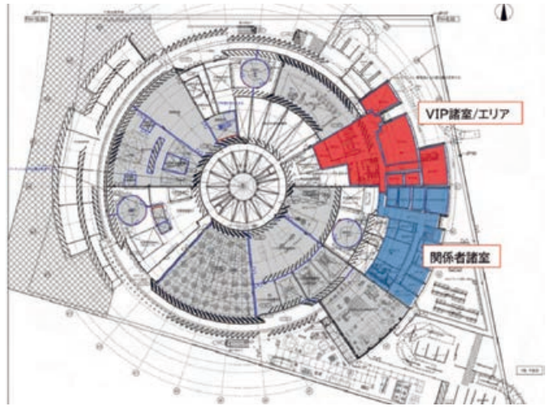
清掃について毎日行う日常清掃と定期的に行う定期清掃に分け、それぞれの清掃範囲を定めた。日常清掃は、①1階のVIP諸室／エリア・関係者諸室、②2階の展示エリア・共用部・関係者諸室、③1階の外構部分、④外周～スロープ部とした。定期

清掃業務の管理体制

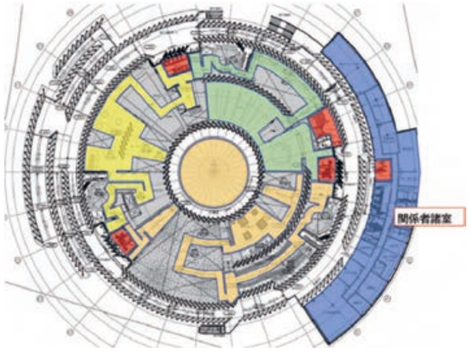
博覧会協会日本館	・清掃業務全体統括：清掃業務に関する方針や清掃品質の最終的な確認など。 ・ECオペレーションチーム連携：清掃に関する要望や課題を共有し、清掃業務の改善を図る。
↓	
ECオペレーションチーム	・清掃業務の計画と調整：清掃スケジュール作成、清掃範囲の指定、清掃方法の策定など。 ・清掃業者との連携：作業指示、作業状況の確認、問題発生時の対応など。 ・清掃品質の確認：清掃業者による清掃完了後のチェック、清掃状況の記録。 ・博覧会協会日本館への報告：清掃業者に関する報告、課題や改善点の提案。
↓	
清掃委託事業者 ・清掃責任者：1人	・清掃員への指示・監督：作業指示、作業分担、作業状況の確認、清掃員の指導・教育など。 ・清掃資機材の管理：清掃資機材の調達、保管、メンテナンスなど。 ・ECオペレーションチームとの連絡：作業報告、問題発生時の報告・連絡・相談。 ・清掃品質の確保：清掃作業の最終チェック、清掃員の作業品質管理。
↓	
・清掃員：7人	・清掃作業の実施：責任者からの指示に従い、清掃作業を行う。 ・清掃品質の維持：適切な清掃方法で作業を行い、清掃品質の維持に努める。 ・清掃用具の適切な使用：清掃用具の使用方法を遵守し、丁寧に扱う。 ・日常報告：作業中に気づいたことや問題点などを責任者に報告する。

清掃エリア図

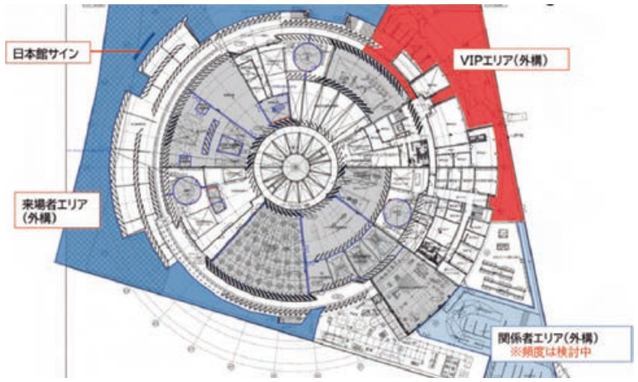
【日常清掃（1F VIP諸室／エリア・関係者諸室）】



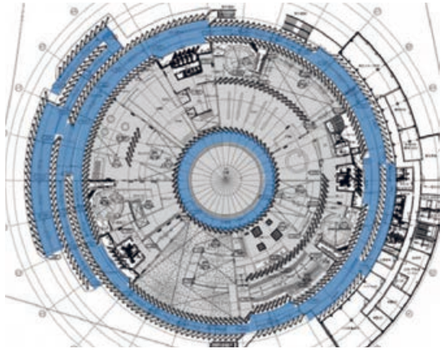
【日常清掃（2F 展示エリア・共用部・関係者諸室）】



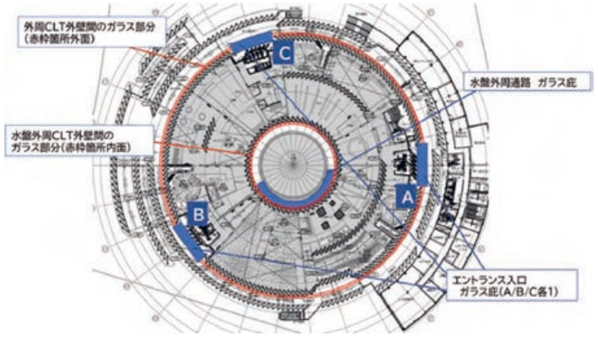
【日常清掃（外構1F部分）】



【日常清掃（外周～スロープ）】



【定期清掃（CLT外壁間のガラス部分&ガラス庇）】



清掃はエントランス入口などのガラス庇（ひさし）を月4回、水盤の清掃等を月1回行った。

衛生管理

開幕してから博覧会会場で広く発生していた衛生昆虫の一種であるユスリカ·セアカゴケグモ·カメムシが日本館でも発生した。また、7月19日から8月31日まで万博会場で毎日実施されたミニ花火大会で発生した煤（すす）が日本館の屋根や庇に降り注いだ。なお、燕（つばめ）が水盤のCLT（直交集成板）に巣を作る問題も発生した。以上の衛生上の問題に関しては、定期的な清掃や防虫·防除含めた衛生対策により対処を実施した。

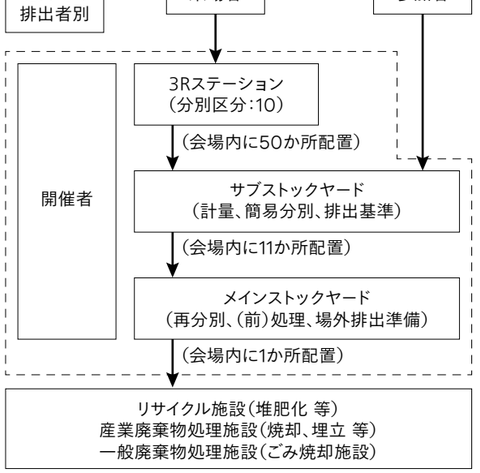
廃棄物分別

日常清掃や運営などに伴い館内で発生する廃棄物については、会場内の廃棄物のルールに従って処理することを決めた。具体的には、1階の「ごみ集積所」に分別用カートを設置し、そこに一時的に集積する。集積した廃棄物については、博覧会協会が定める「ごみの適正処理等に関するガイドライン」に沿って、清掃委託事業者が毎日指定時間内にサブストックヤードに持ち込み、処理を行うこととした。なお、水銀使用製品やテレビなどの家電リサイクル法に基づく家電、専門的な処理を要する廃棄物などはサブストックヤードへの持ち込み不適物とみなし、開催者の指示に従って適切な処理を行った。

分別区分表

No.	分別区分	回収容器	注意事項
1	生ごみ	指定回収容器（ウエイストペール）	ビニール袋などに入れた上で、指定回収容器に入れる。 生ごみ以外を混入しない。
2	業務用缶	内容品が見える袋	缶の内容物を空にする。
3	缶 （アルミ、スチール）	内容品が見える袋	缶の内容物を空にする。 アルミ缶とスチール缶は分別。
4	びん	内容品が見える袋	キャップをはずし、内容物を空にする。
5	ペットボトル	内容品が見える袋	内容物を空にする。 キャップ、ラベルを外す。
6	ペットボトル （キャップ）	内容品が見える袋	ペットボトル本体、ラベルと分ける。
7	発泡スチロール	内容品が見える袋	汚れや付着物をできる限り除去する。
8	プラスチック類	内容品が見える袋	ラベルを含む。 関係者弁当ガラ（容器は清掃）を含む。
9	段ボール	任意	折りたたんだ上で、持ち込みする。
10	紙類	内容品が見える袋	個人情報などの秘密情報は、判別不能な状態にする。
11	木製パレット	任意	
12	燃やすごみ	内容品が見える袋	再生利用できるものを混入しない。
13	混合廃棄物	内容品が見える袋	分別区分で分別できる廃棄物は混入しない。

会場内の廃棄物の流れ



【参加者に関する事項】

·原則として、会場内で消費されることが前提の販売物から発生する廃棄物も参加者の責任。

·自己の責任において、分別区分（開催者指定）に分別し、サブストックヤードに持ち込み。
·管理道路を台車、キャスターペールを利用して輸送。

·サブストックヤードにて分別区分別に計量。
·参加者が排出する廃棄物は、計量された分別区分ごとに処理費用を従量制で算出。
·処理費用は清掃管理センター（開催者）から参加者に請求。
·危険物等の分別区分にない廃棄物は、受け入れしない。
※但し、清掃管理センター（開催者側）で処理業者の紹介を行う。

·産業廃棄物処理委託契約書の締結、産業廃棄物管理票の交付等管理は、開催者が代行して行う。

※参加者が独自に廃棄物を処理することは可能。但し、次の報告を求める。
【事前】廃棄物の品目
【事後】廃棄物の種別と排出量、処理方法、リサイクル量

ごみ出しのルール

ごみの分別については、各出展者が定められた区分ごとに分別·管理し、廃棄することとした。

館内においては、各控室にごみ箱を3個設置し、①燃やすごみ、②プラスチック類、③ペットボトルに分けて廃棄できるようにした。1階パントリーと2階給湯室にもごみ箱を3個設置し、①燃やすごみ、②びん、③缶に分けて廃棄できるようにした。また、弁当の食べ残しなどの生ごみについては、パントリー

と給湯室の生ごみ用バケツに水道で汚れを流してから廃棄することとした。それ以外の段ボールや発泡スチロール、発泡トレイ、電池類などは1階の「ごみ集積所」に直接廃棄することとした。

情報管理

日本館の情報資産を保護し、円滑に運営するため、日本館に関わる全職員・アテンダント・関係者に対し、全ての情報及び情報システムの管理を徹底した。

具体的には、個人情報保護法などの関連法令、関連規程などを参考に、以下の項目について取り扱いルールを定め、システムなどの管理体制を整えたほか、アテンダントに対する定期的なセキュリティ研修などを行った。

・情報セキュリティポリシー
・情報の取り扱い（機密情報、個人情報、電子データ、持ち出し／持ち込みのルールなど）
・情報システムのセキュリティ（アクセス制御、パスワード管理、ウイルス対策など）
・インシデント対応（情報漏洩発生時、障害発生時、サイバー攻撃などへの対応）
・教育／研修（アテンダントへの研修の実施）

消防・防火等安全管理体制

消防・防火等の安全管理に当たっては、博覧会協会が定めた防火・防災等に関するガイドラインに基づいて、防火管理者、防火責任者、火元責任者による管理体制を構築した。

防火管理者、責任者は博覧会協会が担い、特に防火管理者は博覧会協会日本館職員から選任した。

火元責任者は外部委託事業者が担った。屋外・外周・館内の各エリアなど、業務内容で6グループに分かれ、それぞれについて防火管理状況の確認を行った。また、火元責任者の指導の下、自主点検管理者が平素の消防・防火設備などの維持管理を行った。

さらに、総合防火管理者の下、自衛消防隊を組織し、総務班、通報連絡班、消火班、救護班、避難誘導班、警護班、緊急処理班に分け、必要な際は、現地消防隊と連携しながら、班ごとに定められた任務に当たった。

総合防災訓練

2025（令和7）年4月1日、博覧会協会危機管理局の下で総合防災訓練が行われた。訓練の目的は大きく二つ、「地震発生時における会場内全体の避難者の流れを検証し各計画に反映する」ことと、「火災事案における関係機関との連携を確認する」ことであった。

午前は自由参加型避難訓練の「地震発生時の自主防災訓練」とし、各パビリオンへの緊急地震速報や、協会警備隊による屋外避難場所への誘導などを行った。午後は公開合同訓練の「火災対応訓練」とし、日本館の給湯室から出火した想定で日本館の避難誘導・通報や、大阪市消防局による消火・救助などを行った。

総合防災訓練

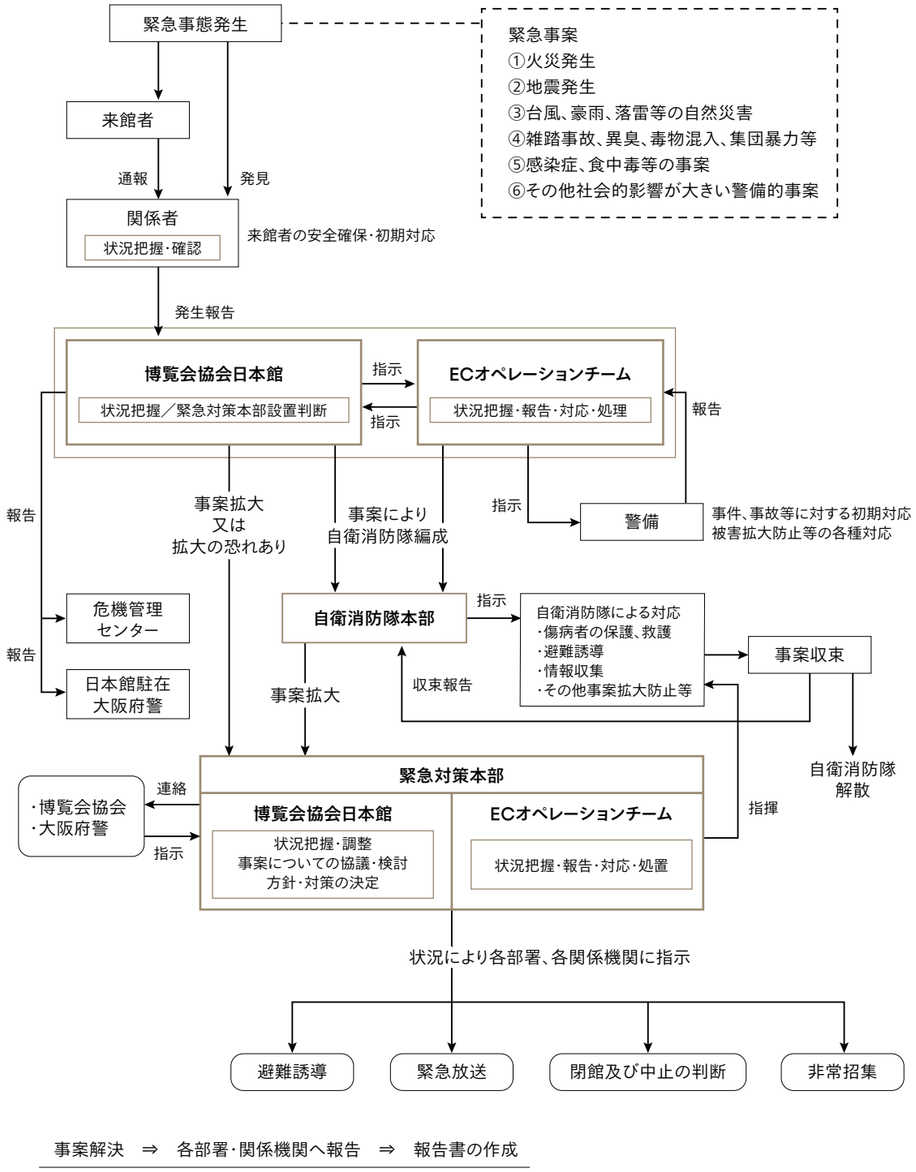
緊急体制

火災・地震の発生や台風等の自然災害、感染症・食中毒など、緊急を要する突発事案が発生または発生のおそれがある場合、日本館長を中心とした緊急体制を敷くことにした。緊急体制が敷かれた場合、緊急体制関係者及びこれらの指揮下にある博覧会協会日本館職員及び運営委託事業者を非常招集し、緊急対策会議で各事案についての対策・方針の決定と各関係者への指示を行い、来館者の安全確保に当たることとした。

博覧会協会日本館は、運営委託事業者からの情報を集約し、状況把握と情報収集を行い、状況に応じた対応を行うことで、事案の早期解決に努めた。

また、緊急事態発生時、日中・夜間のそれぞれで

緊急時の日中体制



事案解決　⇒　各部署・関係機関へ報告　⇒　報告書の作成

緊急時の夜間体制

夜間に緊急事案が発生した場合、発見者が警備守衛室に通報を行う。
職員への連絡は「緊急連絡網」により行う。

迅速な対応がとれるよう体制を整えた。

各種申請、帳票の流れ

日本館の日々の円滑な運営・管理のため、来館者数などのほか、トラブル・クレーム対応や特記事項については、運営委託事業者が運営日報を毎日記載することとした。

なお、クレーム対応を含む事案発生時においては、それぞれの事案に対する報告書を作成することとした。

また、特別対応などが必要と思われる事項に関しては申請書を作成し、館内外の申請者に以下の申請書への記入を依頼することに決めた。

・取材申込書
・優先入館依頼書
・深夜作業申請書
・日本館パス申請書
・駐車場利用申請書
・搬出入申請書

さらに、館内での情報共有、管理のために下記の書類についても記入することを決めた。

・拾得物一覧表

（様式5）

日本館 駐車場利用申請書

申請日　令和　年　月　日

会社・団体名	0
申請者氏名	0
連絡先（携帯電話）	0

車両情報を記入してください

利用予定日時	月　日 時　分　～　時　分
車種	例）トヨタ ハイエース等
車両ナンバー	例）大阪 230 と 1234
車両色	例）白、黒、グレー等
会社・団体名	
運転者氏名	
運転者連絡先	
利用目的	
車両入場許可申請の有無※1	プルダウンより選択
希望駐車場所※2	プルダウンより選択
ドライバーのAD証有無※3	プルダウンより選択
備考	

<日本館展示等コンソーシアム 記入欄>

駐車枠No.	備考	EC確認	守衛室確認

駐車場利用申請書

（申請日　年　月　日（　））

日本館パス申請書

申請社名／部署	／
申請者氏名	

下記の通り申請致します。

使用期間	年　月　日～　年　月　日まで		
フリガナ		性別	
使用者氏名			
使用者所属会社名・団体名			
フリガナ			
住所	〒		
生年月日	西暦　年　月　日（満　歳）		
電話番号		携帯電話	
E-mail			
使用目的			
備考			

管理者使用欄

種類	□通用パス □ゲストパス □臨時パス	カード発行番号	
□日本館事務局（男性・女性） □警備（男性・女性） □運営管理者（男性・女性） □清掃 □アテンダント（男性・女性） □VIPエスコート（男・女） □協賛・協力事業者 □広報・催事 □ショップ事業者（男性・女性） □プラント事業者 □展示保守メンテナンス（男性・女性） □施設維持管理（男性・女性） □大阪府警 □その他：具体的業務・活動場所を以下に記載		受取確認	受取日 / 氏名 / 会社名 団体名
		返却確認	返却日 / 氏名 / 会社名 団体名

承認印		
日本館事務局		EC

日本館パス申請書

運営体制とスタッフの業務

運営に当たっては、スタッフ間の責任体制、指示命令系統、役割分担を明確にする必要がある。日本館の運営は、日本館長等の下、総務・施設管理、運営・広報、接遇の3チームを配した博覧会協会日本館を組織して行った。各チームではチーム長の下、スタッフを配置した。また、博覧会協会日本館がECオペレーションチームなどに指示を与える体制を整えた。

博覧会協会日本館の各スタッフの役割は以下のとおりである。

・日本館長…日本館における最高責任者として、日本館全体の運営・安全管理・接遇対応・広報対応などに関わり、管理責任を担う。
・副館長…副責任者として、日本館長のサポート、日本館長の代行業務などを行う。
・事務局長…博覧会協会日本館における統括責任者として、日本館長のサポート、代行業務のほか、各チーム業務の指導管理、チームをまたいだ業務の統括などを行う。
・総務・施設管理チーム長、運営・広報チーム長、接遇チーム長…各チームの業務内容に応じた管理・調整などの業務を行う。

また、運営委託事業者の各スタッフの役割は以下のとおりである。

・運営チーム…事務局など関係各所との連絡・調整や各種申請、総務・庶務業務のほか、パビリオン運営や警備・清掃業務に係る指示・調整などを行う。
・展示チーム…展示制作物の保守管理などを行う。
・施設維持管理チーム…館内設備の保守管理などを行う。

運営·警備人員の配置と役割

会期中、警備業務の円滑化を促進し、施設の危険要因を把握·対策を講じることで、事故·事件の防止を図った。さらに、関係者とのコミュニケーションを密にし、業務内容の進捗状況や緊急事案を共有することで、施設に関わる運営、展示、防犯その他各員が一体となって開催運営に取り組める環境づくりを担った。

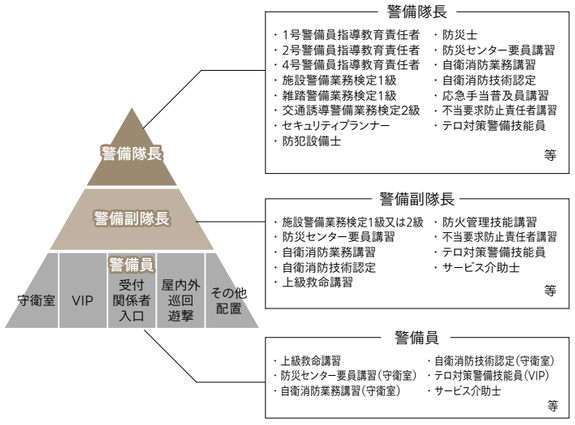
さらに、警備員は委託された責任を自覚し、服装や言葉遣いなど日本館の警備員としての品位を保つことはもちろん、自身も日本館の運営に深く寄与していることを肝に銘じて保安業務を遂行した。それぞれの部署で必要とされる有資格者を配置し、運営オペレーションチームとの円滑な協議·連携を図った。

警備体制について

警備隊の業務実施にあっては、以下のサポート体制を構築。警備シフトについては、日中警備と夜間警備に分けた勤務体制とした。ただし、緊急事態や特別な案件が発生した場合は、臨機応変な対応をとった。

警備に当たっては、ヘッドマウントディスプレイ（HMD）及びウェアラブルカメラを装着することで、有事の証拠、記録を容易にし、かつ素早い情報共有により最短ルートでの駆けつけ、対応手順の適正化などを図った。

また、高度な自律移動性能とリアルタイム通信を活用できる自律移動警備ロボットSQ-2も導入することで、警備員の負担を軽減し、より高度で安全性の高い警備を実現した。



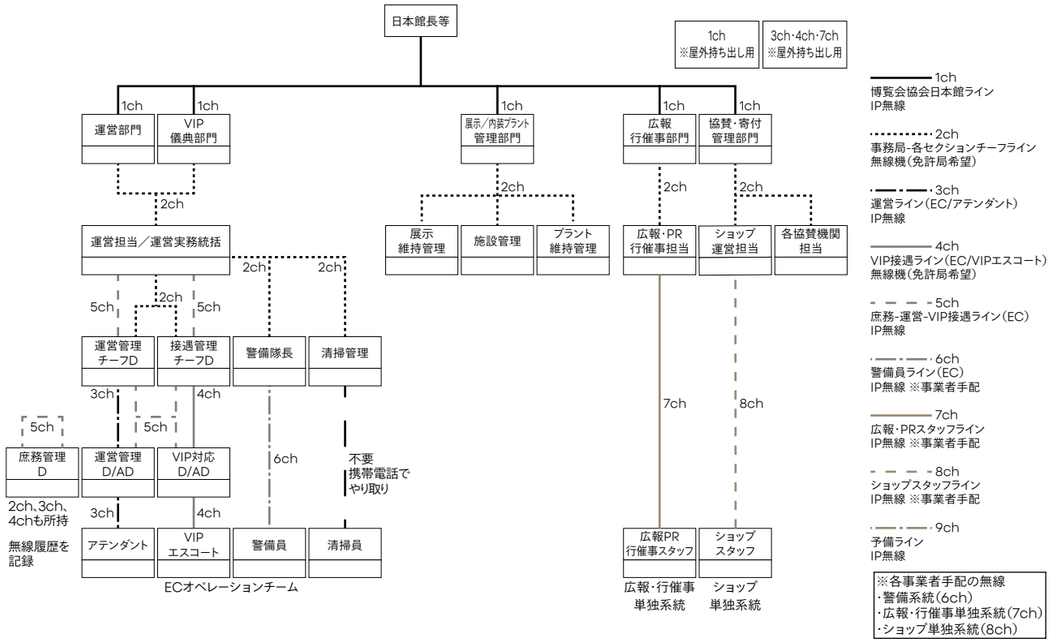
※警備ロボット活用

通信連絡体制

日本館には多岐にわたるスタッフが同時進行で活動し、同時進行で様々な情報と出合うことになる。そのため、日本館長等を頂点とした無線機による「通信連絡体制」を敷き、さらに緊急時連絡のために「日中警備体制」と「夜間警備体制」の2種類に分け、連絡体制を系統立てて構築した。日本館の使用無線機は、「免許局デジタル簡易無線機」を基本としたが、博覧会協会との調整によって免許局のチャンネルの割り振りが必要数確保できなかったため、必要数をIP無線機で補い、次の主要な4系統のスタッフに配布した。

- ·博覧会協会日本館各部門
- ·運営委託事業者
- ·運営、接遇チーム、ディレクター、アシスタントディレクター、庶務ディレクター
- ·アテンダント、エスコートスタッフ

無線機系統図



来館者対応関連

遺失·拾得物対応

遺失物の問い合わせについては、まず日本館内にて保管があるかを確認し、状況に応じて館内を捜索した。遺失物が発見された場合は、ディレクター立ち合いの下、慎重に返還するが、発見できなかった際は、遺失者自身に忘れ物センターや案内所に届け出ていただくよう案内した。

また、来館者から拾得物の届出があった場合は、拾得した状況·情報を聴取し、拾得物に関する権利の説明を行い、報労金や拾得物の所有権を主張される際は、自身で忘れ物センターに届け出ていただ

くよう案内した。権利を放棄され日本館で預かった場合は、拾得情報を記入したメモとともに、東ゲート忘れ物センターに届け出ることとした。拾得物は午前と午後に分けて届け出るが、閉場の1時間前までには必ず届け出ることを決定した。

迷子・尋ね人対応

迷子が発生した場合、緊急性を要するため、早期解決のために速やかかつ正確な情報共有を行うよう努めた。

日本館で迷子捜索が発生した場合は、まずアテンダント及びディレクターによる初動捜索を開始するとともに、警備員による巡回捜索、監視カメラによる映像確認を行った。それでも対象者が見つからなかった場合は、速やかに博覧会協会の迷子センターに対応を引き継いだ。

また、迷子を保護した場合は、まずは迷子の気持ちを落ち着かせてから、氏名と年齢、誰と来たのかなど必要情報を聴取した。また、保護者も探していることが多いため、保護した迷子の所在を常に明らかにしておくとともに、関係者間で情報を共有して早期解決を図った。それでも保護者が見つからない場合は、博覧会協会の迷子センターに対象者を誘導し、対応を委ねた。

クレーム対応

クレーム対応の基本は、「迅速な対応」「丁寧な応対」「誠意ある対応」「正確な情報提供」「記録の保管」である。その際、次の点に留意した。

- ・個人情報の保護:来館者の個人情報は適切に管理し、プライバシーへの配慮を怠らない。
- ・二次被害の防止:クレーム対応によって他の来館者へ被害拡大などが起こらないよう注意する。
- ・冷静な対応:感情的な人に対しては、特に冷静に対応して相手のペースに引き込まれない。
- ・責任の所在:原因が運営側にない場合でも、責任逃れをすることなく誠意を持って対応する。
- ・エスカレーション:対応が難しいケースは速やかに責任者、危機管理センターへ報告する。

クレーム対応後は対応報告書を作成し、博覧会協会日本館へ報告した。また、行き過ぎたカスタマーハラスメントは「顧客等からの著しい迷惑行為」と定義し、対策を講じるとともに迅速適切に対応した。

カスタマーハラスメント対策

博覧会協会は、カスタマーハラスメントに対する基本方針を策定し、「お客様からの要求・言動のうち、当該要求・言動の要求内容の妥当性に照らして、当該要求を実現するための手段・態様が社会通念上不相当なものであって、当該手段・態様により職員等の就業環境が害されるもの」をカスタマーハラスメントと定義した。

その上で、カスタマーハラスメントへの対応として、お客様の要求・言動がカスタマーハラスメントに該当すると判断した場合には、本方針、チケット購入・使用規約及び持込禁止物・禁止行為に関する来場者向け規約等に基づき、博覧会会場への入場を許可せず、また、入場後にカスタマーハラスメントが生じた場合には博覧会会場から退場させることとした。特に悪質なケースに対しては、以降の博覧会会場への入場を制限し、その他一切のお客様対応及び博覧会が提供する各種サービスのご利用をお断りすることとした。日本館では、本方針に基づきカスタマーハラスメントに対し、毅然（きぜん）とした態度で、組織的に対応した。

ユニバーサルデザイン（UD）対応

国、地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無にかかわらず、日本館への来館者は全ての人が館内を同一の動線で移動し、同一の感動を享受できるよう、ユニバーサルデザイン対応方針のとおりサポート体制を整えた。様々な展示やイベントを楽しく鑑賞・観覧し、そして火災等の災害時には的確な情報を得て安全迅速に避難できるよう対応し、「誰一人取り残さない社会」の実現に向けた「インクルーシブな博覧会」にふさわしい国際的レベルのユニバーサルデザイン対応に努めた。

ユニバーサルデザイン対応方針

区分	展示対応	運営対応	備考
視覚障がい	UD音声ガイド端末 ナビレンス　白杖レールガイド BGM　ナレーション	アテンダントアテンド対応 盲導犬の入館可	触れる展示 （Plant-09）など
聴覚障がい	キャプション／テロップ 展示音声ガイド（文字情報） 軟骨伝導イヤホン貸出 筆談アプリ（博覧会協会提供）	アテンダントアテンド対応 ※挨拶程度の手話は全員対応可 筆談ボード メモ帳等の携行	アテンダントによる手話対応（若干名）
車いす（肢体障がい）	展示観覧バリアフリー動線 多機能トイレ	人的アテンド対応 雨天時のサポート	特に入館時のスロープ、入口では十分にケア
精神障がい	カームダウン・クールダウン室	人的アテンド対応 必要に応じて動線確保など	
内部障がい	多機能トイレ 休憩スペース（ベンチ） 医務室	人的アテンド対応	見た目で分かりにくい障がいであることへの理解
多言語	多言語表記（キャプションなど） 展示音声ガイド 翻訳アプリ（博覧会協会提供）	語学対応アテンド対応	
高齢者	展示観覧バリアフリー動線 休憩スペース（ベンチ） 医務室	人的アテンド対応	
子ども	授乳室　ベビーカー置き場 休憩スペース（ベンチ）	人的アテンド対応	リーフレット配架
LGBTQ	多機能トイレ		アンケートに性別欄を外すなどの工夫

傷病者発生時の対応

来館者の安全・安心を確保するため、館内での対応は必要最低限とし、本人確認の後、危機管理センターへ案内することを原則とした。傷病者対応の基本としては、異常を確認したら直ちに駆けつけて状況を確認し、傷病者が歩行可能な場合は、館内医務室もしくは応急手当所に案内した。歩行困難な場合は、救急隊へ協力要請を行い、危機管理センターへの連絡・搬送をサポートした。

対象者の肩を叩いても反応がない場合、判断に迷う場合などは、館内での対応は必要最低限とし、本人確認の後、危機管理センターへ案内することを原則とした。

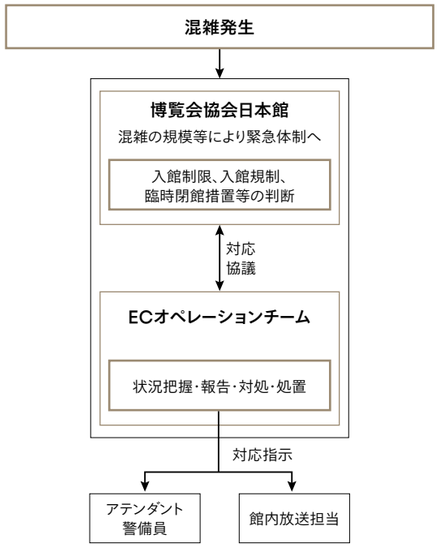
傷病者区分（熱中症）

区分	症状	対処
重症度Ⅰ度（軽症）	・意識ははっきりしている。 ・手足がしびれる。 ・めまい、立ちくらみがある。 ・筋肉のこむら返りがある（痛み）。	◎現場で対応し経過観察 涼しい場所へ避難して、服を緩め体を冷やし、水分や塩分を補給。状況に応じて診療所へ移動。
重症度Ⅱ度（中等症）	・吐き気がする、吐く。 ・頭ががんがんする（頭痛）。 ・からだがだるい（倦怠感）。 ・意識は何となくおかしい。	◎医療機関を受診 速やかに医療機関を受診。
重症度Ⅲ度（重症）	・意識がない（返事がおかしい）。 ・からだがひきつる（けいれん）。 ・まっすぐ歩行できない。 ・からだが異常にあつい。	◎危機管理センターへ救急車要請 到着までの間、積極的に冷却を行う。

混雑発生時の対応

パビリオンは多くの来館者が集まる場所であり、来館者の安全確保が非常に重要である。特に人気の高い日本館は混雑しやすいため、雑踏による事故発生リスクに備えた準備が必要となった。事故や来館者のけがを防ぐため、混雑緩和、入場整理、入館数のコントロールを行い、安全で円滑な会場運営を目指した。

混雑発生時の対応フロー



混雑度　低	館内が混雑はしているが秩序あり
	アテンダントによる注意喚起
混雑度　中	館内混雑がこのまま推移すると来館者の安全に影響するおそれがある状況
	館内放送による注意喚起 一部入館制限 （人数を絞って案内する、など）
混雑度　大	館内が混雑で危険な状況
	入館規制の実施

感染症予防対策

コロナ禍を経て、来場者の感染症への意識が高い中での博覧会開催となったが、感染症の蔓延は運用に大きく影響を及ぼすため、次のとおり発生リスク低減のための備えを重視した。

・基本の徹底:関係者は、手洗い、消毒、咳エチケットなどを心がけ基本的な感染予防対策を実施する。
・情報の確認:国内外の感染症発症動向を監視し、必要な情報収集と共有を行う。
・医療体制の確保:来館者、関係者、スタッフが感染症にかかった場合を想定し医療体制を確保する。
・感染症発生時の対応:感染症発生時には、速やかに隔離を行い感染症の拡大抑制に努める。

緊急時対応関連

避難誘導体制

火災などの災害発生時には、人命を最優先として迅速かつ安全に避難を完了させるため、以下の基本方針を遵守することとした。

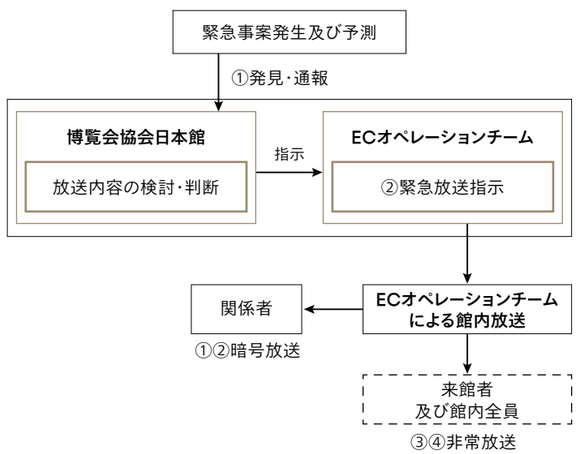
・安全確保最優先:避難誘導の全ての行動において、人命の安全確保を最優先に考える。
・状況把握と判断:状況を的確に把握し、迅速かつ的確な判断に基づいて行動する。
・情報伝達の徹底:関係機関への情報伝達を徹底、連携の強化を図り誘導体制を構築する。
・役割分担の明確化:避難誘導に関わる人員の役割分担を明確化し、責任を持って行動する。
・弱者への配慮:高齢者、障がい者、子どもなど、避難行動要支援者への配慮を徹底する。
・防災意識の向上:スタッフ、関係者に防災教育を実施し、適切な判断と行動がとれるようにする。

さらに、定期的に見直しを行い、訓練結果や災害発生時の状況を分析し、問題点があれば速やかに改善を図った。

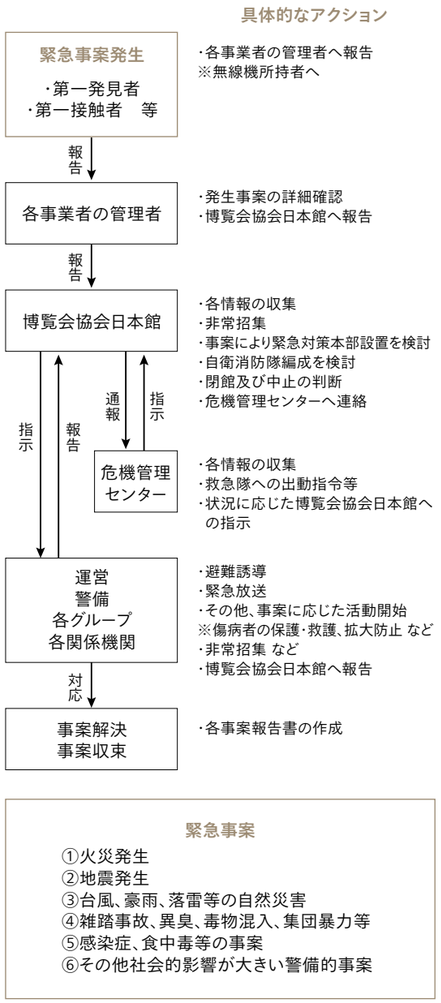
緊急放送

緊急放送を行う際には、来館者の安全に配慮し、適切な判断の下、来館者に不安を与えたり誤った行動を起こすことがないよう細心の注意を払って実施することとした。また緊急放送を一斉に流すと、来館者が混乱しパニックによる二次災害が発生するおそれもある。そのため、まず関係者が発生場所を知り、避難誘導準備体制ができるようにする『暗号放送』を流し、次いで来館者及び館内全員へ知らせる『非常放送』の2段階に分けて緊急放送を流す計画とした。

緊急放送の手順



緊急時対応関連基本の流れ



地震発生時の対応

地震発生時は、まず自身の身を守りながら、来館者にもその場で安全姿勢をとって身を守るように案内することとした。案内に際しては、次の点に留意した。

・来館者の安全確保:来館者、スタッフ、関係者など、安全確保を優先に考え壁やガラスから離れる。
・状況の確認:落ち着き、あわてずに地震が収まるのを待ち、周りの状況を把握する。
・情報伝達:的確な情報収集を行い、博覧会協会日本館・運営委託事業者等への迅速な情報伝達を行う。
・避難指導:VIP、来場者、スタッフ等の安全な避難誘導を開始する。
・関係機関との連携:危機管理センターなど関係機関との緊密な連携を図る。

なお、会期中に事象は発生しなかった。

津波警報が発令された場合の対応

日本館では、来館者、VIP及びスタッフの安全確保を最優先に、津波警報発令時には迅速かつ的確な避難誘導を行い、次の基本方針に準じて被害を最小限に抑える行動をとるようにした。

・来館者の安全確保:来館者、関係者、スタッフなど、安全確保を最優先に行動する。
・迅速かつ的確な情報伝達:津波警報発令を迅速に把握し、館内放送、アテンダントによる誘導など、あらゆる手段を用いて来場者に情報を伝達する。
・安全な場所へ避難誘導:博覧会協会、危機管理センターの指示に従い、定められた避難経路に従い、来館者等を速やかに高台や津波発生時避難場所など安全な場所に誘導する。
・関係機関との連携:津波による被害が発生した場合は、警察、消防、海上保安庁など関係機関と連携し、情報共有、避難誘導、救助活動などを協力して行う。

なお、7月30日にロシアのカムチャツカ半島付近で発生したマグニチュード8.7の地震の影響で、大阪府に津波注意報が発令されたが博覧会会場全体の方針に従い、通常どおり運営を行った。

台風・豪雨・落雷など悪天候時の対応

日頃から気象予報に注意を払い、台風の接近情報や暴風雨警報等が発令された場合は、緊急体制を設置し、迅速に対応できる体制を確立することとした。気象庁の発表する警報・注意報、避難情報、交通情報など最新情報を確認し、悪天候時は来館者を含め館外への外出は控え、安全な場所で待機することとした。また、ゲリラ豪雨や落雷確

認等突発的な事象が近隣で発生した場合は、状況に応じて来館者を館内へ一時避難させ、天候が回復するまで一時休館対応を行うこととした。状況が回復しない場合は、危機管理センターなどとも情報の共有を行い、一時閉館や休館を判断することを決めた。

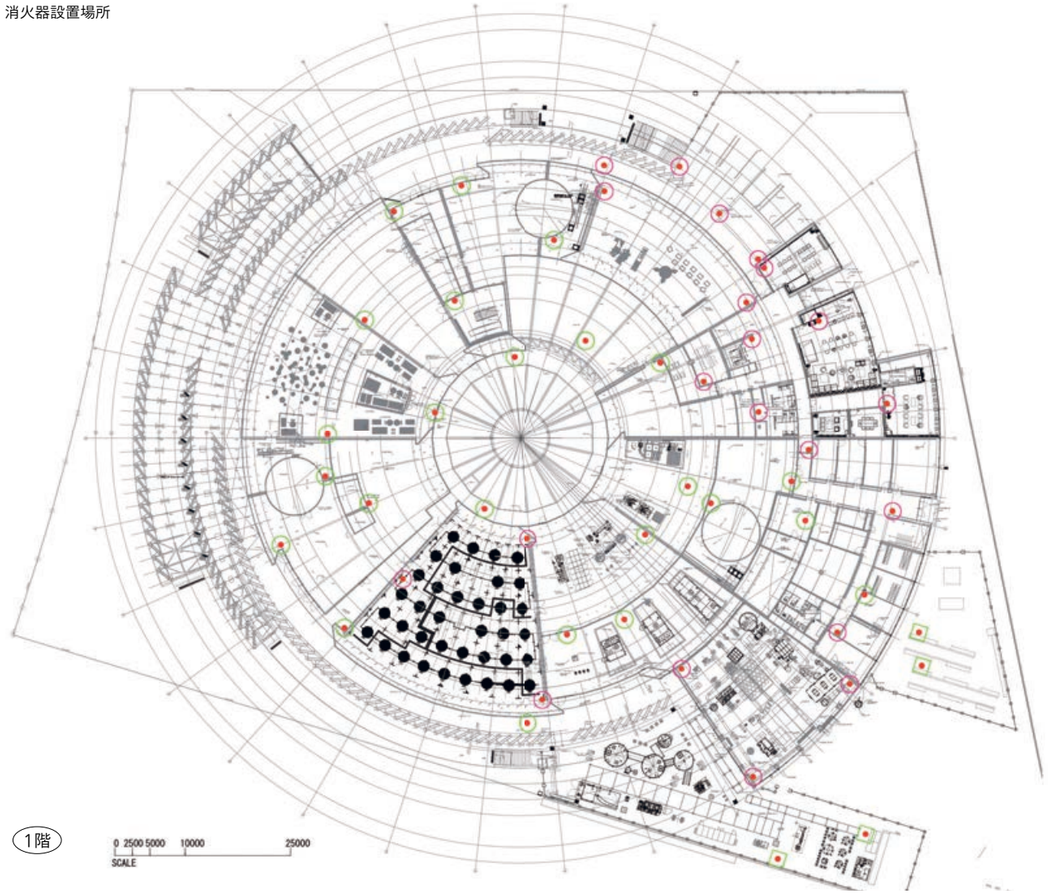
実際、会期中に落雷の影響により、館内への一時待避を誘導する緊急放送を日本語及び英語で行った。

火災発生時の対応

火災発生時は、来館者の安全を最優先することを念頭に置いて、速やかに状況を把握し、危機管理センターへ通報するのが基本である。また、火災を発見した場合は博覧会協会日本館へ通報し、初期消火対応を行うとともに、関係者は来館者を動揺させないよう落ち着いて行動し、人命を第一として対処する方針を決めた。

なお、会期中に事象は発生しなかった。

消火器設置場所



半透明カバー
(UFB-3P-3030-HMS)

特注アクリルスタンド

スタンド

格納箱

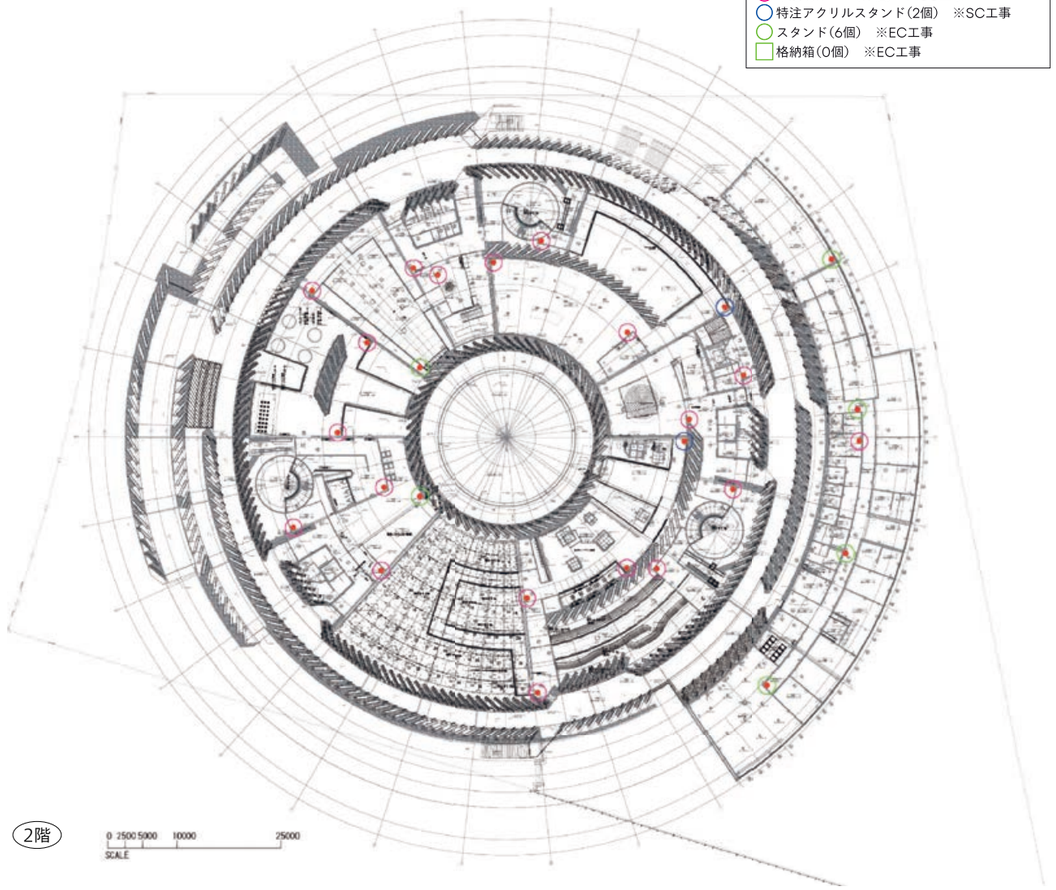
凡例

- ABC粉末消火器 10型　1F：49個　※EC工事
- 半透明カバー（21個）　※SC工事
- 特注アクリルスタンド（0個）　※SC工事
- スタンド（24個）　※EC工事
- 格納箱（4個）　※EC工事

消火器設置場所

凡例

- ABC粉末消火器10型　2F：27個　※EC工事
- 半透明カバー（19個）　※SC工事
- 特注アクリルスタンド（2個）　※SC工事
- スタンド（6個）　※EC工事
- 格納箱（0個）　※EC工事



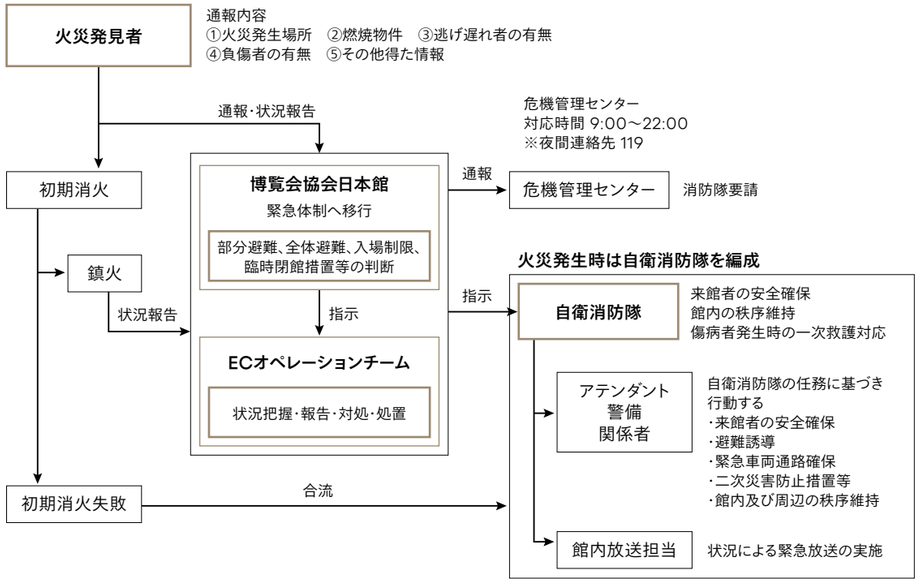
帰宅困難時の対応

8月13日夜から14日未明にかけてOsaka Metro中央線において運行支障が発生し、多くの帰宅困難者が閉場後も会場内で待機することとなった。日本館では、防犯及び貴重な展示物等の保全管理を考慮の上、外周やトイレ、一部展示エリアを開放するなどの対応を行った。博覧会協会ではこのケースを災害に相当する事象と捉え、改善を検討した。日本館においても来館者の安全・安心の確保に向け検討を進め、対応策を定めた。

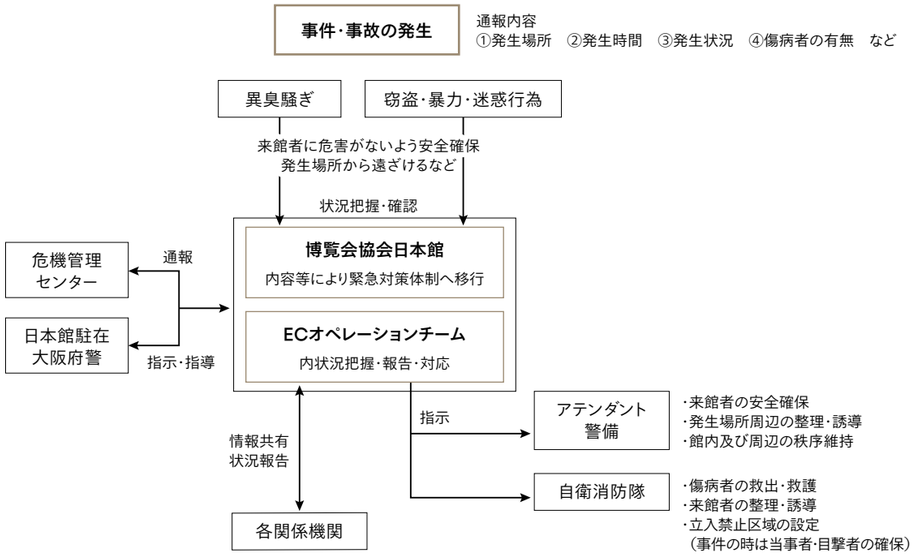
事件・事故の対応

事件・事故が発生した場合、来館者、関係者、スタッフなどの安全確保を最優先し、危機管理センターと緊密に連携をとり、効率的な対応をとることを定めた。

火災発生時の対応フロー



事件・事故発生時の対応フロー



設備、展示機器トラブル関連

空調、一般照明関係

来館者、スタッフ及び関係者の安全確保を最優先に、迅速かつ的確な状況把握、原因究明、復旧対策を行い、日本館の円滑な運営と来館者の満足度維持に努めた。また、空調や一般照明にトラブルがあった際は、可能な限り展示を継続するが、運営や来館者の安全確保が困難な場合は中止することとした。

停電発生時の対応

一瞬でも場内が暗くなると来館者は動揺するので、あわてて行動しないように促すなど、事故の防止に努めた。また日本館のみが停電した場合、パビリオン設備の破損の可能性が高いことから、発生原因の確認、復旧見込みなど、館内の安全確認がとれるまで来館者案内を一時見合わせ、必要に応じて危機管理センターや警察とも連携(事件性がある場合なども考慮)して、原因究明と復旧対応に当たることを決めた。

通信障害時の対応

多くの来場による影響などから、通信障害が発生する可能性がある。その際はあわてることなく、確実な通信手段を用いて、安全な運営を維持することを基本とした。来館者やスタッフ、関係者の安全確保を最優先し、速やかに障害範囲、規模、原因などの情報を把握すると同時に、館内放送などで随時情報を提供した。

IP無線機が使えなくなっても、Wi-Fi利用などで代替の通信手段を確保し、迅速に正確な情報をスタッフ、関係者間で共有することとした。

不通の間の連絡体制

①館内アナウンス:館内放送を利用し、来館者、関係者へ情報を伝達する。
②アテンダント:博覧会協会日本館で把握した情報などを、拡声器などで来館者へ告知する。
③無線機:IP無線機は使用できなくなるが、一部、簡易デジタル無線を導入しているため、必要に応じて活用し、運用の継続、並びに情報の共有を行う。
④Wi-Fiの活用:公衆Wi-Fi等を利用しインターネットに接続し情報収集や連絡を行う。

運営の詳細

暑熱対策

これまでにない猛暑が予想されたため、大阪・関西万博にとって、暑熱対策は非常に重要な課題であった。来場者とアテンダントのほか、博覧会に関わる全ての人の健康を守るためには、暑さによる健康被害を予防し、快適に過ごせる環境づくりが必要なため、次のとおり暑熱対策を施した。

・暑熱環境の緩和:ミスト装置の設置、屋外待機列へのパラソル設置、スポットクーラー設置、館内の気温上昇の抑制によって涼しい空間を創出する。また、アテンダントに対してはウォーターサーバーを設置、ネッククーラー・アームカバーの貸出を行う。
・情報提供:暑さ指数(WBGT)などの情報収集を行い、適宜、来館者へ注意を喚起する。

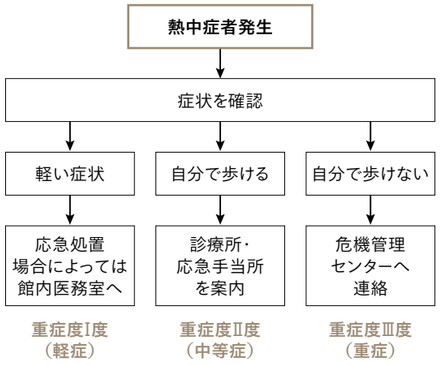
日本館のミスト装置

屋外待機列のパラソル

・救護体制の充実:応急手当所や搬送体制の確認及び冷却シート、水分提供の体制を整える。
・健康管理:アテンダントや関係者に対しても暑熱対策の重要性を啓発する。

また、熱中症患者が発生した場合は、傷病者区分に基づき対処した。熱中症は、初期の対応・処置が迅速・的確であれば人命に影響する事例はほとんど見られない。ただし、少しでも重症化の兆候が見られた場合は、危機管理センターへの搬送を要請するか、危機管理センターまで付き添うなどして迅速に対応した。

熱中症者発生時の対応フロー



危機管理センター
対応時間 9:00～22:00
※夜間連絡先 119

待機列問題の対策

開館以降、日本館の予約なし入館への反響が予想以上に大きかったため、入館希望者の待機列の形成場所をファサード前まで拡張した。また、敷地外である大屋根リング下にも入館希望者が集まったため、適宜効率的かつ適正な誘導を施した。

日本館前の待機列

テストラン

大阪府及び大阪市は、2025（令和7）年4月4日9:00～14:00、5日9:00～18:00、6日9:00～21:00の3日間、合わせて約10万人が参加する大阪・関西万博テストランを行った。日本館には約1万1,000人が来館した。

このテストランを通じて、運営上の課題を見つけ、本番に向けたルールの改善に役立てた。例えば、当初は予約あり・なし混合での来館を検討していたが、テストランにおける待機列の伸び具合、混雑具合を鑑み、朝夕は予約なし入館のみ、日中は予約あり入館のみの実施とした。

テストラン当日の様子

日本館 バイオガスプラント見学ツアー（日本館観覧付き）

博覧会会場で出る生ごみからエネルギーを生み出すという資源循環をより実感していただくため、バイオガスプラントの見学ツアーを開催した。通常は見ることのできないプラントを設計者のガイド付きで間近で観覧するとともに、微生物の働きを学びながら「ごみ」から「水」などの新たな資源やエネルギーが生まれるさまを体感できるツアーとした。参加には、入場チケットを購入の上、予約サイトにて事前予約いただいた。

4月19日以降、会期中計31日間、1日当たり2回開催した。定員は20人で、プラントツアー約30分、館内観覧約40分の構成で行った。本ツアーへの参加者は合計1,277人だった。

また、博覧会協会日本館等から要請のあったVIPに対しては別途、バイオガスプラントのバックヤードも含めた案内を行った。

日本館 バイオガスプラント見学ツアー

設計者とまわる日本館建築ツアー（日本館観覧付き）

日本館の建築デザインと技術に焦点を当て、訪れる人々にその魅力を直接体験していただく特別な機会として、日本館の建築ツアーを開催した。日本館の基本・実施設計担当者から、日本の伝統的な美意識と最先端の建築技術が融合した日本館の構造や外観について直接詳細な説明を聞くことができるツアーとした。参加には、EXPO2025デジタルウォレットサービス「ミャクポ!」によるポイント交換を通して予約いただいた。

5月9日以降、会期中計8日間開催し、開催日は1日3回実施した。定員は20人で、建築ツアー約30分、館内観覧約40分の構成で行った。本ツアーへの参加者は合計451人だった。

設計者とまわる日本館建築ツアー

日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー（日本館観覧付き）

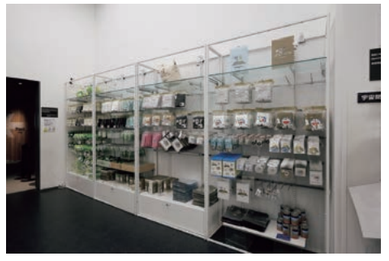
小学校高学年～中学生に対して、日本館の展示内容の理解度向上や建築に関する説明機会を拡充するため、アテンダントとともに日本館の外周を巡るツアーを実施した。

推奨年齢は小学校5年生から中学校3年生程度に設定した。5月11日から毎日3回、7月20日からは平日は3回／日・土日祝は6回／日、8月4日からは毎日6回開催で、事前予約不要・当日参加券配布という形式をとった。さらに9月16日からは平日に限り英語での案内も行った。

定員は約10人で、ツアー所要時間は約20分の構成とした。本ツアーへの参加者は合計6,725人だった。

日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー

日本館公式ショップ運営


館内ショップ

館外ショップ（トレーラーハウス）

営業時間は当初9:30～21:00と設定していたが、会期中の日本館の開館時間5分前倒しに合わせて、7月18日以降の営業時間は9:25～21:00とし、最終

的には9:20～21:00とした。

公式ショップで販売されるグッズ類は展示体験の一部という位置付けであり、日本館のコンセプトを記念に持ち帰っていただくことも狙いとした。そのため、なるべく多くの方が入手できるよう、館内と館外、二つのショップを設置し、館外のショップは入館の有無にかかわらず誰でも利用できるようにした。商品については、日本を代表するキャラクターとのコラボグッズを展開したり、幅広い価格帯の販売とすることで、様々な来館者等の嗜好、要望に応えられるよう留意した。なお、館内ショップと館外ショップの販売品目は同じとした。

満足度向上のための改善施策

来館者の満足度向上を図るため、会期中にも下記のような様々な追加改善施策を行った。

来館受け入れ定員の段階的拡大

より多くの方に来館いただけるように、運営オペレーションの効率化等により、20分単位で設定する定員について、会期を通じて段階的に拡大した。

開館時間の変更（前倒し）

会場の入場ゲートのアーリーオープン等を踏まえ、来館者の待機時間が短くなるよう、7月23日からは9:25開館、9月24日からはさらに5分前倒しの9:20開館とし、日本館ウェブサイトやSNSでも周知を図った。

当日登録（予約）枠の段階的開放

日本館に興味を持った来場者の方々が、実際に来館できる機会を増やすため、当日登録（予約）枠を従来の9:00に加えて、5月から11:30、13:30を段階的に開放した。

ジャパンデー、閉幕日における来館機会拡大

ジャパンデーの7月3日、閉幕日の10月13日は、来館機会拡大のため、当日登録（予約）枠の開放回数の追加、事前予約なし時間帯の拡大を行った。

（事前予約なし時間帯）

・7月 3日　9:15～　17:00～
　（通常9:30～　19:00～）
・10月13日　9:20～　18:00～
　（通常9:20～　19:00～）

入館前待機者への概要説明

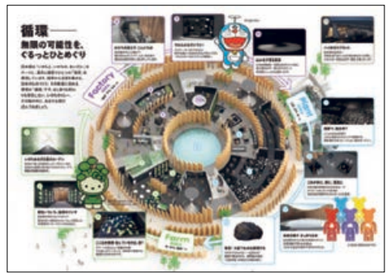
日本館のテーマである「循環」への理解向上を目的に、入館前の待機者に向けて、アテンダントが日本館の説明パネルを用いた概要説明を行った。

まず、バイオガスプラントの役割を紹介した上で、Plant Areaの説明を行い、待機者には循環や日本館への理解を進めた上で館内を観覧していただくことを目指した。概要説明は、Factory Area入口付近の外周で行った。アテンダントに対しては、説明の中で特に「循環」、「バイオガスプラント」、「生ごみ」について印象付けられる工夫を行うように促した。

アテンダントによる概要説明の様子

リーフレットの配布

来館者の理解向上のため、日本語・英語・フランス語・スペイン語・韓国語・中国語（簡体・繁体）の7言語版のリーフレットを配布し、別途設置した什器（じゅう）にも配した。



日本館リーフレット

音声ガイド設置箇所の増設

日本館では、二次元コードから来館者自身のスマートフォン等で再生できるオンライン音声ガイドを提供していた。会期中、二次元コードの設置箇所を増やし、アテンダントからも積極的なアナウンスを行うことで、来館者がよりスムーズに音声ガイドを利用できるように努めた。

他パビリオン関係者の受入

閉幕に向けて他パビリオン関係者を積極的に受け入れるべく、10月7日～10月13日において、優先入館口から他パビリオン関係者を多数受け入れた。

2.4　VIP接遇

日本館は、ホスト国の政府館として、大阪・関西万博のテーマ等をプレゼンテーションする重要な役割を担うとともに、博覧会会場の「第二の迎賓館」としての役割を担った。「第二の迎賓館」として国内外のVIPの接遇を行うのみならず、要人による会談、さらには博覧会会場をご視察される皇室のご休憩の場としても活用された。

VIP接遇に係る準備

令和5年度

VIPの受入想定人数・属性について、2005年日本国際博覧会の日本館のVIP受入実績より検討し、VIP諸室のレイアウト計画、想定運用パターン、記念品数量、接遇における必要体制やエスコートスタッフの人数が検討された。

令和6年度

日本館のVIPへの贈呈にふさわしい記念品の選定・調達が進められた。館内施設の運用に関しては、日章旗、博覧会国際事務局（以下、BIE）旗に加え、ナショナルデー・スペシャルデーに係る旗の掲揚方法、VIPが来館する際に使うVIP諸室の名称決定、運用パターン、収容人数の検討のほか、日本館の品格にふさわしい家具・什器類の検討・選定が進められた。また、エスコートスタッフの採用を進め、VIP接遇に強みのある人材や語学力を有する人材の獲得が進められた。

さらに、接遇対応を検討するため、博覧会協会内で調整しつつ、以下の通り来館するVIPの属性を想定した。

海外VIP属性

- 国王、皇太子、大統領、首相等の国家元首・首脳級、立法機関及び最高裁の長、王族
- 閣僚等
- 駐日特命全権大使、国際機関幹部、国会議員、知事等
- その他VIP

国内VIP属性

- 皇室
- 内閣総理大臣、衆・参議院議長、最高裁判所長官
- 閣僚等
- 国会議員、都道府県知事・政令指定市長等
- その他VIP

上記以外に、博覧会に貢献した企業等から特に依頼があり博覧会協会が接遇の必要性を認めた者、または日本館独自のVIPで日本館長により承認された場合についても接遇を行うこととした。

会期中の対応

VIPの受入

VIP属性対象者については、日本館長、副館長2人、接遇担当官1人がVIPのスケジュールに応じて、柔軟に受入に対応した。

館内の案内は、日本館のテーマや建築、展示内容の概要を備え付けの模型等を用いてVIP諸室で説明した後、3つの展示エリア全てを案内することを基本とした。

さらに、随行者が多数となる場合には一行にパナガイド(ワイヤレス音声伝達システム)を使用したほか、海外VIPに日本人VIPが同行する場合には、副館長などが日本語による説明支援を行うなど、VIP一行に十分な案内が提供できるよう配慮した。

なお、VIPの来館方法に応じ、徒歩来館時は担当者が日本館正面からVIPエントランスへ誘導し同エントランスにて日本館長等の案内者が出迎え、車両来館時はVIP車寄せにて案内者が出迎えた後、VIP諸室へ案内した。

VIP属性に該当しないものの特別な対応を要する来館者は、優先入館口から受け入れ、原則として館内案内は行わず、自由に観覧できる形式とした。

VIP受入に際しての安全管理

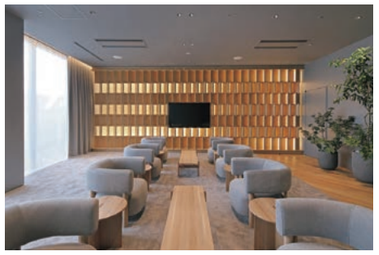
昨今の国内外の情勢を踏まえ、VIP受入時に一般来館者の入場者数を調整するなど安全面に十分配慮した。特に警護対象となるVIPについては、関係機関と緊密に連携し、事前確認に基づき当日の安全確保を図るとともに、必要に応じて一般来館者の入館を一時的に停止するなどの措置を講じた。

VIP受入の準備

ナショナルデー・スペシャルデーには正面のフラッグポールに当該国・機関の旗と日章旗・BIE旗を掲揚するとともに、参加国・機関の代表団が来館する際にはVIPエントランスの受付台に当該国・機関の旗と日章旗の卓上旗を配して、友好の意を示した。

貴賓室は、VIP一行の人数に応じて家具、什器類のレイアウトを変更し、呈茶の振る舞いや、来賓国・地域に合わせた色彩や季節感を取り入れた和モダンの装花をあしらうなど、おもてなしの演出に努めた。

また、主賓の正確な氏名、タイトルや呼びかけ方などについては事前に確認した。



貴賓室(水・MIZU)

VIPエントランス受付

エスコートスタッフの業務

VIP一行への呈茶、パナガイド配布・回収、館内観覧時の補助、芳名帳記入補助、随行者への記念品配布等の業務はエスコートスタッフが担った。

また、一部ではあるが、副館長が対応した接遇におけるVIP随行者や優先入館者に対する館内案内も実施した。

エスコートスタッフによる館内案内

記念品の贈呈

日本館を訪問されたVIPには、次の記念品を属性に応じて贈呈した。

①〈SUS gallery〉タンブラー

新潟県燕市で作られる、世界初のチタンによる真空二重構造のタンブラー。2010(平成22)年に横浜で開催されたアジア太平洋経済協力(APEC)会議での採用実績もある。

②〈アリタポーセリンラボ〉カップ3セット

1804(文化元)年創業の窯元「弥左ェ門窯」の職人が一点一点仕上げるモダンな有田焼セット。

③〈soil〉珪藻土コースター(全属性)

石川県の輪島塗などに使用されてきた珪藻土を活用したサステナブルなコースター。

④〈BISHU JAPAN〉アップサイクルスクエアポーチ(全属性)

日本一の毛織物産地として発展してきた愛知県尾州地域で作られた尾州生地(残生地)を使用したポーチ。

⑤日本館パンフレット／日本語・英語(全属性)

A4 4色 8ページ中綴じ仕様のパンフレット。日本館を訪れるVIP(VIP諸室への設置)や関係各所への説明に活用した。

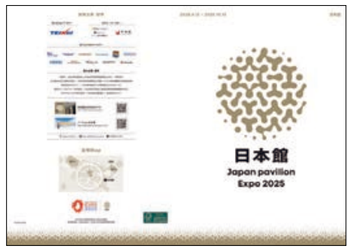
なお、一部のVIPに対しては数量限定で、福島県産の米を使った日本酒や輪島塗の箸の贈呈も行った。

①〈SUS gallery〉タンブラー

②〈アリタポーセリンラボ〉カップ3セット

③〈soil〉珪藻土コースター

④〈BISHU JAPAN〉アップサイクルスクエアポーチ



⑤日本館パンフレット(日本語版)

⑤日本館パンフレット(英語版)

来館VIP総数結果

日本館への皇室のご来館は、会期前含め延べ17日であった。

皇室を除く、会期中のVIP来館は総数987件、1万2,666人（人数は随行者を含む。以下同様。）、1日平均では5.4件、68.8人であった。

優先入館者は、総数1,759件、9,773人、1日平均では9.6件、53.1人であった。

来館したVIPの属性

国内のVIPは、皇室を始め、内閣総理大臣、閣僚、国会議員、都道府県・市町村の長、科学技術・経済・文化芸術等の各分野の功績者、博覧会に一定の貢献があった企業関係者など、多数の訪問があった。

海外のVIPについては、日本館を訪問した国王、皇太子、大統領、首相等の国家元首・首脳級は、ナショナルデー・スペシャルデーでの来訪が68件、2,452人（67か国・1国際機関）、ナショナルデー・スペシャルデー以外の機会での来訪が16件、407人（14か国・欧州連合）であった。会期を通じ公式参加者を称えるナショナルデー・スペシャルデーが開催され、ホスト国政府館である日本館には各国・各機関の代表団がほぼ毎日来館した。さらに、ナショナルデー・スペシャルデー以外のVIPについても、5月に公式参加者からのVIP受入拡大の要請があったことを踏まえ、申し込み窓口や申し込み時期等の留意事項を周知することで、多くのVIPに優先入館していただいた。

VIP来館結果（4月13日～10月13日）

※集計上は皇室を除く。以下同様。

VIP来館総数

	件数	人数
国家元首・首脳級、立法機関及び最高裁の長、王族（右記*印の合計）	108	3,387
閣僚　等	181	3,269
上記以外のVIP	698	6,010
計	987	12,666

皇室のご来館

来館日	VIP
3月12日	秋篠宮皇嗣同妃両殿下
4月11日	天皇皇后両陛下、秋篠宮皇嗣同妃両殿下
5月6日	高円宮妃殿下
5月7日	高円宮妃殿下
5月8日	愛子内親王殿下
5月9日	愛子内親王殿下
5月20日	高円宮妃殿下
5月21日	彬子女王殿下
6月28日	高円宮妃殿下
7月8日	高円宮妃殿下
7月24日	高円宮妃殿下
8月22日	承子女王殿下
8月23日	佳子内親王殿下
9月24日	悠仁親王殿下
9月25日	秋篠宮皇嗣殿下、悠仁親王殿下
10月1日	承子女王殿下
10月6日	天皇皇后両陛下

月別VIP 来館数

	国内		海外		合計	
	件数	人数	件数	人数	案件数	来館者数
4月	62	416	51	796	113	1,212
5月	69	445	90	1,806	159	2,251
6月	50	302	88	1,558	138	1,860
7月	44	221	96	1,572	140	1,793
8月	27	136	109	1,718	136	1,854
9月	55	277	144	2,268	199	2,545
10月	20	220	82	931	102	1,151
計	327	2,017	660	10,649	987	12,666

海外（ナショナルデー・スペシャルデー関連）VIP

	件数	人数
国王、皇太子、大統領、首相等の国家元首・首脳級（*）	68	2,452
立法機関及び最高裁の長、王族（*）	2	54
閣僚等	70	1,987
その他VIP	21	481
計	161	4,974

海外（ナショナルデー・スペシャルデー以外）VIP

	件数	人数
国王、皇太子、大統領、首相等の国家元首・首脳級（*）	16	407
立法機関及び最高裁の長、王族（*）	20	305
閣僚等	103	1,218
その他VIP	360	3,745
計	499	5,675

国内VIP

	件数	人数
内閣総理大臣、衆・参議院議長、最高裁判所長官（*）	2	169
閣僚等	8	64
国会議員、都道府県知事・政令指定市長　等	51	348
その他VIP	266	1,436
合計	327	2,017

主な海外VIP

来館日	国　名	VIP
4月14日	トルクメニスタン	ベルディムハメドフ 大統領
4月18日	トンガ王国	トゥポウトア・ウルカララ皇太子殿下・外務大臣兼国防大臣
4月21日	ボリビア多民族国	ダビッド・チョケワンカ 副大統領
4月23日	ルクセンブルク大公国	リュック・フリーデン首相
4月24日	デンマーク王国	フレデリック10世 国王陛下
4月28日	パラオ共和国	スランゲル・S・ウィップスJr 大統領
5月3日	サンマリノ共和国	デニーズ・ブロンゼッティ 執政
		イタロ・リーギ 執政
5月7日	ヨルダン	アル・フセイン・ビン・アブドゥラー2世皇太子
5月10日	ギニアビサウ共和国	ウマロ・シソコ・エンバロ 大統領
5月12日	チリ共和国	ガブルエル・ボリッチ・フォント 大統領
5月14日	スウェーデン王国	カール16世グスタフ 国王陛下
5月18日	ブルガリア共和国	ルメン・ラデフ 大統領
5月19日	パラグアイ共和国	サンティアゴ・ペニャ パラシオス 大統領
5月20日	ラトビア共和国	エドガルス・リンケービッチ 大統領
5月21日	オランダ王国	ウィレム・アレキサンダー 国王陛下
5月23日	オーストリア共和国	アレクサンダー・ファン・デア・ベレン大統領
5月24日	ハンガリー	シュヨク・タマーシュ 大統領
5月25日	タンザニア連合共和国	マジャリワ・カシム・マジャリワ 首相
5月26日	モンテネグロ	ミロイコ・スパイッチ 首相
5月29日	アイスランド	ハトラ・トーマスドッティル 大統領
5月30日	ルクセンブルク大公国	アンリ 大公
	クウェート国	サバーハ・ハーリド皇太子
5月31日	マレーシア	ファディラ・ユソフ副首相兼エネルギー移行・水変革大臣
6月3日	エスワティニ王国	ラッセル・ミソ・ドラミニ 首相
6月6日	キルギス共和国	エディル・バイサロフ 内閣副議長
6月9日	グアテマラ共和国	セサル・ベルナルド・アレバロ・デ・レオン大統領
6月10日	ギニア共和国	アマドゥ・ウリ・バー 暫定政府首相
6月11日	コソボ共和国	ヴィサヨ・オスマニ・サドリウ 大統領
	リトアニア共和国	ギターナス・ナウセーダ大統領
6月12日	フィンランド共和国	アレクサンデル・ストゥップ 大統領
6月16日	モザンビーク共和国	マリア・ベンヴィンダ・デルフィナ・レヴィ首相
6月20日	ドイツ連邦共和国	フランク=ヴァルター・シュタインマイヤー大統領
	フィリピン共和国	フェルディナンド・マルコス 大統領
6月23日	セルビア共和国	シニシャ・マーリ第一副首相兼財務大臣
6月27日	タジキスタン共和国	ホキム・ホリクゾダ 第一副首相
6月28日	モナコ公国	アルベール2世 公
6月29日	バチカン	ピエトロ・パロリン 国務長官（首相）
6月30日	コンゴ民主共和国	ジュディット・スミヌワ・トゥルカ 首相
7月1日	レソト王国	レツィエ3世 国王陛下
7月5日	カンボジア王国	ソック・チェンダ・サオピア 副首相（経済・貿易担当）
	ポーランド共和国	クシシュトフ・ガフコフスキ副首相兼デジタル化大臣
7月8日	イタリア共和国	マッテオ・サルヴィーニ副首相兼インフラ・運輸大臣
7月10日	アルジェリア民主人民共和国	ナディール・ラルバウィ 首相
7月11日	中華人民共和国	何立峰（カ・リツホウ） 国務院副総理
7月15日	赤道ギニア共和国	テオドロ・ンゲマ・オビアン・マンゲ副大統領（国防・治安担当）
	ルクセンブルク大公国	ギヨーム皇太子
7月16日	ジンバブエ共和国	エマソン・ムナンガグワ 大統領
7月21日	パプアニューギニア独立国	ジェームス・マラペ 首相
7月22日	欧州連合（EU）	アントニオ・コスタ欧州理事会議長
		ウァズラ・フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長
7月24日	チェコ共和国	ペトル・パヴェル 大統領
7月25日	キューバ共和国	エドゥアルド・マルティネス・ディアス副首相
7月26日	ガボン共和国	ユーグ・アレクサンドル・パロ・シャンプリエ副大統領
7月27日	モンゴル国	トグミド・ドルジハンド 副首相
7月28日	シンガポール共和国	ガン・キムヨン副首相兼貿易産業大臣
7月31日	ミクロネシア連邦	ウェズリー・W・シミナ 大統領
8月2日	マリ共和国	アブドゥライ・マイガ 首相兼国土管理・地方分権化大臣
8月3日	ベリーズ	ジョン・ブリセーニョ 首相
8月5日	ウクライナ	タラス・カチカ 副首相
8月9日	ペルー共和国	ディナ・エルシリア・ボルアルテ・セガラ大統領
8月18日	タイ王国	ジュンルンルアンキット・スリヤ 副首相兼運輸大臣
8月21日	ベナン共和国	マリアム・チャビ・タラタ副大統領
8月22日	国際連合（UN）	アントニオ・グテーレス 事務総長
8月25日	セネガル共和国	バシル・ジョマイ・ジャハール・ファイ大統領
8月28日	東ティモール民主共和国	ジョゼ・ラモス＝ホルタ 大統領
8月30日	セントルシア	アーネスト・ヒレイヤー 副首相兼観光・投資・創造産業・文化・情報大臣
8月31日	モルドバ共和国	ドリン・レチェアン 首相
9月3日	オーストラリア連邦	サム・モスティン 総督
9月5日	アルメニア共和国	ニコル・パシニャン 首相
	コロンビア共和国	グスタボ・フランシスコ・ペトロ・ウレゴ大統領
9月6日	パナマ共和国	ホセ・ラウル・ムリーノ・キンテロ 大統領
9月9日	ベトナム社会主義共和国	レー・タイン・ロン 副首相
9月10日	スロバキア共和国	ペテル・ペレグリニ 大統領
9月12日	ボルトガル共和国	ルイス・モンテネグロ 首相
9月14日	ベルギー王国	ダヴィッド・クラランヴァル 副首相兼雇用・経済・農業大臣
9月15日	セルビア共和国	アレクサンダル・ブチッチ 大統領
9月18日	バーレーン王国	サルマン・ビン・ハマド・アール・ハリーファ皇太子兼首相
9月19日	アラブ首長国連邦	ハーリド・ビン・ムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン 皇太子
9月21日	クロアチア共和国	アンドレイ・プレンコビッチ 首相
9月25日	フィジー共和国	マノア・カミカミザ 副首相兼対外貿易・協同組合・中小企業・通信大臣
9月27日	スリランカ民主社会主義共和国	アヌラ・クマーラ・ディサナヤケ 大統領
10月5日	ジンバブエ共和国	ケンボ・キャンベル・ドゥギシ・モハディ副大統領
10月8日	ウガンダ共和国	ロビナ・ナバンジャ 首相
10月10日	スウェーデン王国	ヴィクトリア皇太子
10月11日	ハイチ共和国	アントニー・フランク・ローラン・サンーシル 暫定大統領評議会議長

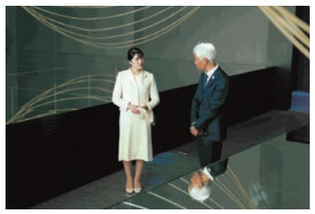
行幸啓・お成り、公式行事時の対応

開会式一月前の3月12日には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下にご内覧いただくとともに、開会式前日の4月11日には、開会式にご臨席される天皇皇后両陛下及び秋篠宮皇嗣同妃両殿下にご内覧いただいた。また、会期中、愛子内親王殿下、佳子内親王殿下、悠仁親王殿下を始め多くの皇室の方のご視察があった。

10月6日の行幸啓では、天皇皇后両陛下と博覧会関係者のご懇談の会場として日本館貴賓室が使用された。

また、10月13日には閉会式に先立って日本館貴賓室で石破茂内閣総理大臣からミャクミャクへ感謝状が授与された。

行幸啓　（提供：2025年日本国際博覧会協会）



愛子内親王殿下のご視察
（提供：2025年日本国際博覧会協会）

佳子内親王殿下のご視察
（提供：2025年日本国際博覧会協会）

悠仁親王殿下のご視察
（提供：2025年日本国際博覧会協会）

ジブチ共和国ナショナルデー代表団への接遇

米国ハワイ州知事への接遇

2.5　日本館の184日

月日	曜日	天気	ナショナルデー スペシャルデー	一般来館者 (予約あり)	一般来館者 (予約なし)	VIP その他	ツアー・催事等	来館者合計	会場入場者	その日の出来事
4月13日	日	雨		5,939	704	185	0	6,828	146,426	開幕
4月14日	月	晴のち雨	トルクメニスタン	5,427	1,779	149	0	7,355	70,488	トルクメニスタン 大統領がご来館
4月15日	火	晴時々雨		5,890	1,907	67	0	7,864	63,719	
4月16日	水	晴		5,992	2,076	196	0	8,264	73,869	
4月17日	木	晴		6,214	2,436	139	0	8,789	82,692	
4月18日	金	晴	トンガ	6,122	2,136	252	0	8,510	93,908	トンガ王国 皇太子殿下がご来館
4月19日	土	晴	グレナダ	6,022	2,527	154	43	8,746	108,773	
4月20日	日	曇時々晴		6,407	2,461	23	0	8,891	95,524	
4月21日	月	曇	ボリビア	6,231	2,600	129	42	9,002	99,638	
4月22日	火	晴のち雨	スイス	6,251	2,611	135	0	8,997	103,729	
4月23日	水	曇一時雨	トルコ	5,735	2,522	175	42	8,474	99,140	ルクセンブルク大公国 首相がご来館
4月24日	木	晴	デンマーク	5,994	2,557	278	0	8,829	108,888	デンマーク王国 国王陛下がご来館
4月25日	金	曇		5,986	2,644	250	0	8,880	110,759	
4月26日	土	晴		6,063	2,695	145	40	8,943	122,102	
4月27日	日	晴	ガイアナ	6,456	2,671	66	0	9,193	102,015	
4月28日	月	曇	パラオ	5,948	2,705	148	32	8,833	121,282	パラオ共和国 大統領がご来館
4月29日	火	晴	チャド	6,327	2,551	54	0	8,932	97,559	
4月30日	水	晴		6,157	2,653	58	56	8,924	101,397	
4月総数				109,161	42,235	2,603	255	154,254	1,801,908	
5月1日	木	晴	北マケドニア	6,376	2,732	78	0	9,186	105,945	
5月2日	金	雨のち晴	ブータン	5,983	2,540	92	0	8,615	104,805	
5月3日	土	晴	サンマリノ	6,371	2,642	128	67	9,208	120,696	サンマリノ共和国 執政がご来館
5月4日	日	晴		6,375	2,642	50	75	9,142	136,805	
5月5日	月	晴	ポルトガル	6,304	2,538	79	42	8,963	126,371	
5月6日	火	雨のち曇		6,018	2,550	33	42	8,643	76,517	高円宮妃殿下がご来館
5月7日	水	晴	ヨルダン	6,235	2,681	102	0	9,018	91,688	ヨルダン 皇太子がご来館、高円宮妃殿下がご来館
5月8日	木	晴	国際赤十字・赤新月運動	5,041	2,676	121	0	7,838	105,449	愛子内親王殿下がご来館
5月9日	金	曇のち雨	EU（欧州連合）	5,435	2,583	152	57	8,227	105,782	愛子内親王殿下がご来館
5月10日	土	曇	ギニアビサウ	6,031	2,702	302	56	9,091	128,918	ギニアビサウ共和国 大統領がご来館
5月11日	日	曇のち雨	バングラデシュ	6,183	2,594	131	31	8,939	121,667	
5月12日	月	曇のち晴	チリ	5,927	2,627	352	34	8,940	117,658	チリ共和国 大統領がご来館
5月13日	火	晴	大韓民国	6,104	2,667	255	34	9,060	123,640	
5月14日	水	晴	スウェーデン	5,969	2,778	380	31	9,158	129,527	スウェーデン王国 国王陛下がご来館
5月15日	木	晴	イスラエル	5,385	2,632	219	22	8,258	129,456	
5月16日	金	晴	スペイン	6,007	2,733	256	33	9,029	132,817	
5月17日	土	雨のち曇	カナダ	5,804	2,583	194	34	8,615	123,974	
5月18日	日	曇	ブルガリア	6,183	2,655	106	31	8,975	121,927	ブルガリア共和国 大統領がご来館
5月19日	月	晴	パラグアイ	6,231	2,749	214	34	9,228	133,661	パラグアイ共和国 大統領がご来館
5月20日	火	晴	ラトビア	6,005	2,881	311	27	9,224	129,506	高円宮妃殿下がご来館、ラトビア共和国大統領がご来館
5月21日	水	曇のち雨	オランダ	5,740	2,863	410	74	9,087	133,581	オランダ王国 国王陛下がご来館、彬子女王殿下がご来館

月日	曜日	天気	ナショナルデー スペシャルデー	一般来館者 (予約あり)	一般来館者 (予約なし)	VIP その他	ツアー・催事等	来館者合計	会場入場者	その日の出来事
5月22日	木	雨のち晴	英国	5,699	2,828	790	36	9,353	137,767	
5月23日	金	曇	オーストリア	6,025	2,835	429	31	9,320	163,509	オーストリア共和国 大統領がご来館
5月24日	土	雨	ハンガリー	5,133	2,932	216	58	8,339	132,105	ハンガリー 大統領がご来館
5月25日	日	雨のち曇	タンザニア	5,965	2,905	362	37	9,269	143,752	タンザニア連合共和国 首相がご来館
5月26日	月	曇	モンテネグロ	6,183	2,872	184	73	9,312	149,197	モンテネグロ 首相がご来館
5月27日	火	曇	インドネシア	6,173	2,878	244	31	9,326	139,790	
5月28日	水	晴のち曇	イエメン	6,088	2,812	224	29	9,153	149,383	
5月29日	木	曇のち雨	アイスランド	6,155	2,844	324	35	9,358	145,291	アイスランド 大統領がご来館
5月30日	金	曇	ルクセンブルク	6,002	2,877	329	55	9,263	152,666	ルクセンブルク大公国 大公がご来館、クウェート国 皇太子がご来館
5月31日	土	曇		6,186	2,868	213	73	9,340	187,762	
5月総数				185,316	84,699	7,280	1,182	278,477	4,001,612	
6月1日	日	曇のち晴	パレスチナ	6,313	3,042	218	63	9,636	152,473	
6月2日	月	晴のち曇	ノルウェー	6,238	3,010	248	37	9,533	150,131	
6月3日	火	雨	エスワティニ	6,099	2,927	219	14	9,259	108,130	エスワティニ王国 首相がご来館
6月4日	水	晴	南スーダン	6,395	2,759	352	32	9,538	137,675	
6月5日	木	晴	アゼルバイジャン	6,106	2,953	280	34	9,373	139,576	
6月6日	金	晴	キルギス共和国	6,145	3,042	412	25	9,624	165,243	
6月7日	土	曇	フィリピン	6,214	3,100	403	56	9,773	173,305	
6月8日	日	曇	サモア	6,209	3,084	212	67	9,572	151,565	来館者数50万人達成
6月9日	月	曇のち雨	グアテマラ	6,041	2,711	320	33	9,105	137,452	グアテマラ共和国 大統領がご来館
6月10日	火	雨	ギニア	5,830	3,114	225	16	9,185	110,260	ギニア共和国 暫定政府首相がご来館
6月11日	水	雨のち曇	コソボ	5,900	3,298	329	62	9,589	126,489	コソボ共和国 大統領がご来館、リトアニア共和国 大統領がご来館
6月12日	木	曇	フィンランド	6,455	3,207	359	29	10,050	141,488	フィンランド共和国 大統領がご来館
6月13日	金	曇	コートジボワール	6,249	3,334	428	77	10,088	167,424	
6月14日	土	曇のち雨	アイルランド	5,897	3,311	339	73	9,620	153,590	
6月15日	日	曇	ブルンジ	6,387	3,268	329	72	10,056	155,099	
6月16日	月	曇時々晴	モザンビーク	6,181	3,163	383	81	9,808	142,427	モザンビーク共和国 首相がご来館
6月17日	火	雨のち晴	ウルグアイ	6,401	3,263	290	34	9,988	132,133	
6月18日	水	晴時々曇	マラウイ	6,189	3,257	380	34	9,860	137,356	
6月19日	木	晴	クウェート	6,339	3,434	285	34	10,092	137,110	
6月20日	金	晴	ドイツ	6,263	2,788	386	57	9,494	163,355	ドイツ連邦共和国 大統領がご来館、フィリピン共和国 大統領がご来館
6月21日	土	晴のち曇	ブラジル	6,072	3,427	370	344	10,213	178,484	公式催事:『「循環」の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう』(6月21日・22日)開催
6月22日	日	晴時々曇	スリナム	5,912	3,335	325	332	9,904	150,279	
6月23日	月	雨時々曇		5,901	3,269	317	24	9,511	127,557	
6月24日	火	雨時々曇	ケニア	5,842	3,315	349	18	9,524	125,851	
6月25日	水	曇	ナイジェリア	6,259	3,319	356	34	9,968	135,352	
6月26日	木	曇時々雨	ルーマニア	5,931	3,333	354	17	9,635	132,737	
6月27日	金	晴	タジキスタン	6,307	3,252	406	34	9,999	156,426	
6月28日	土	晴	モナコ	5,465	3,514	316	32	9,327	202,819	高円宮妃殿下がご来館、モナコ公がご来館
6月29日	日	晴	バチカン	6,296	3,401	334	76	10,107	151,042	バチカン 国務長官(首相)がご来館
6月30日	月	晴	コンゴ民主共和国	6,263	3,331	297	45	9,936	123,342	コンゴ民主共和国 首相がご来館
6月総数				184,099	95,561	9,821	1,886	291,367	4,366,170	
7月1日	火	晴時々曇	レソト	6,194	3,323	350	29	9,896	108,316	レソト王国 国王陛下がご来館
7月2日	水	曇のち晴		6,454	3,410	310	33	10,207	113,877	
7月3日	木	晴	日本	4,683	6,291	6	0	10,980	124,747	
7月4日	金	曇のち晴	ルワンダ	6,770	3,275	369	30	10,444	142,339	
7月5日	土	晴	カンボジア	6,594	3,444	214	64	10,316	150,498	
7月6日	日	晴のち曇	リトアニア	6,709	3,427	335	75	10,546	127,652	
7月7日	月	晴時々曇	ザンビア	6,764	3,399	308	22	10,493	110,680	
7月8日	火	晴時々雨	カタール	5,542	3,413	355	31	9,341	112,241	高円宮妃殿下がご来館
7月9日	水	晴時々曇	ラオス	6,366	3,418	471	35	10,290	116,208	
7月10日	木	曇一時雷雨	アルジェリア	6,113	3,133	327	32	9,605	118,706	アルジェリア民主人民共和国 首相がご来館
7月11日	金	曇一時雷雨	中華人民共和国	5,210	2,579	383	13	8,185	143,370	
7月12日	土	晴のち曇	モーリタニア	6,615	3,518	417	70	10,620	189,672	
7月13日	日	晴のち曇一時雨	イーター国際核融合エネルギー機構(ITER)	6,615	3,334	331	58	10,338	179,512	火星の石観覧証明書配布を開始(第1弾)
7月14日	月	晴のち雨	モーリシャス	6,104	3,249	304	20	9,677	113,067	
7月15日	火	晴時々曇	赤道ギニア	6,175	3,527	428	56	10,186	119,461	ルクセンブルク大公国 皇太子がご来館
7月16日	水	曇時々晴	ジンバブエ	6,087	3,501	424	28	10,040	125,357	ジンバブエ共和国 大統領がご来館
7月17日	木	雨時々曇	マルタ	6,001	3,594	452	14	10,061	111,303	
7月18日	金	晴時々雨		6,741	3,699	353	23	10,816	130,031	
7月19日	土	晴時々曇	米国	5,116	3,606	372	25	9,119	155,958	
7月20日	日	晴時々曇	コロンビア	5,974	3,680	406	60	10,120	171,971	
7月21日	月	晴時々曇	パプアニューギニア	6,059	3,791	345	62	10,257	148,627	パプアニューギニア独立国 首相がご来館
7月22日	火	晴	ツバル	6,043	3,813	354	28	10,238	118,531	欧州連合(EU)欧州理事会議長、欧州委員会委員長がご来館、公式催事:藻っと知りたい藻類のひみつ(7/22・23・24・25・28・29)開催
7月23日	水	晴	エジプト	6,662	3,524	316	27	10,529	162,001	
7月24日	木	晴時々曇	チェコ	5,659	3,582	292	20	9,553	121,933	チェコ共和国 大統領がご来館、高円宮妃殿下がご来館
7月25日	金	晴時々曇	キューバ	6,473	3,726	322	32	10,553	131,194	
7月26日	土	晴時々曇	ガボン	6,121	3,850	312	71	10,354	144,306	
7月27日	日	晴時々曇	モンゴル	5,958	3,847	374	55	10,234	137,860	
7月28日	月	晴	ネパール	6,248	3,583	288	24	10,143	138,087	来館者数100万人達成
7月29日	火	晴	アンゴラ	5,990	3,847	343	31	10,211	129,336	
7月30日	水	晴	バヌアツ	6,310	3,828	301	27	10,466	126,173	
7月31日	木	晴時々曇	ミクロネシア	6,313	3,723	526	68	10,630	123,742	ミクロネシア連邦 大統領がご来館
7月総数				190,663	111,934	10,688	1,163	314,448	4,146,756	
8月1日	金	晴	中央アフリカ	6,348	3,838	285	26	10,497	123,223	
8月2日	土	晴	マリ	6,249	3,736	387	60	10,432	136,320	マリ共和国 首相兼国土管理・地方分権化大臣がご来館

月日	曜日	天気	ナショナルデー スペシャルデー	一般来館者 (予約あり)	一般来館者 (予約なし)	VIP その他	ツアー・催事等	来館者合計	会場入場者	その日の出来事
8月3日	日	晴	ベリーズ	6,201	3,647	319	49	10,216	136,134	ベリーズ 首相がご来館
8月4日	月	曇のち晴	ブルキナファソ	5,971	3,949	418	58	10,396	120,607	
8月5日	火	曇のち晴	ウクライナ	5,459	3,884	344	35	9,722	127,093	
8月6日	水	晴	ジャマイカ	6,263	3,905	313	54	10,535	131,191	公式催事:日本館レガシープロジェクト Session-1(8/6・7)開催
8月7日	木	雨のち曇	ブルネイ	6,073	3,859	371	36	10,339	136,068	
8月8日	金	曇時々晴	東南アジア諸国連合(ASEAN)事務局	6,654	3,853	318	66	10,891	145,058	バーチャル日本館に「火星の石」コンテンツを追加
8月9日	土	曇時々晴	ペルー	6,534	3,899	338	59	10,830	160,350	ペルー共和国 大統領がご来館
8月10日	日	曇時々雨	カザフスタン	6,523	3,823	323	42	10,711	161,641	
8月11日	月	雨時々曇	トリニダード・トバゴ	6,249	3,879	330	38	10,496	163,441	
8月12日	火	曇時々雨	コモロ	6,023	3,948	370	35	10,376	190,088	
8月13日	水	曇時々晴	チュニジア	6,373	4,246	341	51	11,011	193,554	火星の石観覧証明書配布を開始(第2弾)、Osaka Metro 中央線運行支障により帰宅困難者が発生
8月14日	木	晴一時雷雨	パキスタン	6,328	3,098	331	53	9,810	185,240	ロボットアーム型3Dプリンタの実演(8/14・15・16・17・18・19)
8月15日	金	晴一時雷雨	インド	6,911	4,009	295	97	11,312	183,854	
8月16日	土	晴	ナウル	6,462	3,899	317	65	10,743	170,044	
8月17日	日	晴時々曇	ウズベキスタン	6,415	3,873	322	50	10,660	155,124	
8月18日	月	晴時々曇	タイ	6,585	3,885	325	65	10,860	150,025	
8月19日	火	晴	ガンビア	5,890	3,689	405	64	10,048	148,083	
8月20日	水	晴	セントクリストファー・ネービス	5,990	3,891	348	55	10,284	150,695	
8月21日	木	晴	トーゴ	6,463	2,377	395	67	9,302	153,273	
8月22日	金	晴時々曇	国際連合(UN)	5,717	4,204	340	39	10,300	163,030	承子女王殿下がご来館
8月23日	土	曇のち晴	ドミニカ共和国	4,866	3,642	358	70	8,936	197,771	佳子内親王殿下がご来館
8月24日	日	晴一時雷雨	シンガポール	5,868	3,852	413	109	10,242	170,482	公式催事:日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～開催
8月25日	月	曇	セネガル	5,587	3,180	367	60	9,194	153,155	セネガル共和国 大統領がご来館
8月26日	火	晴	リベリア	5,702	3,857	365	56	9,980	152,963	
8月27日	水	晴時々曇	国際科学技術センター(ISTC)	5,448	4,172	447	55	10,122	158,347	公式催事:日本館レガシープロジェクト Session-2(8/27・28)開催
8月28日	木	曇時々晴	東ティモール	6,292	4,221	462	55	11,030	163,832	東ティモール民主共和国 大統領がご来館
8月29日	金	晴時々曇	ベナン	6,149	4,131	345	55	10,680	178,884	
8月30日	土	晴	セントルシア	5,813	2,974	377	32	9,196	205,473	
8月31日	日	晴	モルドバ	6,316	4,078	337	96	10,827	187,753	モルドバ共和国 首相がご来館
8月総数				189,722	117,498	11,006	1,752	319,978	4,952,796	
9月1日	月	晴		5,506	3,892	394	20	9,812	143,333	
9月2日	火	晴	スーダン	6,971	3,660	378	59	11,068	162,333	
9月3日	水	曇	オーストラリア	6,404	4,061	427	64	10,956	164,263	オーストラリア連邦 総督がご来館
9月4日	木	曇のち雨	マーシャル	5,507	4,126	410	34	10,077	164,314	
9月5日	金	雨のち曇	アルメニア	6,070	3,217	422	54	9,763	187,396	アルメニア共和国 首相がご来館、コロンビア共和国 大統領がご来館
9月6日	土	晴	パナマ	6,306	4,088	278	57	10,729	228,918	パナマ共和国 大統領がご来館
9月7日	日	晴	セーシェル	6,312	4,044	389	63	10,808	203,617	
9月8日	月	曇のち晴	マレーシア	6,134	4,082	412	60	10,688	189,156	
9月9日	火	晴	ベトナム	6,309	3,749	395	62	10,515	198,813	

月日	曜日	天気	ナショナルデー スペシャルデー	一般来館者 (予約あり)	一般来館者 (予約なし)	VIP その他	ツアー・催事等	来館者合計	会場入場者	その日の出来事
9月10日	水	晴のち曇	スロバキア	6,454	4,016	451	66	10,987	200,802	スロバキア共和国 大統領がご来館
9月11日	木	晴のち曇	ガーナ	6,008	3,620	430	98	10,156	206,871	
9月12日	金	曇一時雨	イタリア	5,753	3,333	425	107	9,618	228,057	ポルトガル共和国 首相がご来館
9月13日	土	曇のち晴	フランス	6,535	4,155	443	101	11,234	237,426	火星の石観覧証明書配布を開始(第3弾)
9月14日	日	晴時々曇	ベルギー	6,030	3,328	442	65	9,865	235,280	来館者数150万人達成
9月15日	月	晴時々曇	セルビア	4,772	3,618	504	87	8,981	229,551	セルビア共和国 大統領がご来館
9月16日	火	晴時々曇	カメルーン	6,436	3,937	409	54	10,836	233,900	
9月17日	水	曇一時雨	バルバドス	6,168	3,792	500	98	10,558	237,600	石破茂内閣総理大臣がご来館
9月18日	木	曇一時雨	バーレーン	5,685	4,136	516	62	10,399	240,449	バーレーン王国 皇太子兼首相がご来館
9月19日	金	晴時々曇	アラブ首長国連邦	5,114	3,434	513	99	9,160	241,390	アラブ首長国連邦 皇太子がご来館
9月20日	土	曇	オマーン	6,060	4,075	373	102	10,610	240,671	
9月21日	日	晴のち曇	クロアチア	6,333	4,141	447	54	10,975	236,113	クロアチア共和国 首相がご来館
9月22日	月	晴		5,582	3,401	414	105	9,502	246,819	
9月23日	火	曇一時雨	サウジアラビア	5,675	4,042	461	95	10,273	236,373	公式催事:日本館からつながる「循環」～文化、技術、そして未来へ～開催
9月24日	水	曇	セントビンセント	4,882	3,541	576	55	9,054	243,093	悠仁親王殿下がご来館
9月25日	木	曇一時雨	フィジー	6,231	4,218	489	54	10,992	241,793	秋篠宮皇嗣殿下がご来館、悠仁親王殿下がご来館
9月26日	金	曇時々晴	スロベニア	6,028	4,231	473	59	10,791	243,642	
9月27日	土	曇時々晴	スリランカ	6,105	4,394	481	55	11,035	244,970	スリランカ民主社会主義共和国 大統領がご来館
9月28日	日	曇のち雨	アンティグア・バーブーダ	6,303	3,065	447	60	9,875	237,556	
9月29日	月	曇一時雨	サントメ・プリンシペ	6,145	4,132	475	52	10,804	241,319	
9月30日	火	曇時々晴		6,072	4,415	423	98	11,008	239,837	
9月総数				179,890	115,943	13,197	2,099	311,129	6,585,655	
10月1日	水	晴	ポーランド	5,615	4,291	485	54	10,445	245,269	承子女王殿下がご来館
10月2日	木	曇	ソロモン	6,049	4,239	544	60	10,892	243,926	
10月3日	金	曇のち雨	エチオピア	5,815	4,275	488	96	10,674	244,814	公式催事:日本館レガシープロジェクト Session-3(10/3・7・8・16)開催
10月4日	土	曇時々雨	ソマリア	5,729	4,113	443	43	10,328	239,503	
10月5日	日	雨時々曇	ジブチ	6,052	4,420	429	31	10,932	235,806	
10月6日	月	晴		6,689	4,417	528	67	11,701	242,342	天皇皇后両陛下がご来館
10月7日	火	晴	マダガスカル	6,330	4,482	547	54	11,413	240,971	
10月8日	水	晴	ウガンダ	5,813	3,974	788	102	10,677	247,367	ウガンダ共和国 首相がご来館
10月9日	木	晴	ホンジュラス	5,997	3,030	830	107	9,964	241,556	
10月10日	金	曇	カーボベルデ	5,041	3,370	849	106	9,366	242,159	スウェーデン王国 皇太子がご来館
10月11日	土	曇	ハイチ	5,099	4,190	943	99	10,331	247,218	ハイチ共和国 暫定大統領評議会議長がご来館、来館者にノベルティを配布(10/11・12・13)
10月12日	日	雨のち曇	博覧会国際事務局(BIE)	6,113	4,443	1,542	139	12,237	248,002	
10月13日	月	晴		7,096	5,239	2,283	88	14,706	244,094	石破茂内閣総理大臣がご来館、最多来館者数、閉館・閉幕
10月総数				77,438	54,483	10,699	1,046	143,666	3,163,027	
会期中総数				1,116,289	622,353	65,294	9,383	1,813,319	29,017,924	

※VIPその他(65,294人):VIP(12,666人。詳細P.182参照)、優先入館者(9,773人)、サービス付きチケット購入者(38,306人)、他パビリオン関係者ほか(4,549人)
ツアー・催事等(9,383人):日本館バイオガスプラント見学ツアー(1,277人)、設計者とまわる日本館建築ツアー(451人)、
日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー(6,725人)、催事(668人)、ミャクミャクリワードプログラム(262人)

V

広報·行事·催事

1　日本館の広報

2　日本館の行事·催事

1 日本館の広報

広報活動は、日本政府館（以下、日本館）の魅力について発信することを通じた来館促進、さらには理念の共有や次世代への啓発といった大きな役割を担った。会期前、会期中、そして閉幕後と、各時期において個別に目的、運営、行事・催事など他活動との連携、各種メディアの活用・関係構築などを検討し、効果的な情報発信と機運醸成を目指した。

1.1 広報における方針

広報活動は、日本館の会期前、会期中、閉幕後の各段階において、2025年日本国際博覧会全体の広報活動と連動し、日本館総合プロデューサー／総合デザイナー、経済産業省、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下、博覧会協会）日本館の意向や方針を踏まえ、タイミングに応じた効果的な情報発信を行うことを目指した。

会期前からのコミュニティ拡大や、未来を担う子どもたちとの対話、多様なプレイヤーを発信主体として巻き込むことなどを方針に掲げ、具体的な検討を進めたほか、SDGsを踏まえた未来像についての議論など教育・啓発の機会としても検討した。

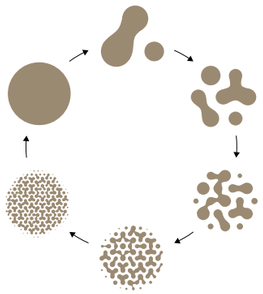
また、会期中にも柔軟に追加施策などを行い、より効果的な広報対応に努めた。

1.2 広報に向けた計画・準備

令和3年度～4年度

前述の方針を実現するため、コミュニケーション企画制作等業務、広報・行事・催事、バーチャルパビリオン企画制作等の事業者公募を行った。

日本政府出展事業（日本館）基本構想（以下、日本館基本構想）で定めた日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに -Between Lives-」を的確に伝えていくためには、強い訴求力を持つキーメッセージとキービジュアルの開発が求められた。そこで、ロゴ、書体、色彩、グラフィックモチーフなど、日本館の世界観を象徴する視覚言語を一体として設計した。特に、「可変するビジュアルアイデンティティ」を軸に、印刷物、デジタル、空間グラフィックなどへの汎用的な展開を想定した設計指針を策定し、ビジュアルシステムを構築した。展示構成や建築要素とも整合性を持たせるべく、初期モックやガイドライン草案を作成し、館内サインやグラフィック、広報物、メディアコンテンツなど、あらゆるタッチポイントで一貫した世界観を体現した。視覚・言語の両面から建築・展示・空間・ツールを横断してコンセプトの表現精度を高めた。



ビジュアルシステムは時間とともに形を変えることで、いのちの循環を表現。呼吸し、成長するかのように分裂と融合を繰り返しながら、絶えず変化を続けるデザインは、いのちといのちのあいだにあるものに目を向ける、という日本館の存在意義を体現している。

令和5年度

日本館のコンセプトや魅力の浸透を図り、若者を含む幅広い層への情報発信や、来館促進に努めた。同時に、日本館のコンセプトを自分たちのこととして捉えるきっかけづくりを目指した。

また、日本館の体験を通じて、社会課題を自分たちのこととして咀嚼（そしゃく）し、未来社会の作り手としての行動変容を促すべく、会期前から閉幕までのフェーズ分けを行い、ターゲットの考察、発信するべき情報の整理・体系化を行った。

調査・情報収集

過去の博覧会の広報施策の調査・整理を通じ、日本館として発信すべき情報及び日本館におけるターゲット像を策定し、広報計画検討のための基盤づくりを行った。

全体広報計画（工程表）の策定

大阪・関西万博全体の広報計画の中での日本館広報の位置付けを検討し、フェーズ毎の活動方針・ターゲットを明確にした全体広報計画を策定した。

体制づくりと方針

会期前・会期中の日本館の情報発信・メディアリレーションを活発化すべく、日本館広報事務局を開設するための準備として、広報事務局の業務範囲を定め、業務要件書の策定を行った。業務範囲は以下のA～Eとした。

【A】問合せ対応業務
【B】メディアリレーション業務
【C】メディアデー対応業務
【D】広報クリッピング業務
【E】館内取材対応業務（会期中）

令和6年度

日本館テーマの認知・興味喚起・理解促進のみならず、大阪・関西万博全体への興味喚起・来場意向への寄与・けん引を目指した。

会期前広報として、大きく三つの期間（9月～11月、年末年始、開幕直前）を設定し、本格的な情報発信に向けて時期戦略を策定した。

また、公式Webマガジン「月刊日本館」の発行を始め、来館者の興味喚起、理解深耕を促す多様なメディアを開発し、空間体験と情報発信を一体化させることを目指した。

日本館広報の時期戦略（令和6年度）

9月～11月
大阪・関西万博全体の強化広報の立ち上げ

［連携］
9/25：開幕200日前（超早割特別抽選予約開始）
10/13：開幕半年前（来場予約開始）
10/中旬：広報ツール（ポスター・サイネージ等）展開

海外パビリオンもそろい踏み、催事情報なども含めて大阪・関西万博のイベントとしての魅力を強く押し出し、チケット／来場事前予約への弾みをつける時期。
他館情報も多く発信されることから、ホスト国の政府館として先陣を切るとともに埋没しないことが重要。大阪・関西万博や日本館への関心が薄い層に対しても響く日本館のニュースを発信していくことで、日本館の存在感を形成し、大阪・関西万博全体の盛り上がりに寄与していく。

火星の石 | ユニフォーム | 「ハローキティ」 | GI基金

年末年始（12月～2月）
万博イヤーとしてのさらなる機運醸成

［連携］
12/31：年末メディア（テレビ）露出
1/13：開幕3か月前（2か月前抽選予約開始）
2/13：開幕2か月前（2か月前抽選結果発表）

いよいよ本番となる2025年「万博イヤー」を印象付ける広報の山場。完成間近のパビリオン建築や具体化する展示や催事など、よりリアルで詳細な情報を発信し、開幕への期待感の最大化を図る。
日本館としても、建築や展示の具体的な内容やメッセージ、体験をより分かりやすく印象的に訴求することで、話題性だけでなくテーマ性においても存在感を発揮することが求められる。

「ドラえもん」 | 「BE@RBRICK」 | 展示詳細 | 日本館PV | 空間デザイン | バイオプラント・CLT

開幕直前（3月～4月）
開幕のスタートダッシュ、期待感の最大化

［連携］
3/13：開幕1か月前（7日前抽選予約開始）
4/4-6：テストラン
4/6：開幕1週間前（7日前抽選結果発表）

開幕に向けて万全の準備が整っている安心感と世紀の大イベントを迎える期待感を最大化。これまでの広報情報を集約し、日本館への来館前予約環境を充実させるとともに、バーチャル日本館と合わせて日本館への来館意向の最大化を図る。

バーチャル日本館 | アテンダント研修 | 開館式 | 日本館名誉館長 | テストラン

全体広報計画（工程表）の更新

マスメディア向けの情報発信による話題性喚起と関心層の開拓に連動するように、テーマの深掘りや日本館を楽しむサイドストーリーをオウンドメ

ディア、イベントを通じて展開することで相乗効果を生むことを目指した。

広報窓口の開設・運用

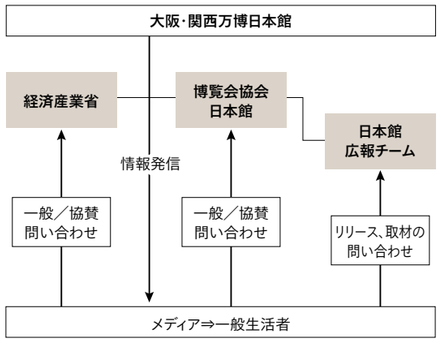
2024(令和6)年4月より、メディアの取材対応のための広報窓口を開設した。メディアからの問い合わせには、FAQに基づく対応を基本とし、統一されたメディアコミュニケーションを実施する方針とした。また、問い合わせがあったメディアの情報は定期的に関係者間で共有を図った。メディアの取材対応が本格化した令和6年度後半には、取材への円滑な対応と会期中のタイムリーな情報発信のため、日本館広報チーム(以下、広報チーム)として体制を強化した。

情報発信・取材対応

広報チームは、経済産業省及び博覧会協会日本館と連携・協力しながら、プレスリリースを始めとする情報発信・取材対応を一体となって行った。メディアに対しては、メディア対応スタッフを配置し、取材受付・素材提供・撮影現場対応などを行った。

首都圏では経済産業省よりプレス取材・ブリーフィングなどを実施し、在京メディアを中心とした全国での発信力の強化を図った。

情報発信・取材対応体制図



現地メディア対応

体制づくりと方針

現地での取材対応については、来館者動線の確保とスムーズなメディア取材の両立を図るべく、日本館運営チーム(以下、運営チーム)連携の上で、詳細な取材対応フロー設計を行った。広報チームは、日本館が完成した2025(令和7)年3月から常駐し、現地での取材対応を開始した。広報チームが窓口となり、取材受付、取材撮影のスケジュール調整と管理、取材現場対応、露出管理などを行った。対応に当たっては、取材対応フローを整備し、フローに沿った対応を行うことで円滑化を図った。

メディアの受入範囲

日本館として取材受入するメディアの範囲は、原則としてメディアセンターのメディア用関係者入場証(以下、AD証)所有者を対象とした。

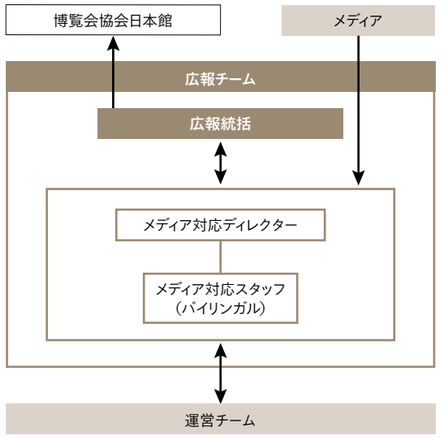
国内メディア

・日本国内で有効な記者登録がなされている報道関係者(「日本新聞協会加盟社」「日本民間放送連盟加盟社」「日本外国特派員協会正会員加盟社」「外務省発行の有効な外国記者登録証保持者」及び「日本雑誌協会加盟社」「日本専門新聞協会加盟社」のいずれかに所属する者)
・フリーランスの場合は取材後の掲載媒体の長からの推薦状及び、過去2年以内の該当誌への掲載記事等のコピーを博覧会協会に提出し、所定の審査で承認を得られたジャーナリスト
・1アカウントにつき10万人以上のフォロワーをもつインフルエンサーなどのソーシャルメディアクリエイター
・博覧会協会広報が許可した者(取材・撮影内容の事前提示が必要)

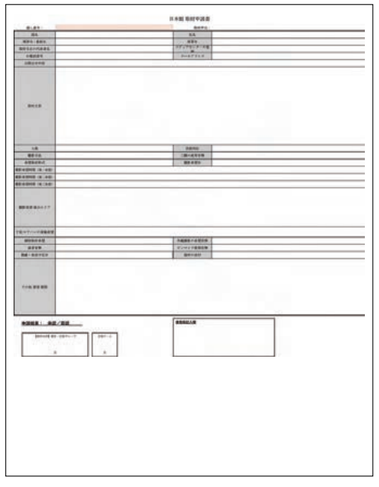
海外メディア

・外務省発行の有効な外国記者登録証保持者
・パビリオンの推薦を受けた報道機関に所属及び委託を受けた者
・フリーランスの場合は取材後の掲載媒体の長からの推薦状及び、過去2年以内の該当誌への掲載記事等のコピーを博覧会協会に提出し、所定の審査で承認を得られたジャーナリスト
・1アカウントにつき10万人以上のフォロワーをもつインフルエンサーなどのソーシャルメディアクリエイター
・博覧会協会広報が許可した者(取材・撮影内容の事前提示が必要)

現地メディア対応体制図



エスカレーションフォーマット(取材申請書)



メディアへの広報素材の提供

日本館に関する情報をまとめたメディアキットを配布した。また、その他、配信リリースに関するオフィシャル画像などについてもメディアに提供した。

メディアキット

取材対応

取材の受入基本方針

メディアは一般来館者とは切り分けて考えること、運営に支障が出ないよう1時間に3件を目安に取材を調整することとした。ただし、VIPを優先的に案内するため、予約状況、メディアの申込状況などについて、運営・接遇チームと都度連携をとり調整を図った。

基本の考え方

メディアの取材・撮影については、開館時間内・開館時間外に分け、以下の考え方を基本とした。

開館時間内

・一般来館者の観覧の妨げにならないよう、混雑時は安全が確保できる程度に人流が収まるまでお待ちいただくか、混雑エリアでの撮影をお断りする場合がある。
・VIP来館時は撮影時間変更を要請する場合がある。
・比較的幅員が広いエリアでの撮影を推奨する。

開館時間外

・一般来館者がいないため、館内を自由に撮影可能とする。
・VIP来館がない時間帯のため取材時間は原則事前に決定する。

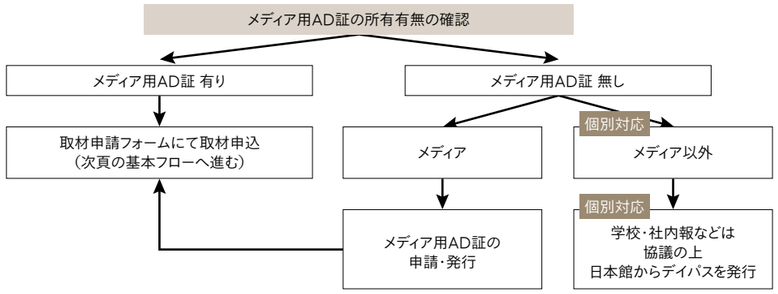
また、開館時間内・時間外に共通のルールとして、一般来館者や関係者、非公開エリア（バックヤード等）の意図しない映り込みによるトラブルを防止するため、博覧会協会（運営主体）の所定手続きを済ませた生放送を除くリアルタイム配信は禁止とした。

大阪・関西万博全体における メディア共通ルールの遵守 （2025年日本国際博覧会メディアガイドライン）

大阪・関西万博全体における公平で円滑な取材・撮影等の活動が行われるための指針として「2025年日本国際博覧会メディアガイドライン」が策定され、日本館においても、大阪・関西万博会場内における下記の共通ルールを守っていただいた上で、取材・撮影を受け入れる方針とした。

・取材・撮影時はメディア用AD証を常に携行、見やすいところに着用し、来館者の安全に十分配慮すること。
・取材・撮影における禁止事項を設け、該当する行動を起こした場合、または博覧会協会が取り決めた各種規定・規約・ガイドラインに反した行動を起こした場合は、取材許可やメディア用AD証を取り消す場合がある。
・取材・撮影時には来場者の肖像権、関係者の著作権、商標権、パブリシティ権、その他知的財産に十分配慮するとともに、関係者に個別に承諾を得る必要が生じた場合は、各メディア関係者が行うこと。
・各パビリオンへの取材は、パビリオンごとに取材規定が異なるため、メディアポータル※1を通じて取材申請を行い、各パビリオン担当者と個別で調整すること。

申込時の、メディアセンター登録有無による対応フロー



※飛び込みメディアの場合
当日メディアセンターにて申請を行い、メディア用AD証の代わりに腕章を貸与されるため、腕章があればご案内

取材申請

メディアセンターへ登録済み（メディア用AD証所有）のメディアに対しては、規定フローに沿って対応した。原則として、取材申込時には申込フォームへの記入を依頼した。

メディア用AD証がないメディアに対しては、メディア用AD証の申請・発行の上、再度取材を申し込むよう促した。

アポイントなしで直接来館されたメディアに対しては、申込フォームと同様の内容をヒアリングの上、取材可否判断を行った。

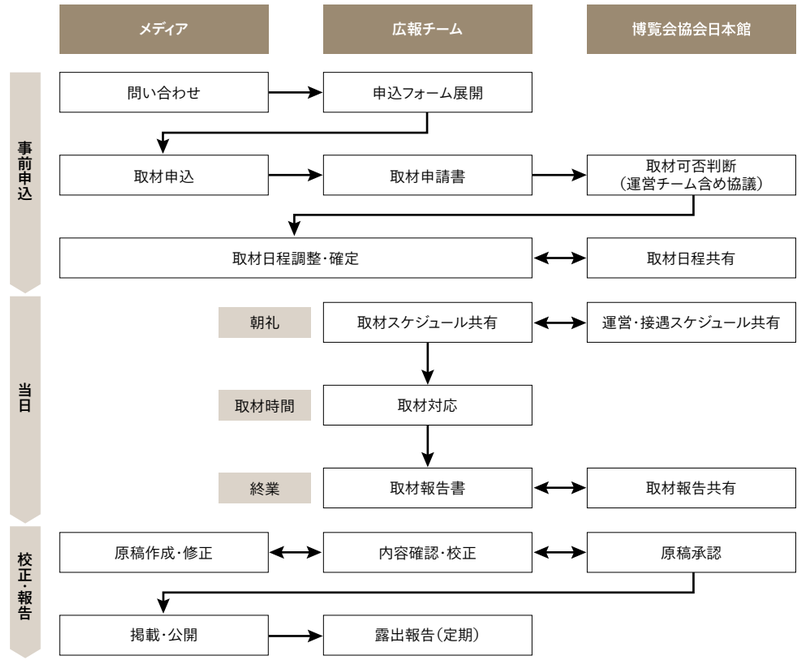
当日取材対応

朝礼前のスタッフ集合時に受付備品の準備・スタンバイを行い、朝礼時にメディアの申込状況の共有を行った。取材時間は65分程度を想定した。なお、来館者のいない早朝・深夜に撮影を希望するメディアには別途対応した。

取材当日、広報チームは取材メディアに対して、ブリーフィング、アテンド資料（メディアキットなど）とメディア用一時入館パスの配布を行った。取材メディアには名刺や社員証などの身分証明書類を提出いただき、記事内容確認等その後のメディアリレーションがとれる状態とした。

※1 メディアポータル
大阪・関西万博で開催されるイベントに関する情報を閲覧することのできるポータルサイトで、イベント主催者はイベント情報を掲載でき、メディア関係者は、取材申請を行うことができる

メディア取材対応 基本フロー



館内撮影ルート

撮影ルートは、広報チーム同行の下、来館者と同じルートを基本として想定した。三脚使用・ムービー撮影は図内の推奨エリアを設定し、その他の場所での撮影は、一般来館者の入館状況に応じて都度対応するようにした。

VIP随行メディアの対応

VIP随行メディアの撮影希望状況を確認し、同行対応を行った。接遇チームと連携し、随行メディアが外観や展示撮影を希望する場合は、必要に応じてアテンドするようにした。

パビリオン内　取材・撮影ガイドライン

取材対応時は、開始から終了まで、広報チーム担当者が必ず立ち会うようにした。

また、一般来館者の妨げにならないように配慮し、主に撮影や撮影機材に関する注意点を取りまとめた。例えば、以下のとおりである。

・フラッシュ撮影、照明の持ち込み、ガンマイクの使用は周辺の一般来館者に配慮。
・三脚使用・ムービー撮影推奨エリア以外での同じ場所での長時間撮影や割り込みなど、他の来館者の迷惑となる行為は禁止。
・来館者への撮影やインタビューへの許可取りはメディア自身で対応。

撮影終了後の対応

原稿確認が可能なものは内容確認を行った。

露出確認・分析

露出のあった記事数と広告効果をTV、新聞・雑誌等の紙媒体、ウェブサイトなど、それぞれのカテゴリーで分類集計を行った。

【露出一覧】メディア露出量の一覧として掲載数を集計。
【記事クリッピング】新聞、雑誌等の紙媒体は記事の切り抜きを行い、クリッピングを実施。
【露出したTV番組】キー局、準キー局の露出番組をリサーチして録画データを手配。

※露出結果は資料編の「日本館関連の主な報道実績一覧」JP.250を参照

危機管理広報

危機管理広報についての基本方針、行動原則を策定し、緊急時には、これらに基づき、基本フローに従って対応した。

危機管理広報についての基本方針

1. 危機の発生と初動対応

危機発生時は情報を迅速に収集・確認する。「危機対応チーム」を即座に構成して指示系統と役割を明確化し、関係各所に状況を報告、全体での対応体制を確立する。

2. 情報の整理と戦略策定

事実と憶測を区別して情報を整理する。リスク評価を行い対応優先度を決定し、誰に何をいつ伝えるかを明確にした上で発信計画を策定する。

3. 対外発信

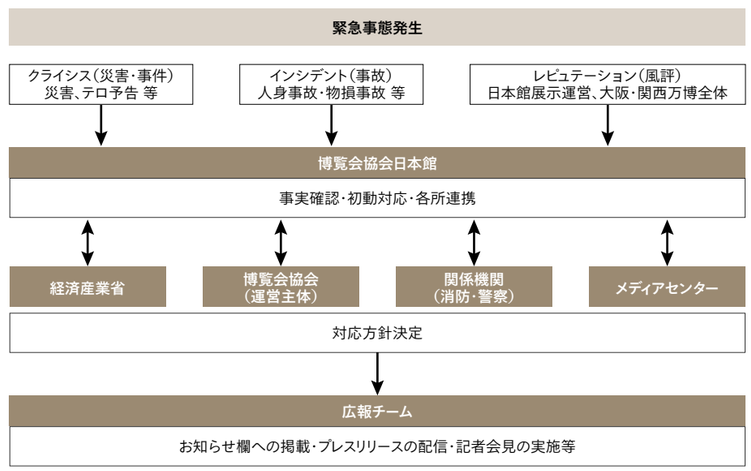
公式発表に当たっては、広報窓口を一元化し、記者会見やメディア対応の準備を実施する。適切なタイミングで公式情報を発信し、その後も問い合わせ対応や状況報告を定期的に行う。

行動原則

1. 初動対応の迅速化

危機発生時には、迅速な情報収集と適切な初動対応を行う。

緊急時の基本フロー



2. 情報の一元化と統一性

情報発信は広報チームに一元化し、内容の統一性と信頼性を確保する。

3. 進捗状況の定期発信

危機対応のプロセスや対応状況を定期的に発信し、透明性を確保する。

4. フェアな対応

誤報や憶測が広がらないよう正確な情報を提供し、公平な対応を行う。

5. 危機対応後の評価と改善

危機対応終了後は振り返り、教訓の抽出を行い、次の危機に備えた予防策を講じる。

1.3　実施した広報施策

令和3年度～4年度

万博未来編集部ローカルツアー

全国的な機運醸成につなげていく取組の一環として、市民からの声も広く集めることを目的に、令和3年度は関西2府4県の参加者を募ったオンライン形式で、令和4年度は関東3県の参加者を募ったリアル形式で、日本館や大阪・関西万博がどうあるべきか、地域の未来を考えるための市民参加型の取組「万博未来編集部ローカルツアー」を開催した。

開催に先立ちウェブサイト特集ページを立ち上げて、FacebookやInstagramによる記事投稿、プレスリリースの発信、3県600か所以上へのA2告知ポスターの設置などを行い、同ツアー開催の拡散を図った。

各回、ワークショップ形式で実施し、京都大学総合博物館 准教授の塩瀬隆之氏を始めとした有識者がゲストクリエイターとして登壇した。参加者はエリア編集長とクリエイターとのトークセッションを通じて、地域課題や未来を考える視点を養い、参加者間でグループワークを行った後、結果を発表して共有を行った。

アンケート結果では、参加者の満足度が非常に高く、地域活動や大阪・関西万博への興味関心に好影響を与えたことが分かった。

令和5年度

日本館起工式（9月11日）

日本館が現地で行う初めてのイベント広報業務として、日本館起工式の事前事後及び当日の広報対応を実施した。

33媒体47人の取材（関西準キー局は全局出席）があり、計70以上のメディアで報道された。

令和6年度

開幕1年前を迎え、大阪・関西万博や日本館への関心が薄い層にも訴求力のある情報を、戦略的に段階を追って発信していくこととした。

日本館の認知と存在感を高め、大阪・関西万博全体の盛り上がりに寄与していくことを目指した。

公式Webマガジン「月刊日本館」創刊を発表（4月13日）

「月刊日本館」創刊の認知拡大を図るべくPR活動を行った。「大阪・関西万博開幕1年前」という社会性を踏まえた切り口で各メディアにアプローチし、コンテンツ概要などを紹介した。

大阪・関西万博会場内での「火星の石」展示を公表（9月17日）

齋藤健経済産業大臣の閣議後記者会見にて、大阪・関西万博で世界最大級の「火星の石」を展示する予定であることを公表し、「火星の石」の保管・研究を行う国立極地研究所と連携してプレスブリーフィングを行った。この模様は計30以上のメディアで報道された。

大阪・関西万博全体告知キービジュアルとして日本館「火星の石」ビジュアルが採用（9月20日）

来場予約を促す大阪・関西万博全体告知キービジュアルとして、公式キャラクターのミャクミャクを配したビジュアルとともに、日本館で展示する「火星の石」を配したビジュアルが採用された。

大阪・関西万博全体告知キービジュアル
（提供：2025年日本国際博覧会協会）

大阪・関西万博全体告知キービジュアル
（提供：2025年日本国際博覧会協会）

【展示公開 第1弾】Farm Area+「ハローキティ」公表（9月20日）

日本館の展示公開 第1弾として、藻類が主役となる「Farm Area」を公表した。超早割特別抽選予約開始（9月25日）に先立ち、日本館の特長である3エリアを循環するパビリオン構造についても紹介し、計50以上のメディアで報道された。

2024（令和6）年9月20日
報道関係者各位
2025年大阪・関西万博日本政府館（日本館）
【展示公開 第1弾】日本館に「ハローキティ」が登場！
社会課題を解決する鍵となる 32種類の「藻類」に扮した
ハローキティを公開
経済産業省は、2025年に開催される大阪・関西万博に、「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマとした日本政府館（日本館）を出展します。日本館は、「Plant Area（プラントエリア）」「Farm Area（ファームエリア）」「Factory Area（ファクトリーエリア）」の3つのエリアで構成され、日本文化の特徴のひとつである「循環」を日本館全体で創出します。
展示公開の第1弾として「藻類（そうるい）」が主役となるファームエリアを公開。普段はあまり意識されることのない藻類ですが、限りある化石資源への過度な依存や食料不足など、様々な課題を解決し得る存在として注目されています。
ファームエリアでは、そんな藻類に扮したハローキティが登場！世界中に愛されるハローキティが32種類の藻類に扮して、藻類の魅力と無限の可能性をかわいらしく伝えます。
Algae × Hello Kitty
■丸・三角・四つ葉のクローバー！
様々な形の藻類に大変身した32種類の「ハローキティ」が日本館に登場
藻類は、理科の授業でも登場するミカヅキモやクイソウ類のほか、私たちの食卓で馴染み深いワカメやヒジキなど多種多様です。さらに、三角形や四角形、正十二面体や四つ葉のクローバーに似た形など、顕微鏡でしか見ることのできない藻類も、実は魅力的な形状をしています。
世界中で愛されるハローキティのかわいさに、藻類の愛らしいフォルムが融合することで、今まで気づかなかった藻類の世界に親しんでいただけます。
1

展示公開 第1弾のプレスリリース

アテンダントユニフォーム発表（10月17日）

国内外から日本館に訪れる多くの方々をおもてなしするアテンダントが着用する専用ユニフォームを発表した。経済産業省でプレスブリーフィングを行い、その中でアテンダント最高年齢内定者と20代内定者にインタビューを実施した。計60以上のメディアで報道された。

【展示公開 第2弾】Factory Area+「ドラえもん」公表（12月23日）

日本館の展示公開 第2弾では、日本の伝統と最先端の技術が融合した「循環型ものづくり」の考え方や具体的な社会実装の姿を「ドラえもん」がナビゲートする「Factory Area」を公表した。また、経済産業省でのプレスブリーフィングも行い、計15以上のメディアで報道された。

NHK「ゆく年くる年」にて生中継（12月31日）

大阪・関西万博イヤーを迎えるに当たって、NHKの「ゆく年くる年」にて日本館の外観が生中継された。

放送のワンシーン　（画像提供：NHK）

【展示公開 第3弾】Plant Area+「BE@RBRICK」+宇宙関連の展示物公表（1月14日）

展示公開の最後となる第3弾では、「微生物」の働きに着目した「Plant Area」を公表した。また「火星の石」が日本館で展示されること、小惑星イトカワ及びリュウグウから採取された「砂」などの宇宙関連の展示物についても発表した。経済産業省でのプレスブリーフィングも行い、計70以上のメディアで報道された。

石破茂内閣総理大臣が日本館を初視察（1月19日）

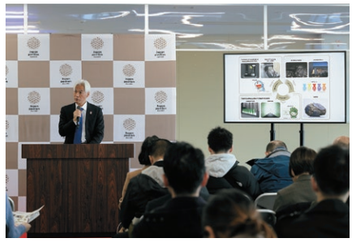
石破茂内閣総理大臣が日本館に初めての視察に訪れた。この模様は主要新聞、全国ニュースで報道された。

火星の石について説明を受ける
石破茂内閣総理大臣の写真
※権利の関係上、画像を掲載しておりません。

国内メディア向け内覧会（1月26日）

日本館として単独のメディア向け内覧会を開催し、26メディア44人が参加した。藻類に扮した「ハローキティ」、フォトバイオリアクターなど、複数の展示エリアを初公開したほか、メディアを複数グループに分けてツアー対応・会見を行うなど、メディアに対する訴求力を高めるための工夫を施した。この模様は計170以上のメディアにて報道された。

藻類に扮した「ハローキティ」
著作 株式会社サンリオ　©2026 SANRIO CO., LTD.



会見の様子

「ふれあう伝話」の設置を公表（1月27日）

大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」を体現するコンテンツとして、日本電信電話株式会社（以下、NTT）と連携した新しいコミュニケーション体験装置「ふれあう伝話」を日本館に設置することを発表し、計20以上のメディアで報道された。

大阪ガス株式会社のメタネーション実証事業への参加を公表（2月25日）

大阪ガス株式会社による、グリーン水素と二酸化炭素から都市ガスの主成分であるメタン（e-メタン）を製造・供給する「メタネーション実証」（環境省委託事業）に参加することを公表した。日本館内に併設されている、微生物の力を活用してエネルギーを生み出す「バイオガスプラント」が実証の一部として運用され、環境にやさしいe-メタン製造をサポートする旨が、日本館ウェブサイトにて掲載された。

日本館名誉館長就任（3月5日）

日本館の名誉館長に俳優の藤原紀香氏が就任したことを発表した。選任理由としては主に、関西出身であることや、SDGsに関する様々な活動を行っていることが挙げられる。

同日に執り行われた就任式では、武藤容治経済産業大臣から任命状を手交した。会期中は日本館を代表し、国内外から訪れるVIPの接遇を行うなど、日本館の魅力を広く発信することとなった。また、就任式後には会見を実施し、「日本の良さを伝えたい」と意気込みを語った。就任式・会見には21社29人が参加し、計30以上のメディアで報道された。

日本館名誉館長就任式後の記者会見

海外プレスツアー（3月26日）

博覧会協会・外務省から委託を受けた企業が計画したツアー行程内に日本館が組み込まれる形での開催となり、ツアー後は、台湾・韓国・中国・東アジアを中心に7媒体に掲載された。

「火星の石」の日本館への搬出（3月26日）

日本館で初めて一般公開される「火星の石」が国立極地研究所から夢洲の大阪・関西万博会場に向けて搬出されたことをメディアに公開した。同研究所の熊谷宏靖広報室長の「多くの方に宇宙や地球に思いをはせてもらえるような機会になってほしい」というコメントも合わせて発信した。

開館式（3月29日）

EXPOナショナルデーホール「レイガーデン」メインステージにて開催された開館式の広報対応業務を実施した。18媒体37人の取材があり、計50以上のメディアで報道された。

令和7年度

大阪・関西万博全体の広報活動と連動する形で、各期間の性質を踏まえた段階的な広報施策を展開し、日本館来館促進及び意識変容・行動変容のきっかけづくりに取り組んだ。

開幕直前には期待感の醸成と直前予習の充実を図り、会期中は現地の様子など臨場感のある情報発信で来館促進を図った。夏休みを含む会期中盤以降には、公式催事等を通じてより深い気づき・学びの発見につながる情報発信を継続し、日本館の残したレガシーの発信へとつなげていった。

メディア対応

会期前のメディアからの個別取材、タレント・レポーターによる生中継等に関しても、運営チームと連携・調整の上で、可能な限り対応した。

メディアデー（4月9日）

日本館全展示を初公開するメディアデーを実施した。

メディアに全エリア初公開となったこのメディアデーでは、15:00～17:00、19:00～20:00の3時間をメディアに開放し、事前予約制での案内誘致を行った。TV、新聞社を中心に取材申し込みがあり、中には中継やインタビュー依頼もあった。

メディアデーという他のパビリオンと横並びでの露出が基本となる内容でも、長尺で露出される結果となり、計20以上のメディアで報道された。

名誉館長による来館者お出迎え・開館宣言（4月13日）

名誉館長の藤原紀香氏が開館に合わせて華やかな和装姿で登場し、開館の挨拶と最初の来館者のお出迎えを行った。この模様は計20以上のメディアで報道された。

関西パビリオン（三重県）の特別展示紹介（5月29日～6月18日）

伊勢神宮の「式年遷宮」に関連した、関西パビリオン三重県ブースでの特別展示の案内を行った。伊勢神宮の内宮正殿で実際に使われていた「鰹木」が展示され、受け継がれていく伝統と、その背後にある日本の特別な精神文化の発信を図った。

経済産業省でのPR（7月28日～10月30日）

経済産業省別館1階の共創空間「ベツイチ」で、日本館に関する期間限定展示、日本館紹介動画の上映を行った。また、8月1日には、経済産業省関係者向けの大阪・関西万博中間報告において、日本館の紹介を行った。

ベツイチでの日本館展示

霞が関珈琲での日本館グッズ販売

さらに、経済産業省別館の霞が関珈琲にて、ぬいぐるみ・ステーショナリーなどの日本館グッズの販売を開始した。

8月6日、7日の経済産業省こどもデーでは、オリジナルの日本館シールを配布するなど、積極的なPRを行った。

アニメ「サザエさん」での紹介（8月24日）

アニメ「サザエさん」で「祝!万博開催スペシャル」と題した特別編が放送された。新作エピソード「サザエ再び万博へ行く」では、サザエさん一家が日本館を訪れて火星の石の展示を見学するシーンや、名誉館長を務める藤原紀香氏が登場してサザエさん一家と出会うシーンが描かれた。

「サザエさん」でのワンシーン　©長谷川町子美術館

「HikakinTV」での紹介（10月5日）

人気YouTuberヒカキン氏による「HikakinTV」（チャンネル登録者数:約1,960万人、2025年11月時点）の「【48時間密着】大阪・関西万博を2日間全力で回る兄弟旅【ヒカキン&セイキン】」で日本館が取り上げられ、日本館のテーマ、「火星の石」、藻類に関する展示を中心に紹介された。

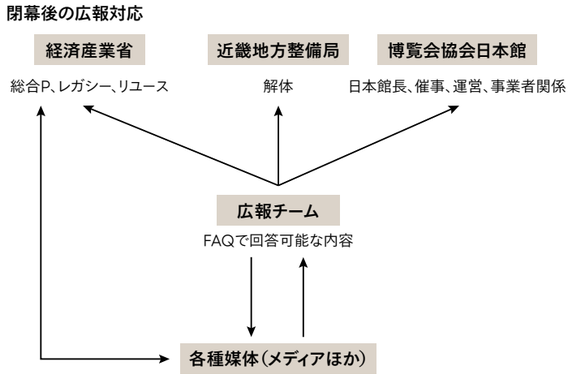
動画のワンシーン

来館者お見送り・名誉館長による閉館宣言（10月13日）

日本館の閉館に際して、来館者のお見送りと名誉館長による閉館宣言のシーンをメディアへ公開した。13媒体25人による取材があり、計20以上のメディアで報道された。

閉幕後の広報対応

広報チームによるメディア対応は、閉幕後、問合せ内容が会期中とは異なるフェーズに入ったことから、取材内容等の傾向や窓口となる組織を踏まえて、経済産業省、近畿地方整備局、博覧会協会日本館と連携して広報・報道対応を行った。



1.4　オウンドメディアでの広報活動

全体広報計画に基づき、フェーズごとに策定した戦略、活動方針に則った情報発信を実現するべく、オウンドメディアを最大限に活用した。

まず、2023（令和5）年4月13日に日本館の関心層の拡大や情報発信、協賛公募関連情報の発信を目的とした日本館の公式ティザーサイトを日本語版、英語版で立ち上げた。

2023（令和5）年11月30日の「大阪・関西万博開幕500日前イベント～いよいよ入場チケット販売開始～」における前売りチケットの販売開始に先立ち、サイト内で協賛者及び協賛内容を紹介した。

そして、開幕1年前にあたる2024（令和6）年4月13日に、日本館ウェブサイトを公開した。本ウェブサイトは、デジタルコミュニケーション施策の中核として、「月刊日本館」を中心に、日本館の展示コンセプトやアウトラインを分かりやすく伝える構成とした。また、日本館独自の有機的なビジュアルシステムを活用し、来館者の期待感を高めるデザインを採用した。

2024（令和6）年7月17日には、日本館についての情報発信をより強化するべく、X（日本語・英語）・Instagram・Facebookの公式SNSを開設。「月刊日本館」との連動コンテンツや日本館ウェブサイトへの誘導など、日本館ウェブサイトを補完しつつ、独自の発信も行うライトなコミュニケーションツールとして運用を行った。

このように、オウンドメディアとして公式ウェブサイトと三つの公式SNSで様々なコンテンツを発信した。

その後も2025（令和7）年2月13日に日本館ウェブサイトをリニューアルし、開幕を目前に控えた来館者が必要とする情報に迅速にアクセスできる構造へと最適化した。具体的には、来館前後の体験価値を高めるため、「日本館まるごとガイド」「バーチャル日本館」「日本館ライブラリ」など、充実したコンテンツを開幕に向けて順次公開していった。

なお、「バーチャル日本館」は大阪・関西万博のバーチャル会場である「バーチャル万博～空飛ぶ夢洲～」にあるもうひとつの日本館である。バーチャルならではの「循環」をゲーム感覚で楽しめるコンテンツとしており、内容については後に詳述する。

会期中は運用マニュアルや広報計画に沿って、フェーズに応じた日々のサイト更新や公式SNSによる発信を行った。

公式Webマガジン「月刊日本館」

開幕1年前である2024（令和6）年4月13日、日本館公式Webマガジンとして、日本語版・英語版で「月刊日本館」を創刊した。日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」の根底にある「循環」の価値を知ってもらうことを目指し、大阪・関西万博開幕の2025（令和7）年4月までの全12号、毎号異なる特集テーマでの更新を行った。

各号のテーマとして、「発酵」「微生物」「水」「藻類」「やわらかく作る」など、日本館の展示との関連性を想起させるものを選定し、身近にある「循環」を様々な切り口で提示し、これからの社会の在り方や、持続可能な未来へのヒントを示した。

また、日本館のプレスリリースとタイミングを合わせて関連した特集を掲載することで、「日本館」と「循環」への関心が相乗効果を生むようにも配慮した。

●Issue01 いのちと、いのちの、あいだに

「循環」と言われてもピンとこないけれど。それは今、あなたの体でも私の体でも起こっていて。
それは地球の仕組みでもあって。
生産、消費、分解を繰り返す「循環」の物語は世界そのものと言えるのかもしれない。

・マンガで読むいのちの「循環」
・私からXメートル。ここにも「循環」。あそこにも「循環」!
・「循環」って、なんだろう? 10人のキーパーソンと考える

●Issue02 おわりは、はじまり

微生物たちの得意技「分解」に耳をすませてみる。
おいしくて、環境によくて、地球を救う。
未来は、ミクロの世界からはじまっていくのかも。

・腸内には約1kgの微生物がいる? 人類と微生物の共生について考える
・生命は、地球は、我々は、微生物を起点にめぐっている
・生き物はみんな、食べて出す。自然界の食と排泄に見る、「いのちの循環」の物語

●Issue03 おいしさの小さな原動力

醤油も、味噌も、ワインも、チーズも。
おいしい食卓に、「発酵」あり。
小さな料理人・微生物たちの厨房を覗いてみよう。

・和食に関するA to Z 後世に残すべき大事な要素とは
・醤油はなぜうまい? 調味料から考える日本の発酵文化
・微生物が作り出す造形美。〈Dress the Food〉KAORUさんの、発酵食美術館へようこそ

●Issue04 小さな働き者たち

これから向かうのは、目に見えない働き者たちの職場体験。
それは体の中、牧場、そして宇宙まで。
あらゆるところで巻き起こる循環を見つめて。

・微生物は「いま私と一緒にいる」。〈BIOTA〉伊藤光平さんに聞く、人と見えないものたちの共生関係
・微生物は地球の外側からやってきたのか宇宙規模の循環に思いを馳せながら
・「発酵パワーで生ごみを救え!」メタン発酵戦隊・バイオガスレンジャー参上!

●Issue05 水物語

空を飛び、土に紛れ、海へ流れる。
忍者よりアクロバティックな、水の循環を追いかける。

・ここにも? あそこにも? 漢字でわかる「水」の循環アニメーション
・地球の循環を支える水の不思議について
・火星隕石が私たちにささやく、宇宙といのちのつながり

●Issue06 藻類が地球を救う!?

太古から地球に住み、循環の鍵を握る。
おいしくて、燃料になって、地球を整える。
人類は改めて知る、藻類のすごさを。

・緑色のパワーが未来を変える! 初めてでもわかる、藻類入門
・ハロー! かたちで選ぶ「藻類×ハローキティ図鑑」

●Issue07 輝け! ウルトラ藻類

藻類と人が、力を合わせたら
地球の未来は、きっともっとよくなっていく。

・おいしいワカメを守るため。味噌汁からはじまる藻類ストーリー
・ワカメや昆布の仲間を活用した「藻類バイオマスエネルギー」ってなんだ?

●Issue08 捨てない哲学

必要なだけ手に取る。残さない。繰り返し使う。
古の知恵と新たな技術に学んで目指す、
「捨てない」のその向こう。

・ゴミを出さない町の「ゼロ・ウェイスト」現場体験記
・「ごみとは何か?」人とものの関係性から考えるごみの哲学

●Issue09 生まれ変わる力

すべては、「生まれ変わる力」を持っている。
ごみと未来、その間にあるもの。
それはわたしのくらしから出発する。

・「いつか廃棄される日」を想定して家を設計する。"分解者"目線の建築家に学ぶ、循環の環
・コンビニの棚に、足下に、目には見えないPETリサイクルの大革命

●Issue10 それいけ、みんなのGX

環境負荷を減らしながら経済成長を目指す。
そのために、エネルギーや産業の構造を持続可能な形に転換する。
グリーントランスフォーメーション（GX）。みんなの味方。

・CO_2をどんどん食べちゃう不思議な細菌のお話
・薄い。軽い。曲がる。未来の太陽電池「ペロブスカイト」はこんなにすごい!

●Issue11 やわらかく作る

直す工夫が美しさを生み、世代を超えて継承される。
ただ丈夫さを求めるだけじゃない。やわらかく作るということ。
知恵と技術が歴史を織り成し、そして未来へ続いていく。

・伊勢神宮に受け継がれてきた、古くて新しいサステナビリティの精神
・時代と国境を超えた日本の針仕事。「刺し子」が紡ぐ循環の価値観

●Issue12 季節は変わり、まためぐる

どうしてだろう。めぐる季節の儚さを。枯れてまた咲く花を。
循環する大いなる自然を。儚く、尊く、美しく思うのは。
誰もが心の奥で知っている、美意識の声に耳を傾けて。

・めぐりめぐる言葉の意味を辿って。「循環」からひもとく日本の美意識
・循環から見つめる、日本的な美意識について

日本館ウェブサイト

日本館のコンセプト・テーマ・展示内容への理解を広く醸成するために、フェーズに合わせてウェブサイトの構成、コンテンツをアップデートしていった。日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」を想起させる有機的なビジュアルシステムを採用し、いきもののような動的なサイトとした。主なコンテンツは以下のとおりであった。

月刊日本館（2024（令和6）年4月13日～）

日本館のテーマ「いのちと、いのちの、あいだに」の根底にある「循環」の価値を知ることで、日本館をより深く楽しむための公式Webマガジンである。

コンニチハ!日本館（2024年4月13日～）

日本館の進捗状況や、日々の気づきなど、日本館総合プロデューサー／総合デザイナー佐藤オオキ氏が感じたことを気軽に楽しめる読み物として不定期に情報発信を行った。日本館に対する親近感の醸成を図った。

日本館について（2024年4月13日～）

日本館のコンセプト、建築、体験、ビジュアルシステム、ユニフォームなどの基本情報を紹介した。

チケット情報（2024年4月13日～）

大阪・関西万博のチケット購入から来場までのステップ、観覧プログラム、観覧予約の方法についての最新情報を案内した。

パートナー（2024年4月13日～）

協賛企業・団体と展示協力企業・団体、寄附者の一覧を掲載した。

おしらせ（2024年4月13日～）

日本館の準備状況や協賛について、ニュースリリースなどのおしらせを掲載した。開幕以降は、日本館の運営に関する情報や催事の予告・レポート等を適時公開していった。

日本館ライブラリ（2025（令和7）年2月13日～）

日本館を読み解く様々なインタビューや、コンセプト策定から完成までの軌跡を振り返る、貴重なドキュメントを格納した。日本館全体の情報を起点とすることで、「月刊日本館」とは異なる切り口で記事を展開した。具体的にはアテンダントユニフォームのデザイン担当者へのインタビューや、過去の万博における日本館の歴史を振り返る「日本館HISTORY」、火星の石発見時のエピソードについての国立極地研究所へのインタビュー、GI基金[※2]事業を推進する日本館の展示協力企業・団体へのインタビューなどの特集記事を掲載した。また、会期中は「日本館ガイドムービー」のほか、実際に日本館を訪れた方々の「生の声」を届ける「Voices きかせて、日本館」などのコンテンツを公開し、様々な切り口から日本館に興味を持ってもらえるように工夫した。

国立極地研究所へのインタビュー記事

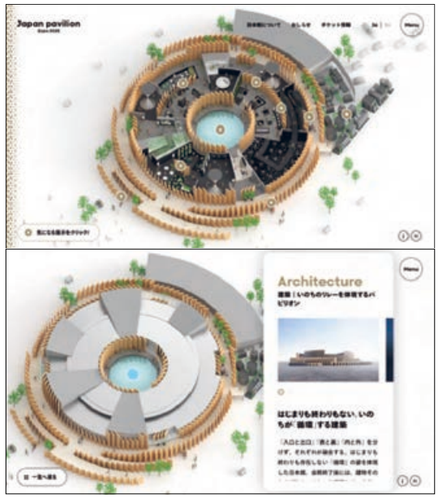
Voices きかせて、日本館

施設情報（2025年2月13日～）

アクセス、開館時間などの来館者に向けた基本情報や施設案内を掲載した。

日本館まるごとガイド（2025年3月13日～）

日本館をより深く理解してもらうことを目指したオンライン・ガイドブックである。3つのエリアを始め、建築やバイオガスプラント、アテンダントユニフォームなどについて、それぞれの見どころ、展示に込められた想いや支える技術を紹介した。地図上の該当箇所をクリックすれば詳細説明を読める仕様とした。



日本館まるごとガイド

バーチャル日本館（2025年3月13日～）

大阪・関西万博のバーチャル会場にある「バーチャル日本館」のコンセプトや体験コンテンツの概要を紹介した。

音声ガイド（2025年4月13日～）

二次元コードから、来館者自身のスマートフォンで再生することで、来館者が日本館をより深く楽しみながら回遊していただくためのオンライン・音声ガイドである。アテンダントの声かけによって利用を促した。日本語版、英語版を用意し、音声と同じ内容をテキストで読むこともできた。

SNSメディア

2024（令和6）年7月17日、日本館公式SNSを開設した。日本館の最新情報の発信のほか、「月刊日本館」との連動コンテンツや、様々な切り口から「循環」を紹介するSNS独自企画も発信することで日本館に対する興味喚起を図った。また、会期中は、現地の様子などのリアルな情報発信と合わせて、各SNSの特性に合わせてコンテンツ発信を実施することでより効果的に生活者へアプローチすることを目指した。

使用するSNSは「X」、「Instagram」、「Facebook」の三つとした。これらは、日本館のブランディング向上や幅広い層への周知を目的として、それぞれ選定した。

会期中は各SNSでほぼ毎日投稿を行い、閉幕時点までで、全てのSNS合計で約5万人のフォロワーを獲得した。

X

速報性、拡散性をもつツールとして運用し、日本語版と英語版を展開した。

投稿内容は、主に日本館の展示に関する情報、イベント告知、来館ルート案内、運営告知などで、公式サイトの記事への誘導なども行った。

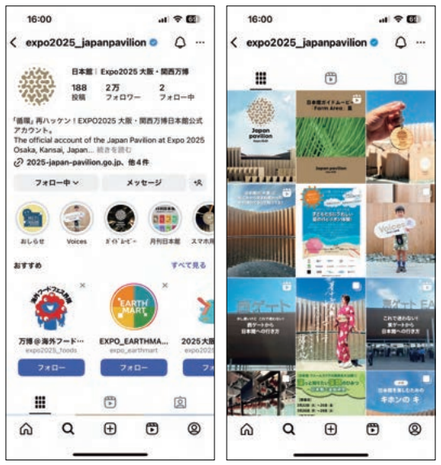
日本館公式X

※2 GI（グリーンイノベーション）基金
2050年までにカーボンニュートラルを達成するために、CO_2削減と経済成長を両立させる目的で2020年に新たに作られた基金

Instagram

ビジュアルインパクトのあるツールとして運用した。

プロモーションコンテンツを中心に、Xと同様、日本館の展示に関する情報、イベント告知、来館ルート案内、運営告知などを発信した。興味を引くサムネイル画像を用意し、訴求力を高めた。



日本館公式Instagram

Facebook

公式インフォメーションの発信ツールという位置付けで運用した。X及びInstagramと同様、日本館の展示に関する情報、イベント告知、来館ルート案内、運営告知などを発信した。

日本館公式Facebook

SNSメディアの運用

SNS運用方針・体制

SNSの運用に当たり、様々なリスクが存在することから、以下の方針を定めて会期前・会期中の運用を行った。

・大阪・関西万博が定めるソーシャルメディア公式アカウント用ガイドラインを遵守する。
・X、Instagram、Facebookのサービス利用規約に準じて投稿する。
・投稿コンテンツへのコメント欄は開放しない。
・フォローについては、Expo2025大阪・関西万博と経済産業省のアカウントのみとする。
・問い合わせなどのDM機能は使用しない。

オウンドメディア一覧

形式	WEB	SNS		
名称	日本館ウェブサイト	X	Instagram	Facebook
目的	日本館のテーマ理解促進 おしらせ・来館Info集約	日本館の機運醸成・リアルタイムな情報提供		
		速報性 拡散性	ビジュアルインパクト	公式インフォメーション
内容	・トップページ ・おしらせ ・日本館について ・まるごとガイド ・日本館ライブラリ ・施設情報 ・チケット情報 ・パートナー ・月刊日本館 ・コンニチハ!日本館 ・バーチャル日本館	・展示に関する情報 ・イベント告知 ・来館ルート案内 ・運営告知　ほか		

複数のSNSアカウント運用

複数のSNSアカウント運用を行うに当たり、管理者、投稿者、編集者など各種権限設定や誤投稿の対策が可能で、さらに監視ワードの設定で複数アカウントを一括管理できるSNS運用ツールを導入した。

SNS運用フロー

SNS運用に当たっては以下のフローに沿って運用を行った。

①各SNSアカウントの投稿企画立案
②博覧会協会日本館による企画内容の承認
③承認された内容を基に撮影等を実施し、投稿コンテンツを作成
④博覧会協会日本館による作成コンテンツの内容承認
⑤承認された内容を基に、投稿コンテンツをSNS運用システムへアップロード
⑥アップロードされたコンテンツをSNS運用システムから承認し投稿予約設定
⑦各SNSでの投稿コンテンツ公開
⑧各SNSアカウント情報の監視、月次での情報抽出
⑨抽出された情報を基に分析、レポート作成
⑩分析レポートの確認

また、当日投稿を準備するものについては、基本的に17:00以降の投稿とし、展示物の休止等は承認次第、投稿する方針とした。事前予約が可能な投稿の場合は、広報チームの基本稼働時間(9:00～18:00の間)に投稿する方針とした。

SNS監視対応

以下のセーフティネットを設け、円滑に、かつ信頼性の高いSNS運用が行われるように努めた。

なりすまし監視

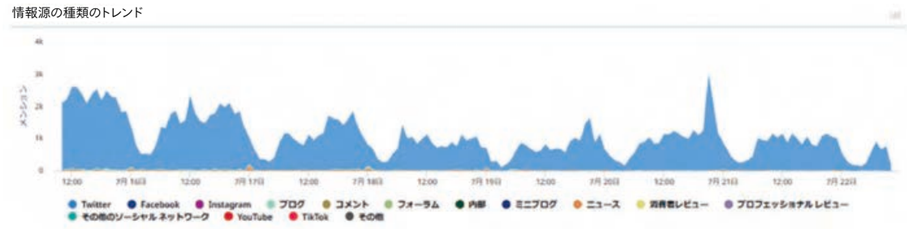
なりすましの予防・早期鎮静化に取り組めるSNS運用サービスを利用し、「日本館」「Expo2025 大阪・関西万博」などの複数の監視ワードを設定し、類似したアカウント名・ユーザー名のなりすましアカウントがないかどうかの監視を行った。

UGCネガティブ監視

UGC(User Generated Content)は、一般ユーザーによって制作されたコンテンツのことで、具体的にはSNSの投稿やブログ記事、動画、写真などを指す。

UGCにおける「大阪・関西万博」「万博」「日本館」「Expo2025」「Japan Pavilion」などの監視ワードについて、前週分のメンション数の推移、ポジティブ／ネガティブ割合、ネガティブ投稿の確認、報告を行った。ネガティブ言及数が基準を超えた場合はアラート速報が出るように設定した。

SNS監視



SNS災害時対応

地震や大雨などの災害発生時は混乱を生じさせないよう、コンテンツを含めて投稿するかどうかの判断を行う方針とした。

投稿中止の判断は、原則、投稿予定時間の1時間前までに行い、以下のいずれかに該当する場合、当日の投稿を自粛することとした。

・内閣府より「災害救助法」が適用された場合
・災害発生時（被害状況が不明確な場合、関係者協議の下、管理者判断で投稿を見送る）

なお、翌日以降の投稿については、被害状況を鑑み、博覧会協会、経済産業省と協議の上で判断することとした。

1.5　バーチャル日本館

バーチャル日本館は、バーチャル万博（会場）の各パビリオンの一つとして展開し、日本館テーマである「いのちと、いのちの、あいだに」を多くの人々に実感してもらうことを目指した。バーチャル空間に設置することで、来館前も来館後も、来館できない方も、「世界中どこからでも、いつでも」日本館のコンセプトを体験することができる。また、リアルでは体験できない、例えば「分解されるごみの視点」をバーチャルで体験することで、コンセプトをより実感・理解できる体験機会を生み出した。

バーチャル万博

大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を基に、コンセプトである「未来社会の実験場」を具現化すべく、Society5.0という仮想空間と現実社会が高度に融合したデジタル空間が設置された。バーチャル万博（会場）でもある「空飛ぶ夢洲」は、「多様でありながら、ひとつ」であることを、島国である日本になぞらえて群島で構成された。さらに、Society5.0の実現要件として「インクルーシブな万博：世界中の方がスマートフォン等で参加できるバーチャル会場を展開」「インタラクティブな万博：アバターを通じて、3DCGで再現された夢洲会場や他者コミュニケーションを体験」「コ・クリエイティブな万博：バーチャルパビリオン内展示は、開催者提供ツールを用いた自由制作を実現」の三つを設定し、バーチャルならではの表現を加えることで、大阪・関西万博の魅力と発信力を高めていくことが計画された。

バーチャル万博キービジュアル　©NTT, Inc.

バーチャル日本館

コンセプト

「リアルとデジタルがそれぞれ独立しているのではなく、相互補完関係」と位置付けたバーチャル万博のコンセプトを踏まえ、バーチャル日本館もリアルの日本館と相互補完を行うものとして企画した。

どこからでも、いつでも参加できる、という広さとしての補完はもちろんだが、とりわけ注力したのは体験の深さ、多様さだった。例えば「分解されるごみ」「再生されるごみ」は、リアルの日本館であればあくまで来館者として第三者的な視点で展示を眺めることになるが、バーチャル空間では逆に「自分がごみとなり、運ばれ、分解され、再生される体験」をごみ視点で体験することができる。デジタルツインや拡張現実に依拠せず、バーチャル空間特有の視点と体験を重視し、企画を進めた。

2022（令和4）年時点でのコンセプト案。
バーチャルだからこそ体験できる「ごみ目線」での体験イメージが企画されている

ごみ視点の体験は、大阪・関西万博全体の目的の一つでもある万博チルドレンの育成、教育にも貢献することができるように設計された。実際に、「日本館レガシープロジェクト」では、プロジェクト参加者の学び・交流の場として、バーチャル日本館が活用された。

制作体制の構築

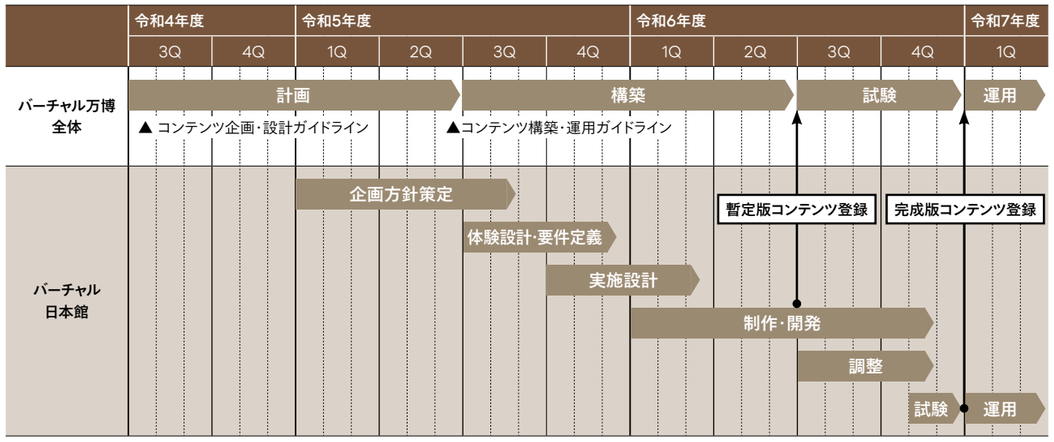
2021（令和3）年の「日本館基本構想」において「自分ごと化を促す双方向展示体験」「リアルとデジタルの相互連関」という方向性が示された。これを踏まえて2022（令和4）年8月には佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナーのコンセプト・構成案のプレゼンテーションが経済産業省に対して行われた。

2023（令和5）年より制作体制の構築が本格化した。総合プロデューサーのコンセプトを具現化する受託事業者、及び博覧会協会との連携体制が組織された。

制作スケジュール

令和5年度には、コンテンツの方向性、体験価値の設計などを定め、第4四半期にはプロトタイプの空間づくりを行った。

令和6年度はリアル展示と対応する形でバーチャル日本館を3つのエリアで展開し、具体的な体験コンテンツの制作、開発を行った。



その後、2025（令和7）年4月12日より公開し、正式運用を開始した。

制作ツール

博覧会協会から提供されたバーチャル万博プラットフォーム及び各種開発ツールを基盤に、特にコンテンツ制作においては自由度の高い独自コンテンツを作成するため、Unityベース制作ツールを用いて制作を進めた。

コンセプトの具体化

「リアルとデジタルの相互連関」、そしてバーチャル空間ならではの体験を具現化すべく、実装の検討が進められた。令和5年度においては、次の三つを設計上の全体コンセプトとして設定した。

「CIRCULAR」
（体験全体の土台となる構造）
「循環」の体験をバーチャル空間の基本構造とした。コンテンツ同士のつながりや関係性をより意識できる構造に加え、ゲーム要素などを持たせることで、リアル展示で伝えるべきストーリーをバーチャルでも体験できることを中心に置いた。

「TRANSITION」
（バーチャル上のコンテンツ展示の演出の考え方）
「循環」を強く感じてもらう遷移体験を提供した。空間を遷移させることに必然性を設けて、意識させずに空間を遷移させること、遷移時の演出／ギミックにも凝ることで、遷移すること自体にポジティブな印象を持たせることを目指した。

「ENDLESS」
（ユーザー体験の考え方）
終わりを作らない「何かの終わりが、ほかの何かの始まりに」なることを強く印象付け、展示体験以降も「循環」のつながりを感じ、新たな気づきを得る体験となることを目指した。

コンテンツ概要

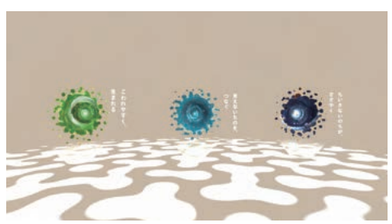
バーチャル万博のコンセプト及び仕様・規模・技術などを踏まえて、バーチャル日本館のコンテンツを制作した。

（全体像）「いのちのリレー」を表現した円環状の空間

バーチャル日本館は、日本館の建築と同様に円環状の空間で構成し、「いのちのリレー」を表現した。循環し続ける社会の縮図として円の動線とストーリーのつながりを意識した構造で空間体験をつないでいき、複数空間を遷移しても一つの大きい円環空間であるかのような体験を目指した。また、「循環」を強く感じてもらう遷移体験として、コンテンツ一つひとつを細切れに体験していくのではなく、グラデーションを感じてもらえるような、展示ごとの関係性の「あいだ」を表現した。

（入口）「当事者」となって循環を体験するための3つの入口

アバターを介してバーチャル日本館を散策するユーザーは、「いのちのリレー」を表現した円形の空間からスタートし、その後、物語の進行に合わせて、「ちいさないのちが、ささやく」「見えないものを、つなぐ」「こわれやすく、生まれる」の三つのコンテンツ（入口）が出現する。どこからでもスタートできる設計にすることで、実際の日本館と同じ体験設計を目指した。

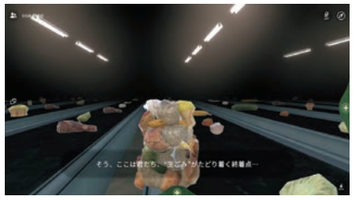


（物語1）ちいさないのちが、ささやく

「ごみ」から「水」への、いのちのリレーを体験するコンテンツである。ユーザー（アバター）自身が生ごみの一つとなり、ベルトコンベアに乗ってメタン発酵槽へと運ばれ、微生物の力によって物質やエネルギーへと分解される過程を体験する。

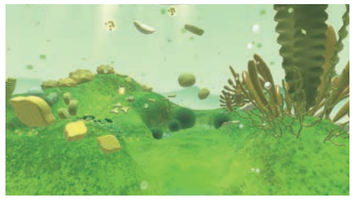
（物語2）見えないものを、つなぐ

「水」から「素材」への、いのちのリレーを体験するコンテンツである。無数の藻類と水のトンネルをくぐり抜け、光に包まれた空間、フォトバイオリアクターへとたどり着く。ユーザー（アバター）自身が藻類の赤子となり、CO_2や光を集めるゲームに挑戦する。


ユーザー自身がごみであることを告げられる

ユーザー自身が藻類の赤子であることを告げられる

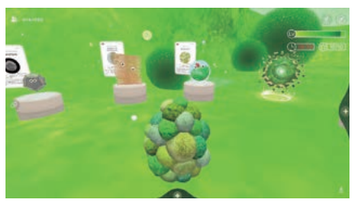
発酵槽の中へ降り立つ


水のトンネルからフォトバイオリアクターの中へ

3箇所の起動スイッチを探して電源をいれる

エネルギーの要素を獲得するゲームを体験

全ての電源をいれると、
生ごみが様々な要素に分解されていく

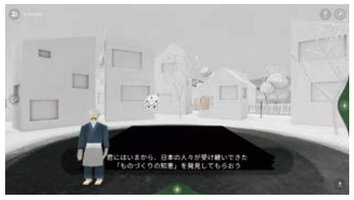

体験終了後に藻類キャラクターが登場

（物語3）こわれやすく、生まれる

「素材」から「もの」への、いのちのリレーを体験するコンテンツである。素材を様々な製品へと加工する工場を冒険し、日本に受け継がれてきた「ものづくりの知恵」が活かされる「やわらかく作られた街」へとたどり着く。街を巡り、クイズを通じてその知恵を理解し、暮らしに息づくものづくりの工夫を実感する。

ユーザー自身が再生樹脂素材であることを告げられる

「やわらかく作られた街」にたどり着く



街の中の人々から「ものづくりの知恵」を知る

ものづくりの知恵を学ぶクイズに挑戦

バーチャル日本館からのプレゼント

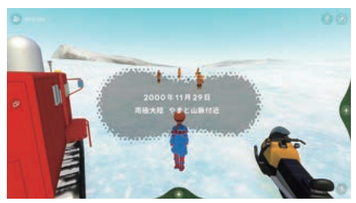
バーチャル日本館を最後まで体験したユーザーには、公式アイテム「日本館スーツ」と「日本館ハット」が贈られる。また、手持ちアイテムとして、バーチャル万博内でごみを収集する人を演じられる「ごみ袋」と「ごみばさみ」を手に入れることもできる。

日本館スーツ、日本館ハット、
手持ちアイテムの3種類をプレゼント

会期中の「火星の石」コンテンツの追加

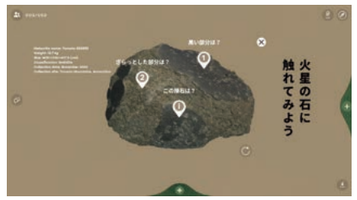
2025（令和7）年8月8日、「火星の石」コンテンツを追加した。ここでは、1,000万年もの歳月をかけて宇宙空間を旅し、地球へとたどり着いた「火星の石」の物語をバーチャル空間で追体験できるようにした。こうして宇宙規模での「いのちの循環」を体感することにより、火星の石がなぜ南極にあるのか？どうやってきたのか？という興味の入口を作った。また、「火星の石」を多様な角度から見ることのできる3Dビューアを作成した。

宇宙空間で「火星の石」の物語を聞く



宇宙空間から南極大陸へと降り立つ

火星の石を発見する



火星の石を3Dビューアで詳しく見る

告知

バーチャル日本館へのアクセスを促進するため、オープン前から告知を行った。

2025（令和7）年2月13日、日本館ウェブサイトのリニューアルにおいて、トップページに「バーチャル日本館」の項目を追加。3月13日にはコンセプトや概要を紹介した。

4月に入ってからは、バーチャル日本館オープンに向け告知をさらに強化。4月3日には「イントロダクションムービー」を追加し、オープン3日前の4月10日には、公式SNS上でイントロダクションムービーと連動する発信を行った。

そして、4月12日のコンテンツ公開後、4月13日に日本館ウェブサイトでもバーチャル万博アプリへの誘導リンクの追加等を行った。

会期中も、不定期でXやInstagram、Facebookといった日本館公式SNS上での告知を継続。8月8日には「火星の石」コンテンツの追加に伴う公式SNS上での発信や、日本館ウェブサイト上でのお知らせを行った。

成果

バーチャル日本館は2025（令和7）年10月13日の23時に終了した。のべ来館者数は約8万8,000人となった。

オープンから1か月経過後の5月後半から7月においては、安定したアクセス数を示していた。8月の夏休みに入って以降、徐々に増加し始め、閉幕前の9月後半からバーチャル空間においても駆け込み需要でユーザー数が急増した。

最終日には、バーチャル日本館を見納めに来るユーザーが多く期間中最多となる人数を記録した。

SNS上においても好意的な評価が数多く寄せられた。「もの凄い作り込み！」など、実際のパビリオンだけでなくバーチャル日本館も面白かったといった声や、声優の声に着目した盛り上がりも多く見られた。「入ったら生ごみにされたり藻類の赤ちゃんに…」など、体験そのものについての声も多く寄せられ、「一回体験してみてほしい」といった、企画趣旨と適った意見も多く投稿された。

また、「日本館レガシープロジェクト」においても、バーチャル日本館を活用した。レガシープロジェクトとは、日本館の理念を社会へ伝え、閉幕後も次の世代へレガシーとして残すことを目的に、参加者同士の対話・共創を通じて、日本が誇る循環型の文化を意識したアクションに取り組むものである。全三部構成のうち第一部で、参加学生がバーチャル日本館を体験し、その全体像を把握するために活用した。

「日本館レガシープロジェクト」における
バーチャル日本館活用の様子

報道事例

日本館報道事例の画像（新聞記事）
※権利の関係上、画像を掲載しておりません。

日本館報道事例の画像（新聞記事）
※権利の関係上、画像を掲載しておりません。

2 日本館の行事・催事

行事·催事は、日本館起工式や開館式などの「公式行事」と、一般来館者を対象に楽しさやテーマ訴求、学びの機会提供を目的とした「公式催事」の二つに分類した。加えて、名誉館長による就任式や催事におけるPR活動も日本館を大いに盛り上げ、来館者の興味喚起に寄与することとなった。

2.1 行事·催事における方針

行事·催事は、日本館の魅力や、後世へのレガシーとしての価値を発信していくために、また理解を促進するために重要である。

特に催事においては、会期前の「需要把握」、「興味喚起」、会期中の「来館促進」等、それぞれの催事ごとの目的を設定した上で、広報計画とも連動させながら、効果を最大化させるような計画の策定·実行を行った。

2.2 公式行事

政府出展事業における公式行事は、日本館の建築着工に際し、安全と成功を祈念して行われる起工式と、開館式、そして閉館式がある。公式行事では、多くのVIPを招いて式典が行われるため、警備計画には十分留意することが求められる。また、式典などの内容については、厳粛かつ華やかな内容·演出とすることに配慮した。

行事·催事の構成

- 公式行事
  - 起工式
  - 開館式
  - 閉館式
- 公式催事
  - 「循環」の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう
  - 藻(も)っと知りたい藻類(そうるい)のひみつ ～日本館で自由研究～
  - 日本館トークイベント ～宇宙·循環·つながるいのち～
  - 日本館トークイベント 日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～
  - 日本館レガシープロジェクト
- その他
  - (政府主催)ジャパンデー
  - 博覧会協会主催イベント
  - 他パビリオン連携イベント

起工式

計画

2023(令和5)年7月20日付で清水建設株式会社と建築請負契約を締結した。9月11日に起工式を実施後、9月12日より現場着工した。

起工式は、大阪·関西万博起工式から約5か月後の2023(令和5)年9月11日に、日本館建設予定地を式典会場とし計画を進めた。会場には大型テントを設置することとなったが、会場周辺は未整備区画がほとんどで、交通機関も整っていないため、大阪南港エリアのATCホールに受付を設け、式典会場への移動については大型バスを運行した。

招待客は政府関係者、国会議員、地方公共団体、経済界、日本館の関係者などを対象として招待状を発送した。

概要

日本館の建築着工に先立ち、2023(令和5)年9月11日に、日本館建設予定地で起工式を開催した。

起工式には、政府関係者や国会議員、大阪府知事·市長のほか、日本館基本構想ワークショップ·政府出展事業検討会議委員、地元自治体関係者、関係企業代表者など70人が出席した。式典では、まずはじめに経済産業省の茂木正商務·サービス審議官が開会の辞を述べた。続いて、中谷真一経済産業副大臣が主催者挨拶を行い、佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナーからは日本館のコンセプトが発信された。

登壇者による挨拶が順次行われ、建築工事の安全と成功を祈念し、中谷経済産業副大臣、豊田俊郎国土交通副大臣、吉村洋文大阪府知事などが鍬(くわ)入れを行った。最後は国土交通省近畿地方整備局の見坂茂範局長が閉会の辞を述べ、無事閉会となった。

日本館起工式会場図

鍬入れ

主催者挨拶(経済産業副大臣　中谷 真一氏)

開館式

日本館は、2025(令和7)年4月13日の大阪·関西万博開幕に先立ち、3月29日にEXPOナショナルデーホール「レイガーデン」メインステージにて開館式を開催した。

式に先立ち、約450人に開館式開催の案内状を送付し、同封のはがき、またはウェブサイトにて出欠連絡をしてもらうこととした。出席連絡があった方には後日、開催日時や開催場所を記した招待パスを送付した。

来場の移動手段は公共交通機関の利用を原則とし、Osaka Metro中央線の利用を推奨しつつ、JR新大阪駅からの貸切バスも運用した。電車での来場者には、スタッフが招待パスを目視確認の上で東ゲートから入場いただき、案内スタッフの誘導の下徒歩で移動いただいた。バスでの来場者は、式典会場裏の車寄せまではバスで移動し、そこから式典会場までを徒歩で移動いただいた。なお、貸切バスは5台運用した。

ホールに設置した受付では、12:00より招待パスを確認した上でリストを確認し、配布物を渡し、指定席の招待者には席までアテンドを行った。式典に先立ち、ステージ上ではフラワーアーティストKAORUKO氏による日本の四季をテーマとしたパフォーマンスが行われ、会場を華やかに盛り上げた。

フラワーアーティストKAORUKO氏によるパフォーマンス

当日は、政府関係者や「2025年日本国際博覧会(大阪·関西万博)を成功させる国会議員連盟」の森山裕会長を始めとする国会議員41人、2025年大阪·関西万博 政府出展事業検討会議委員、地元自治体関係者、関係企業代表者など約400人が列席した。

式典は、経済産業省の茂木正首席国際博覧

会統括調整官による開会の辞で始まり、主催者挨拶、来賓紹介、来賓挨拶、日本政府館経過報告、日本政府館関係者挨拶と続き、その後約6分間の日本政府館紹介映像を上映した。

また、開館セレモニーとなるくす玉開披には、赤澤亮正内閣府特命担当大臣(経済財政政策)、大串正樹経済産業副大臣、高橋克法国土交通副大臣を始め、佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナー、藤原紀香名誉館長ら11人が参加した。司会のコメントに合わせてくす玉が開披されると、盛大な拍手が会場を包み、日本館の開館を祝した。

式典後は、取材メディアを除いた招待者を対象に、グループに分かれて経済産業省や博覧会協会日本館の職員が説明要員として付き、日本館を内覧いただいた。開館式会場から移動し、一般入場口より反時計回りでPlant Areaまで移動した。Plant Area入口では総合プロデューサーがお出迎えを行い、アテンダントの案内の下Plant Area、Farm Area、Factory Areaの各展示を見学した。名誉館長がFactory Area出口を中心に各所でお礼の挨拶を行った。その他、大屋根リングの見学も実施した。

開館式

大串正樹経済産業副大臣

赤澤亮正内閣府特命担当大臣(経済財政政策)

藤原紀香名誉館長

佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナー

2025年 日本国際博覧会 政府出展事業
「日本政府館」
開館式 式典、内覧会

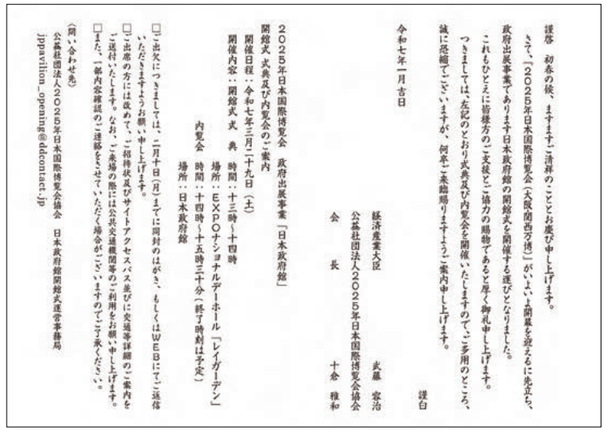
■ 祝賀ステージ　12時40分～13時

■ 開館式 式典　13時～14時
- 開会の辞
- 主催者挨拶
- 来賓紹介
- 来賓挨拶
- 日本政府館経過報告
- 日本政府館関係者挨拶
- 日本政府館紹介映像
- 開館セレモニー
- 閉会の辞

■ 日本政府館 内覧会
大屋根リングでの会場ご見学
14時～15時30分（予定）

※ 内覧会へのご移動は、順次ご案内いたします。
お席にてお待ちください。

式次第



2025年日本国際博覧会
政府出展事業「日本政府館」
開館式 式典及び内覧会のご案内

開催日程：令和七年三月二十九日（土）
開館式 式典　時間：十三時～十四時
場所：EXPOナショナルデーホール「レインガーデン」
内覧会　時間：十四時～五時三十分（終了時刻は予定）
場所：日本政府館

□ご出欠につきましては、二月十日（月）までに同封のはがき、もしくはWEBにてご返信いただきますようお願い申し上げます。

□ご出席の方には改めて、ご招待状及びサイトアクセスパス並びに交通等詳細のご案内をご送付いたします。なお、ご来場の際には公共交通機関等のご利用をお願い申し上げます。

□また、一般内覧開始のご理解をさせていただく場合がございますのでご了承ください。

（問い合わせ先）
公益社団法人2025年日本国際博覧会協会　日本政府館開館式運営事務局
jppavilion_opening@ddcontact.jp

祝賀　初春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、「2025年日本国際博覧会（大阪関西万博）」がいよいよ開幕を迎えるに先立ち、政府出展事業であります日本政府館の開館式を開催する運びとなりました。

これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜物であると厚く御礼申し上げます。

つきましては、先記のとおり式典及び内覧会を開催いたしますので、ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご来臨賜りますようご案内申し上げます。

令和七年一月吉日

経済産業大臣　武藤 容治
公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
会長　十倉 雅和

案内状

閉館式

2025(令和7)年10月13日、来館者お見送りを終えた21:20から、日本館駐車場にて閉館式を執り行った。閉館式の目的は「無事に会期が終了し、日本館を閉館するという区切りの宣言」と「184日間の業務に対する日本館関係者、従事者への労い」の2点であった。そのため、茂木正首席国際博覧会統括調整官や藤原紀香名誉館長、黒田紀幸日本館長、ほか各事業者代表者といった登壇者のほかに、経済産業省職員、博覧会協会日本館職員など合わせて300人以上が参加した。

式典はメディア非公開で行われ、開会の辞、佐藤オオキ総合プロデューサー／総合デザイナーからのビデオメッセージを含む日本館関係者挨拶、日本館の184日や関係者の活躍等を映したスライド上映、各事業者からの業務終了報告、閉会の辞と進み、最後に参加者全員での集合写真を撮影して閉会となった。

来館者お見送り

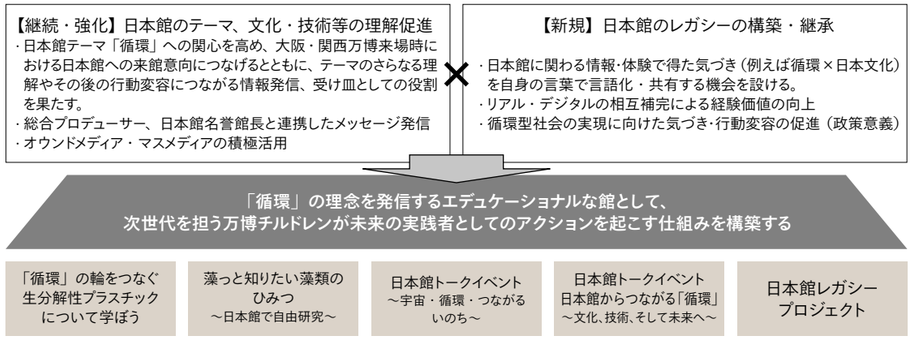
名誉館長による閉館宣言

スライド上映中の様子

参加者全員での集合写真

2.3　公式催事

日本館では「日本館のテーマ、文化・技術等の理解促進」、「日本館のレガシーの構築・継承」を目的とした五つの日本館主催イベントを展開した。特に、次世代を担う若年層である万博チルドレンに「循環」の理念を発信するエデュケーショナルな館として、未来の実践者としてアクションを起こす仕組みの構築を目指した。



「循環」の輪をつなぐ 生分解性プラスチックについて学ぼう

2025（令和7）年6月21日、22日の2日間、株式会社カネカの協賛の下、日本館のテーマである「循環」について学ぶ環境学習イベント「『循環』の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう」を開催した。館内展示に関連した生分解性プラスチックを題材に、小中学生向け及び高校生以上向けの講義を実施し、CO_2を原料として生分解性バイオポリマーに変換する水素酸化細菌の働きや、自然にかえる仕組みを解説した。また、海水中でも分解される特性を踏まえ、海洋プラスチック問題への可能性についても紹介した。

イベントは各回30分、2日間で計7回実施し、生分解性プラスチック製ストローを用いた工作体験も行った。

事後アンケートでは、生分解性プラスチックや水素酸化細菌の働きについて約9割の参加者が「驚きや気づきがあった」と回答するとともに、「循環」への理解が深まったとする回答も約9割に上り、日本館のテーマの理解促進に寄与した。さらに、「生分解性プラスチックの利用を検討したい」「日常生活でプラスチックごみを減らしたい」といった、今後の行動変容につながる意見も多く寄せられた。

小中学生向けイベントの様子

株式会社カネカ CO2 Innovation Laboratory 佐藤俊輔所長による講義

ヒコーキ作り体験

藻（も）っと知りたい藻類（そうるい）のひみつ ～日本館で自由研究～

2025（令和7）年7月22日～25日及び7月28日、29日の6日間、小中学生を対象とした夏休み自由研究イベント「藻っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～」を開催した。株式会社ちとせ研究所の協力の下、Farm Areaで培養している藻類を題材に、通常は立ち入ることのできない培養設備の公開や研究員による解説、顕微鏡観察、クイズなどを通じて、藻類の魅力や可能性を体験的に学ぶプログラムを実施した。

本イベントは約40分で実施し、日本館の観覧予約者を対象に参加者を募集した。

事後アンケートでは、藻類の応用技術について回答者全員が関心を示し、約6割が本イベントを通じて新たに興味を持ったと回答するなど、日本館のテーマの理解促進に寄与した。さらに、藻類の可能性や未来の暮らしとの関わりについて理解が深まったとする声が多く寄せられ、今後の関心の深化や学習意欲の向上につながる契機となった。

株式会社ちとせ研究所による体験プログラムの様子

間近で藻類を観察する機会も

日本館トークイベント ～宇宙・循環・つながるいのち～

2025（令和7）年8月24日、EXPOサロンにて、「日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～」を三菱未来館との連携により実施した。本イベントは、宇宙を題材とした展示を起点に、日本館のテーマである「循環」や「いのちのつながり」について理解を深め、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を考える機会を提供することを目的とした。

当日は、宇宙飛行士・山崎直子氏による基調講演を始め、パビリオン展示と火星・宇宙に関するショートプレゼンテーション、山崎直子氏・国立極地研究所 南極隕石ラボラトリー 責任者の山口亮氏・JAXA 宇宙科学研究所 グループ長の臼井寛裕氏・東京科学大学 地球生命研究所 所長の関根康人氏・内閣府官房審議官（経済財政運営担当）の浦上健一朗氏の5人によるトークセッションや展示紹介、藤原紀香名誉館長からのビデオレター上映などを行った。

事後アンケートでは、本イベントを通じて「循環」や「いのちのつながり」について意識の変化があったとする回答が約96%に上り、日本館のテーマの理解促進に寄与した。さらに、宇宙という題材を起点に、自身の暮らしや身近な環境と循環との関わりを捉え直したいといった、今後の思考や行動の深化につながる意見も多く寄せられた。

山崎直子氏による基調講演

トークセッションの様子

日本館トークイベント 日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～

2025(令和7)年9月23日～29日にかけて、経済産業省主催の下、EXPOメッセ「WASSE」南ホールにおいて、「科学漫画サバイバル」シリーズとコラボレーションした体験型ラボラトリーを実施した。会場では、「かう」「つかう」といった日常の行動を切り口に、サーキュラーエコノミーを体感的に学べる展示やプログラムが展開された。

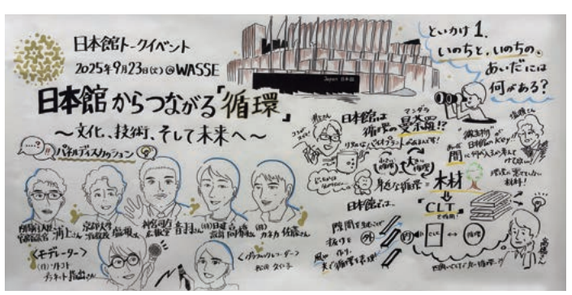
この期間中の9月23日には、特設ステージにて「日本館トークイベント 日本館からつながる『循環』～文化、技術、そして未来へ～」を開催した。本イベントは、日本館のテーマである「循環」に関連する展示内容を補完し、その背景や意義を多角的に発信することを目的として、日本館主催で実施した。

約120分のプログラムでは、京都大学総合博物館 准教授の塩瀬隆之氏による基調講演のほか、日本型サーキュラーエコノミーに関する二つのショートプレゼンテーション、並びに関係分野の有識者6人によるパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションでは、議論の内容をリアルタイムで可視化する「グラフィックレコーディング」を取り入れ、議論の要点や構造を分かりやすく共有した。なお、本イベント終了後、日本館ウェブサイトにおいてアーカイブ動画を公開した。

事後アンケートでは、日本の伝統技術や生活文化と現代のサーキュラーエコノミーとの共通性に対する理解がイベント参加後で大きく向上するなど、日本館のテーマである「循環」への意識の変化が確認された。さらに、日本館を改めて観覧したいとする声や、修理·再生を前提としたものづくり、世代を超えて受け継がれる文化への関心など、今後の行動や学びの深化につながる意見も多く寄せられた。

サーキュラーエコノミー研究所入口の様子

パネルディスカッションの一場面



グラフィックレコーディングの一例

日本館レガシープロジェクト

日本館の理念を社会へ伝え、会期後も次世代へレガシーとして継承することを目的に、参加者同士の対話と共創を通じて、日本が誇る循環型の文化を体感·実践する「日本館レガシープロジェクト」を実施した。本プロジェクトは、「バーチャル日本館体験」「日本館体験·ワークショップ」「ジュニア世代へのレクチャー」の三部構成とし、基本構想段階から日本館に関わってきた京都大学総合博物館 准教授の塩瀬隆之氏をファシリテーターとして迎えた。

第一部では、7月から8月にかけて募集した学生約50人が、バーチャル日本館での体験を通じて「発酵」「循環」などをテーマとしたホームミッションに取り組んだ。第二部では、日本館での展示体験を含むワークショップを実施し、循環型社会について考えるきっかけとなる「問い」を生み出すための議論を重ねた。第三部では、大学生が講師役となり、オンラインによる中学校向け出前授業を行い、日本館の紹介や循環の解説、「問い」を通じた対話を通して、次世代へ学びをつないだ。

事後アンケートでは、参加した大学生の約8割が循環型社会の実現に向けて行動を起こしたいと回答するとともに、中学生や教員からも授業内容や取り組み姿勢に対する高い評価が得られた。参加者からは「循環について自分なりの考えを持てるようになった」「身近なところから循環を意識して生活したい」といった声も寄せられ、世代を超えた理解促進と意識変容を通じて、循環の理念を次世代へ継承する機会となった。

バーチャル日本館体験の様子（第一部）　日本館体験の様子（第二部）　オンライン出前授業の様子（第三部）

2.4　その他

（政府主催） ジャパンデー

ジャパンデー 公式催事の様子

大阪·関西万博においては、2025(令和7)年7月3日を日本のナショナルデー(ジャパンデー)とし、大阪·関西万博会場内で政府主催による公式式典·公式催事が実施された。

公式催事では、宮内庁式部職楽部による雅楽演奏、藤原紀香名誉館長による「いのち」についてのスペシャルパフォーマンス、MISIA氏によるスペシャルライブなどを通じ、日本の文化や魅力が発信された。

また、大阪·関西万博の公式キャラクター「ミャクミャク」を始め、様々な人気キャラクターが登場するパレードも催された。陸上自衛隊中部方面音楽隊によるドラム演奏に合わせて、来場者との交流を楽しみながら行進した。日本館前では、藤原紀香名誉館長も合流し、フォトセッションが賑(にぎ)やかに行われた。

日本館前でのフォトセッションの様子

（博覧会協会主催イベント）「七夕」イベント

2025（令和7）年7月1日～7月7日、24の国内パビリオンが協力し、日本の「七夕」文化を世界に発信する「七夕」イベントを開催した。

日本館もこのイベントに参画し、七夕にちなんだ飾りの笹と短冊を用意した。短冊に願いを書くためのスペースを設置し、日本館を訪れた世界各国のゲストに向けて日本の夏の伝統行事「七夕」について紹介し、イベントへの参加を呼び掛けた。

ほかの国内パビリオンも含めて集まった願いごとは、光と音とテクノロジーの織り成すスペクタクルショー「One World, One Planet.」と連動させ、7月7日から始まった特別演出の光の一部として、夜空に美しく輝いた。

24の国内パビリオンが連動し実施した「七夕」イベントは、大阪・関西万博から願いを届ける一生に一度の機会となり、多くの来場者で賑わった。

他パビリオン連携イベント

ホスト国のパビリオンとして、国内・海外パビリオンとの連携催事も推進した。ベルギーパビリオン主催の「ジェンダーニュートラル・ファッションショー」への日本館アテンダントの参加（8月3日）、ペルーパビリオンからダンサーとミュージシャンを日本館へ迎えてのダンスパフォーマンス（8月21日）、三菱未来館と連携して行った日本館トークイベント（8月24日）、スイスパビリオンとの相互訪問企画（9月4日）、フランスパビリオン主催の「赤い糸」催事への参加（9月13日）、大阪府・大阪市・公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン主催の「EXPOアテンダント×キャラクター ワールドフェスティバル」への日本館アテンダント参加（9月16日）と、グローバルなイベントにおいて、国際交流・相互理解の契機となるような取組となった。

また、関西パビリオン（三重県）と、展示の式年遷宮をテーマに、連携して情報発信も行った。

短冊に願いを書くスペースを設置

ジェンダーニュートラル・ファッションショー

七夕飾りの笹と日本館。願いを書いた短冊を飾る

スイスパビリオンとの相互訪問企画

EXPOアテンダント×キャラクター ワールドフェスティバル

ペルーパビリオン連携ダンスパフォーマンス

フランスパビリオン主催「赤い糸」催事への参加
日本館名誉館長と、フランス人俳優のレア・セドゥ氏

日本館名誉館長による活動

大阪・関西万博開幕の約1か月前となる2025（令和7）年3月5日、俳優の藤原紀香氏が日本館の名誉館長に就任した。当日は経済産業省で就任式が行われ、経済産業大臣から任命状を受け取った後に就任会見に臨み、質疑応答にも対応した。会期前における日本館の認知度・注目度の向上を図るとともに、会期中は日本館を代表し、国内外から訪れるVIPの接遇を行うなど、名誉館長として日本館の魅力を広く発信する役割を担うこととなった。

2025（令和7）年3月29日には、EXPOナショナルデーホール「レイガーデン」にて行われた日本館の開館式に出席し、「今後も積極的に広報活動に取り組んでいきたい」と意欲を込めて挨拶を行った。

大阪・関西万博の開幕日である2025（令和7）年4月13日には、日本館の開館に合わせて華やかな和装姿で登場し、来館者らを出迎えた。

以降、5月のNHK取材や、7月のジャパンデーといったメディア、イベントへの対応のほか、会期を通じてVIPのお出迎え対応などを行った。8月にはフジテレビ「サザエさん」の「祝!万博開催スペシャル」と題した特別編において新作エピソード「サザエ再び万博へ行く」に本人役で出演し、話題を呼んだ。また、公式SNSでの情報発信も積極的に行い、日本館の露出機会の拡大及び日本館の理念・メッセージの浸透を図った。

名誉館長は会期中、20回以上日本館に来館し、名誉館長としての活動を行った。

日本館名誉館長就任式での挨拶

日本館名誉館長 活動実績

日程	活動内容
3月2日	事前現地視察
3月5日	就任式
3月10日	取材対応（読売新聞ロングインタビュー等）
3月26日	番組出演（日本館来館）
3月28日	番組出演（開館式告知）
3月29日	番組出演（開館式告知）、日本館開館式
4月5日	マイナビ TGC in 大阪・関西万博 2025
4月11日	行幸啓
4月12日	開会式
4月13日	開幕・初日来館者お出迎え・取材対応
5月10日	SNS投稿撮影（片岡愛之助氏と夫婦で初来館）、取材対応、来館者お出迎え
6月25日	ジャパンデーリハーサル、来館者お出迎え
7月3日	ジャパンデー、パレード撮影
7月9日	取材対応、シグネチャーパビリオン訪問（石黒館、河森館）
7月15日	番組出演、シグネチャーパビリオン訪問（中島館、小山館）、SNS投稿撮影
7月26日	SNS投稿撮影（ゆかたデー）、来館者お出迎え、シグネチャーパビリオン訪問（落合館、福岡館、宮田館、河瀬館）等
8月11日	国連パビリオン「未来コード：ユース×AI　平和対話」参加、SNS投稿撮影（夫婦で再来館）、日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～ビデオメッセージ撮影
8月28日	東ティモールナショナルデー対応、IPAイベント参加
9月4日	スイスパビリオン協同SNS投稿撮影
9月13日	フランスナショナルデーイベント参加
9月14日	他パビリオン視察　等
9月21日	SNS投稿撮影、来館者お出迎え
9月24日	他パビリオン視察、来館者お出迎え 等
10月1日	「世界のミャクミャク展」に作品出品
10月7日	他パビリオン視察、来館者お出迎え
10月8日	他パビリオン視察、来館者お出迎え
10月10日	超党派議連総会参加
10月12日	他パビリオン視察、来館者お出迎え
10月13日	ミャクミャク感謝状贈呈式司会進行、閉会式、来館者お出迎え、お見送り・閉館宣言、閉館式

公式SNSでの名誉館長メッセージ

開館日に来館者を出迎える様子

「サザエさん」でのワンシーン　©長谷川町子美術館

ミャクミャクへの感謝状授与

閉幕日の2025（令和7）年10月13日、石破茂内閣総理大臣が大阪・関西万博に来場した。日本館での万博テーマ事業プロデューサーとの意見交換や、まほろば（水素燃料電池船）の視察、空飛ぶクルマのテストフライトの視察などの後に、日本館においてミャクミャクに感謝状を授与した。

石破茂内閣総理大臣によるミャクミャクへの感謝状授与

Ⅵ むすびに

1　閉幕後の日本館

2　後世に残る日本館

3　「循環」の旅は果てしない未来へと続く

1 閉幕後の日本館

2025年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）の閉幕後、日本政府館（以下、日本館）では2025年日本国際博覧会基本計画にも言及があるとおり、持続可能な社会実現の観点から、3R（Reduce・Reuse・Recycle）+Renewableを積極的に推進し廃棄物を極力少なくする形での撤去作業、設備・資材の処分を進めた。加えて閉幕後の業務として、会期中に実施した日本館全体での「循環」に関する取組をレガシーとして次世代に残し、社会へ浸透させることに努めた。

1.1 大阪・関西万博の閉幕後

大阪・関西万博の閉幕後については、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会（以下、博覧会協会）が2020（令和2）年12月に策定した2025年日本国際博覧会基本計画において、理念・成果をレガシーとして後世に継承していくことを開催意義の一つとして掲げるとともに、地元自治体・経済界が2019（令和元）年に策定した夢洲まちづくり基本方針において、跡地利用として万博の理念を継承したまちづくりを進めることとされた。

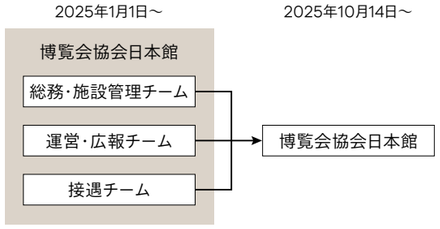
こうした背景を踏まえ閉幕日には、万博が相互理解と対話を促す重要な公共財であり、関係者が協力してきた姿は将来の万博や国際交流の道しるべとなり得る、と日本政府などがとりまとめた「大阪・関西万博宣言」が発表された。また閉幕翌日以降は、会場跡地ではパビリオンの解体撤去や敷地の原状回復に関する工事が進められた。

1.2 日本館の閉幕後の業務

組織・体制の再編

会期中、日本館内で運営を担った博覧会協会日本館の職員は、日本館の撤去・取外し工程をいち早く進めるため、閉幕後翌日以降、会期前と同じく博覧会協会咲洲庁舎で執務することとした。なお、閉幕及び体制の縮小に伴い、会期中の3チーム制は解消し、会期前と同様に1チーム制へ移行した。

博覧会協会日本館の体制



政府出展事業に基づく業務

政府出展事業のうち、閉幕後も継続して実施する業務や、閉幕後にのみ実施可能な主な業務として、展示等の撤去・取外し、解体、及び日本館レガシープロジェクト実施やレガシーブック制作など閉幕後のレガシーの継承に関わる業務、そして日本館公式記録制作業務等を進めた。

閉幕後の業務スケジュール

主な業務	業務主体	2025年 7-9月	2025年 10-12月	2026年 1-3月
展示等の撤去・取外し業務	博覧会協会 日本館	→	→	
解体業務	国土交通省 営繕部門（近畿地方整備局）			→
日本館レガシープロジェクト業務	博覧会協会 日本館	→	→	
レガシーブック制作業務	博覧会協会 日本館	→	→	
日本館公式記録制作業務	博覧会協会 日本館	→	→	→

展示等の撤去・取外し業務

国土交通省への支出委任による建築の解体に先立ち、「パビリオンタイプA（敷地渡し方式）の工事・解体に係るガイドライン」を踏まえた上で、展示等の撤去・取外しを行った。

館内サイネージ等の備品類は全てリース契約のため閉幕から1週間以内に返却した。購入展示品等についても、再利用のニーズを確認するため、経済産業省による需要調査及び所管替え調査等を2025（令和7）年6月から8月にかけて実施した。

藻類に扮した「ハローキティ」の撤去の様子
著作 株式会社サンリオ　©2026 SANRIO CO., LTD.

火星の石の撤去の様子

解体業務

日本館の解体業務は、閉幕後の廃棄物削減と持続可能な社会の実現を重視する大阪・関西万博の基本方針に基づいて実施された。「持続可能な大阪・関西万博開催に向けた方針」においては、建設から解体まで一貫して3Rを徹底することが求められており、日本館もこの枠組に沿って準備が進められた。建築の解体は、内外壁に活用したCLT（直交集成板）の再利用に向け会期中からリユース先の確保を図るなど、資材を廃棄せず循環させるための取組を行った。

また、その他の建材についても廃棄物種別ごとにリサイクル目標値が設定された。例えば建設混合廃棄物の排出率は3.0%以下とするなどの数値に基づく運用が求められ、これらの基準に沿って解体や再資源化が実施された。

レガシーの継承に資する業務

日本館では、「いのちと、いのちの、あいだに」を見つめる体験を通じ、そこから生まれる持続可能な社会の実現などに向けた多様な価値・気づき・行動変容を創出するための、様々な取組を実施してきた。

その取組を基に、政府館として向き合い続けてきた日本館レガシーを伝えるレガシーブックを制作し、経済産業省ウェブサイトで公表するなど、広く発信を行った。

日本館公式記録制作業務

大阪・関西万博が自国開催であることを踏まえ、事実・経過・目的と成果を経済産業省として後世に伝えることに主眼を置き、日本館としてふさわしい記録の完成を目指した。

令和6年度から検討に着手し、令和7年度から具体化を進め、6月には関係者への資料提供依頼や聞き取りを本格化した。製本した公式記録は、経済産業省、関係省庁のほか、全国の図書館などにも配布することで、多くの方が日本館を振り返ることができるよう配慮した。

感謝状の贈呈

大阪・関西万博において多大な貢献をした者に対し、経済産業省より感謝状を贈呈した。日本館関係者として、佐藤オオキ日本館総合プロデューサー／総合デザイナー、藤原紀香日本館名誉館長に対して、2026（令和8）年2月25日、経済産業省において、赤澤亮正経済産業大臣より直接贈呈された。

感謝状の贈呈

1.3　日本館の建築・展示の再利用

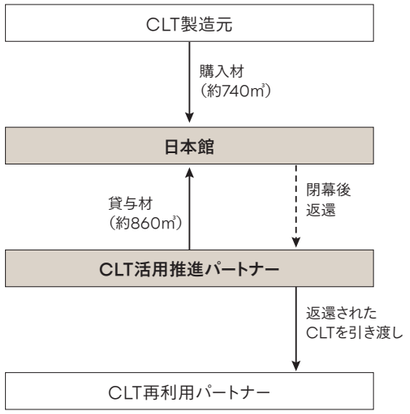
CLTの再利用に向けた関係機関との連携

2021（令和3）年3月、「CLT活用促進に関する関係省庁連絡会議」において決定された「CLTの普及に向けた新ロードマップ」において、「大規模イベント等における活用の促進」が位置付けられた。これを受けて関係省庁は、大阪・関西万博において利用されたCLTパネルを再利用する方策を検討するべく「CLT活用推進パートナー」を公募し、一般社団法人日本CLT協会を選定した。

そして、日本館の施設管理者である経済産業省にCLTパネルの貸与を行うとともに、閉幕後実際にCLTの再利用を担う8企業と5地方公共団体の計13団体を「CLT再利用パートナー」として決定した。CLT再利用パートナーは、CLTの再利用に際して、可能な限り建築分野での活用を図ることを想定した。そのため、CLT活用推進パートナーと関係省庁が連携して、CLT再利用パートナーがCLTの再利用を検討するために必要な情報の提供、ニーズの把握などを実施し、日本館の建築に当たっては、再利用することを踏まえ、次のことを定めた。

・前述の枠組みを活用してCLT活用推進パートナーから提供を受けている約860㎥の貸与材[※1]等を使用すること
・提供可能な貸与材CLTの仕様、寸法、数量などの情報を提供すること

CLT活用推進パートナーと日本館



閉幕後に日本館からCLT活用推進パートナーに返還されたCLTは、CLT再利用パートナーの下で再利用された。

CLT再利用パートナー一覧

地方公共団体名（五十音順）	企業名（五十音順）
・茨城県 境町 ・岡山県 真庭市 ・香川県 小豆島町 ・高知県 ・和歌山県 串本町	・株式会社エヌ・シー・エヌ ・株式会社奥村組 ・積水ハウス株式会社 ・大東建託株式会社 ・株式会社竹中工務店 ・西尾レントオール株式会社 ・日本ノボパン工業株式会社 ・ライフデザイン・カバヤ株式会社

2022（令和4）年6月時点

CLT購入材の売却予定先一覧

企業名（五十音順）
・株式会社熊谷組
・トヨタ自動車株式会社
・株式会社日建設計
・北陸電力株式会社

・以降、国土交通省への支出委任を通じて行う日本館の解体事業の中で、貸与材CLTを適切にCLT活用推進パートナーに引き渡すこと

前述の動きと並行して、購入材[※2]については展示品の再利用手続きの中で、需要調査を行った。

展示品の再利用手続き

廃棄物を極力減らすため、日本館の展示品は、基本的にリースを中心にした。

その中で、経済産業省は日本館関係者として、リース以外の展示品については、再利用を進めるに当たり、経済産業省が、一般の方向けに「需要調査」を、各省庁向けには「所管替え調査」を実施した。

需要調査・所管替え調査

日本館の展示物や建築資材等の処分について、2025（令和7）年6月11日から7月11日までの期間、経済産業省のウェブサイトにて「2025大阪・関西万博 日本政府館展示物等に係る処分予定財産需要調査」を実施した。区分は五つに分け下記のとおりとした。

・事務用備品
・事業用備品
・書籍、資料、図面類
・無体財産権（産業財産権等）
・その他の物件（不動産及びその従物）

調査等の結果、下記の物品を入札または所管替え等の対象とすることとした。

需要調査・所管替え調査等で意向が示された財産及び再利用先の一覧

物品	数量	再利用先
CLT（購入材）	約30㎥	株式会社熊谷組、トヨタ自動車株式会社、株式会社日建設計、北陸電力株式会社
お椀造形	1式	株式会社カネカ
ユニフォーム展示	1式	関東経済産業局
ふろしき展示	1式	関東経済産業局
CLTベンチ	16台	経済産業省（4台）、関東経済産業局（5台）、中部経済産業局（4台）、近畿経済産業局（3台）
TFTモニタ（24インチ）	1台	厚生労働省

※1 貸与材　※2 購入材
日本館で使用したCLTは、無償で貸与された「貸与材」と、建築用として調達した「購入材」に区分される。貸与材は、閉幕後に解体された後、再利用を前提として関係者に引き渡される。購入材は、展示物等と同様に需要調査等を行った上で再利用を図っている

2 後世に残る日本館

日本館を訪れた方々が社会課題を自分たちのこととして咀嚼(そしゃく)し、未来社会の作り手としての行動変容を促すことで、レガシーが後世に継承されることを目指した。これは、建築や展示の再利用といったハードレガシーの継承に留まらず、会期前から閉幕後まで日本館としてのメッセージを発信し続けた取組や記録等のソフトレガシーの継承も含まれる。

2.1 日本館のレガシー

後世への継承に向けた取組

日本政府出展事業(日本館)基本計画策定時から、日本館は「いのちと、いのちの、あいだに」を見つめる体験を通じて、様々ないのちが互いに支え合う存在であることに気づき、そこから持続可能な社会の実現に向けて多様な価値・気づき・行動変容の創出を促してきた。これらには、会期前から閉幕後に至る一連の日本館の活動や体験を通じて生まれる個人の意識や行動の変容、さらには社会的価値観の進化や循環型社会を支える技術の社会実装などに対する好影響といったことを含めた。また、建築及び展示における再利用等もレガシーとし、閉幕後も人々の循環への理解を深めることを目指した。

日本政府出展事業(日本館)基本計画

気づく

会期前から「循環」をキーワードとした発信による気づきを得られるよう、日本館ウェブサイトや公式SNS上で全12号にわたる公式Webマガジン「月刊日本館」や「日本館ライブラリ」などの特集コンテンツを発信するなど、「気づく」取組を進めてきた。

触れる

会期中には、日本館の体験を通じて自分自身も「循環」の一部であることを感じられるよう、いのちのリレーを体現した建築と、循環の意義を理解し、壮大な物語の一部であることを感じてもらえる展示の融合など、日本的な美意識や価値観に「触れる」ことを通じた来館者体験を提供し続けた。

つながる

日本館の見どころ・建築・バイオガスプラントをテーマとした各種ツアーや、生分解性プラスチック・藻類・宇宙・循環型経済・日本館レガシーをテーマとした各種催事を催行した。

また、連日の国内外におけるVIP対応や2025(令和7)年9月に大阪府泉佐野市にて初開催された「日米姉妹都市サミット」の参加者、一般財団法人日本国際協力センターを通じたASEAN研修生等の訪問受入も行った。このように、日本館を起点に循環のメッセージが未来や社会へ「つながる」取組も進めた。

一連の日本館の活動や体験、建築・展示品の再利用を通じて生まれるレガシーにより、人々に多様な価値・気づき・行動変容の創出を促してきた。創出したレガシーの集大成として、日本館が向き合い続けたレガシーを、次世代を担う若者に伝えるとともに政府出展事業の振り返りができる冊子である「レガシーブック」に取りまとめることとした。

レガシーの構成

日本館のレガシーを分類整理する上で、いのちの循環の理念の浸透、気づき、行動変容を促す要素を有するものをソフトレガシーと位置付けた。これには来館者やSNSの行動変容に関する評価や、閉幕後も手元で日本館を感じることができる日本館まるごとガイドや、日本館公式ショップの商品を始めとする、閉幕後も日本館での体験や気づきを振り返ることができるコンテンツ等も含んでいる。

また、日本館の建築や展示も、役目を終えて次のものへと生まれ変わる。こうした建築及び展示における再利用等をハードレガシーと位置付け、閉幕後も循環への理解を広げるために、建築素材であるCLTや、展示物品の再利用を行うことで持続可能な社会の実現の思想を物理的な形で残した。

ソフトレガシーとハードレガシーの両面から循環への理解を深め、持続可能な社会の実現などに向けた多様な気づき・行動変容を促した。

主なレガシー関連施策について

	取組の名称	施策内容	アウトプット
ソフトレガシー	日本館レガシープロジェクト	大学生が自身の経験・気づきを中学生に継承するプロジェクトを実施	・レガシープロジェクトレポートとして2026(令和8)年2月に公表 ・学校の総合学習の副教材で活用
ソフトレガシー	「循環」をテーマにした多種多様な催事	「循環」×(生分解性プラスチック、藻類、宇宙、循環型経済)をテーマにした催事を開催	・「循環」に関する気づき・行動変容へのきっかけ等を参加者にインタビュー
ソフトレガシー	Voices きかせて、日本館	8歳～84歳までの来館者に日本館の感想や新たな発見を語ってもらうインタビューを実施	・約30人のインタビュー結果を日本館ウェブサイトで公表
ハードレガシー	CLTの再利用	日本館に使用したCLT約1,600㎥のうち約860㎥を再利用	・貸与材は閉幕後に全国各地の事業者等13団体が再利用予定 ・購入材は需要調査を実施
ハードレガシー	展示物品の再利用	需要調査・所管替え調査を実施／展示協力団体と連携した再利用を実施	・一部の展示物品は、2027年ベオグラード国際博覧会等で再利用

・日本館のレガシーを「レガシーブック」に取りまとめ、広く発信。
・次期博(2027年ベオグラード国際博覧会等)以降の日本館担当者の指針ともなるよう継承。

2.2　ソフトレガシー

国内外への理念の浸透

日本館では、人々の循環に対する考え方の浸透及び理解促進のため、ウェブサイトやSNS、イベントを通じて循環に関する情報の発信を行った。加えて、国内の循環に対する理解の広がりを定量的に把握することを目的として、日本館ウェブサイトのアクセスログや来館者数の計測を行った。その結果、循環に関する認知の拡大、理解の浸透がうかがえた。

来館者の評価

会期中、日本館の全体的な評価を把握するとともに、日本館を訪れた国内外の来館者がどのようなことを感じ、どのような気づきを得たかを知るため、来館者にアンケート調査を行った。

総合評価では「大変良かった」「良かった」の高評価の回答が9割を占めた。また項目別評価では11項目中10項目で9割を超える高評価を得ており、「テーマ」「建築・外観」「展示物」の3項目で特に評価が高かった。

日本館のテーマの理解状況を確認する質問では、「循環の中で生活していることの気づき」「カーボンニュートラルについての関心や理解」、「社会的課題解決に取り組むことの関心や理解」、「テーマの理解」に対して高評価の回答で9割以上を占めた。

また、「循環を理解でき、分別意欲が高まった」「日常生活にも循環の考えを取り入れたい」といった声も見られ、日本館での体験を通じて、来館者の意識に変化が生じたことが確認された。

※来館者アンケート結果詳細は資料編の「来館者アンケート」P.284を参照

ツアー参加者の評価

「日本館観覧がもっと楽しくなる!日本館予習ツアー」や「日本館 バイオガスプラント見学ツアー」、「設計者とまわる日本館建築ツアー」の各ツアー参加者に対してアンケートを実施した。予習ツアーでは「説明を聞いてから観覧したので、展示について深く理解できた」、バイオガスプラント見学ツアーでは「全てはごみを捨てる人間の行動次第。分別をきちんとしたい」、建築ツアーでは「循環型社会に向けて建築ができることは、もっとあると気づかされた」といった意見が上がった。このことから、日本館の理解促進だけでなく、循環に対する考え方の浸透、ごみの捨て方を始めとした行動変容につながる兆しが見えた。

ウェブサイト・SNSの評価

日本館の広報物に関して、日本館ウェブサイトによる定量評価やInstagram、X、Facebookの各種SNSにおける日本館の評価、会期前・閉幕後のSNSコメントにおける日本館への投稿などの評価を集計した。

日本館ウェブサイトではアクセスログによる効果検証を行った。会期中の表示回数は約500万回となり多くの方にご覧いただいた。

そして、ウェブサイトやSNSを利用し、日本館及びそのテーマである循環についての情報発信を会期前・会期中を通じて行った。その結果として、約5万人のユーザーが日本館アカウントのフォロワーとなり継続的な情報発信の基盤となった。

SNSのフォロワー数
（2025（令和7）年10月末時点）

SNS	フォロワー数
X（日本語）	17,130
X（英語）	657
Instagram	31,071
Facebook	1,238
計	50,096

また、SNSに関しては好意的な反応が多く見受けられた。一般ユーザーのSNS投稿にみられる反応としては大部分がポジティブな投稿だった。まず、ポジティブな投稿として代表的なものは「SDGsを分かりやすく表現していて学びになる」や「バイオガスプラントを実際に稼働させるという取組が新しい」、「日本的で美しいパビリオンである」等の意見が多かった。一方でネガティブな投稿として「予約がなかなかとれない」や「真面目で難しい」、「エンタメ性に乏しい」等の意見もあった。否定的な意見は会期中の運営改善の参考としたほか、次期の博覧会開催時の、構想及び計画の検討材料とすることとした。また、会期中に約24万件の日本館に関わるSNS投稿があり、社会に広く循環の理解を浸透させることに寄与する結果となった。

VIPからの評価

日本館は、ホスト国の政府館として、万博会場の「第二の迎賓館」としての役割を担っており、会期中は多数のVIPが訪れた。VIPによる評価として、日本館を評価する発言が挙げられる。例えば、国連スペシャルデーに伴うNHKの取材の中でアントニオ・グテーレス国連事務総長が、「日本館は持続可能性をテーマに、テクノロジーを使って人類と自然が共存できる可能性を示したすばらしいパビリオンである」と評した。また2025（令和7）年7月23日開催の「第30回日・EU定期首脳協議」においても、日本館は環境の取組に対する好意的な評価を受けた。アントニオ・コスタ欧州理事会議長及びウァズラ・フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長が大阪・関西万博を視察し、日本館を始め日本の取組に感銘を受けたと賞賛した。こうした評価を含め、多くのVIPからも日本館の循環に対する考え方が高く評価された。

次世代からの声

日本館の理念を社会へ伝え、閉幕後も次の世代へレガシーとして残していくべく、万博チルドレン（日本館を体験した若年層）を対象とし、参加者同士による対話・共創を通じて、日本が誇る循環文化を言語化し、次世代にレクチャーするレガシープロジェクトを実施した。大学生がホームミッションや議論に参加し、その後中学生に向けてオンライン授業を行った。参加した大学生からは「自分たちの活動が中学生の意識を具体的な行動につなげることに貢献できた」といった声、中学生からは「身の回りに循環があると知り身近なものから取り組みたい」や「エネルギーや国、資源など知らなかった循環への理解が深まった」といった声が上がった。取組によって日本館から大学生、大学生から中学生へと、日本館のレガシーを継承した。循環への理解を促すこれらの取組は、閉幕後も教材として残された。

メディアからの取材

会期中、新聞やテレビ、ウェブニュースの各媒体が日本館に関する情報を報道した。

会期前半はテレビを中心としたメディアによるパビリオンの概要紹介が主だったが、会期後半には日本館のテーマや関連技術が深掘りされた。また、海外メディアからも会期全体を通して継続的に取材があり、対応の中で未来社会への姿勢を示すことで、ホスト国のパビリオンとしての役割を果たした。

デジタル・アーカイブ

閉幕後も日本館を追体験できるコンテンツとして、来館者目線で日本館を一周できるウォークスルー動画も制作し公開した。

また、「月刊日本館」などをPDF化して経済産業省ウェブサイト内で公開することによりレガシーとして残すことで、閉幕後も引き続きコンテンツの閲覧を可能とした。

「月刊日本館」アーカイブ

取材メディア数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
テレビ	24	15	11	10	8	8	12	88
新聞	5	15	11	8	5	12	12	68
専門誌	4	2	0	3	1	2	1	13
雑誌	2	3	3	3	4	0	0	15
通信社	3	1	1	0	0	0	0	5
ラジオ	1	5	2	1	2	1	1	13
ウェブサイト	2	5	6	4	5	8	4	34
インフルエンサー	3	1	3	0	6	4	3	20
その他	9	8	12	7	6	10	6	58
ロケハン	6	7	1	4	3	5	4	30
海外	47	46	28	31	18	29	26	225
計	106	108	78	71	58	79	69	569

会期中コンテンツ

配布物や記念品

会期中、日本館の来館者や協賛者にお渡しした ノベルティ、VIPへお渡しした記念品や公式ショップにおいて販売していたグッズは、CLT素材等を活用するなど「循環」の思想が所持者の手元に残ることを目指し準備・制作したものであった。こうした配布物や記念品は、来館後も各々の手元で日本館を通じた体験・気づきを想起させるものとして、閉幕後もその役割を果たすことが期待されている。

配布物（Green Planet製クリアファイル・日本館藻類みそ汁・「火星の石」観覧証明書）

記念品

©'26 SANRIO CO., LTD
APPR. NO. L660193

©2026 MEDICOM TOY

日本館グッズ

2.3　ハードレガシー

CLTの再利用

日本館を構成する素材であるCLTについては、CLTパネルを無償で政府に貸与し、閉幕後に解体されたパネルを再利用する「CLT無償貸与スキーム」を構築。日本館で使用予定の約1,600㎥のうち、約860㎥を同スキームによる貸与材、残りを購入材として調達。貸与材のCLTは、閉幕後、CLT再利用パートナー（5自治体8事業者）によって、持続可能な社会の実現のために、日本館解体後に建築分野を中心に再利用が予定された。

CLT再利用イメージ

展示等の再利用

展示

政府出展事業として制作した様々な展示は、需要調査などの省内手続きを経て、売り払い、他省庁への移管、または経済産業省内での供用など、大阪・関西万博の日本館から各方面で再利用されることになった。

特にCLTベンチについては、会期中、日本館で実際に休憩用として使用されていたもので、建築にも用いられていたCLTを材質としており、閉幕後は経済産業省別館内の共創空間であるベツイチやベツナナなどで活用されたほか、2027年ベオグラード国際博覧会でも設置されることとなった。

CLTベンチ

藻類スツール

会期中、日本館内に設置されていた藻類スツールは、協賛者から無償貸与を受けたもので、藻類と植物由来のプラスチックを混ぜ合わせた素材から3Dプリンタで製造されており、細かく粉砕して再利用しやすいよう留め具や接着剤を一切使わず、日本の伝統的な木造建築と同様の手法を応用している。

藻類スツール

協賛者等と再利用について協議した結果、閉幕後は経済産業省内や、2027年国際園芸博覧会で活用される予定となっている。

ユニフォーム

会期中、日本館アテンダントが着用したユニフォーム（ジャケット・ベスト・カットソー・パンツ・スカーフ・風呂敷）も協賛者から無償貸与を受けたもので、リサイクル繊維など環境に配慮した素材を採用した。閉幕後に回収されたユニフォームは、協賛者の意向を踏まえ、日本館のロゴを付したフラワーポットに再商品化され、教育機関へ寄贈されることになった。

なお、ユニフォームからフラワーポットへの循環の輪がさらに広がるよう、この教育機関では、地域活動の一環として、植栽を施したフラワーポットを近隣の公共施設等へ配布することを検討いただいている。

主な再利用物品及び再利用先

物品	再利用先
CLT（貸与材）	CLT再利用パートナー13者 （5自治体8事業者）
CLT（購入材）	株式会社熊谷組、トヨタ自動車株式会社、株式会社日建設計、北陸電力株式会社
ユニフォーム展示	関東経済産業局
ふろしき展示	関東経済産業局
CLTベンチ	経済産業省（4台）、 関東経済産業局（5台）、 中部経済産業局（4台）、 近畿経済産業局（3台）
TFTモニタ（24インチ）	厚生労働省
日本館展示模型（VIP室内）	経済産業省
日本館模型展示（Cエリア）	経済産業省
麹菌模型	経済産業省
焼杉（「ドラえもん」）	株式会社藤子・F・不二雄プロ
「ハローキティ」	株式会社サンリオ
藻類スツール	慶應義塾大学COI-NEXT（共生アップサイクル）、金沢大学COI-NEXT（多糖類バイオプラ循環）、エス.ラボ株式会社、株式会社DigitalArchi、株式会社放電精密加工研究所・共創プロジェクト （協賛事業者によって再利用予定）
お椀造形	株式会社カネカ
ユニフォーム	教育機関

2.4　レガシーブック

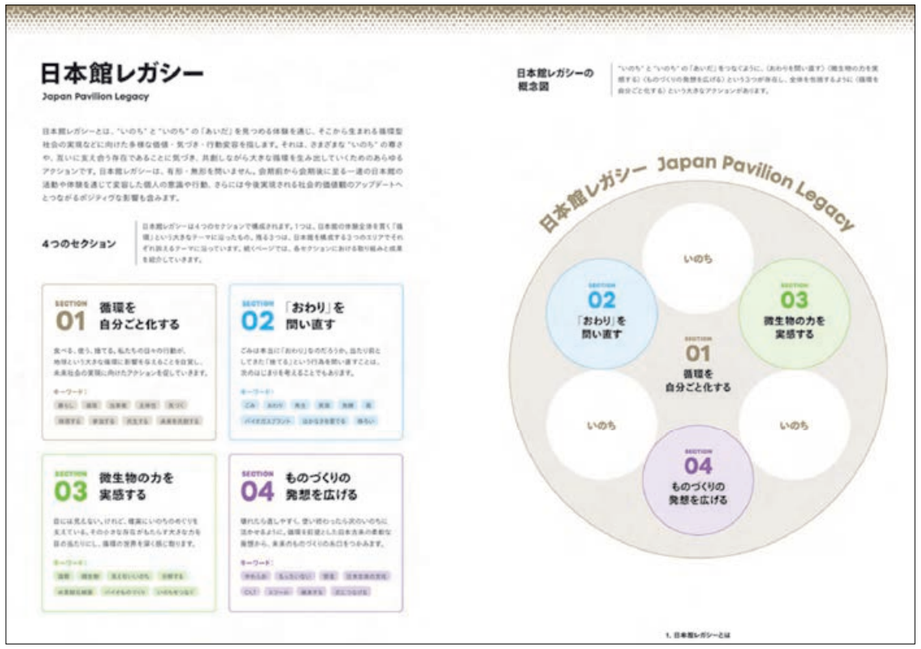
会期前から閉幕後に至る一連の日本館の活動や体験を通じて生まれる個人、特に未来を担う若年層の意識や行動の変容、さらには今後進展していく社会的価値観のアップデートなどに対するポジティブな影響も日本館のレガシーと位置付け、政府館として向き合い続けた。そのレガシーを次世代を担う若者に伝え、施策の振り返りができるものとしてレガシーブックを制作した。

レガシーブックは

① 循環を自分ごと化する
② 「おわり」を問い直す
③ 微生物の力を実感する
④ ものづくりの発想を広げる

「指標」といった観点から、日本館を体験した方が、どのように「循環」に気づき、意識変容・行動変容を起こしていったかを取りまとめていくことで、万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」へのホスト国パビリオンとしての貢献を形に残した。

レガシーブックは日本各地に広く配布されたほか、経済産業省ウェブサイトでも公開し、広く閲覧できるように努めた。



レガシーブック

3 「循環」の旅は果てしない未来へと続く

大阪・関西万博は、多くの命が危機に瀕したコロナ禍後に初めて開催された万博であり、あらゆる「いのち」の尊重と共生を軸に、「いのち輝く未来社会のデザイン」の在り方を問いかけた。日本館は、ホスト国が運営するパビリオンとして、日本らしい自然観や美意識を随所に盛り込みながら、「循環」の哲学を一貫して表現することを通じて、万博全体のテーマに真摯に向き合い、VIPの接遇拠点としての役割も果たした。本編を締めくくるに当たり、日本館の取組とその意義を総括し、未来社会の担い手たちに残していくべきものを展望する。

3.1 日本館の軌跡を振り返って

「日本政府出展事業（日本館）基本構想」を羅針盤に、タスキをつなぐ

日本館基本構想から、建設、運営へと至る一連の事業は、2020（令和2）年7月に「日本館基本構想ワークショップ」をスタートして以来、実に5年以上の歳月に渡る息の長いプロジェクトであった。その後のプロジェクトの展開を大きく方向付けしたのが、2021（令和3）年4月にまとめられた「日本館基本構想」であった。「いのちと、いのちの、あいだに」というテーマとともに、その後の展示や施策の方向性を指し示し、関係者が常に立ち返るべき「羅針盤」となっていった。2022（令和4）年3月には来館者体験の要素や展示の柱を具体化した「日本館基本計画」をまとめ、以降、佐藤オオキ総合プロデューサーを中心に、政府内の関係部局、協賛企業、設計・建設会社、委託先企業など数多くの関係者が連綿とタスキをつなぎ、開幕直前まで、さらには開幕後にも、時々の状況を踏まえた改善を加えながら、プロジェクトを着実に前進させていった。

開幕1年前の2024（令和6）年4月から「月刊日本館」を発行し、公式SNSなどを通じて日本館のコンセプトについて対外発信を継続的に実施するとともに、新聞・雑誌やテレビなど大手メディアに向けた広報対応にも力を入れるなど、幅広い層が日本館に関心を持つ仕掛けづくりに腐心した。そして、開幕後も含め、日本館での展示体験を補完するワークショップやイベントの開催など閉幕後の「レガシー」を意識した施策も展開した。こうした有形・無形の要素を含めた総体として、政府出展事業は具体化されていった。

多彩な「循環」コンセプトの一貫した発信

日本館は、「いのちと、いのちの、あいだに」というテーマを掲げ、いのちを取り巻く多彩な「循環」を建築と展示が一体となる形で表現することを目指した。日本古来の発想に由来する「循環」のコンセプトを様々な形に翻案しながら、一つの思想哲学として一貫して表現し続けた点は、今次万博における日本館の最も際立つ特徴といえるだろう。リユースを前提としたCLTで囲まれ、上空から見て円環状の構造体であるパビリオン内は三つの区画に分かれ、「ごみ」が「水」や「素材」を経て「もの」に生まれ変わっていく流れを表現し、来館者はパビリオン内を巡ることで一つの循環を体感した。個々の展示内容においても、例えば、藻類の活用、カーボンリサイクル技術などを織り交ぜ、我が国の循環型経済への貢献を示すとともに、資源を無駄なく使う日本らしい「循環型ものづくり」を定式化して示すなど、それぞれの要素が「循環」を想起するよう工夫を凝らした。具体的な展示コンテンツ（宇宙、藻類、式年遷宮など）を起点として、身の回りの「循環」への気づきをもたらすよう設計された催事も実施された。こうした曼陀羅のように散りばめられた多彩な「循環」の姿とその哲学へのこだわりは、日本館の発するメッセージに一貫性をもたらし、全体としての訴求力を高める効果を持った。

リアルプラントを併設する「有言実行型パビリオン」の試み

日本館のもう一つの特徴であり、過去を振り返っても画期的ともいえる取組は、実際に稼働するリアルなプラント設備をパビリオン内に併設した点である。日本館内のバイオガスプラントでは、万博会場内で収集された生ごみからエネルギーや浄水を取り出し、館内の電力や展示物として活用した。こうした取組に着目し、日本館は「生きたパビリオン」「ごみを食べるパビリオン」と呼称され、さらには、あるべき循環型社会をコンセプトとして提起するだけでなく、その実現に資する具体的な取組を目の前で「実演」してみせたという文脈で「有言実行型パビリオン」と呼ぶ向きもあった。こうした取組は、循環型社会の実現に向き合う我が国の真摯さを印象付けるとともに、「展示物を飾る建造物」を意味してきた「パビリオン」という万博発祥の言葉の原義を覆すかのような、実に斬新な試みであった。

「万博外交」の中心的な拠点として

日本館は、ホスト国パビリオンとして、会期中、世界各国から次々と訪れるVIPの接遇拠点としての役割も果たし続けた。大阪・関西万博では、160を超えるナショナルデー・スペシャルデーが開催され、その一環として、海外から来日した各国の代表団やVIPがほぼ毎日、日本館を視察に訪れた。日本館は、いわゆる「万博外交」の舞台の一つとなり、約1.2万人の国内外のVIPを受け入れた。日本館の発した「循環」のメッセージは、日本古来の思想や考え方を海外VIPに直接訴求する機会を提供しただけでなく、日本がリードしている未来社会を形づくるテクノロジーと併せ、未来に向けて世界に貢献する日本の姿を力強く印象づけるものであった。

日々改善の積み重ねの末に

会期中、幸いにして日本館には多くの一般来場者に来館していただいた。一人でも多くの来館者を受け入れ、展示体験を快適に楽しんでいただけるよう、関係者はまさに一丸となって、日々工夫を重ねながら様々な改善策を講じた。結果として、会期中に約181万人の来館者を受け入れ、来館後アンケートでは、「日本館の総合評価」の設問について「大変良かった」、「良かった」の割合は97.2%、「自身が様々な循環の中で生活していることに気づくことができたか」という設問について「大変良く気づくことができた」、「気づくことができた」の割合は96.6%に達した。日本館は、総じて来館者の好意的な評価を得るとともに、「循環」に関するメッセージが受け止められ、日常の中での気づきにつながったことが伺われる。

こうした評価は、会期前の構想段階から閉幕までの運営実行段階に至るまで、政府部内だけでなく、博覧会協会や関係企業等において、それぞれの役割を果たして最善を尽くし、日本館のタスキをつないでいった無数の人々の尽力があったからこそである点を改めて想起したい。

3.2 日本館が未来へとつなぐもの ～日本館の循環はいつまでも終わらない～

大阪・関西万博のホスト国パビリオンとして、日本館は「循環」の思想哲学をメッセージとして内外に発信し続けた。来館者として日本館の来館体験をした人々も、企画者として日本館を形づくる側に立っていた人々も、何らかの形で日本館のメッセージに接した人々も、それぞれにメッセージを咀嚼して、様々な循環の中に置かれた一つの存在として、未来へ向けた新たな気づきを得て、それらが共感を呼び、これからも伝播を続けていくはずである。こうした共鳴作用によって、持続可能性を高めた世界がより良い場所へと変わっていくことを期待したい。

大阪・関西万博の日本館は、その基本構想の時点から想定されてきたように、閉幕をもって終わるプロジェクトではない。未来に種を蒔くことに最大の存在意義があるといっても過言ではない。日本館は、会期中も、特にこれからの未来を担う子どもや若者たちを対象として、日本館の理念が継承されていくよう、様々な発信の取組を続けてきた。その一つが「レガシーブック」や「レガシープロジェクトレポート」である。

万博での経験を得た「万博チルドレン」がその理念を次代にもまた継承していくという知見の「循環」が起こっていくことで、日本館のプロジェクトは未来に向けていつまでも続いていく。

日本館内に「『さよなら』じゃなく、『いつかまた』」というフレーズが掲示されていた。次代を担う若者たちが「いつかまた」心の中で日本館と再会し、「循環」の思想を体現した持続可能な社会を築く大きな力の一部となっていくことを願ってやまない。

資料編

プロジェクト年表

ナショナルデー及びスペシャルデー 一覧

日本館関連の主な報道実績一覧

日本館ウェブサイト配信一覧

日本館SNS投稿一覧

来館者アンケート

日本館レガシープロジェクトアンケート

日本館に携わった主な人々

プロジェクト年表

年	月	日	大阪・関西万博全体の動き
2017（平成29）	4	7	2025年国際博覧会検討会報告書を公表
	4	11	2025年国際博覧会の大阪誘致に向けた立候補と開催申請を閣議了解
	9	25	BIEに2025年国際博覧会の大阪・関西誘致に向けたビッド・ドシエ（立候補申請文書）を提出
2018（平成30）	11	23	第164回BIE総会が開催される（2025年国際博覧会の開催地が日本に決定）
	12	21	「第1回2025年に開催する国際博覧会関係閣僚会議」を開催
2019（平成31/令和元）	1	25	大阪・関西万博具体化検討会を開催
	1	30	一般社団法人2025年日本国際博覧会協会を設立
	5	10	平成三十七年に開催される国際博覧会の準備及び運営のために必要な特別措置に関する法律（万博特措法）が施行
	5	31	万博特措法に基づき、一般社団法人2025年日本国際博覧会協会が博覧会協会として指定
	10	21	一般社団法人2025年日本国際博覧会協会が公益社団法人に認定
	12	20	「第2回2025年に開催する国際博覧会関係閣僚会議」を開催
	12	20	登録申請書の提出に関する閣議決定
2020（令和2）	6	30	博覧会協会に「感染症対策検討会議」を設置
	9	—	国際博覧会推進本部を設置
	12	1	第167回BIE総会が開催される（登録申請書が承認される）
2022（令和4）	7	18	大阪・関西万博　開幕1000日前イベント「1000 Days to Go!」を開催
2023（令和5）	4	13	2025年日本国際博覧会名誉総裁に秋篠宮皇嗣殿下が御就任
	4	13	2025年日本国際博覧会　起工式を実施
	11	30	大阪・関西万博 開幕500日前イベント ～いよいよ入場チケット販売開始～
2024（令和6）	4	13	大阪・関西万博 開幕1年前イベント ～ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。～を開催
2025（令和7）	1	17	2025年日本国際博覧会名誉会長に石破茂内閣総理大臣が就任
	1	26	国内メディア向け内覧会
	3	12	秋篠宮皇嗣同妃両殿下のお成り 博覧会会場会期前御視察
	3	26	海外プレスツアー
	4	9	メディアデー
	4	11	天皇皇后両陛下の行幸啓 開会式御臨席・博覧会会場御視察
	4	11~12	秋篠宮皇嗣同妃両殿下のお成り 開会式御臨席・博覧会会場御視察
	4	12	開会式
	5	22~23	秋篠宮皇嗣同妃両殿下のお成り 博覧会会場御視察
	7	3	ナショナルデー（ジャパンデー）
	7	3	秋篠宮皇嗣同妃両殿下のお成り 公式式典御臨席・博覧会会場御視察
	9	25	秋篠宮皇嗣殿下のお成り 博覧会会場御視察
	10	6	天皇皇后両陛下の行幸啓 博覧会会場御視察
	10	13	ミャクミャクへの感謝状授与
	10	13	閉会式
	10	13	秋篠宮皇嗣同妃両殿下のお成り 閉会式御臨席

年	月	日	日本館の動き
2020（令和2）	7	30	第1回 日本館基本構想ワークショップ
	9	15	第2回 日本館基本構想ワークショップ
	10	20	第3回 日本館基本構想ワークショップ
	11	27	第4回 日本館基本構想ワークショップ
2021（令和3）	1	29	第5回 日本館基本構想ワークショップ
	4	13	日本政府出展事業（日本館）基本構想を公表
	5	—	日本館総合プロデューサー／総合デザイナーに佐藤オオキ氏が就任
	10	26	第1回 政府出展事業検討会議
	12	2	第2回 政府出展事業検討会議
2022（令和4）	2	16	第3回 政府出展事業検討会議
	3	31	日本政府出展事業（日本館）基本計画を公表
2023（令和5）	1	18	第4回 政府出展事業検討会議
	9	11	日本館起工式を実施
2024（令和6）	1	23	第5回 政府出展事業検討会議
	4	13	日本館ウェブサイトを公開　「月刊日本館」創刊
	7	17	X（日本語・英語）・Instagram・Facebookの公式SNSを開設
	9	17	閣議後記者会見にて齋藤経済産業大臣が火星の石の展示を公表
	9	20	第1弾「Farm Area」に関するプレスリリースを実施
	10	17	アテンダントユニフォーム発表に関するプレスリリースを実施
	12	23	第2弾「Factory Area」に関するプレスリリースを実施
2025（令和7）	1	14	第3弾「Plant Area」に関するプレスリリースを実施
	1	14	日本館グリーティングムービーを公開
	1	26	国内メディア向け内覧会
	3	5	日本館名誉館長に藤原紀香氏が就任
	3	13	「まるごとガイド」を公開
	3	29	日本館開館式
	4	12	「バーチャル日本館」を公開
	4	13	日本館開館
	6	21~22	日本館催事第1弾（「循環」の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう）
	7	1~7	「七夕」イベント
	7	22~25 28~29	日本館催事第2弾（藻っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～）
	7	28	経済産業省展示空間で日本館PRのための期間展示を実施（～10月30日）
	8	6~7	日本館催事第5弾日本館レガシープロジェクト第一部「バーチャル日本館体験」
	8	6~7	経済産業省こどもデーで日本館のPRを実施
	8	24	日本館催事第3弾（日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～）
	8	27~28	日本館催事第5弾日本館レガシープロジェクト第二部「日本館体験・ワークショップ」
	9	23	日本館催事第4弾（日本館トークイベント日本館からつながる「循環」～文化、技術、そして未来へ～）
	10	3~16	日本館催事第5弾日本館レガシープロジェクト第三部「ジュニア世代へのレクチャー」（うち4日間実施）
	10	13	日本館閉館式

ナショナルデー及びスペシャルデー 一覧

日付	国・地域・国際機関
4月14日	トルクメニスタン
4月18日	トンガ
4月19日	グレナダ
4月21日	ボリビア
4月22日	スイス
4月23日	トルコ
4月24日	デンマーク
4月27日	ガイアナ
4月28日	パラオ
4月29日	チャド
5月 1日	北マケドニア
5月 2日	ブータン
5月 3日	サンマリノ
5月 5日	ポルトガル
5月 7日	ヨルダン
5月 8日	国際赤十字・赤新月運動
5月 9日	EU（欧州連合）
5月10日	ギニアビサウ
5月11日	バングラデシュ
5月12日	チリ
5月13日	大韓民国
5月14日	スウェーデン
5月15日	イスラエル
5月16日	スペイン
5月17日	カナダ
5月18日	ブルガリア
5月19日	パラグアイ
5月20日	ラトビア
5月21日	オランダ
5月22日	英国
5月23日	オーストリア
5月24日	ハンガリー
5月25日	タンザニア
5月26日	モンテネグロ
5月27日	インドネシア
5月28日	イエメン
5月29日	アイスランド
5月30日	ルクセンブルク
6月 1日	パレスチナ
6月 2日	ノルウェー
6月 3日	エスワティニ
6月 4日	南スーダン
6月 5日	アゼルバイジャン
6月 6日	キルギス共和国
6月 7日	フィリピン
6月 8日	サモア
6月 9日	グアテマラ
6月10日	ギニア
6月11日	コソボ
6月12日	フィンランド
6月13日	コートジボワール
6月14日	アイルランド
6月15日	ブルンジ
6月16日	モザンビーク
6月17日	ウルグアイ

日付	国・地域・国際機関
6月18日	マラウイ
6月19日	クウェート
6月20日	ドイツ
6月21日	ブラジル
6月22日	スリナム
6月24日	ケニア
6月25日	ナイジェリア
6月26日	ルーマニア
6月27日	タジキスタン
6月28日	モナコ
6月29日	バチカン
6月30日	コンゴ民主共和国
7月 1日	レソト
7月 3日	日本
7月 4日	ルワンダ
7月 5日	カンボジア
7月 6日	リトアニア
7月 7日	ザンビア
7月 8日	カタール
7月 9日	ラオス
7月10日	アルジェリア
7月11日	中華人民共和国
7月12日	モーリタニア
7月13日	イーター国際核融合エネルギー機構（ITER）
7月14日	モーリシャス
7月15日	赤道ギニア
7月16日	ジンバブエ
7月17日	マルタ
7月19日	アメリカ合衆国
7月20日	コロンビア
7月21日	パプアニューギニア
7月22日	ツバル
7月23日	エジプト
7月24日	チェコ
7月25日	キューバ
7月26日	ガボン
7月27日	モンゴル
7月28日	ネパール
7月29日	アンゴラ
7月30日	バヌアツ
7月31日	ミクロネシア
8月 1日	中央アフリカ
8月 2日	マリ
8月 3日	ベリーズ
8月 4日	ブルキナファソ
8月 5日	ウクライナ
8月 6日	ジャマイカ
8月 7日	ブルネイ
8月 8日	東南アジア諸国連合（ASEAN）事務局
8月 9日	ペルー
8月10日	カザフスタン
8月11日	トリニダード・トバゴ
8月12日	コモロ
8月13日	チュニジア
8月14日	パキスタン

日付	国・地域・国際機関
8月15日	インド
8月16日	ナウル
8月17日	ウズベキスタン
8月18日	タイ
8月19日	ガンビア
8月20日	セントクリストファー・ネービス
8月21日	トーゴ
8月22日	国際連合（UN）
8月23日	ドミニカ共和国
8月24日	シンガポール
8月25日	セネガル
8月26日	リベリア
8月27日	国際科学技術センター（ISTC）
8月28日	東ティモール
8月29日	ベナン
8月30日	セントルシア
8月31日	モルドバ
9月 2日	スーダン
9月 3日	オーストラリア
9月 4日	マーシャル
9月 5日	アルメニア
9月 6日	パナマ
9月 7日	セーシェル
9月 8日	マレーシア
9月 9日	ベトナム
9月10日	スロバキア
9月11日	ガーナ
9月12日	イタリア
9月13日	フランス
9月14日	ベルギー
9月15日	セルビア
9月16日	カメルーン
9月17日	バルバドス
9月18日	バーレーン
9月19日	アラブ首長国連邦
9月20日	オマーン
9月21日	クロアチア
9月23日	サウジアラビア
9月24日	セントビンセント
9月25日	フィジー
9月26日	スロベニア
9月27日	スリランカ
9月28日	アンティグア・バーブーダ
9月29日	サントメ・プリンシペ
10月 1日	ポーランド
10月 2日	ソロモン
10月 3日	エチオピア
10月 4日	ソマリア
10月 5日	ジブチ
10月 7日	マダガスカル
10月 8日	ウガンダ
10月 9日	ホンジュラス
10月10日	カーボベルデ
10月11日	ハイチ
10月12日	博覧会国際事務局（BIE）

日本館関連の主な報道実績一覧

■国内　新聞（2023年9月12日～2025年11月19日）/ 213件

掲載日		媒体名	見出し
2023	9月12日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	日本館　起工式
		産経新聞(東京／大阪／九州・山口版)	万博「日本館」起工他
		朝日新聞(大阪)	万博「日本館」起工式
		日本経済新聞(大阪)	万博「日本館」で起工式
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	万博「切り札」でも危機感
2024	9月16日	読売新聞	万博に「火星の石」
		産経新聞	「火星の石」万博で展示へ　世界最大級、初の一般公開
	9月17日	朝日新聞	万博に「火星の石」展示へ　南極で採取の隕石　月の石の再展示も
		毎日新聞	万博で「火星の石」展示へ　2000年に南極観測隊が発見の隕石
		日本経済新聞	大阪万博、「火星の石」展示へ　南極観測隊が採取
		産経新聞	万博で展示の火星の石　ご神体として厳重管理、初の一般公開　探査機の映像頓挫で代替策か
		読売新聞	「火星の石」は生命の起源解明につながる「ご神体」…万博で展示、研究者「宇宙に思いはせて」
	9月20日	日本経済新聞	大阪万博日本館、案内役に「藻類キティ」　循環をテーマに
		産経新聞	万博日本館、「藻類」で脱炭素訴え　ハローキティが32種類の藻類にふんして登場
		毎日新聞	万博・日本館の案内役に「藻類キティ」　循環のテーマに合わせ
	9月21日	読売新聞(大阪)	zoom EXPO　日本館 藻類が目玉　マリモなど 32種の「キティ」が紹介
		産経新聞(大阪)	日本館「藻類キティ」案内役
	10月 5 日	産経新聞(神奈川)	万博日本館　案内役に「藻類キティ」　川崎の研究所　展示に協力
	10月18日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	万博「日本の美意識」　日本館ユニホーム発表
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋)	おあしす
		読売新聞(大阪)	着物風ジャケットでご案内　日本館 ユニホーム
		読売新聞(福岡)	万博案内役　装い着物風
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	大阪万博　「日本館」制服は 着物風　性差ないデザイン
	10月20日	朝日小学生新聞	NEW　着物をイメージ 日本館のユニホーム
	10月23日	読売新聞(大阪)	zoom EXPO　未来のアパレル サステナブルに　ゴム素材に石灰石／光合成する服
2025	1月15日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	「火星の石」万博日本館展示他
		産経新聞(大阪)	「火星の石」日本館展示
	1月16日	毎日小学生新聞	話題　「火星の石」日本館で公開へ
	1月20日	産経新聞(東京)	首相、万博会場視察　地方創生の起爆剤期待　維新と協力、関係改善思惑も
	1月27日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋)	大阪万博　日本館を初公開
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋)	大阪万博の「日本館」報道陣に公開
		読売新聞(東京／札幌／高岡／大阪／福岡)	万博日本館「循環」テーマ他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	日本文化の「循環」表現　大阪万博「日本館」報道陣に公開
		産経新聞(東京／大阪)	大阪・関西　万博2025　日本館、最新バイオ技術体感他
		朝日新聞(大阪／北九州)	「いのちと、いのちの、あいだに」　万博・日本館　初公開／小さな命　活躍　万博「日本館」公開
		毎日新聞(大阪／北九州)	「循環」発信　万博・日本館／万博「日本館」を報道陣に初公開
	1月28日	朝日小学生新聞	いまがわかる　ニュースあれこれ　社会　大阪・関西万博の「日本館」初公開　微生物や藻類に注目した展示に
		産経新聞(東京／大阪)	大阪・関西万博2025　遠くの人と触れ合える　NTT、次世代通信を出展他

掲載日		媒体名	見出し
2025	1月29日	読売新聞(大阪)	zoom EXPO 大阪・関西　触覚・振動届ける「伝話」　NTT 会場3台 関空1台
	1月30日	読売KoDoMo新聞	わだい　万博「日本館」　キティが変身
	2月 1 日	毎日小学生新聞	大阪・関西万博日本館を公開
	2月 2 日	朝日中高生新聞	WEEKLY NEWS　26日　大阪万博の日本館が初公開
	2月 3 日	読売新聞(福岡／山口／岩柳周南／佐賀／長崎・佐世保／大分／宮崎／鹿児島／熊本)	気になる!サーチ　磯の味　守るアイデア　海藻
	2月13日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	質問　なるほドリ　大阪・関西万博の「日本館」って?　政府出展のパビリオン　循環型社会へ発信
	2月14日	日本経済新聞(大阪／近畿経済A版)	万博　サーチライト　国の個性　リング内に凝縮
	3月 6 日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	万博「切り札」トランプ氏招待案　政府検討「火星の石」日米友好象徴に
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	藤原紀香さん　名誉館長に　万博日本館　招待客の案内役他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	大阪万博の日本館　藤原紀香さん、名誉館長に
	3月 7 日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	万博記念貨幣　最終受け付け
	3月 9 日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	New門　ニュースの門　離れた人と「触って」通話
	3月12日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	両陛下、万博開会式に出席へ
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	来月12日万博開会式、両陛下出席
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	両陛下　万博開会式に出席へ他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	両陛下が万博開会式に　来月、大阪を訪問
	3月13日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	秋篠宮ご夫妻　万博会場視察
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	秋篠宮ご夫妻　万博会場視察
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	秋篠宮ご夫妻　万博会場視察他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	秋篠宮ご夫妻　万博会場を視察
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	大阪・関西万博　開幕まで1ヵ月　パビリオンついに開花
		産経新聞(東京／大阪)	大阪・関西万博2025　秋篠宮ご夫妻、会場ご視察
		産経新聞(東京／大阪)	万博未来考　国際融和　生み出せるか　総括編　開催意義を求めて　1他
		産経新聞(東京／大阪)	あと1カ月　くるぞ、万博
		産経新聞(大阪)	水平垂直　万博海外館　PRに格差　開幕まで1カ月　工事進捗が影響　機運高まらず
	3月14日	読売新聞(大阪) 夕刊	ZOOM EXPO　各国 手取り合う機会に　日本館名誉館長 藤原紀香さん
	3月15日	産経新聞(東京／大阪)	皇室ウイークリー　7~13日　両陛下、海外協力隊員らとご懇談　秋篠宮ご夫婦、万博会場をご視察
	3月18日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	仮想空間で万博めぐり　開幕に先駆け　来月上旬に無料アプリ
	3月25日	読売新聞(名古屋)	愛知万博20年　理念継ぐ
	3月27日	毎日新聞(東京)	「火星の石」万博へ　極地研から搬出
		日本経済新聞(東京)	大阪万博会場へ　「火星の石」搬出　日本館で一般公開
	3月30日	朝日新聞(東京)	日本館　お迎え準備完了
		読売新聞(東京)	万博日本館完成　名誉館長PR　34他
		日本経済新聞(東京)	火星の石もキティも万端　万博日本館で開館式
	4月 2 日	日本経済新聞(名古屋／大阪／福岡)	大阪万博見据え会場で防災訓練　避難や消火手順確認
	4月 4 日	読売新聞(札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	万博直前イベント 出席
	4月 5 日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	万博 リハ始まる他
	4月 6 日	朝日新聞(大阪／奈良／和歌山)	若者へアピール「みんなで成功へ」会場内で催し 首相も登壇他

■国内　新聞（2023年9月12日～2025年11月19日）/ 213件

掲載日		媒体名	見出し
2025	4月 6 日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	14か国衣装 お披露目／日本館などユニホーム披露／各国衣装 色とりどり／14か国衣装 お披露目 会場でTGC
	4月 9 日	朝日新聞(大阪)	大阪・関西万博'25　安全な開催　準備着々　府警　VRで避難誘導訓練
		読売新聞(大阪)	万博会場の避難　VRで誘導訓練　府警会場警察隊
	4月10日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	月面からこんにちは　見どころ満載万博会場　報道陣に公開他
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡／和歌山／三重)	さあ万博　未来へ招待　空飛ぶクルマ4分飛行・AIロボ案内他
	4月11日	産経新聞(東京／大阪)	EXPO 2025　万博直前!　記者の推しパビ　13日開幕
		読売新聞(東京／札幌／高岡)　夕刊	万博　東京も警備強化　13日開幕　対テロ　新装備・組織　サイバーも警戒
		読売新聞(大阪) 夕刊	ZOOM EXPO　開幕の舞台　希望を踊る　世界的バレリーナ・針山愛美さん　ウクライナのダンサーと共演「活力与えたい」
		読売新聞(福岡)　夕刊	両陛下、大阪入り
	4月12日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	万博　きょう開会式　パビリオン建設半ば　前売り券900万枚突破　両陛下、「大屋根リング」視察　皇室、1970年からかかわり他
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	両陛下大阪入り他
		毎日新聞(東京／大阪／北九州)　夕刊	あす開幕　大阪・関西万博の目玉展示　火星の記憶　秘めた隕石　火山由来/13億年前生成/宇宙を「漂流」
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪)	万博支える　福島の木　リングの柱や梁　風評被害乗り越え　「復興シンボルに」他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	両陛下、万博を視察　大屋根リング・日本館
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	大阪・関西万博　開幕　未来の社会　きたぞ万博
		産経新聞(東京／大阪)	天皇、皇后両陛下ご動静　11日金曜
		産経新聞(東京／大阪)	万博あす開幕、きょう開会式　両陛下　会場ご視察他
		読売新聞(福岡)	両陛下と秋篠宮ご夫妻　視察　きょう開会式
	4月13日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	CU　クローズアップ　万博　平和「共創」なるか　問われる費用対効果
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	万博　ワクワク集結　「iPS心臓」「火星の石」他
	4月14日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	未来への期待　脈打つ　「人間洗濯機」「火星の石」人だかり他
		産経新聞(東京／大阪)	大阪・関西　万博　2025　雨ニモ負ケズ　期待の列他
		朝日新聞(大阪／奈良)	大阪・関西万博開幕　いのちの輪広がる他
	4月17日	読売新聞(福岡)	万博　不正確な情報拡散　「リング崩落するのでは」「税金13兆円投入」
	4月19日	毎日新聞(東京／大阪／北九州)　夕刊	フォーカスオンEXPO　自分らしく魅力発信
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	EXPO 2025　万博の魅力 仮想空間で　VR活用し自宅でも疑似体験　来場促す呼び水に
		産経新聞(東京／大阪)	皇室ウイークリー　11～17日　両陛下、関西万博の開会式ご臨席　佳子さま、輪島塗の技法をご体験
	4月21日	読売新聞(東京／札幌／高岡／大阪／福岡)　夕刊	万博周遊　スタンプ人気　デザイン多彩　会場に190個他
	4月22日	朝日新聞(東京／大阪／北九州)	万博ビジネス交流　関税にらみ本格化　各国、日本に期待感
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／福岡)	JAPAN NEWS　言葉の引き出し増やそう!
	4月24日	毎日新聞(大阪)	EXPO 2025　大阪・関西　アジア企業　結束強化へ　ASEAN6カ国　経済団トップが視察　再生医療、AI分野に注目
	4月25日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	愛子さま5月に万博視察へ他
		読売新聞(大阪)	デンマーク国王　夢洲来訪　ナショナルデー
	4月30日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／福岡)	大阪・関西万博特集　EXPO Osaka 2025
	5月 1 日	読売新聞(大阪) 夕刊	ZOOM EXPO　最先端の宇宙　万博で競う　各国　展示アピール
		産経新聞(大阪)　夕刊	片岡愛之助　11役で大暴れ　薫風歌舞伎特別公演　関西復帰舞台に　大阪松竹座　11日から
	5月 5 日	産経新聞(東京／大阪)	世界の論点　海外からも注目　大阪・関西万博
	5月 7 日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	久子さま、万博を視察
	5月 7 日	読売新聞(東京／札幌／高岡／大阪／福岡)　夕刊	辛酸なめ子のじわじわ時事ワード　並ばない万博
		読売新聞(大阪)	関西経済　ZOOM EXPO　記者体験　EVバス　走行中に給電
	5月 8 日	読売新聞(東京／札幌／高岡／大阪／福岡)　夕刊	大阪万博視察へ　愛子さま大阪に他
		日本経済新聞(大阪／近畿経済A版)	EXPO 2025　海外記者、万博こう見た
	5月 9 日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	愛子さま　万博リングを視察
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	愛子さま　万博を視察他
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	愛子さま　万博初訪問　大屋根など視察他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	愛子さまが万博会場視察　日本館や大屋根リング
		産経新聞(東京／大阪)	愛子さま　万博ご視察
	5月10日	産経新聞(東京／大阪)	皇室ウイークリー　2～8日　陛下、サンマリノ訪問の写真ご披露　愛子さま、式典ご臨席で初のお言葉
	5月13日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	「二度と行きたくない」大行列万博
	5月18日	産経新聞(大阪)	水平垂直　木材回帰　国産の自給率改善　林業　衰退の一途、コスト対策急務
	5月19日	日本経済新聞(東京／名古屋／大阪／福岡)　夕刊	万博万景　訪日客、観光の合間に来場　YOUはなぜ万博に?　街のミャクミャクも宣伝
	5月21日	読売新聞(大阪／福岡) 夕刊	まるでドラゴンボール!?　警備員「スカウター」装着他
	5月27日	読売新聞(大阪)	ZOOM EXPO　隕石　触れたよ!　宇宙へ関心　高める機会に　美術商出展　口コミ広まり人気
		産経新聞(東京／大阪)	思ふことあり　児童ら生き生き　万博の魅力
	5月30日	読売新聞(大阪)	ZOOM EXPO　脱「予約争奪戦」手探り　ネット先着に数万人　会場端末　行列　一部パビリオン当日予約の時間帯分散
	6月 5 日	毎日新聞(大阪)	女の気持ち　米寿の3人
		読売新聞(大阪) 夕刊	ZOOM EXPO　「海洋プラ削減」万博から　危機感訴え「行動変えて」
	6月 7 日	毎日小学生新聞	NEWS FILE　はみ出し15
	6月11日	産経新聞(大阪)　夕刊	昭和100年　輝く関西に向けて　「カワイイ文化」世界の本音は
	6月13日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	2025 EXPOユニホーム　和の心　濃灰色に込め　日本館
	6月19日	読売新聞(大阪)	日本館スタッフが労組　「休憩短くトイレ行けない」契機
	6月20日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	EXPO Report　藻類の森で癒やされて　「循環」生む緑の培養装置　日本館
		日本経済新聞(大阪／近畿経済A版)	万博　サーチライト　海外館に見えた文化の絆
	6月24日	日本経済新聞(大阪／近畿経済A版)	EXPO 2025　CEO、肩書抜きで道案内　アシックス広田さんがボランティア　指示受ける側に「伝え方見直す機会」
	7月 4 日	朝日新聞(大阪)	輝き発信　ジャパンデー
		読売新聞(大阪)	ZOOM EXPOスコープ　資源循環　見える形に
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	万博で「ジャパンデー」　伝統と革新アピール
		産経新聞(東京／大阪)	大阪万博ジャパンデー　雅楽や漫画　日本文化発信他
	7月 9 日	読売新聞(大阪)	関西経済　NEWS　潮流深層　万博グッズ　意外と爆売れ　ミャクミャク人気　店舗数増
	7月11日	読売中高生新聞	From EXPO　グリーンな社会へ　日本館
	7月12日	日本経済新聞(大阪／近畿経済A版)	大阪万博パビリオン　訪日客　1番人気は日本館　政投銀関西支店調べ
	7月15日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	語る　万博と宗教を研究する宗教学者　君島彩子さん　25年万博　漂う神道的イメージ　気になった「自分の死」に触れない展示
	7月16日	産経新聞(東京／大阪)	万博で拉致パネル展　来月、「政治性排除」一転他
		産経新聞(大阪)　夕刊	昭和100年　輝く関西に向けて　万博ユニホーム　多様性の表現配慮
	7月20日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	万博では関税協議なし　財務長官　参院選への影響避ける
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	経財相「来週早々にも訪米」　8回目対面協議　関税上げ回避探る

■国内　新聞（2023年9月12日～2025年11月19日）/ 213件

掲載日		媒体名	見出し
2025	7月23日	読売新聞(大阪)	日本館　自由研究イベント
	7月25日	産経新聞(大阪)	万博クロスDiary　日本館　神秘的で美しい「循環の旅」
	7月26日	朝日新聞(大阪)	遠足　万博十分回れない　「いのち」学ぶテーマ館　入場枠不足　予約不要「コモンズ」混雑時は制限
	7月31日	日本経済新聞(大阪／近畿経済A版)	万博サーチライト　9府県、観光の魅力競う
		産経新聞(和歌山)	万博クロス　日本館　神秘的で美しい「循環の旅」
	8月 4日	読売新聞(阪神)	ZOOM EXPO　70年万博ガイド　55年ぶり「再会」　神戸の帽子店社長・渡辺さん　日本館の制帽製作
	8月 8日	産経新聞(大阪)　夕刊	観彩EXPO　着こなし私らしく
	8月15日	産経新聞(滋賀)	万博クロス　Diary　日本館　神秘的で美しい「循環の旅」
	8月16日	産経新聞(東京／大阪)	あと2カ月　駆け込め万博　10月13日閉幕
	8月21日	産経新聞(奈良)	万博クロス Diary　日本館　神秘的で美しい「循環の旅」
	8月26日	日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	大阪・関西万博特集　涼夜の万博　祝宴楽しむ
	8月28日	読売新聞(東京／札幌／高岡／大阪／福岡)　夕刊	万博ユニホーム　「日本発」際立つ
	8月29日	読売新聞(大阪)	ZOOM EXPO　スコープ　宇宙産業　幅広い商機
		産経新聞(大阪)　夕刊	観彩EXPO　いのちの物語　見つけた
	8月30日	読売新聞(大阪)	万博考　4　世界を映す鏡　核のタブー　考える場　被爆発信　国連が中心
		産経新聞(東京／大阪)	両陛下、アフリカ首脳ら招かれ茶会　佳子さま、万博パビリオンをご視察　皇室ウイークリー　22～28日
		産経新聞(東京／大阪)	拉致問題の現場から　24　万博で「パネル展」　世論の熱冷めず「動員」過去最高
	9月 6日	読売新聞(大阪) 夕刊	万博ユニホーム　多様性まとう
	9月 8日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	大阪・関西万博パビリオンの制服紹介　カタログ誌「新しいユニフォーム」55周年記念号
	9月14日	朝日新聞(大阪)	絆も技も　もっと強く
		読売新聞(大阪)	日仏結ぶ「赤い糸」　200人参加他
	9月18日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	首相動静　17日
		毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	首相日々　17日
		読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	石破首相の一日　17日
		読売新聞(大阪)	異彩放つ警備員　根岸佑典さん　EXPO 人　Vol.19　疾走編
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	首相官邸　17日
		産経新聞(東京／大阪)	石破日誌　17日(水)
	9月25日	読売新聞(東京／札幌／高岡／名古屋／大阪／福岡)	悠仁さまが万博視察他
		日本経済新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／福岡)	悠仁さま、万博を視察　日本館など
		産経新聞(東京／大阪)	悠仁さま、万博ご視察　初の単独ご公務他
	9月26日	毎日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	悠仁さまが万博を見学
		産経新聞(奈良)	万博再び　英エドワード王子夫妻　日本館などを見学
	9月27日	産経新聞(東京／大阪)	皇室ウイークリー　19～25日　両陛下、海外協力隊員らとご懇談　悠仁さま、万博パビリオンご視察
		産経新聞(和歌山)	万博再び　英エドワード王子夫妻　日本館などを見学
	9月29日	産経新聞(大阪)　夕刊	万博再び　万博で湧いた感情　絵筆に　発達障害あるアーティスト　大阪で個展
	10月 1日	読売新聞(大阪)	NEWS 潮流深層　関西経済　ZOOM EXPO　レガシーつくり　次世代目線
	10月 2日	朝日新聞(東京／札幌／名古屋／大阪／北九州)	万博の空気感　未来へのヒント　映像系盛況の一方　大屋根の存在感　リアルの魅力
		朝日新聞(山形)	「未来のみそ汁」白鷹産　微細藻類「スピルリナ」使用　万博・日本館で配布　商品化検討も
	10月 2日	産経新聞(京都)	万博クロスDiary　日本館　神秘的で美しい「循環の旅」
	10月 4日	毎日新聞(大阪)	心の色　ミャクミャクに　JR大阪駅に130体集合　スタッフや著名人　フィギュアにペイント
	10月 6日	読売新聞(東京)	中学生12人　万博の学び　青梅、奥多摩
	10月 7日	産経新聞(東京／大阪)	天皇、皇后両陛下ご動静　6日月曜
	10月 8日	朝日新聞(秋田)	未来の食材　微細藻のみそ汁　「スピルリナ」用い、山形・白鷹で開発　関西万博・日本館で配布
		読売新聞(大阪)	NEWS 潮流深層　関西経済　気軽　場外「万博」のススメ　空飛ぶクルマ疑似体験　パビリオングルメ満喫
	10月12日	読売新聞(横浜／川崎／湘南／相模)	万博の休憩　藻類椅子で　慶大教授　政策携わる　バイオプラ原料　資源循環
	10月13日	朝日新聞(東京)	70年万博の懐古　功罪は20年後に　万城目学さんに聞く　大阪・関西万博
		読売新聞(東京／高岡／大阪／福岡)	Thank you 万博　笑顔つないだ158の夢
		日本経済新聞(東京)	大阪・関西万博　閉幕　万博の物語　紡いだ半年間
	10月14日	朝日新聞(東京)	首相動静　13日
		毎日新聞(東京)	CU　close-up　戦火根絶へ、発信乏しく
		毎日新聞(東京)	持続可能社会へ　実装なるか　大阪・関西万博の「遺産」
		毎日新聞(東京)	首相日々
		読売新聞(東京)	万博閉幕　次世代技術　実用化が課題　民間パビリオン盛況／ミャクミャクに首相が感謝状他
		日本経済新聞(東京)	首相官邸　13日
		産経新聞(東京)	石破日誌　13日(月)
	10月16日	産経新聞(東京)	万博レガシーの行方 3 ミャクミャク旋風 未来まで
	11月11日	産経新聞(大阪)　夕刊	活写2025　万博ユニフォーム　輝き続ける記憶のカケラ
	11月13日	読売新聞(大阪) 夕刊	藻類スツール　園芸博へ　日本館　「循環」レガシーとして
	11月15日	読売新聞(大阪)	［INTERVIEW　広論］大松敦　日建設計社長
	11月18日	読売新聞(大阪) 夕刊	［万博、その先に］また会う日まで
	11月19日	読売新聞(大阪)	「日本館」解体　清水建設が契約

■国内　テレビ（2023年9月11日～2025年11月24日）/ 312件

放送日		放送局	番組名	ヘッドライン
2023	9月11日	NHK総合・東京	ニュース・気象情報	大阪・関西万博「日本館」の起工式
		NHK総合・東京	ニュース7	大阪関西万博「日本館」の起工式
		TX	ゆうがたサテライト	万博「日本政府館」・起工式
		NHK総合・大阪	ニュース・気象情報	大阪・関西万博「日本館」の起工式
		TVO	やさしいニュース	予定より3か月遅れるも…“循環”テーマの日本政府館・起工式
		KTV	newsランナー	2度の入札不成立の末・大阪・関西万博「日本館」起工式／大阪関西万博「日本館」の起工式
		YTV	かんさい情報ネットten.	<キニナルニュース>万博・会場の夢洲で日本館の起工式　「儚さや季節の移ろい」発信
		MBS	よんチャンTV	<5時ニュース>　万博・日本館起工式・建設費高騰に懸念も
		NHK総合・大阪	ほっと関西	オープニング／政府が出展「日本館」の起工式／「タイプX前向きに捉え各国は早急に具体化を」
		ABC	newsおかえり	ラインナップ／万博・「日本館」起工式
		NHK総合・大阪	ニュース7	大阪関西万博「日本館」の起工式
		NHK総合・大阪	ニュース845	政府が出展「日本館」の起工式／「タイプX前向きに捉え各国は早急に具体化を」

■国内　テレビ（2023年9月11日～2025年11月24日）/ 312件

放送日		放送局	番組名	ヘッドライン
2023	9月12日	YTV	朝生ワイド　す・またん!	<す・またん!ニュース530>　大阪関西万博「日本館」起工式
		YTV	ZIP!	<ニュース700>　万博・政府出展の「日本館」起工式
2024	9月16日	TX	ワールドビジネスサテライト	最大級「火星の石」展示へ 大阪万博 初の一般公開
		KTV	newsランナー	「火星の石」万博の目玉として展示　数万年前に地球に飛来した隕石　南極の昭和基地近くで発見
		NTV	news every.	【世界最大級の「火星の石」】大阪・関西万博で展示へ
	9月17日	TBS	Nスタ	大阪関西万博で火星の石 展示へ
		テレビ朝日	報道ステーション	発見者「水の痕跡が…火星の表層を知る大きな手がかり」『火星の石』万博で展示へ
	9月20日	CX	イット!	<取材center24>大阪・関西万博にハローキティ
		KTV	newsランナー	万博・日本館・ハローキティが藻類に?
	9月21日	EX	グッド!モーニング	<けさ知っておきたい!NEWS>万博「日本館」内部を初公開
		KTV	めざましどようび	「ハローキティ」万博・日本館に登場
2025	1月14日	CX	FNN　Live　News　days	大阪関西万博まで3か月「日本館」3エリア全容明らかに
		EX	大下容子ワイド!スクランブル	<ANN　NEWS>大阪関西万博の目玉「火星の石」を日本館で展示へ
		CX	イット!	<All　news4>大阪万博・日本政府出展の全容
	1月15日	EX	大下容子ワイド!スクランブル	<ピックアップNEWS>予告・大阪関西万博まであと3カ月・世界最大級「火星の石」展示へ／<ANN　NEWS>大阪関西万博の目玉「火星の石」を日本館で展示へ
	1月26日	TX	TXNニュース	大阪万博・「日本館」報道公開
		EX	ANNスーパーJチャンネル	<ABC　NEWS>火星の石展示へ・万博「日本館」メディア向けに公開
		NHK	NHKニュース	大阪関西万博「日本館」の内部公開
		NHK	ニュース7	大阪関西万博「日本館」の内部公開
		EX	有働Times	万博「日本館」がメディア公開
		KTV	FNN　Live　News　イット!	<KTV　NEWS>大阪関西万博「日本館」一部公開
		NHK	NHKニュース（関西）	（大阪関西万博2025）「日本館」内部初公開
		NHK	ニュース・気象情報（関西）	2025大阪関西万博「日本館」内部・初公開
		YTV	真相報道バンキシャ!	<ytv　News>日本館・報道陣に一部公開
	1月27日	NTV	Going!　Sports&News	<G　NEWS>大阪・関西万博・開幕まで70日あまり「日本館」一部公開
		TBS	TBS　NEWS	大阪・関西万博・政府出展の「日本館」内覧会
		NHK	おはよう日本	大阪・関西万博「日本館」の内部公開
		TBS	THE　TIME,	万博「日本館」内部を初公開 ／<全力TIMEライン>万博出展の「日本館」初公開／<90秒でけさのニュース>万博「日本館」内部を初公開
		EX	グッド!モーニング	大阪関西万博「日本館」一部公開／<けさ知っておきたいニュースまとめ>"火星の石"万博・日本館公開
		NTV	Oha!4	<いってらっしゃいNEWS>万博開幕前に"日本館"報道公開
		MX	おはリナ!	予告・大阪・関西万博「日本館」内部を初公開／大阪・関西万博「日本政府館」初公開
		CX	めざましテレビ	万博「日本館」内部を初公開・大阪万博「日本館」一部公開・ハローキティが昆布に
		EX	羽鳥慎一モーニングショー	万博「日本館」公開・目玉は"世界最大級"「火星の石」
		EX	大下容子ワイド!スクランブル	<フラッシュNEWS>万博「日本館」公開・目玉は火星の石
		YTV	日テレNEWS24	大阪・関西万博・開幕まで70日あまり「日本館」一部公開
		ABC	おはよう朝日です	<#朝トレフラッシュNEWS>万博日本館・火星の石やハローキティも
		YTV	す・またん!	大阪関西万博・「日本館」公開
	3月 6日	TBS	TBS NEWS	万博「日本館」名誉館長に藤原紀香さん武藤経産大臣が任命・大阪・関西万博・日本館名誉館長に藤原紀香さん
2025	3月 6日	NHK	おはよう日本	万博「日本館」名誉館長に藤原紀香さん／<おはよう関西>大阪関西万博「日本館」名誉館長に藤原紀香さん
	3月11日	EX	スーパーJチャンネル	<最新NEWS>両陛下・万博開会式に出席へ
		NHK	NHKニュース	両陛下・万博開会式出席へ
		ABC	おはよう朝日です	<トレンドデリバリー>万博ヘルメットロケ・会場から最新情報
		NHK	ほっと関西	大阪・関西万博・両陛下・開会式出席のため大阪訪問へ
	3月12日	NHK	おはよう日本	両陛下　万博開会式出席へ
		TBS	Nスタ	<Nスタ　NEWS　DIG>大阪・秋篠宮ご夫妻万博会場に・大屋根リングや日本館視察
		CX	イット!	<All　news4>秋篠宮ご夫妻が万博会場へ
		NTV	news　every.	<きょうコレ>秋篠宮ご夫妻・万博会場を初視察
		NTV	news　zero	<zero　short>初めて視察・秋篠宮ご夫妻が万博会場に
		NHK	ほっと関西	開幕まで1か月・秋篠宮ご夫妻会場を視察
		ABC	news　おかえり	万博・秋篠宮ご夫妻が視察
		NHK	ニュース845	開幕まで1か月・秋篠宮ご夫妻会場を視察
		MBS	news23	<MBS　NEWS>来月の開幕を前に・秋篠宮ご夫妻・万博会場を視察
	3月13日	TBS	TBS　NEWS	万博の名誉総裁・秋篠宮ご夫妻・会場を視察
		NTV	Oha!4	秋篠宮ご夫妻が万博会場を視察
		NTV	ZIP!	<NNN　NEWS　ZIP!>秋篠宮ご夫妻・万博会場を視察
		CX	めざまし8	開幕へ・大阪関西万博あと1カ月・目玉の展示は何?
		ABC	おはよう朝日です	<#朝トレキーワード>万博まで1か月・気になる展示は?
	3月20日	ABC	おはよう朝日です祝日版	大屋根リングに個性豊かなパビリオン・来月13日開幕!大阪関西万博／日本旅行で行く大阪関西万博・入場確約付き万博チケット
	3月23日	NHK総合・大阪	万博学ノススメ	万博学ノススメ
	3月26日	TBS	Nスタ	<Nスタ　NEWS　DIG>「火星の石」大阪会場へ出発
		NHK総合・東京	首都圏ネットワーク	万博で初の一般公開"火星の石"大阪へ
	3月27日	EX	グッド!モーニング	世界最大級「火星の石」万博に・「宇宙への思いはせる機会に」
		NHK総合・東京	おはよう日本	"火星の石"　万博会場へ／<おはBiz>大阪・関西万博で展示"火星の石"研究施設から搬出
	3月28日	NTV	情報ライブ　ミヤネ屋	開催迫る・大阪関西万博まであと16日!
	3月29日	CX	土曜はナニする!?	予告・日本館名誉館長・藤原紀香がお届け！ 万博最新情報 ／オープニング ／大阪関西万博！日本館に藤原紀香が潜入リポート
		CX	FNN　Live　News　イット!	「日本館」開館式に藤原紀香
		NHK総合・大阪	ニュース・気象情報（関西）	「日本館」完成を祝う式典
		KTV	newsランナープラス	名誉館長の藤原紀香も参加・大阪関西万博「日本館」で開館式
	3月30日	MBS	S☆1	<MBS　NEWS>来月13日開幕・万博「日本館」開館式
		KTV	すぽると!	<KTV　NEWS>名誉館長の藤原紀香も参加・大阪関西万博「日本館」で開館式
	3月31日	TVO	やさしいニュース	開幕まであと13日・日本館開館・公式本は痛恨の…
		MBS	よんチャンTV	<5時ニュース>万博・政府出展のパビリオン「日本館」
	4月 1 日	NHK総合・大阪	ニュース845	大阪・関西万博・開幕まで12日・研修や訓練など準備大詰め
	4月 2 日	KTV	FNN　Live　News　α	<KTV　NEWS>今月13日に開幕・大阪・関西万博の会場で訓練実施
	4月 3 日	TBS	THE　TIME,	大阪万博・月の石を再展示へ
		NTV	ZIP!	<ZIP!特集>暮らしが変わる?実験中の未来技術・巡回中・センサーで人を感知・警備ロボット

■国内　テレビ（2023年9月11日～2025年11月24日）/ 312件

放送日		放送局	番組名	ヘッドライン
2025	4月４日	CX	めざましテレビ	<6めざましNEWS>万博開幕でブルーインパルス・通天閣や「太陽の塔」上空も飛行
		TBS	Nスタ	大阪関西万博「月の石」再び展示
		MBS	THE　TIME,	自民党が万博の機運向上めざすイベント
	4月５日	TBS	TBS　NEWS	1970年の"目玉"大阪関西万博「月の石」再び展示
		CX	土曜はナニする!?	激レア生中継SP・55年で激変!?万博クイズ
		NTV	サタデーLIVE　ニュース　ジグザグ	生直撃「万博」「関税」石破首相に問う
	4月６日	CX	皇室ご一家	秋篠宮ご夫妻・大阪関西万博ご視察
		EX	グッド!モーニング	<けさ知っておきたい!NEWS検定>来週開幕・大阪関西万博チケット購入のポイント
	4月７日	EX	グッド!モーニング	<朝イチ!スポーツ&エンタ>「マイナビTGCin大阪関西万博2025」
		YTV	ZIP!	<?よミトく!>開幕まで6日・大阪関西万博の見所紹介
		CX	イット!	<All　news5>藤原紀香・万博でランウェー
		NTV	news　zero	期待と課題・万博開幕へミャクミャク×櫻井翔
		ABC	おはよう朝日です	<芸能NOW>TGC・大阪で初開催!中条も地元に♪／<芸能NOW>中条・ゆうちゃみら万博会場でTGC／<エンスポRANKING>寺田心くんが超絶イケメンに
		ABC	news　おかえり	<おかえりピックアップ>豪華・「TGC」が大阪関西万博会場に!石破総理が登場
	4月８日	MBS	よんチャンTV	<きょうの現場・山中プレゼン>「万博」開催の意義・その歴史とは?／<きょうの現場・山中プレゼン>万博・見るべきポイントは?
		KTV	newsランナー	万博・「会場警察隊」がVR使い訓練
		NHK総合・大阪	ほっと関西	大阪府警・VRを活用・避難誘導行う訓練
		MBS	よんチャンTV	<6時ニュース>万博・大阪府警が3D仮想空間で訓練
		NHK総合・大阪	ニュース845	大阪府警・VRを活用・避難誘導行う訓練
	4月９日	TBS	ゴゴスマ～GOGO!Smile!～	万博・目玉1・大きさ約5cm「iPS心臓」・目玉2・南極で発見!「火星の石」
		NTV	news　every.	<なるほどッ!>万博開幕まで4日・ミャクミャクの家／大阪・関西万博まであと4日・数万年前の「火星の石」
		EX	スーパーJチャンネル	万博開幕まで4日・昭和との共通点も?見どころは
		NHK	ニュースウオッチ9	大阪関西万博開幕まで4日・パビリオンには何が?・注目の"○○の石"とは
		NTV	news zero	開幕迫る「万博」で"最大級"水上ショーも
		KTV	よ～いドン!	<ロザンのうんちくん>大阪・関西万博　開幕直前!スタジオ生回答SP
		ABC	news　おかえり	万博・横山アナ合流！日本館の目玉"火星の石"／万博・日本館にハローキティ登場!
	4月10日	NTV	Oha!4	13日に開幕「万博」先行公開
		EX	グッド!モーニング	<きょう注目NEWS>公開・日曜日に開幕・大阪関西万博「人間洗濯機」も
		NTV	ZIP!	<NEWSZIP!リポート>目前・開幕まで3日・大阪関西万博／<TOP　NEWS解説>10月13日まで半年開催・開幕まで3日・大阪関西万博・料金やアクセスは
		CX	めざましテレビ	開幕直前「大阪関西万博」日本館さわれる「火星の石」
		TBS	THE TIME,	<追っかけTIME, >万博・開幕まであと3日・空飛ぶクルマ・未来の眠り
		NTV	DayDay.	開幕まであと3日・大阪関西万博"魅力と課題"
	4月11日	EX	羽鳥慎一モーニングショー	開幕目前・万博・行列対策どうなった・最新見どころ
		EX	大下容子ワイド!スクランブル	<ANN　NEWS>あす万博開会式にご出席・天皇皇后両陛下・伊丹空港に到着
		TBS	ひるおび	万博・国内パビリオン・見どころ先取り
		NTV	news　every.	<4時コレ>両陛下・万博会場を視察
		TBS	Nスタ	最新・皇室3代"万博との縁"両陛下が万博会場を視察
		TX	ゆうがたサテライト	両陛下・大阪万博会場を視察
	4月11日	CX	イット!	速報・両陛下「万博」会場を視察
		EX	スーパーJチャンネル	55年ぶり秋篠宮さまと・両陛下・万博会場きょう視察
		NHK	NHKニュース	あすの開会式を前に・両陛下が会場を視察
		NHK	ニュースウオッチ9	両陛下が万博会場を視察
		EX	報道ステーション	グローバルサウスが示す"未来"
		KTV	旬感LIVE　とれたてっ!	大阪関西万博・開幕まで2日
		ABC	news　おかえり	天皇皇后両陛下が会場を視察・万博開幕まであと2日
		YTV	かんさい情報ネットten.	<ヨコスカ目線>万博・日本開催までに紆余曲折
		TVO	やさしいニュース	中継・大阪関西万博・あす開会式・日本館は厳戒態勢／大阪関西万博・あす開会式・両陛下・万博会場を視察
		KTV	newsランナー	速報・両陛下「万博」会場を視察
		NHK	ほっと関西	天皇皇后両陛下が会場視察
		TVO	やさしいニュースプラス	あす開会式でおことば・天皇皇后両陛下が万博会場視察
		NHK総合・大阪	ニュース845	天皇皇后両陛下が会場視察
	4月12日	CX	FNN　Live　News　α	両陛下・大阪・関西万博会場視察・12日開会式に出席へ
		TBS	news23	<newspot　Today> 両陛下が会場視察・まもなく万博開会式・課題も
		NTV	news　zero	<zero　choice > 両陛下視察・土曜・開会式を前に万博会場へ
		TBS	TBS　NEWS	皇室3代"万博との縁"両陛下が万博会場を視察
		NTV	シューイチ	<NNNシューイチサタデー>両陛下が万博会場を視察
		EX	グッド!モーニング	<けさ知っておきたい!NEWS>両陛下が万博会場を視察
		CX	めざましどようび	きょう開会式・大阪・関西万博・天皇皇后両陛下が視察／両陛下・きょう開会式に出席へ
		EX	ワイド!スクランブル　サタデー	大阪関西万博・まもなく開会式／万博会場を一望・現在の様子
		NHK総合・東京	大阪・関西万博　開会式	大阪・関西万博　開会式中継
		ABC	おはよう朝日　土曜日です	大阪・関西万博・きょう開会式／<NEWS>あす開幕「いのち輝く未来社会のデザイン」大阪関西万博きょう開会式
		ABC	教えて!ニュースライブ正義のミカタ	<大阪関西万博>いよいよあす万博開幕・東アナが突撃取材
	4月13日	TBS	サンデージャポン	必見パビリオン「中国館」。去年採取!人類史上初の展示物は?
		CX	FNN　Live　News　イット!	大阪・関西万博が開幕
		TX	クリックニッポン	日本が導く未来社会
		MBS	よんチャンTV	きょう開幕・万博見どころ&楽しみ方を紹介
	4月14日	EX	グッド!モーニング	<朝イチ!スポーツ&エンタ>日本館・藤原紀香・和装でお出迎え
		TBS	JNNニュース	悪天候でも多数の入場者・大阪関西万博が「開幕」
		TBS	ひるおび	開幕・大阪関西万博・初日から"大盛況"・158の国と地域が参加
		TBS	ゴゴスマ～GOGO!Smile!～	最新・大阪関西万博・持ち物・注意点は?
		CX	イット!	<All　news4>万博開幕・会場から生報告
		TBS	Nスタ	<気になる!3コマニュース>「入るまで1時間半」ゲートに行列・大屋根リングで雨漏り発生
		CX	めざましテレビ	<NEWSカイトウ>いよいよ開幕・大阪関西万博
		NTV	ZIP!	<NEWSZIP!リポート>熱狂・"並ばない万博"「火星の石」も行列
		NHK	ニュースウオッチ9	大阪関西万博・"スマホが不可欠"・ただ会場では…
		YTV	す・またん!	万博初日・大物芸能人ズラリ!

■国内　テレビ（2023年9月11日～2025年11月24日）/ 312件

放送日		放送局	番組名	ヘッドライン
2025	4月14日	MBS	よんチャンTV	<きょうの現場>大阪・関西万博開幕!コブクロも登場
	4月15日	NTV	Oha!4	<コレミテ>大阪関西万博ついに開幕・知っておきたいスポットは
	4月16日	YTV	す・またん!	日本館・驚きの技術&体験
		YTV	す・またん!ZIP!	<見トク!知っトク!まいあさ万博生中継>日本館・1000万年前の「火星の石」/<見トク!知っトク!まいあさ万博生中継>日本館・藻類ってスゴい!新没入体験/<見トク!知っトク!まいあさ万博生中継>開幕4日目・万博会場から生中継
		KTV	旬感LIVE　とれたてっ!	万博「触れる火星の石」橋下徹が大誤報!?
		TVO	クリックニッポン	大阪関西万博・日本が導く未来社会
	4月17日	NTV	ZIP!	<TOP　NEWS解説>大阪関西万博・人気&新オープンパビリオン
	4月18日	NHK	ぐるっと万博　おひるまえ	オープニング/国内パビリオン日本館/国内パビリオン日本館みどころ
	4月19日	MBS	ごぶごぶ	<「大阪・関西万博」気になる体験ツアー　代役MC・今田耕司×藤原紀香＞名誉館長・紀香が世界に誇る「日本館」見どころ案内
	4月20日	CX	皇室ご一家	天皇皇后両陛下・大阪・関西万博へ
	4月21日	TVO	やさしいニュース	万博・"ビジネス交流"盛んに!中小企業もチャンスあり
	4月24日	EX	スーパーJチャンネル	愛子さま・5月・大阪万博視察へ
		NTV	news every.	<5時コレ>愛子さま・大阪関西万博へ/<きょうコレ>愛子さま・大阪関西万博の視察へ
	4月25日	NTV	Oha!4	<NEWS10minutes>愛子さま・来月「万博」を視察へ
		NTV	ZIP!	<NEWS>愛子さま・大阪関西万博の視察へ/<ZIP!ALL　TOPICS>愛子さま・万博視察へ
		NTV	DayDay.	<HOT　today>愛子さま・大阪関西万博訪問へ・大屋根リングなどを視察
		YTV	す・またん!	愛子さま・大阪関西万博訪問へ
	4月29日	MBS	よんチャンTV	<ロザンの2025万博で道案内しよ!>宇治原・会場のシンボルに太鼓判
	5月 1日	TX	いい旅、見つかる 教えて!ツアーの達人	行くならツアーが断然便利!大阪・関西万博
	5月 2日	MBS	よんチャンTV	<きょうの現場>万博を彩るパビリオンユニフォーム/<密着>'70万博コンパニオン・夢洲で同窓会
	5月 3日	MBS	せやねん!	<今週の気になるお金!>万博・週末は10万人超・混雑予想は「やや混雑」
	5月 4日	EX	ビートたけしのTVタックル	調査・今年は昭和元年から100年目
		ABC	ビートたけしのTVタックル	調査・今年は昭和元年から100年目
	5月 5日	ABC	news　おかえり	<きょうの深掘り>万博・視聴者が選ぶ・パビリオンランキング
	5月 7日	CX	イット!	トラブル対応"万博警察署"に密着
		ABC	news　おかえり	万博・2番目の大きさ!広場ではイベントも♪LIVEサウジアラビア王国パビリオン
	5月 8日	NTV	NNNストレイトニュース	伊丹空港に到着・愛子さま・大阪関西万博を視察へ
		TBS	ひるおび	<JNN　NEWS>愛子さま・大阪万博視察のため大阪到着
		TBS	ゴゴスマ～GOGO!Smile!～	視察・愛子さま・大阪関西万博へ/ご視察・愛子さま・大阪関西万博/中継・ご視察・愛子さま・大阪・関西万博
		NTV	情報ライブ　ミヤネ屋	予告・速報・愛子さま「万博・日本館」視察中/速報・愛子さま「万博・日本館」視察中
		TBS	Nスタ	NスタNEWSラインナップ/<きょうのニュースをイッキ見>愛子さま・万博を視察
		NTV	news　every.	<4時コレ>愛子さま万博会場に・今日から2日間視察/初めて・愛子さま・大阪関西万博を訪問
		CX	イット!	<モクゲキ!>一目見ようと熱烈ファン集まる・愛子さま・初めて「万博会場」を視察
		EX	スーパーJチャンネル	速報・初めての万博ご訪問・愛子さま"大屋根リング"視察
		NHK	NHKニュース	愛子さま・大阪・関西万博会場を視察
		TBS	Nスタ	愛子さまが万博を視察「楽しみにしてまいりました」
		NTV	news　every.	愛子さま・笑顔で初めての万博
		NHK	ニュースウオッチ9	愛子さま　大阪・関西万博へ

放送日		放送局	番組名	ヘッドライン
2025	5月 8日	NTV	news　zero	愛子さま・万博視察で笑顔・55年前には…
		TBS	news 23	<newspot　Today>愛子さま・大阪・関西万博・視察・勤務先のパビリオンにも
		KTV	旬感LIVE　とれたてっ!	速報・愛子さま・万博会場ご視察へ・日本館・大屋根リングなど/予告・愛子さま万博会場視察へ・日本館・大屋根リング・電力館も/速報・きょう・会場視察・愛子さま・日本館に到着
		YTV	かんさい情報ネットten.	愛子さま・万博会場を視察
		MBS	よんちゃんTV	<5時ニュース>愛子さま・万博を視察/<6時ニュース>愛子さま・万博を視察
		TVO	やさしいニュース	愛子さま・万博初訪問・大屋根リング・日本館視察
		KTV	newsランナー	愛子さまが万博に・大屋根リングも視察/<モクゲキ!>一目見ようと熱烈ファン集まる・愛子さま・初めて「万博会場」を視察
		ABC	ANNスーパーJチャンネル	速報・初めての万博ご訪問・愛子さま"大屋根リング"視察
		NHK	ほっと関西	EXPO2025・愛子さまが万博会場に
	5月 9日	CX	FNN　Live　News　α	愛子さま・万博会場を視察・「電力館」「日本館」など見学
		TBS	THE TIME,	愛子さま大阪関西万博を視察/<ニュース関心調査>4万8648人が選んだ関心ニュース・TOP10/<ニュース関心調査>4位愛子さま大阪関西万博を笑顔で視察/<ニュース関心度ランキング>4位・愛子さま・大阪関西万博で笑顔・"赤十字"パビリオンなど視察
		NTV	Oha!4	<NEWS10minutes>愛子さまが大阪関西万博視察
		EX	グッド!モーニング	愛子さま「日本館」など視察/<けさ知っておきたいニュースまとめ>愛子さま・万博視察・日本館へ
		CX	めざましテレビ	<6めざましNEWS>愛子さま・万博会場を視察「電力館」「日本館」など見学/<NEWSラインナップ>愛子さま・万博会場を初訪問/歓声・愛子さま・万博会場初訪問・2日間日本館など視察
		NHK	おはよう日本	愛子さま・大阪・関西万博へ
		NTV	ZIP!	<NEWS>愛子さま・大阪・関西万博を視察
		CX	サン!シャイン	笑顔・初の万博ご訪問で"愛子さまフィーバー"日本館・大屋根リングなど視察
		NTV	情報ライブ　ミヤネ屋	速報・シンガポール館など・愛子さま"フィーバー"・「万博」視察2日目
		YTV	す・またん!	愛子さま・万博を初訪問・「大屋根リング」など視察
		ABC	おはよう朝日です	愛子さま「日本館」など視察/<#朝トレ>愛子さま・大阪関西万博を初訪問/<#朝トレフラッシュNEWS>愛子さま・大阪関西万博を初訪問
		KTV	旬感LIVE　とれたてっ!	愛子さま・きょうも万博会場ご視察
	5月10日	NHK	大追跡グローバルヒストリー	<File03　フランス　浮世絵ブームを仕掛けた謎の美術商>美術商から日本文化の伝達者へ
		TX	いい旅、見つかる 教えて！ツアーの達人	行くならツアーが断然便利!大阪・関西万博
		MBS	せやねん!	<今週の気になるお金!>愛子さま・大阪関西万博視察
	5月11日	EX	グッド!モーニング	<1週間NEWSまとめ>愛子さま万博視察に大歓声・シンガポール館で"夢"明かす
	5月14日	TX	いい旅、見つかる 教えて！ツアーの達人	行くならツアーが断然便利!大阪・関西万博
	5月15日	MBS	よんチャンTV	<5時ニュース>万博・月の石・火星の石が並ばないで触れる!
	5月18日	CX	皇室ご一家	愛子さま・大阪関西万博へ
	5月19日	KTV	newsランナー	万博会場・EVバスで"クールスポット"
	5月20日	KTV	めざましテレビ	EVバスでクールスポット
		ABC	newsおかえり	〈きょうの深掘り〉万博・閉場時間延長を検討・夜の楽しみ方・グルメなど
	5月23日	NHK総合・大阪	ぐるっと万博　おひるまえ	夜の万博の楽しみ方!!
		MBS	よんチャンTV	〈5時ニュース〉休館のアンゴラ館　無許可業者が工事費未払い
	5月27日	YTV	す・またん!	<す・またん!ZIP!エンタメ>アルバム発売&初ソロツアー開催
	5月29日	NTV	ヒルナンデス!	<国民意識調査ビンゴ>20～60代男女に聞いた　着物姿が似合う有名人TOP10
	5月30日	NHK	ぐるっと万博　おひるまえ	日本が誇るIPコンテンツに出会う!
	5月31日	MBS	せやねん!	<今週の気になるお金!>万博来場者100人に調査　No.1パビリオン　穴場　お得情報
		YTV	音道楽EXPO	NMB48「チューストライク」

■国内　テレビ（2023年9月11日～2025年11月24日）/ 312件

放送日		放送局	番組名	ヘッドライン
2025	6月３日	OBS	イブニングプラス	万博の魅力　国内パビリオン　貴重な展示や未来の体験
	6月６日	TX	ガイアの夜明け	<"最後の願い"を叶えたい>"あの場所へ"を実現するプロ集団
	6月９日	EX	10万円でできるかな	<外国人299人に大調査！万博で感動！日本のスゴいところベスト７＞2位　700人が大行列!日本が発見したお宝　？
	6月13日	TX	いい旅、見つかる 教えて！ ツアーの達人	行くならツアーが断然便利!大阪・関西万博
		NHK	列島ニュース	<小山径の万博さんぽ>万博ファンと新たな楽しみ方体験
	6月23日	MBS	よんチャンTV	<5時ニュース>万博 「働きやすい環境を」 日本館で労組結成
	6月28日	TX	いい旅、見つかる 教えて！ ツアーの達人	夏こそツアーが断然便利!大阪・関西万博
		BSテレ東	一柳良雄が問う 日本の未来	分断の時代を生きる これからの若者たちへ
	7月１日	ABC	news　おかえり	<きょうのnews>万博　パビリオンでも願いごとを
	7月４日	EX	グッド!モーニング	<ANN>万博「ジャパンデー」特別ライブも
		NHK	ほっと関西	藤原紀香さん"震災から復興への思い"朗読　日本
	7月５日	BSテレ東	一柳良雄が問う 日本の未来	分断の時代を生きる これからの若者たちへ
	7月７日	ABS	news　おかえり	<特集>特集　万博ユニフォームのヒミツ
	7月12日	TVO	おとな旅あるき旅	<大阪・関西万博でビールと未来世界!>「日本館」火星の石に触れる
	7月13日	CX	皇室ご一家	秋篠宮ご夫妻　万博ジャパンデーへ
		KTV	皇室ご一家	秋篠宮ご夫妻　万博ジャパンデーへ
	7月19日	NHK	サタデーウオッチ9	関税　期日迫る中…
	7月23日	ABC	news　おかえり	万博 「日本館」で夏休みイベント
	7月25日	MBS	よんチャンTV	<まえはるプレゼン　きょうの現場>入場増狙う万博　もっと楽しい夏が来た!
	7月26日	NTV	アナザースカイ	<佐藤オオキ／大阪・関西万博>万博開幕前の日常／<佐藤オオキ／大阪・関西万博>日本館
		NBS	土曜はこれダネッ!	夏休み、関西へGO!長野→大阪・高速道路グルメ旅…そして万博へ
	8月14日	MBS	よんチャンTV	<きょうの現場>"夜万博"楽しむ人も出現／地下鉄長時間止まったワケ／大阪メトロの対応は?／万博側"災害"対応
		THK	スイッチ!	<特集>あと2カ月!見ておきたい大阪・関西万博
	8月21日	TBS	櫻井・有吉THE夜会	<夜会 プラン完璧主義な人＞夫婦初密着 藤原紀香 片岡愛之助／<夜会 プラン完璧主義な人>スムーズ！暑くない！親友 高島礼子をおもてなし／<夜会　プラン完璧主義な人>紀香厳選　万博おみやげ!
	8月22日	KTV	とれたてっ!	<まるっと1週間!とれたてっ!芸能>片岡愛之助（53）&藤原紀香（54）　夫婦でサザエさんに出演
		NHK総合・大阪	ほっと関西	"万博は日本の普遍的な立ち位置を示す"　国連　グテーレス事務総長
		NHK総合・大阪	ニュース845	国連　グテーレス事務総長　"万博は日本の普遍的な立ち位置を示す"
	8月23日	CX	FNN Live News イット!	佳子さま　初めて万博会場に
	8月24日	EX	グッド!モーニング	佳子さま　大阪・関西万博を初訪問／<けさ知っておきたい!NEWS>佳子さま　大阪・関西万博へ
		CX	サザエさん	万博開催スペシャル「サザエ再び万博へ行く」
	8月25日	ABC	おはよう朝日です	<けさ知っておきたい!NEWS>佳子さま　大阪・関西万博へ
	8月29日	MBS	よんチャンTV	<シリーズ 密着＞万博　夏休み "世界"に触れた子どもたち
	9月12日	ABC	news　おかえり	<きょうイチニュース>激混み万博どう楽しむ?
	9月13日	ABC	ANNスーパーJチャンネル	万博　フランス「ナショナルデー」
	9月15日	KTV	newsランナー	密着　イベント運営支える"知られざる奮闘"
	9月18日	TVO	やさしいニュース	万博の"プロ"オススメ　ここは外せない
	9月23日	MBS	よんチャンTV	<きょうの現場>駆け込み万博　閉幕後は何が残る?
	9月24日	TX	ワールドビジネスサテライト	<WBS　Quick>悠仁さま　初の単独公務　大阪・関西万博を視察
	9月24日	TBS	news23	悠仁さまが万博を視察　あす　秋篠宮さまと合流へ
	9月25日	TBS	TBS　NEWS	日本館やベルギー館に　悠仁さま　大阪・関西万博を視察
		TBS	THE　TIME'	悠仁さま　大阪・関西万博を視察／<NEWS>悠仁さま　大阪・関西万博を視察
		EX	グッド!モーニング	<ANN>悠仁さま　大阪・関西万博を訪問／<けさ知っておきたい!NEWS＞悠仁さま　万博へ　初単独公務
		CX	めざましテレビ	<NEWS>悠仁さま大阪・関西万博／<NEWS>悠仁さま関西万博視察　成年式後初の単独公務
		NTV	ZIP!	<ZIP!ALL　TOPICS>悠仁さま　大阪・関西万博視察
		EX	大下容子ワイド!スクランブル	<ピックアップNEWS>大阪・関西万博　閉幕まで3週間「大屋根リング」の今後は?
		YTV	NEWS24	悠仁さま　大阪・関西万博を訪問
		KTV	とれたてっ!	秋篠宮さま悠仁さま　万博会場を視察
		KTV	newsランナー	悠仁さま　大屋根リング視察「皇居より広い」
	9月26日	EX	報道ステーション	藻が生み出す未来のエネルギー
		KTV	とれたてっ!	<とれたてっ!ニュースカレンダー>24水曜　悠仁さま万博へ 「皇居より広い」
	9月28日	SUN	レッツ！ Beauty Trip ～Tripガールの美旅プラン!～	『旅好き女子たちによるココロもカラダも美しくなる旅プラン紹介』
	9月30日	YTV	す・またん!	<朝刊ナナメ読み＞最終回　復活!辛坊治郎の"新聞解説"／辛坊治郎が"ニュースを斬る!"／教えて辛坊さん!「ニュースの読み方」
	10月１日	CX	めざましテレビ	<NEWS>話題　スマホ&無料で万博満喫　入場困難になり注目度↑
	10月２日	YTV	ZIP!	<オールジャンルニュース>大阪駅100体超のミャクミャク
	10月３日	富山テレビ	ライブBBT	万博親子旅美味しい未来に出会う
	10月６日	ANN	ANNニュース	大阪・関西万博の会場到着
		ABC	newsおかえり	<おかえりピックアップ>万博 閉幕まで1週間 無料イベントも人気／<きょうのnews＞きょう 両陛下が万博会場へ
	10月７日	CX	めざましテレビ	<NEWS>両陛下2度目の万博視察
		ABC	大下容子ワイド！ スクランブル	<フラッシュNEWS>両陛下　万博再訪問「いのちの未来」視察
		ABC	おはよう朝日です	<#朝トレ>万博　あと1週間　"会場外"で楽しもう!／<#朝トレ>万博 「あと1週間」会場外でも…
		KTV	とれたてっ!	万博　残り1週間　連日20万人超　来場
	10月９日	MBS	ひるおび	連携?連立?吉村代表を生直撃／"最大280億円"黒字の見通し／"新総裁"本音は誰が良かった?
	10月11日	CX	サタデーLIVE ニュース ジグザグ	<ジグザグ考論>総決算「万博」って結局何だった?　成功or失敗　これを見れば分かる!
		ABC	サタデーステーション	最新技術や装備を駆使　万博"警備最前線"に密着
		YTV	トクそうCOMPANY	<内藤&ゆきりん&高岡　万博から見えたミライSP>大阪・関西万博の来場者1000人に聞いた行って良かったパビリオンランキング
	10月13日	TBS	ゴゴスマ	大阪・関西万博　最終日の賑わいは／スポーツの日　各地秋晴れ　生中継
		CX	イット!	<All news ４＞速報　大阪・関西万博　きょう最終日
		TVO	やさしいニュース	日本館　スギの再利用検討
	10月14日	KTV	newsランナー	（ニュース）　感動　笑って泣いて…閉幕の瞬間を総力取材
	10月15日	CX	FNN Live News days	「卵の殻」注目される再利用
	11月７日	TVO	やさしいニュースプラス	井上八千代さんら受章
	11月24日	YTV	ytvドキュメント	<完全保存版　大阪・関西万博2025　～世界は変わったのか～>大阪・関西万博　熱狂の184日間

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日		媒体名	見出し
2023	9月11日	朝日新聞デジタル	「コストなど現実と向き合い一丸で」政府出展の万博「日本館」起工式

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日		媒体名	見出し
2023	9月11日	時事ドットコム	「日本館」の起工式 万博テーマ発信拠点に 大阪・関西万博
		47NEWS	関西万博「日本館」で起工式 循環型社会を展示、体験
		NHKオンライン	大阪・関西万博 政府出展パビリオン「日本館」の起工式
		建通新聞	大阪・関西万博 日本館起工式
		YTV 読売テレビ	大阪・関西万博 日本政府が出展する『日本館』会場の夢洲で起工式 "儚さや季節の移ろい"発信へ
		電波新聞デジタル	大阪・関西万博 日本政府館起工式「いのちと、いのちの、あいだに」がテーマ
		日本海新聞	大阪・関西万博「日本館」で起工式
		ABC WEBNEWS	大阪・関西万博「日本館」起工式 工事の安全祈願 "循環"表現するパビリオンに
		NHKオンライン	大阪・関西万博「日本館」起工式 当初予定から約3か月遅れ着工
		テレビ東京ビジネスオンデマンド	大阪・関西万博「日本政府館」起工式
		サンスポ	大阪・関西万博の「顔」日本政府館を「ごみ処理施設にしたい」起工式で総合プロデューサー佐藤オオキ氏
		TVO テレビ大阪	大阪・関西万博日本政府館 予定から3カ月遅れで起工式
		建設工業新聞	大阪・関西万博日本政府館が起工／命の循環・伝統や魅力発信、清水建設で施工
		日本経済新聞	大阪万博「日本館」起工式 技術発信・おもてなしの場に
		スポーツ報知	日本政府館が起工式 大阪府の吉村洋文知事「未来社会の発信に期待」2025大阪・関西万博
		MBS 毎日放送	万博「日本館」の起工式実施 一方で関経連の松本会長は会場建設費増額の可能性に懸念
		産経ニュース	万博「日本館」起工 コスト9億円増、随意契約でようやく
		関西テレビ放送	万博「日本館」起工式 2度入札不成立の後に清水建設が受注 吉村知事「日本の技術を発信したい」
	9月12日	PR TIMES	2025年日本国際博覧会 日本政府館 起工式 実施レポート
		Lmaga.jp	「日本政府館」は会場のごみ処理場に、大阪・関西万博の構想
		四国新聞	「日本館」で起工式 循環型社会を展示、体験
		みんなの万博新聞	大阪・関西万博、「日本館」の起工式 「循環型社会」体験するパビリオン
		ラジオ関西	大阪・関西万博「日本館」 いのち輝く循環型社会をコンセプトに 76億円の随意契約、着工へ
		日本経済新聞	万博「日本館」で起工式 経産副大臣「技術・おもてなし発信」
		山陰中央新報	万博「日本館」で起工式 循環型社会を展示、体験
		西日本新聞	万博「日本館」で起工式 大阪・夢洲
		福井新聞	万博「日本館」で起工式 大阪・夢洲 循環型社会展示へ
		読売新聞オンライン	万博「日本館」起工式…「いのち輝く未来社会のデザイン」アピールの場に
		山梨日日新聞	万博「日本館」夢洲で起工式
		日刊工業新聞	万博出展パビリオン「日本館」、大阪・夢洲で起工式
		建設通信新聞	命のつながり 世界に発信／大阪・関西万博 日本政府館が起工／設計=日建設計 施工=清水建設
		日本経済新聞	大阪・関西万博日本政府館が起工／命の循環・伝統や魅力発信、清水建設で施工
		日本経済新聞	日本政府館が起工／命のつながり 世界に発信／大阪・関西万博
	9月13日	神戸新聞	万博で「循環」実体験
		日刊木材新聞社	日本政府館起工式 CLT2,000立方メートルを使用
	9月17日	@DIME	2025年の大阪・関西万博に日本政府館を出展する経済産業省が起工式を開催
2024	4月13日	PR TIMES	【大阪・関西万博開幕まで1年】「循環」をキーワードに「日本館」を伝えるWebマガジン「月刊日本館」を創刊
	4月15日	ADF Web Magazine	2025年大阪・関西万博の日本政府館の公式Webマガジン『月刊日本館』が創刊
	4月15日	MELLOW	経済産業省、大阪・関西万博「日本館」の情報を発信するWebマガジン「月刊日本館」を創刊
	4月24日	PR TIMES	【2025年大阪・関西万博日本政府館】パビリオンアテンダントを4月24日（水）より募集開始
	4月26日	八尾市	2025年大阪・関西万博日本政府館（日本館） パビリオンアテンダントの募集
	4月27日	MELLOW	経済産業省、大阪・関西万博の「日本館」におけるパビリオンアテンダントの募集を開始
	5月10日	週刊大阪日日新聞	大阪・関西万博 日本館の案内スタッフ ボランティアの募集開始
	7月17日	PR Times	【2025年大阪・関西万博日本政府館】公式SNSを7月17日（水）に開設
	7月31日	CREATORS STATION	【2025年大阪・関西万博日本政府館】公式SNSを7月17日（水）に開設　「循環」にまつわるコンテンツなど2025年に向けて情報発信体制を強化
	9月16日	FNNプライムオンライン	"ラグビーボール"世界最大級「火星の石」 2000年に日本の観測隊が南極昭和基地近くで発見　大阪・関西万博で初の一般公開へ
	9月17日	NHKニュース	大阪・関西万博 日本観測隊が南極で発見 "火星の石" 展示へ
		FNNプライムオンライン	大阪・関西万博で展示する「火星の石」公開　"世界最大級"の大きさ　日本の南極観測越冬隊が採取
	9月20日	PR Times	【展示公開 第１弾】日本館に「ハローキティ」が登場!社会課題を解決する鍵となる　32種類の「藻類」に扮したハローキティを公開
		GAME Watch	2025年開催の大阪・関西万博に32種類の「藻類」に扮したハローキティが登場
		livedoor ニュース	ハローキティが32種の藻類に変身!?大阪・関西万博、日本館の展示第一弾を公開
		時事ドットコム	藻類で温暖化防止PR　日本館、ハローキティが案内―大阪万博
		時事ドットコム	藻類に扮したハローキティ
		テレ朝news	大阪・関西万博「日本館」　藻に扮したキティや藻で森林浴体験の空間も
		FNNプライムオンライン	大阪・関西万博にハローキティ起用　緑色に染まり昆布やまりもなど藻類に変身「日本館」のパビリオンに登場
		SANSPO.COM	大阪・関西万博の日本館、案内役に「藻類キティ」　館全体のテーマは「循環」
		日本経済新聞	大阪万博日本館、案内役に「藻類キティ」　循環をテーマに
		JPubb	日本政府館の「ファームエリア」を紹介します【展示公開 第1弾】
		毎日新聞	万博・日本館の案内役に「藻類キティ」　循環のテーマに合わせ
		産経ニュース	万博日本館、「藻類」で脱炭素訴え　ハローキティが32種類の藻類にふんして登場
	9月21日	カンテレ	「ハローキティ」万博・日本館に起用　藻類に変身した緑色の"キティ"　日本館のテーマは「循環」
		ねとらぼ	「猫ってこと忘れてる?」ハローキティ、"32種の異色コラボ"に「この仕事はキティさんしか無理だ」とネット騒然　「頭が上がらない」
		FNNプライムオンライン	「ハローキティ」万博・日本館に起用　藻類に変身した緑色の"キティ"　日本館のテーマは「循環」
		テレ朝news	大阪・関西万博「日本館」　藻に扮したキティや藻で森林浴体験の空間も
	9月23日	ORICON NEWS	ハローキティ、万博・日本館に登場 個性的!32種類の藻類に変身
		おたくま経済新聞	大阪万博の日本館にハローキティが登場!32種類の藻類に変身
	9月25日	リビング大阪／リビング神戸・阪神間／リビング北摂	【大阪・関西万博】日本館に"藻類"に扮したハローキティが登場
	9月26日	マイナビニュース	【大阪・関西万博】ハローキティが32種類の「藻類」に - なぜ?
	10月 2日	PR Times	ちとせ、大阪・関西万博日本館内の藻類が主役となる「Farm Area（ファームエリア）」の展示に技術監修者として協力
	10月 4日	POUCH	50周年を迎えるハローキティのコラボが止まらない!まとめてみたら東京都や経済産業省ともコラボしとるぞ…
	10月17日	PR Times	日本館アテンダントユニフォームが決定「日本の美意識を纏う」をコンセプトにデザイン
		TBS NEWS DIG	大阪・関西万博「日本政府館」のスタッフユニフォーム初公開　着物のようなデザインが特徴
		日本経済新聞	大阪万博、「日本館」の制服は着物風　性差なく環境配慮
		朝日新聞デジタル	万博「日本館」アテンダントのユニホーム発表　性別問わないデザイン
		ORICON NEWS	万博「日本館」ユニフォーム初披露 「日本の美意識を纏う」着物風で年齢・性別問わず 風呂敷で持ち運び
	10月18日	FASHION TREND	関西・大阪万博日本館のユニフォーム用に『福助足袋』を協賛

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日	媒体名	見出し
2024 10月18日	Fashionsnap.com	大阪・関西万博日本館のアテンダントユニフォームを発表　デザインは中田優也が担当
	朝日新聞デジタル	万博「日本の美意識」　日本館ユニホーム発表
10月21日	WWD JAPAN.COM	大阪・関西万博の日本館アテンダントユニホームは中田優也がデザイン　着物から着想
	AXIS	大阪・関西万博 日本館アテンダントユニフォームを公開　デザインコンセプトは「日本の美意識を纏う」
10月22日	株式会社官庁通信社	日本政府館アテンダントの専用ユニフォームを決定　「日本の美意識を纏う」をコンセプトに環境に配慮した素材を利用
10月24日	JDN	大阪・関西万博 日本館アテンダントユニフォームが決定、コンセプトは「日本の美意識を纏う」
	Sus&Us	日本館アテンダントユニフォームが決定 「日本の美意識を纏う」をコンセプトにデザイン
12月23日	PR Times	【展示公開 第2弾】日本館に「ドラえもん」が登場!日本ならではの「循環型ものづくり」の考え方を楽しく解説
	リビング大阪／リビング神戸・阪神間／リビング北摂	【大阪・関西万博】日本館でドラえもんが展示をわかりやすく解説
	読売新聞オンライン	ドラえもん、万博日本館の解説役「就任」…日本の伝統技術やものづくりを紹介
	ORICON NEWS	万博「日本館」にドラえもん登場へ 日本ならではの「ものづくり」紹介エリアの案内役に【ファクトリーエリア概要発表】
12月25日	MONOist	大阪・関西万博でドラえもんが日本式「循環型ものづくり」の魅力を発信
2025 1月 4 日	PACOLA	2025年大阪・関西万博の日本館で紹介される、未来のネコ型ロボットが案内する循環型ものづくりの世界
1月 9 日	JDN	大阪・関西万博 日本館に「ドラえもん」が登場、「循環型ものづくり」の考え方を解説
1月10日	ARAB NEWS	火星の隕石が大阪万博に初登場
	時事通信ニュース／時事ドットコム	日本館で「火星の石」公開へ　「はやぶさ」採取の砂も―大阪・関西万博
1月14日	PR Times	【展示公開 第3弾】「ごみ」が微生物によって分解される過程を「BE@RBRICK（ベアブリック）」が紹介　話題の「火星の石」を日本館で公開決定!実際にサンプルに触れるコーナーも!
	日本経済新聞	大阪万博、日本館で火星の石を展示　はやぶさ採取の砂も
	読売新聞オンライン	「火星の石」は万博「日本館」で展示、南極・昭和基地近くで採取…「はやぶさ」が持ち帰った小惑星の砂も
	TBS NEWS DIG	「火星の石」を大阪・関西万博「日本館」で展示へ　日本の技術を世界にアピール
	カンテレ	【大阪・関西万博】火星の石に触れる?『日本館』の全容公開　ハイジを満喫『スイスパビリオン』なども
	FNNプライムオンライン	【独自】大阪・関西万博「日本館」の全容明らかに…世界最大級の「火星の石」や小惑星「イトカワ」「リュウグウ」から採取の「砂」も展示　内部イメージも
	YTV NEWS NNN	【万博】日本館で世界最大級の「火星の石」特別展示　南極観測隊が昭和基地周辺で採取　重さ約13キロ
	共同通信 - nordot	火星の石、日本館で展示　小惑星から持ち帰った砂も
	時事通信ニュース／時事ドットコム	最大級の「火星の石」、初公開　日本館の概要発表―大阪・関西万博
	FNNプライムオンライン	大阪・関西万博"目玉展示"次々明らかに　火星の石に触れる『日本館』全容公開「ハイジ」を満喫『スイスパビリオン』も
	テレ朝news	大阪・関西万博の目玉　「火星の石」を日本館で展示へ
	AbemaTIMES	大阪・関西万博の目玉「火星の石」を日本館で展示へ
	日本経済新聞	大阪万博、日本館で火星の石を展示　はやぶさ採取の砂も
	BtoBプラットフォーム 業界チャネル	日本政府館の「プラントエリア」と宇宙関連の展示物を紹介します【展示公開 第3弾】
	産経ニュース	万博「火星の石」、日本館で展示　はやぶさ持ち帰った小惑星リュウグウの砂も
1月15日	ZAKZAK	「火星の石」日本館で展示へ　大阪・関西万博の目玉　触れることのできるコーナー設置「はやぶさ」が持ち帰った小惑星の砂も
	沖縄タイムス+プラス	火星の石　万博で展示　ラグビーボール大の隕石
	ITmedia News	大阪・関西万博の日本館で展示する「火星の石」は"隕石"　なぜ火星由来と分かった?
1月16日	Digital PR Platform	NITE、大阪・関西万博日本館において微生物による循環をテーマにした展示に協力
	共同通信PRワイヤー	NITE、大阪・関西万博日本館において微生物による循環をテーマにした展示に協力
	テレ朝news	世界最大級「火星の石」日本館で展示へ　大阪・関西万博まであと3カ月
1月17日	STRAIGHT PRESS	大阪・関西万博「日本館」の第3弾展示プラントエリア公開!「火星の石」公開も決定
2025 1月19日	日本農業新聞	「火星の石」日本館で　大阪・関西万博で初公開
1月21日	株式会社官庁通信社	微生物と共生する未来をダイナミックに表現　日本政府館「プラントエリア」と宇宙関連の展示物
1月26日	読売新聞オンライン	火星の石や藻類に扮したハローキティのオブジェも…万博会場内最大の「日本館」、テーマは循環
	ABCニュース	世界最大級 "火星の石"を展示　万博「日本館」メディア向け公開　ハローキティも登場、ワカメやマリモに扮して藻類の魅力伝える
	NHKニュース	大阪・関西万博 政府出展のパビリオン「日本館」 内部を初公開
	YTV NEWS NNN	大阪・関西万博　日本政府出展のパビリオン「日本館」一部を報道公開　"循環"がテーマ
	毎日新聞	大阪・関西万博、日本館を報道陣に公開　世界最大級の火星隕石展示
	読売新聞オンライン	大阪・関西万博「日本館」を報道公開
	nikkansports.com	大阪・関西万博「日本館」報道陣に公開、日本文化の特徴「循環」テーマに3つのエリアで構成
	日本経済新聞	大阪万博「日本館」を報道陣に公開　循環の文化表現
	共同通信 - nordot	万博・日本館、循環の文化表現　火星隕石、小惑星の砂も展示
	373news.com(南日本新聞)	万博・日本館、循環の文化表現　火星隕石、小惑星の砂も展示
	Lmaga.jp	万博・日本館の展示内容がメディア初公開、「循環」がテーマ
	朝日新聞デジタル	万博の日本館、初公開　外観は木、展示は藻類かたどったキティなど
	産経ニュース	万博日本館、キティちゃんが32種の藻にふんし「循環」アピール　最新バイオ技術を紹介
	時事通信ニュース／時事ドットコム	万博日本館、展示エリア公開　資源循環がテーマ
	テレ朝news	目玉は"世界最大級"火星の石　万博「日本館」公開 テーマは「循環」
1月27日	PR Times	「触覚」や「振動」まで伝わる未来の交流体験を日本館で実現!「ふれあう伝話」で新たなつながりを創出
	毎日新聞	「循環」発信　万博・日本館
	日刊工業新聞	2025EXPO／「日本館」初公開　国産杉材パネル560枚 円形配置
	TBS NEWS DIG	大阪・関西万博、"循環"がテーマ・3つの展示エリアからなる「日本館」で内覧会　建設に使用の木材およそ半分は万博終了後に再利用へ
	朝日新聞デジタル	大阪万博、日本館を初公開
	毎日新聞	大阪万博の「日本館」報道陣に公開
	岐阜新聞	日本館　循環の文化表現　万博　藻のキティちゃんなど登場
	読売新聞オンライン	万博日本館　「循環」テーマ
	MBS	【万博】テーマは循環『日本館』の展示エリア公開　館長「地球環境問題を自分事として」会場内のゴミで水やメタンガスなどを生み出す取り組みも実施
	Lmaga.jp	SNSでも話題「32種の藻類キティさん」内容が明らかに
	トラベルビジョン	大阪万博「日本館」を報道陣に公開　循環の文化表現
1月28日	日刊建設工業新聞	大阪・関西万博／経産省が日本館を公開、CLT560枚使用・2月末に完成
	西日本新聞	万博の日本館、テーマは循環　火星隕石や小惑星の砂を展示、ハローキティは藻類に
	NNA ASIA	万博の日本館、循環の文化表現
	建設通信新聞	夢洲通信・日本館工事現場を公開/3エリアで循環性表現
1月31日	大阪ミナミじゃーなる	「ふれあう伝話」で触覚や振動まで伝わる未来の交流体験を日本館で実現!@大阪・関西万博
	ORICON NEWS	【万博】「日本館」に次世代装置が登場へ 夢洲の会場～関西国際空港、物理的な距離を超える
	日刊工業新聞	日本を変える17Goals（250）万博「日本館」
2月 1 日	毎日新聞	15歳のニュース　大阪・関西万博　日本館を公開
2月 3 日	oceanα	"藻類"キティも登場する大阪万博目前!ダイバーが注目すべき海洋保護の最前線
2月 4 日	日経xTECH	CLTで囲む円形の万博「日本館」を初公開、バイオプラントの水盤や藻類のハローキティ

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日	媒体名	見出し
2025 2月 5日	ラジトピ	火星の石、ハローキティが藻類に変身… 会場内最大規模のパビリオン『日本館』初公開 大阪・関西万博
2月 6日	たびよみ	【大阪・関西万博】日本文化の「循環」を表現する日本館
	BUILT	日本政府パビリオン「日本館」を見学!　佐藤オオキ氏と日建設計が循環社会の未来を具現化
2月13日	毎日新聞	大阪・関西万博の「日本館」って?　政府出展のパビリオン、循環型社会実現へ発信=回答・高木香奈
3月 5日	PR Times	日本館名誉館長に藤原紀香さんが就任!
	産経ニュース	紀香さん、万博日本館名誉館長に　就任式で任命状　関西出身「日本の良さ伝えたい」
	共同通信 - nordot	紀香さん日本館名誉館長　就任式で任命状
	NHKニュース	大阪・関西万博 日本館の名誉館長に藤原紀香さん就任
	日テレNEWS NNN	大阪・関西万博「日本館」名誉館長に藤原紀香さん
	テレ朝news	大阪・関西万博日本館の名誉館長に藤原紀香さんが就任
	日本経済新聞	大阪万博、日本館名誉館長に藤原紀香さんが就任
	毎日新聞	藤原紀香さん、関西万博の日本館名誉館長に　「良さ伝えたい」
	Jocee	藤原紀香さんが日本館名誉館長に就任!万博の魅力を発信
	TBS NEWS DIG	藤原紀香さんを日本館名誉館長に任命「1人でも多くの方に万博へ来ていただけるよう努める」大阪・関西万博は来月13日に開幕へ
	時事通信ニュース／時事ドットコム	日本館名誉館長に藤原紀香さん
	読売新聞オンライン	万博・日本館の名誉館長に女優の藤原紀香さん「日本の良さを伝えたい」…国内外の招待客アテンド
	SANSPO.COM	万博記念金貨、6日から申し込み開始　「ミャクミャク」と日本政府館の図柄
	産経ニュース	万博記念金貨申し込み開始　6日から、26万8千円　ミャクミャクと日本館あしらう
	WACOCA	大阪・関西万博日本館の名誉館長に藤原紀香さんが就任(2025年3月5日)
3月 6日	スポニチ	藤原紀香　大阪・関西万博の日本館名誉館長に就任　「日本の良さをしっかりと伝えていきたい」
	デイリースポーツ	藤原紀香　万博"日本の顔"就任　「日本の良さ、日本館のメッセージを表現していきたい」
	読売新聞オンライン	藤原紀香さん　名誉館長に　万博日本館　招待客の案内役
	日刊工業新聞	万博・日本館名誉館長に藤原紀香さん就任
	北國新聞	〈トピックス〉万博日本館名誉館長に紀香さん
	Pen Online	【大阪・関西万博】万博の目玉を有する「日本館」で、"循環"を表現するビジュアルシステム
	AGARA紀伊民報	紀香さん日本館名誉館長／関西万博　就任式で任命状
	NHKニュース	大阪・関西万博「日本館」の名誉館長に藤原紀香さん
	AbemaTIMES	藤原紀香、大阪・関西万博「日本館」の名誉館長に就任
	Share News Japan	藤原紀香さん、大阪・関西万博の日本館名誉館長に就任
	時事通信ニュース／時事ドットコム	日本館名誉館長に藤原紀香さん　大阪・関西万博
3月11日	読売新聞オンライン	天皇、皇后両陛下が万博の開会式に出席へ…大屋根や日本館を視察・関係者と懇談も
3月12日	共同通信 - nordot	秋篠宮ご夫妻、万博会場を視察　大屋根リング、日本館など
	読売新聞オンライン	秋篠宮ご夫妻、万博会場を視察…「火星の石」の説明に「1970年は月の石でしたよね」
	TBS NEWS DIG	秋篠宮ご夫妻が大阪・関西万博の会場へ　大屋根リングや日本館を熱心に視察　来月には開会式に出席
3月13日	TBS NEWS DIG	大阪・関西万博の名誉総裁の秋篠宮さま　紀子さまとともに会場へ　大屋根リングや日本館を視察
3月14日	電撃ホビーウェブ	トランスフォーマーが大阪・関西万博の日本政府館（日本館）に展示協力!大阪ヘルスケアパビリオンでは「人生ゲーム」をモチーフにした没入型体験も!
3月21日	ゴムタイムス	島津製作所が神戸事業所開所　微生物の開発期間1／10に短縮へ
3月22日	ブラジル日報	日本館に草の根無償7万ドル=展示館や通路の屋根修復費用に
3月26日	時事通信ニュース／時事ドットコム	「火星の石」、万博会場へ出発　日本館で初の一般公開
	nikkansports.com	「火星の石」が国立極地研究所から大阪・関西万会場へ搬出　日本館で初の一般公開へ
	電波新聞デジタル	【関西エレクトロニクス産業特集】大阪・関西万博　ごみ～水～素材～もの「循環」を3エリアで表現
	環境新聞	バイオガスプラント見学ツアー　カナデビア、万博「日本館」で
	共同通信 - nordot	火星の石、万博会場へ向け搬出 日本館で初めて一般公開
	毎日新聞	世界最大級「火星の石」、大阪万博へ向け出発　「日本館」の目玉
	時事ドットコム	積み込まれた「火星の石」
	NHKニュース	大阪・関西万博で"火星の石"展示 会場に向け運び出し
	日本経済新聞	大阪万博会場へ「火星の石」搬出　日本館で初めて一般公開
	テレ朝news	万博 日本館の目玉「火星の石」　大阪・夢洲へ
	TBS NEWS DIG	万博の目玉「火星の石」が東京を出発し大阪会場へ　大阪・関西万博開幕まであと18日
3月27日	富山新聞／北國新聞	「火星の石」万博会場へ出発　日本館で初の一般公開
	PR Times	2025年大阪・関西万博日本館ファクトリーエリアにてMATSURI パートナー企業10社と共に藻類を活用した循環型ものづくり展示「ものもの by MATSURI」を公開
3月28日	日刊産業新聞	神鋼商事／大阪・関西万博循環展に協賛
	毎日新聞	話題　火星の石、万博へ出発
3月29日	スポニチ	"名誉館長"の藤原紀香「ゴミはゴミじゃない」万博を熱弁　見取り図・盛山「いつか言ってみたい」
	産経ニュース	「万博の顔」日本館、火星の石が演出する循環のロマン　リアルの体験価値を最大化
	共同通信VIDEO - nordot	【速報】「万博の顔」日本館開館式　名誉館長は藤原紀香さん 循環文化表現、火星の石も
	カンテレ	大阪・関西万博「日本館」が開館式　名誉館長の藤原紀香さんも参加
	NHKニュース	大阪・関西万博の「日本館」完成を祝う式典
	ARAB NEWS	大阪万博の開幕に合わせ日本館が完成
	読売新聞オンライン	大阪万博の顔、「日本館」が開館式…名誉館長の藤原紀香さん「日本の良さ見直すきっかけに」
	デイリースポーツ	藤原紀香　大阪・関西万博「日本の誇りを見直すきっかけに」　日本政府館が開館
	スポーツ報知	藤原紀香「ワクワク、ドキドキ、ミャクミャクと宣伝」名誉館長務める日本政府館開館式に出席
	nikkansports.com	藤原紀香が「火星の石」熱く語り「ロマンあふれてる」大阪・関西万博の日本館で初の一般公開
	時事通信ニュース／時事ドットコム	万博「日本館」が完成　記念式典を開催
	朝日新聞デジタル	万博最大のパビリオン、日本館が開館式　名誉館長は藤原紀香さん
	日本経済新聞	万博日本館で開館式　名誉館長の藤原さん「日本を元気に」
	SANSPO.COM	万博日本館名誉館長の藤原紀香「皆さんにはすてきなことをどんどん発信していただきたい」
	PR Times	2025年日本国際博覧会　日本政府館 開館式実施レポート（速報版）
3月30日	西日本新聞	「万博の顔」日本館の開館式　循環文化表現、火星の石も
	山陰中央新報	大阪万博の「顔」、日本館開館式
	朝日新聞デジタル	日本館、お迎え準備完了　大阪・関西万博
	沖縄タイムス+プラス	日本館が開館式　循環の文化表現　大阪・関西万博
	函館新聞	万博「日本館」が完成　記念式典を開催
	富山新聞／北國新聞	万博日本館が開館式　循環文化表現、火星の石展示
	MBS	名誉館長・藤原紀香さん「1人でも多くの方に来ていただきたい」　万博で政府が出展『日本館』の開館式
3月31日	建設通信新聞	万博「日本館」が完成　記念式典を開催

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日		媒体名	見出し
2025	4月 1日	ラジトピ	大阪・関西万博『日本館』開館セレモニー 藤原紀香名誉館長「日本に誇りを 循環型社会感じて」
		山口新聞	火星より新生活のあなたへ
		日刊木材新聞社	万博開催に先立ち日本政府館が開会式　CLTによる循環を表現
	4月 3日	中日新聞	越前和紙の桜でおもてなし　日本館VIP室に展示
	4月 4日	福井新聞	越前和紙の桜、万博へ　県内各地で手作り1万輪　日本館来賓室に、越前焼と
		中日新聞	越前和紙の桜、万博の日本館VIPルームに咲く　鯖江のクラフト協会が制作
	4月 5日	SANSPO.COM	【動画】藤原紀香、圧倒的オーラで「TGC」初登場　「日本館」名誉館長として万博アピール「胸を張って来てください」／藤原紀香、日本館ユニホームで初TGC　ゆうちゃみ驚嘆「オーラがヤバ過ぎてまぶしい!!」
	4月 7日	読売新聞オンライン	循環型社会へ 気づきの場（大阪・関西万博 日本館　藤原紀香名誉館長）
	4月 8日	日経xTECH	Q. 循環を表現した円形の万博「日本館」、意表を突く展示物は何?
		産経ニュース	仮想空間上の万博「日本館」で火災想定した避難訓練　VR技術を導入、大阪府警
		MONOist	日本館で常設展示　2機のロボットアーム型3Dプリンタを活用した未来の工場の姿
	4月10日	毎日新聞	関西万博の目玉展示　いつ発見?　「火星の石」と分かった理由は?
		時事通信ニュース／時事ドットコム	日本館の火星の石／日本館の外観
	4月11日	交通新聞 電子版	JR西日本　「銀河」+「万博日本館入場券」付き旅行プラン
		Digital PR Platform	大阪・関西万博にて万博協会主催「設計者とまわる日本館建築ツアー」を開催 基本・実施設計を担当した日建設計の設計者が建築ツアーをご案内
		エキサイトニュース	"名誉館長"就任の藤原紀香、大阪万博の日本館を紹介「バトンを繋いでいく」
		日テレNEWS NNN	【速報】両陛下が大阪・関西万博「日本館」を視察　名誉館長の藤原紀香さんも出迎え　秋篠宮ご夫妻と共に
		FNNプライムオンライン	【速報】両陛下が万博「日本館」をご視察…名誉館長の藤原紀香さんが出迎え　「大屋根リング」高さ12mのスカイウォークも／【速報】両陛下が万博会場にご到着　名誉総裁の秋篠宮ご夫妻と「大屋根リング」や「日本館」など視察へ
		railf.jp	JR西日本「夜行運行の『WEST EXPRESS 銀河』に乗車 日本館入場付 大阪・関西万博の旅」発売
		ゴムタイムス	カネカが日本館に企画協力　バイオポリマーの作成、分解を展示
		トラベル Watch	ハローキティ・ドラえもんが案内する万博の日本館。始まりも終わりもない「循環」をテーマに
		大阪ベイ経済新聞	大阪・関西万博に「日本館」「循環」テーマ、初公開「火星の石」も
		産経ニュース	天皇、皇后両陛下が万博会場ご視察　大屋根リングや日本館　秋篠宮ご夫妻もご同行
		レイルラボ	万博 日本館の入場券付き!夜行「WEST EXPRESS 銀河」、敦賀～新大阪で特別運行
		日本経済新聞	両陛下、大阪万博会場を視察　大屋根リングや日本館
		テレ朝news	両陛下が伊丹空港に到着　万博会場へ　日本館など視察
		読売新聞オンライン	両陛下が特別機で大阪入り…秋篠宮ご夫妻と万博日本館など視察、あす開会式に出席
	4月12日	東スポWEB	【大相撲】尊富士が大阪万博の開会式に登場　日本館前で四股を披露「かっけぇ!」とファン歓喜
		毎日新聞	火星の記憶、秘めた隕石　あす開幕、大阪・関西万博の目玉展示　火山由来／13億年前生成／宇宙を「漂流」／日本館を見学　両陛下、秋篠宮ご夫妻　大阪・関西万博
	4月13日	中日スポーツ	「存分に日本館を楽しんで」名誉館長の藤原紀香、春らしい和装で最初の来場者をお出迎え【大阪・関西万博開幕】
		nikkansports.com	【写真特集1】ついに開幕!大阪・関西万博、藤原紀香が日本館で出迎え　1万人の第九ほか
		OSAKA STYLE	【動画】大阪・関西万博が開幕　日本館で藤原紀香さんがお出迎え
		スポニチ	火星の石、人間洗濯機、空飛ぶ車…大阪・関西万博　13日開幕　開会式で天皇陛下があいさつ
		スポーツ報知	女優・藤原紀香がきれいな和装で来場者お出迎え　日本館名誉館長　大阪・関西万博2025開幕
		読売新聞オンライン	大阪・関西万博の見どころ…空飛ぶクルマ・火星の石・世界最大級の木造建築「リング」
		OPENERS	大阪・関西万博の日本館「プラントエリア」にBE@RBRICKが登場！総合プロデューサー/総合デザイナー・佐藤オオキが提唱する「循環」を巡る旅	MEDICOM TOY
		nikkansports.com	藤原紀香、艶やかな着物姿で来場者をお出迎え「存分に日本館をお楽しみください」
		デイリースポーツ	藤原紀香、万博開幕日にあでやか和装でお出迎え「いよいよ始まります」　日本政府館・名誉館長務める
2025	4月13日	産経ニュース	万博日本館の名誉館長、藤原紀香さんが出迎え　「伝統的ものづくりが感じられる場所」
	4月14日	スポニチ	大阪・関西万博開幕　藤原紀香が日本館でお出迎え　早くもグッズは大人気
	4月17日	化学工業日報	三菱ケミのバイオエンプラ、万博日本政府館のいすに
		ラブすぽ	大阪・関西万博の日本政府館に設置される3Dプリンタ製スツールに植物由来のバイオエンプラ「DURABIO」が採用
	4月18日	週刊粧業	資生堂、藻類を活用したスキンケア化粧品のプロトタイプを公開
		ウェザーニュース	万博でも注目! CO_2を栄養源に"プラスチック"を作る"細菌"って?
	4月19日	J-CASTニュース	「艶やかでお美しい」藤原紀香53歳、着物姿で万博「日本館」お出迎え　「女神」「これぞ和美人」話題に
	4月20日	ITmedia ビジネスオンライン	万博で話題「月の石」はどうやって持ち帰ったの?　知られざるカバンの正体
	4月24日	テレ朝news	愛子さまが大阪・関西万博を5月8日と9日に視察　日本館や大屋根リングへ　宮内庁
	4月30日	ITmedia ビジネスオンライン	万博・日本館で採用された「雪駄スニーカー」　開発時にこだわった"考え方"
	5月 1日	読売新聞オンライン	宇宙の展示で日米中競演…火星の石・ロケット体験・月裏側の砂
	5月 2日	リビング大阪	【大阪・関西万博 Report⑧】日本館・前編　ハローキティと「循環」を体感
	5月 3日	リビング大阪	【大阪・関西万博 Report⑨】日本館・後編　微生物がアートに!　注目の火星の石も
	5月 4日	nan-nan	"火星の石"の正体は…【隕石と小惑星】大阪・関西万博の展示で話題! 約1000万年前に飛来のヒミツ 科学博物館学芸員がわかりやすく解説
	5月 6日	朝日新聞デジタル	高円宮妃久子さま、大阪・関西万博会場を視察 日本館も
	5月 7日	PR Times	フラワーアーティストKAORUKO、大阪・関西万博 日本政府館（日本館）の貴賓室を花で彩り、開館式ではフラワーショーを披露
		@Press	池田糖化工業、藻類産業を構築するプロジェクト「MATSURI」を通じて、2025年大阪・関西万博の日本館ファクトリーエリアに協賛
	5月 8日	TBS NEWS DIG	「楽しみにしてまいりました」愛子さま　大阪・関西万博を視察　きょう（8日）は「日本館」や「大屋根リング」など　あす（9日）はシンガポール館など
		MBS	「楽しみにしてまいりました」愛子さまが万博会場に到着　日本館など2日間の日程で視察
		日テレNEWS NNN	【速報】愛子さま、大阪・関西万博会場に到着　日本館や大屋根リング視察へ　赤十字のパビリオンも
		FNNプライムオンライン	【速報】愛子さまが大阪・関西万博の会場に到着　「日本館」で万博関係者に笑顔で挨拶
		TBS NEWS DIG	愛子さま　きょうから大阪・関西万博を視察　日本館や大屋根リングなど2日間の日程で　国際赤十字関係者と懇談も
		日テレNEWS NNN	愛子さま　笑顔で初めての万博　大阪・関西万博を訪問、日本館や大屋根リングなど視察
		日テレNEWS NNN	愛子さま、大阪・関西万博を視察　日本館ご覧に
		毎日新聞	愛子さま、万博会場を視察　「大屋根リング」や日本館など見学
		FNNプライムオンライン	愛子さまが初めて「万博会場」視察され日本館や「大屋根リング」など見学　大勢のファン集まる　明日も視察予定
		MBS	愛子さまが万博を視察　日本館など訪問　あすは「シンガポール館」や「コモンズ－A館」へ
		FNNプライムオンライン	大阪・関西万博で「愛子さま」フィーバー…「日本館」や「大屋根リング」視察　勤務先の日本赤十字社パビリオンにも多くの人
		nippon.com	大阪・関西万博で輝く宇宙からの使者：南極で見つかった「火星の石」
		時事通信ニュース／時事ドットコム	日本館を視察される愛子さま
	5月 9日	TBS NEWS DIG	愛子さま 大阪・関西万博を視察「日本館」や万博のシンボル「大屋根リング」も　勤務先の日本赤十字社が運営する館では平和のメッセージボードを見学
		FNNプライムオンライン	愛子さま 大阪・関西万博会場を視察　「電力館」「日本館」など見学
		テレ朝news	愛子さまが大阪・関西万博で「日本館」など視察
		AbemaTIMES	大阪・関西万博を訪れている愛子さま「日本館」などのパビリオンを視察
	5月11日	Casa BRUTUS	【最新号ちょい見せ】日本館の総合プロデューサー・佐藤オオキが万博で描いた「いのちの循環」とは?
	5月14日	ORICON NEWS	万博「日本館」藤原紀香名誉館長の貴重ショット公開　夫が「ご来館」で自ら「ご案内」
	5月15日	スポニチ	藤原紀香　万博で"夫婦共演"実現!着物姿で夫・愛之助を案内　日本館の名誉館長務める
	5月16日	タウンニュース	万博で「藻」の技術披露

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日		媒体名	見出し
2025	5月16日	AXIS	“循環”に新たな視座を提供するホスト国パビリオン「日本館」
	5月21日	北國新聞	金大開発のバイオプラ素材でスツール　万博・日本館で展示
	5月22日	Hobby JAPAN Web	「大阪・関西万博」日本館の限定商品を一挙紹介!「スティッチ」「怪獣8号」「スパイダーマン」などのキャラクター商品やコラボ商品も【ベアブリック最新情報】
	5月23日	シティリビングWeb	【大阪・関西万博】日本館・前編　ハローキティと「循環」を体感／ 【大阪・関西万博】日本館・後編　微生物がアートに!　注目の火星の石も
		ASCII.jp	円環、循環、日本館。「大阪・関西万博」の日本館はハローキティにも火星の隕石にも出会える「ごみ」から「水」への物語
	5月24日	スポニチ	藤原紀香 皇后さまのお言葉に感激 朝ドラを「見ていましたと…涙が出ちゃって」万博日本館で名誉館長
	5月25日	Yahoo! ニュース	【大阪市】万博でドラえもん、キティちゃんと楽しめる「日本館」を予約　火星の石を展示、触れてビックリ
	5月26日	日本経済新聞	大阪万博で脚光「火星の石」　立役者は南極観測隊、隕石収集世界2位
	5月27日	読売新聞オンライン	<ZOOM　EXPO>隕石触れたよ!
	5月29日	水産経済新聞	大阪・関西万博パビリオン、日本館　「藻類」紹介
	6月 6日	環境ビジネス.jp	ちとせグループ、微細藻類から100%バイオPET樹脂開発に成功
	6月 9日	展示会とMICE	【開幕!大阪・関西万博】日本館　日本らしい「循環」を伝える場に
	6月20日	読売新聞オンライン	「藻類の森」で森林浴の癒やし体験、「循環」生む緑の巨大な培養装置…日本館
		TECTURE MAG	佐藤オオキの総合プロデュース、日建設計の建築デザインによる〈日本館〉
	7月 1日	中部経済新聞	図でナビ　万国博覧会と日本館　社会に合わせて変化　芸術作品から課題解決へ　持続可能な社会に向けて
	7月 3日	CHITOSE JOURNAL	「SAF-MATSURI」藻類SAFでいつか自由に空も飛べるはず
	7月 8日	トラベルボイス	JTB、学校関係者向けに「万博学びのサポートプラン」販売、会場、日本館への優先入場など特典も
		水産経済新聞	マルハニチロ　大阪万博・日本館で藻類味噌汁を配布中　持続可能なタンパク質PR
	7月11日	日本経済新聞	大阪万博、インバウンドの一番人気は「日本館」　政投銀調べ
	7月12日	Yahoo! ニュース	【大阪・関西万博徹底攻略Part3】日本館など注目パビリオン編!後悔しない事前準備&みどころ26選
	7月16日	PR Times	【日本館ファームエリアの裏側を大公開!】夏休みは大阪・関西万博で自由研究 子ども向けイベント「藻っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～」を6日間開催
	7月17日	釧路新聞	万博は常に生きている!日本館から学ぶ「循環」の考え
	7月18日	ORICON NEWS	藤原紀香・日本館名誉館長、“隠れた見せ場”に注目呼びかけ「ごみを食べるパビリオン」?
	7月21日	ガスエネルギー新聞	「ごみ食べる日本館」発信、万博でバイオガス順調稼働/カナデビア
		Lmaga.jp	万博・日本館の「実は…」建築に焦点あてた貴重なツアー密着
	7月23日	ABCニュース	“藻”研究してみませんか?　自由研究を提案!大阪・関西万博　日本館で
		Lmaga.jp	「火星の石」なぜあるの? 万博・日本館の展示、見どころまとめ
		産経ニュース	マルハニチロが微細藻類「スピルリナ」入りのみそ汁開発　万博の日本館で配布中　知ってる?!
	7月24日	ガジェット通信	雪駄xスニーカー「unda-雲駄-」が大阪・関西万博で日本館のアテンダントユニフォームに採用された理由とは?
		メガソーラービジネス	大阪万博が見せる“新たな循環”、「CO_2再利用」の可能性
		Lmaga.jp	万博・日本館の裏側公開、今年ならではの夏休み「藻ってすごい」
	7月26日	beauty news tokyo	【大阪・関西万博】未来と循環の学びを!日本館からウーマンズパビリオンまで注目の「国内パビリオン」ガイド
	7月27日	entax	『大阪万博・日本館』総合プロデューサー・佐藤オオキが語る「過去を振り返る」の深い意味と『ドラえもん』の関係
	7月29日	たびよみ	【大阪・関西万博】地球に優しいパビリオンを巡り、未来の社会に思いをはせる(1)～日本館・スイス館～
	8月 1日	イザ!	≪日本館≫パビリオンの見どころ徹底解説!テーマ「いのちと、いのちの、あいだに」とは?
	8月19日	TRILL	『アメリカ』『イタリア』を抑えた!【大阪・関西万博で行ってよかったパビリオン】堂々の1位に「行ってよかった」「しっかり学べた」
	8月21日	CHITOSE JOURNAL	奴らはみんな、生きている ― 大阪・関西万博日本館 藻類展示の舞台裏 ―
	8月22日	Logistics Today	常石造船「KAMSARMAX」、万博日本館に登場
2025	8月23日	FNNプライムオンライン	佳子さまが大阪・関西万博を視察…津軽塗の研ぎ出しを体験　「火星の石」も見学
		ABCニュース	佳子さまが万博パビリオン視察　「火星の石」などご覧に
	8月28日	スポニチ	藤原紀香「童心に返ったよう」　万博日本館名誉館長が没入型展示を体験
	8月29日	MONOist	万博で好評の3Dプリンタ製“藻類スツール”を一般販売
	9月 3日	ジェトロ	大阪・関西万博から世界へ、サステナビリティの社会実装循環型社会を体現する日本政府館
	9月 8日	エキサイトニュース	藤原紀香、大阪・関西万博でハイジと国際交流　日本館の「循環」テーマを共有
	9月12日	ASCII.jp	サザエさん一家が万博へ「どうやって予約したの!?」日本館・大阪ヘルスケアでSNS大盛り上がり
	9月13日	読売新聞オンライン	「赤い糸」でつながるフランス館と日本館…大阪・関西万博
	9月14日	やまがたニュースオンライン	微細藻類のみそ汁、白鷹から万博へ　マルハニチロ工場、新タンパク源を発信
	9月16日	ものづくりニュース。	エス.ラボ、藻類×植物由来3Dプリンタ製スツール「蓮/REN」一般販売…
	9月17日	CHITOSE JOURNAL	「〇倍」の理由、ちゃんとあります―― 2025年 大阪・関西万博 日本館ファームエリアの藻類展示を技術監修したちとせが解説する、数字の裏側とその根拠
		テレ朝news	石破総理　月の石に「感無量」　大阪関西万博でアメリカ館や日本館を視察
	9月25日	FNNプライムオンライン	悠仁さまが大阪・関西万博の日本館を視察「日本の技術力によってどのような将来が導かれるのか見せていただいた」初の単独地方公務
	9月26日	Yahoo! ニュース	【ヤフコメで話題】「万博のパビリオン入場規制に不満の声」「日本館の展示やスタッフ対応に感心」- 万博会場でのパビリオン体験を巡る意見が集まる
	9月28日	朝日新聞デジタル	万博日本館のお土産は山形発の藻類みそ汁　失敗重ねつつ短期間で開発
	9月29日	リビング大阪	【大阪・関西万博を振り返り】見どころ満載だった、日本館と大阪ヘルスケアパビリオン
		水産経済新聞	<魚食にっぽん>地球を救う?「微細藻類」　万博会場で好評の「スピルリナ味噌汁」　vol.176
		産経ニュース	万博ローソンの壁画手がけたアーティストAjuさん、大阪で個展　日本館など描く
	10月 3日	中日BIZナビ	産地の危機を救いたい　万博日本館ユニホームデザイン手がけた中田優也さん(37)【一刀両談】
	10月 6日	日経xTECH	万博・日本館の主役は微細藻類ものづくり、発電所のCO_2で大量培養も
		FNNプライムオンライン	天皇皇后両陛下が大阪・関西万博へ「日本館」では吉村大阪府知事らが出迎え…来場者は大行列と歓声 閉幕まで7日
	10月 9日	ドットコムおおさか	日本館で感じた“めぐり”のかたち ―― 未来へつながるものづくり
	10月10日	ITライフハック	持続可能な社会を考えるきっかけとなる展示!「火星の石」を鑑賞した、日本館【大阪・関西万博】
	10月11日	朝日新聞デジタル	日本館の総合プロデューサーが語る万博　「まだ未来はあると思う」
	10月12日	読売新聞オンライン	万博の休憩藻類椅子で　慶大教授製作携わる
	10月13日	ニュースイッチ	「バイオエコノミー」到来の予感…大阪・関西万博に日本の新たな成長の〝萌芽〟
		ITライフハック	Dotdigitalが日本法人を設立し、本格的な事業展開をスタート /「火星の石」を鑑賞した、日本館【まとめ記事】
		nikkansports.com	藤原紀香、万博日本館閉館宣言「小さな種が未来に向かって大きな花へと咲き誇りますように」
		SANSPO.COM	藤原紀香「小さな種が未来に向かって大きな花へと咲き誇りますように」日本館名誉館長として閉館あいさつ
		スポーツ報知	藤原紀香「心にまかれた小さな種が、未来に向かって大きな花へと咲き誇りますように」日本館閉館宣言
		産経ニュース	万博日本館制服は「日本の美意識を纏う」ウーマンズパビリオンは阿部千登勢さんデザイン パビリオンユニホームでふりかえる万博　国内・企業編
	10月14日	Lmaga.jp	「日本館だいすき!」スタッフずらりで別れ…藤原紀香名誉館長も登場
	10月15日	WWD JAPAN.COM	「エステプロ・ラボ」が「藻活×菌の力」をテーマにしたサプリメントを発売　酵素ドリンク第4弾はオートファジーに着目
		エキサイトニュース	藤原紀香、日本館名誉館長としての184日を回顧 「すべては循環」未来への希望を投稿
		FNNプライムオンライン	万博日本館で配られた紙袋にも再利用　国内で年間23万トンも廃棄「卵の殻」を紙袋や食器に生まれ変わらせる技術
	10月16日	産経ニュース	万博〝ミャクミャク旋風〟は続く　日本が誇るソフトの力が記憶継承　日本館キティも存在感
	10月17日	環境ビジネス.jp	大阪・関西万博で使われた国産木材「CLT」、国交省が推進　脱炭素に貢献
	11月13日	読売新聞オンライン	万博・日本館で製作の藻類スツール、次の舞台は園芸博…循環型ものづくりの象徴

■国内　ウェブ（2023年9月11日～2025年11月21日）/ 387件

掲載日		媒体名	見出し
2025	11月14日	OVO	夫婦来場が多数派、「日本館」の評価がトップ　大阪・関西万博に関する調査
	11月18日	建設ニュース	清水建設と随契／大阪・関西万博日本館解体工事／近畿地方整備局会員専用
	11月19日	読売新聞オンライン	万博パビリオン「日本館」の解体、施工の清水建設が担当…一部は希望する自治体や企業が再利用へ
	11月20日	読売新聞オンライン	藻類に扮したハローキティの万博オブジェ…サンリオ担当者「また会える場を作りたい」
		建設通信新聞	大阪・関西万博日本館の解体工事、清水建設と随意契約
	11月21日	建設通信新聞	清水建設と契約/近畿整備局の大阪・関西万博日本館解体工事

■国内　ラジオ（2025年5月8日～2025年10月1日）/ 4件

放送日		媒体名	内　容
2025	5月８日	ニッポン放送	報道記者レポート2025
	6月23日	ニッポン放送	上柳昌彦あさぼらけ
	9月23日	ABCラジオ	「おはようパーソナリティ小縣裕介です」日本館ご紹介
	10月1日	FMまほろば	日本館紹介

■海外　テレビ・ウェブ（2024年11月9日～2025年9月19日）/ 50件

掲載日・放送日		媒体名	見出し（日本語・英語のみ記載）
	—	regioTVplus	—
2024	11月9日	My Modern Met Media	Japan's 2025 World Expo Pavilion Explores the Cycle of Life
2025	3月31日	JAPAN TIMES	Osaka Expo's Japan Pavilion completed
	4月13日	韓国日報	—
		the Japan times	Osaka Expo throws open its doors as mega-event kicks off
	4月21日	543news.news	—
	4月24日	Uptin (YouTube)	Japan's $67 Billion Bet: Inside Expo 2025
	4月25日	New York Times	At World Expo, Japan Recalls a Faded Dynamism
	5月 頃	TAZ (FUTURE)	TAZ FUTURE JAPAN PAVILION OSAKA EXPO FULL WALKTHROUGH
	5月 2日	dezeen	Nikken Sekkei designs energy-generating Japan Pavilion for Expo 2025 Osaka
	5月 6日	Arch Daily	Osaka Expo 2025 Japan pavillion/ Nikken Sekkei
	5月 7日	REDE BRAZIL NEWS	大阪万博2025：開幕から1か月、大勢の来場者で賑わうイベントに
	5月10日	AeroTime.aero & placesofcharm.com	Visiting the Osaka 2025 World Expo, what to expect1
	5月15日	MONEY TODAY	—
	5月19日	Jordbruksaktuellt	—
	5月24日	Cámara en Ruta	ようこそ!大阪・関西万博2025へ
		ADF web magazine	Exploring the future: my journey through Expo 2025 Osaka
	5月26日	—	visiting Osaka world expo 2025
	5月28日	RTL	—
		Lux Tourism	—
	6月 頃	Departures Magazine	5 Must-Sees from the Osaka Expo
	6月 8日	@thelarachannel	Osaka Expo 2025 Pavilions I Visited
	6月10日	mazterz (Instagram)	Japan Pavilion
	6月12日	Japanophile Journeys (YouTube)	Step Inside the Amazing Japanese Pavilion at Expo 2025!
	6月19日	Japan Calling	Inside the Japan Pavilion at Expo 2025 Osaka:Showcasing Japanese Ethos With Nature and Sustainability
	6月27日	Japan Arts Council	Experience the World Through Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan – Part 2
	7月頃	USC Center on Public Dipromacy	2025大阪万博：フォトオデッセイ
		USC Center on Public Dipromacy	万博2025の視点：「世界博覧会における国際メディアの関わり方を再考する
		USC Center on Public Dipromacy	Expo 2025 観点: 感覚のデザイン
	7月４日	MrTripic (YouTube)	—
	7月６日	光明日報	—
		Marketplace Asia CNN	He drove a bulldozer at Asia's World Expo. Now, he's one of the event's star architects
	7月10日	グルンテープ・トゥラキット紙	日本館・社会課題を解決するテクノロジーExpo 2025 Osaka, Kansai, Japan
	7月13日	光明日報	—
	7月16日	Rakyat Merdeka（RM,id）	—
	7月21日	Tuổi Trẻ Online	—
	7月23日	Art4d	EXPO 2025 OSAKA: ARCHITECTURE OF POSSIBILITY
	7月28日	Arch Daily	Halfway Through Expo 2025 Osaka:10 Must-Visit Pavilions
	7月30日	Importexporttv/ Japan Pavilion Highlights, Interview (separate video)	—
	7月31日	Technokrata（Facebookにも掲載あり）, Internet of things magazine, Kalauz, Intant, Passzio	—
		Sziamaci, eMentor, Napklub, Dunapest, Oxox	—
	8月11日	Sunstar Davao 新聞	A journey between lives and sushi dreams : Expo 2025 Osaka
	8月13日	Kadowari Times	Japan Pavilion: Thinking about life through circulation. Expo 2025 Osaka, Kansai Report
	8月17日	LUXEMBOURG TIMES	Osaka World Expo pavilions: from marvellous to meh
	8月28日	ロイター通信	Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan: A glimpse into the future through Japan's vision of a circular society
	8月29日	USC (University of Southern California)　CPD (Center on Public Diplomacy)南カリフォルニア大学 公共外交センター	JAPAN'S MESSAGE TO ITSELF AT EXPO 2025 OSAKA
	9月13日	香港経済日報	—
		Diseno Interior	—
	9月19日	ZAWYA by LSEG	Abu Dhabi Crown Prince visits Japan Pavilion at Expo 2025 Osaka
		トスカーナ	—

■METI ジャーナル（2025年1月28日～2025年7月14日）/ 4件

月日		内　容
2025	1月28日	【万博60秒解説】「火星の石」に出会えるという奇跡
	2月３日	【万博60秒解説】この国内パビリオンもすごい!①　～日本館で「循環」をめぐる旅にでよう～
	3月12日	【大阪・関西万博特集】「循環」のこと、知識よりも体感でやさしく――日本館総合プロデューサー・佐藤オオキさん
	7月14日	【万博60秒解説】日本館は「リアル」なプラントだった　～パビリオンの常識を変える試み～

日本館ウェブサイト配信一覧

■おしらせ

日付		カテゴリ	タイトル
2023	4月13日	おしらせ	日本館の公式サイトをオープンしました
	6月28日	協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館物品協賛（トイレ及び付随器具等）」の募集について
	6月30日	協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館展示関連物品・役務等協賛（ロボットアーム・自走式ロボット）」の募集について
	9月12日	おしらせ	2025年大阪・関西万博日本政府館（日本館）起工式を開催しました
	11月30日	協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館物品協賛（トイレ及び付随器具等）」の協賛企業・団体が決定しました。
		協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館運営協賛（アテンダント用ユニフォーム及びアクセサリー）」の協賛企業・団体が決定しました。
2024	2月 1 日	協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館展示協賛（モノづくりエリア）」の募集について
	4月 1 日	協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館運営協賛（キャラクター）」の募集について
	4月13日	おしらせ	日本館公式サイトリニューアルのおしらせ
		おしらせ	「月刊日本館」創刊号を公開しました。
	4月24日	おしらせ	2025年大阪・関西万博日本政府館（日本館）パビリオンアテンダントの募集について
	4月30日	協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館運営協賛（協賛商品・ノベルティ及び物販）」の募集について
	7月17日	おしらせ	日本館公式SNSを開設しました
	8月 1 日	おしらせ	2025年大阪・関西万博日本政府館（日本館）パビリオンアテンダントの募集は終了いたしました
	8月30日	おしらせ	「2025年日本国際博覧会　日本政府館運営協賛（協賛商品・ノベルティ及び物販）」の協賛企業・団体が決定しました。
	9月20日	おしらせ	【展示公開 第1弾】日本館に「ハローキティ」が登場! 社会課題を解決する鍵となる　32種類の「藻類」に扮したハローキティを公開
	9月25日	おしらせ	超早割特別抽選の申し込みが開始されました　～受付は10月6日(日)まで～
	10月17日	おしらせ	日本館アテンダントユニフォームが決定 「日本の美意識を纏う」をコンセプトにデザイン
	10月23日	メディア掲載情報	NHK「チコちゃんに叱られる !」で日本館が紹介されます
	10月30日	協賛について	「2025年日本国際博覧会 日本政府館運営協賛（装花・花束及びフラワーショー等）」の募集について
	12月23日	おしらせ	【展示公開 第2弾】日本館に「ドラえもん」が登場! 日本ならではの「循環型ものづくり」の考え方を楽しく解説
		協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館展示協賛（モノづくりエリア）」の協賛企業・団体が決定しました。
2025	1月14日	おしらせ	【展示公開 第3弾】「ごみ」が微生物によって分解される過程を「BE@RBRICK（ベアブリック）」が紹介。話題の「火星の石」を日本館で公開決定! 実際にサンプルに触れるコーナーも!
		協賛について	「2025年日本国際博覧会　日本政府館運営協賛（キャラクター）」の協賛企業・団体が決定しました。
		おしらせ	日本館グリーティングムービーが完成しました
	1月24日	おしらせ	特集記事「火星隕石が私たちにささやく、宇宙といのちのつながり」を公開
	1月27日	おしらせ	「触覚」や「振動」まで伝わる未来の交流体験を日本館で実現!「ふれあう伝話」で新たなつながりを創出
		協賛について	「2025年日本国際博覧会 日本政府館運営協賛（装花・花束及びフラワーショー等）」の協賛企業・団体が決定しました。
	2月13日	おしらせ	日本館公式サイトリニューアルのおしらせ
	2月25日	おしらせ	日本館で集めたCO_2を環境にやさしい都市ガス（e-メタン）づくりに活用 日本館、大阪ガスのメタネーション実証事業に参加
	3月 6 日	おしらせ	日本館名誉館長に藤原紀香さんが就任!
	3月13日	おしらせ	公式サイトにおいて「日本館まるごとガイド」を公開
	3月29日	おしらせ	2025年日本国際博覧会 日本政府館 開館式　実施レポート（速報版）
	4月 3 日	おしらせ	音声ガイド ナレーターはクリス智子さんが担当します
	5月19日	おしらせ	一部の時間帯において事前予約なしで観覧することができます
	5月26日	おしらせ	日本館当日登録（予約）枠の開放時間について
	6月13日	おしらせ	日本政府館展示物等に係る処分予定財産需要調査が開始されました
	6月14日	イベント情報	日本館主催イベントのおしらせ
	6月29日	重要なおしらせ	7/3（木）のジャパンデーは、日本館の当日観覧チャンスが広がります!
	7月12日	おしらせ	【7月13日スタート】「火星の石」観覧証明カード配布のおしらせ
	7月21日	イベント情報	【日本館 ファームエリアの裏側を大公開!】子ども向けイベント「藻っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～」
	7月23日	おしらせ	日本館主催イベント『「循環」の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう』を開催しました
	8月 8 日	おしらせ	【8月8日配信】「火星の石」コンテンツがバーチャル日本館に追加されます
	8月10日	おしらせ	日本館 バイオガスプラント見学ツアー 館内観覧付き 日程追加のおしらせ
	8月12日	おしらせ	日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー 開催のおしらせ
	8月17日	イベント情報	日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～ 開催のおしらせ
	9月 7 日	おしらせ	夏休み自由研究イベント「藻っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～」を開催しました
	9月15日	おしらせ	日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー 英語ガイド開催のおしらせ
	9月17日	イベント情報	日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」～文化、技術、そして未来へ～ 開催のおしらせ
	9月23日	おしらせ	日本館　開館時間変更のおしらせ
		おしらせ	9月24日　事前予約なし観覧　入館開始時間変更のおしらせ
	9月25日	おしらせ	日本館主催イベント「日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～」を開催しました
	10月10日	おしらせ	当日登録（予約）枠の開放回数および枠数の拡大について
		おしらせ	「日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」～文化、技術、そして未来へ～」の開催とアーカイブ動画公開のおしらせ
	10月11日	おしらせ	日本館前にフォトスポットを設置します
		おしらせ	日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー　日程追加のおしらせ
	10月12日	おしらせ	日本館　事前予約なし観覧　時間帯拡大のおしらせ
	11月19日	おしらせ	日本館レガシープロジェクトを実施しました

■日本館ライブラリ

日付		カテゴリ	タイトル
2024	11月15日	インタビュー	日本の美意識を纏う。ユニフォームに込められた思いと工夫について
2025	2月13日	ヒストリー	【日本館HISTORY -前編-】世界とつながる。世界に伝える。「万博と日本」、158年の歩み
		ヒストリー	【日本館HISTORY -後編-】世界とつながる。世界に伝える。日本発の未来に向けたメッセージ
		インタビュー	「南極観測隊」が発見! 火星の石に秘められた約1000万年前の物語
	3月13日	パートナー紹介	「双鶴」共創プロジェクト：3Dプリンタからはじまるプラスチックの共生アップサイクル
		パートナー紹介	私たちの使命は「何事もない明日をつくる」こと。
	4月11日	パートナー紹介	MATSURI — 2025大阪・関西万博から、千年先の当たり前をつくる —
		特集	【GI基金とは? -前編-】どんな未来を叶えよう? "ワクワク"の力で未来をつくる「GI基金」
		特集	【GI基金とは? -後編-】 誰も見たことのない未来がカタチに!?「GI基金」が開く想像の扉
	7月22日	特集	Voices きかせて、日本館〈Part 1〉
	7月23日	特集	日本館ガイドムービー
	8月 8 日	特集	Voices きかせて、日本館〈Part 2〉
	9月 3 日	特集	Voices きかせて、日本館〈Part 3〉

■コンニチハ!日本館

日付		カテゴリ	タイトル
2024	1月24日	日々のあれこれ	新大阪駅でタクシーに乗って
		日本館観察記	大迫力!「大屋根（リング）」が出現!
		日本館観察記	って、、敷地やモックはさておき、、

■コンニチハ!日本館

日付		カテゴリ	タイトル
2024	2月14日	展示を覗こう	この日は日本館内の展示室で使う照明器具の選定作業です。
		展示を覗こう	ひゅーーん、、
	3月 1日	日々のあれこれ	実際の素材を使った原寸大のモックアップ(試作)を見ながら、
	4月13日	月刊日本館に想う	いよいよ月刊日本館が創刊です。
	4月15日	日々のあれこれ	日進月歩、打ち合わせの日々。
	4月30日	日々のあれこれ	神は細部に宿る?
	5月15日	日々のあれこれ	同じ白いシャツと、同じ黒いズボンにジャケット。
	5月16日	月刊日本館に想う	月刊日本館第2号!
	5月20日	展示を覗こう	ゆっくりと流れるペットボトルの群れ
	5月29日	展示を覗こう	骨組みの上に並ぶ、謎の細長い棒
	6月19日	月刊日本館に想う	3号目となる今月の月刊日本館
	7月 3日	日々のあれこれ	数ヵ月ぶりのパリ出張です
	7月17日	月刊日本館に想う	月刊日本館第4号目
	7月31日	日々のあれこれ	アテンダントのみなさんが着用するユニフォームのミーティングです。
	10月16日	月刊日本館に想う	月刊日本館第6号目
	11月25日	展示を覗こう	原寸大「藻類×ハローキティ」が出現!
	12月12日	展示を覗こう	グリッドまみれのシミュレーション現場
	12月15日	日本館観察記	「日本館」の一部
	12月20日	日本館観察記	流れる光の球
	12月25日	展示を覗こう	○○の正体
2025	1月 5日	展示を覗こう	中央の大きな中庭
		展示を覗こう	水を使って絵を描く
	1月10日	展示を覗こう	バイオガス発電施設
	2月 5日	展示を覗こう	館内をウロウロ
	2月20日	日々のあれこれ	日本館公式グッズのサンプル
	3月 1日	日本館観察記	ダブルラッキー
	3月29日	日本館観察記	開館式
	4月 1日	月刊日本館に想う	月刊日本館第12号目
	5月20日	日本館観察記	ぜひ、お立ち寄りください
	6月20日	日本館観察記	思いを凝縮させたスツール

■公式Webマガジン「月刊日本館」

掲載日		号	特集
2024	4月13日	Issue 01	いのちと、いのちの、あいだに
	5月15日	Issue 02	おわりは、はじまり
	6月19日	Issue 03	おいしさの小さな原動力
	7月17日	Issue 04	小さな働き者たち
	8月30日	Issue 05	水物語
	11月 1日	Issue 06	藻類が地球を救う!?
	12月 6日	Issue 07	輝け!ウルトラ藻類
2025	2月 7日	Issue 08	捨てない哲学
	2月25日	Issue 09	生まれ変わる力
	3月14日	Issue 10	それいけ、みんなのGX
	3月21日	Issue 11	やわらかく作る
	3月31日	Issue 12	季節は変わり、まためぐる

日本館SNS投稿一覧

	日付	媒体	投稿内容
2024	7月17日	Facebook Instagram X(日・英)	アカウント開設投稿
	7月17日		「月刊日本館」Issue 01
	7月17日		「月刊日本館」Issue 02
	7月17日		「月刊日本館」Issue 03
	7月17日		「月刊日本館」Issue 04
	7月20日		特集記事「循環」ってなんですか? 10人のキーパーソンに聞きました
	7月24日		JUNKANpedia　心臓
	7月27日		特集記事　マンガで読むいのちの「循環」
	7月31日		特集記事　私からXメートル。 ここにも「循環」。あそこにも「循環」!
	8月 3日		特集記事　腸内には約1kgの微生物がいる? 人類と微生物の共生について考える
	8月 7日		JUNKANpedia　コンポスト
	8月10日		連載記事　JUNKAN Museum　小松美羽
	8月14日		特集記事　微生物が作り出す造形美
	8月17日		JUNKANpedia　季節
	8月21日		特集記事　和食に関するA to Z
	8月24日		JUNKAN Trivia　心臓から送り出された血液
	8月28日		JUNKANpedia　水
	9月 2日		「月刊日本館」Issue 05
	9月 4日		連載記事　JUNKAN Museum Mikiko Kamada
	9月 7日		JUNKANpedia　古着
	9月11日		JUNKAN Trivia　母川回帰
	9月14日		JUNKANpedia　リバイバル
	9月18日		JUNKAN Trivia　納豆菌
	9月20日		展示公開　第1弾　ハローキティ登場
	9月25日		大阪・関西万博まで開幕200日投稿
	9月27日	Facebook X(日)	ツーリズムEXPOジャパン　展示告知
	9月30日	Instagram	ツーリズムEXPOジャパン　展示告知
	10月 2日	Facebook Instagram X(日・英)	JUNKANpedia　食物連鎖
	10月 5 日		JUNKAN Trivia　海水の入れ替え
	10月 9 日		JUNKANpedia　着物
	10月13日		大阪・関西万博まで6ヶ月前投稿
	10月17日		日本館アテンダントユニフォーム決定
	10月19日		JUNKAN Trivia　生物資源の量
	10月23日		JUNKANpedia　リサイクル
	10月25日	Facebook Instagram X(日)	メディア情報　告知
	10月30日	Facebook Instagram X(日・英)	連載記事　JUNKAN Museum　にいみひろき
	11月 2 日		「月刊日本館」Issue 06
	11月 6 日		JUNKAN Trivia　循環呼吸

	日付	媒体	投稿内容
2024	11月 9 日	Facebook Instagram X(日・英)	特集記事　ここにも? あそこにも?
	11月13日		JUNKANpedia　MOTTAINAI
	11月16日		JUNKAN Trivia　プラスチック
	11月18日		特集記事　ハロー皆さん! ハロー日本館! かたちで選ぶ「藻類×ハローキティ図鑑」
	11月18日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑①
	11月20日	Facebook Instagram X(日・英)	JUNKANpedia　樹木葬
	11月20日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑②
	11月20日		藻類×ハローキティ図鑑③
	11月22日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑①〜③
	11月25日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑④
	11月27日		藻類×ハローキティ図鑑⑤
	11月29日		藻類×ハローキティ図鑑⑥・⑦
	11月29日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑④〜⑦
	11月29日	Facebook Instagram X(日・英)	連載記事　JUNKAN Museum　白石晋一朗
	12月 2 日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑⑧・⑨
	12月 4 日	Facebook Instagram X(日・英)	News　日本館ユニフォーム
	12月 4 日	Instagram	日本館ユニフォーム①〜⑥
	12月 6 日		日本館ユニフォーム⑦〜㉒
	12月 6 日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑⑧・⑨
	12月 9 日	Instagram	日本館ユニフォーム㉓〜㊹
	12月11日		日本館ユニフォーム㊺〜㊿
	12月11日	Facebook Instagram X(日・英)	JUNKAN Trivia　ろ過循環装置
	12月13日	Instagram X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑⑩・⑪
	12月16日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑⑫・⑬
	12月18日		藻類×ハローキティ図鑑⑭・⑮
	12月18日	Facebook Instagram X(日・英)	特集記事　微生物は「いま私と一緒にいる」
	12月20日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑⑯・⑰
	12月20日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑⑫〜⑰
	12月23日	Facebook Instagram X(日・英)	展示公開 第2弾　日本館にドラえもんが登場!
	12月25日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑⑱・⑲
	12月27日		藻類×ハローキティ図鑑⑳・㉑
	12月27日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑⑱〜㉑
	12月27日	Facebook Instagram X(日・英)	「月刊日本館」Issue 07
2025	1月 3 日		100 Days to Go!
	1月 6 日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑㉒・㉓
	1月 8 日		藻類×ハローキティ図鑑㉔・㉕
	1月 8 日	Facebook Instagram X(日・英)	JUNKANpedia　銀河
	1月10日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑㉖・㉗

	日付	媒体	投稿内容
2025	1月10日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑㉒〜㉗
	1月13日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑㉘・㉙
	1月14日	Facebook Instagram X(日)	日本館グリーティングムービー
	1月14日	Facebook Instagram X(日・英)	展示公開 第3弾　「BE@RBRICK(ベアブリック)」が紹介
	1月15日	Instagram	藻類×ハローキティ図鑑㉚・㉛
	1月17日		藻類×ハローキティ図鑑㉜
	1月17日	X(日・英)	藻類×ハローキティ図鑑㉘〜㉜
	1月20日	Facebook Instagram X(日・英)	JUNKAN Trivia　呼吸
	1月22日	X(英)	日本館グリーティングムービー
	1月22日	Facebook Instagram X(日・英)	特集記事　メタン発酵戦隊・バイオガスレンジャー参上!
	1月24日		特集記事　火星隕石が私たちにささやく、宇宙といのちのつながり
	1月27日	Facebook Instagram X(日)	2025年日本国際博覧会 日本館プレス内覧会を開催!
	1月27日	Facebook Instagram X(日・英)	ふれあう伝話
	1月31日		JUNKANpedia　フードロス対策
	2月 3 日		特集記事　微生物は地球の外側からやってきたのか
	2月 7 日		JUNKAN Trivia　リサイクル
	2月10日		JUNKANpedia　アクアポニックス
	2月13日		日本館の公式サイトをリニューアルオープン
	2月17日		特集記事　微生物と私たちのつながり
	2月21日		「月刊日本館」Issue 08
	2月22日		50 Days to Go!
	2月25日		おしらせ　日本館、大阪ガスの メタネーション実証事業に参加
	2月28日		「月刊日本館」Issue 09
	3月 3 日		JUNKAN Trivia　菌類も多様化
	3月 7 日		JUNKANpedia　リデュース
	3月10日		JUNKAN Trivia　生活排水の影響
	3月14日		JUNKANpedia　紙
	3月17日		特集記事　藻類入門
	3月18日	Facebook Instagram X(日)	おしらせ　公式サイトで「日本館まるごとガイド」公開!
	3月21日	Facebook Instagram X(日・英)	JUNKANpedia　バイオガス発電
	3月24日		JUNKAN Trivia　ペットボトルのリサイクル
	3月27日		「月刊日本館」Issue 10
	3月29日	Facebook Instagram X(日)	日本館がついに開館
	3月31日	Facebook Instagram X(日・英)	「月刊日本館」Issue 11
	4月 3 日		おしらせ　日本館の音声ガイド ナレーターは クリス智子さんが担当します
	4月 7 日		JUNKANpedia　キノコ
	4月10日		バーチャル日本館 イントロダクションムービー
	4月12日		日本館名誉館長 #藤原紀香 さんからのメッセージ!

	日付	媒体	投稿内容
2025	4月13日	Facebook Instagram X(日・英)	本日4月13日(日) 大阪・関西万博ついに開幕!
	4月14日	Facebook Instagram X(日)	大阪・関西万博、ついに開幕!
	4月15日		日本館 展示紹介 Plant Area - 1
	4月16日		日本館 展示紹介 Plant Area - 2
	4月17日		日本館 展示紹介 Plant Area - 3
	4月18日		日本館 展示紹介 Plant Area - 4
	4月19日		日本館 展示紹介 Plant Area - 5
	4月20日		文明の森
	4月21日		日本館 展示紹介 Plant Area - 6
	4月22日		日本館 展示紹介 Plant Area - 7
	4月23日		日本館 展示紹介 Plant Area - 8
	4月24日		日本館 展示紹介 Plant Area - 9
	4月25日		日本館 バイオガスプラント見学ツアーをご紹介
	4月26日		来場記念に! スタンプラリー
	4月27日		日本館公式ショップでお買い物
	4月28日		日本館 展示紹介 Farm Area - 1
	4月29日		日本館 展示紹介 Farm Area - 2
	4月30日		日本館 展示紹介 Farm Area - 3
	5月 1 日		日本館がもっと楽しくなる!予習ツアーのご案内
	5月 2 日		日本館 展示紹介 Farm Area - 4
	5月 3 日		日本館 展示紹介 Farm Area - 5
	5月 4 日		日本館 展示紹介 Farm Area - 6
	5月 5 日		日本館 展示紹介 Farm Area - 7
	5月 6 日		日本館 展示紹介 Factory Area - 1
	5月 7 日		日本館 展示紹介 Factory Area - 2
	5月 8 日		日本館 展示紹介 Factory Area - 3
	5月 9 日		日本館 展示紹介 Factory Area - 4
	5月10日		日本館 展示紹介 Factory Area - 5
	5月11日		日本館 展示紹介 Factory Area - 6
	5月12日		名誉館長の #藤原紀香 さん来館者をお出迎え
	5月13日		Interview -「水の循環は宇宙規模で起こっている」 元宇宙飛行士・#山崎直子 さんが、日本館にご来館
	5月14日		#片岡愛之助 さんが日本館にご来館
	5月15日		日本館 展示紹介 Factory Area - 7
	5月16日		日本館 展示紹介 Factory Area - 8
	5月17日		日本館 展示紹介 Factory Area - 9
	5月18日		「日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー」の様子をご紹介
	5月19日		日本館 展示紹介 Factory Area - 10
	5月20日		日本館 展示紹介 Factory Area - 11

	日付	媒体	投稿内容
2025	5月21日	Facebook Instagram X(日)	日本館 展示紹介 Factory Area - 12
	5月22日		日本館 展示紹介 Factory Area - 13
	5月23日		スツール
	5月24日		夜の日本館
	5月25日		火星にもかつて海は存在した?
	5月26日	Facebook Instagram X(日・英)	日本館当日登録(予約)枠の開放時間
	5月27日	Facebook Instagram X(日)	#音声ガイド を聴きながらめぐる「循環」の旅へ
	5月28日	Facebook Instagram X(日・英)	今週の入口　Farm Area
	5月29日	Facebook Instagram X(日)	声優の #石田彰 さんがナビゲーターの声を担当
	5月30日		心ほぐれる日本館
	5月31日		日差しきらめく初夏　外周にミストを配置
	6月 1 日		#日本館 のロゴ
	6月 2 日		日本館ができるまで
	6月 3 日		関西パビリオン 三重県ブースでの特別展示をご案内
	6月 4 日	Facebook Instagram X(日・英)	今週の入り口 Factory Area
	6月 5 日	Facebook Instagram X(日)	生まれ変わりを象徴する、日本館の"壁"の秘密
	6月 6 日		「あいだ」を意識させる仕掛け
	6月 7 日		知ってる?藻類「スピルリナ」
	6月 8 日		知ってる?藻類「ボツリオコッカス」
	6月 9 日		「ウィーン、ガシャガシャ」「ブクブク」「ボン、ボンボン、ボン」
	6月10日		「循環」をめぐる旅の前にちょっと一息 日除けのパラソル
	6月11日	Facebook Instagram X(日・英)	今週の入り口　Plant Area
	6月12日	Facebook Instagram X(日)	生ごみになってメタン発酵槽を冒険
	6月13日		今日は #はやぶさの日
	6月14日		【小中学生向け】日本館主催イベントのお知らせ
	6月15日		藻類の赤ちゃんになってフォトバイオリアクターを冒険
	6月16日		素材になってやわらかくつくられた街を冒険
	6月17日		【高校生以上向け】日本館主催イベントのお知らせ
	6月18日		開催まであと3日! 日本館主催イベントのお知らせ
	6月24日		生分解性プラスチックってなに? CO_2がプラスチックに?
	6月25日		知ってる?藻類「コナミドリムシ」
	6月26日		名誉館長の #藤原紀香 さんがサプライズで登場
	6月27日		知ってる?藻類「トゲイカダモ」
	6月28日		日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー
	6月29日		藻類×ハローキティ ルーレット
	6月30日		今日もあのロボが巡回中!
	7月 1 日	Facebook Instagram X(日・英)	ジャパンデー告知
	7月 2 日	Facebook Instagram X(日)	七タイベント告知

	日付	媒体	投稿内容
2025	7月 3 日	Facebook Instagram X(日)	ジャパンデー
	7月 4 日		日本館警備 この装備でパワーアップ!
	7月 5 日		建築から見る日本館
	7月 6 日		スマホ用壁紙①
	7月 7 日		七タイベント
	7月 8 日		日本館の隠れた見せ場、「バイオガスプラント」
	7月 9 日		「花火」をモチーフとした展示
	7月10日		過去の日本館を見てみよう!
	7月11日		「日本の味」をアートで楽しむミュージアム?
	7月12日		日本館の準備風景 - 待機列編 -
	7月13日		#ブルーインパルス
	7月14日		昼と夜でまるで別世界　水盤
	7月15日		日本館は「ごみを食べるパビリオン」? 名誉館長の#藤原紀香さんが解説
	7月16日		#虹の日　日本館の展示で、七色の虹を表現
	7月17日		日本館をより深く楽しむための公式Webマガジン
	7月18日		夏休み自由研究イベント事前告知
	7月19日		「火星の石」観覧証明カード配布開始
	7月20日	Facebook Instagram X(日・英)	日本館をより楽しむための基本情報をまとめました
	7月21日	Facebook Instagram X(日)	夏休み自由研究イベント前日告知
	7月22日		日本館 ファームエリアの裏側を初公開!
	7月23日		日本館のガイドムービーを公開中!
	7月24日		夏休み自由研究イベント開催時間変更告知
	7月25日		夏休み自由研究イベント開催時間変更告知
	7月25日		これで迷わない!東ゲートから日本館への行き方
	7月26日		名誉館長#藤原紀香さんからの暑中見舞い
	7月27日		少し遠いけどこれで迷わない! 西ゲートから日本館への行き方
	7月28日		Voices きかせて、日本館
	7月29日	Facebook Instagram X(日)	METI Journal ONLINE紹介
	7月31日		子どもたちにうれしい夏のパビリオン体験!
	8月 1 日		#水の日　生ごみから生まれ変わった水
	8月 2 日		日本館のオリジナルグッズにもご注目
	8月 3 日		日本館ガイドムービー「Farm Area」
	8月 4 日		日本館に登場する砂時計は何を表している?
	8月 5 日		日本館ガイドムービー「Factory Area」
	8月 6 日		ジェンダーニュートラル・ファッションショーに 日本館アテンダントも参加
	8月 7 日		火星の石に触ってみよう!
	8月 8 日		「火星の石」コンテンツがバーチャル日本館に追加
	8月 9 日		日本館ガイドムービー「3つのエリアをひとまわり」

	日付	媒体	投稿内容
2025	8月10日	Facebook Instagram X(日)	日本館 バイオガスプラント見学ツアー 館内観覧付き 日程追加のおしらせ
	8月11日		#藤原紀香さん、#片岡愛之助さん、 #剛力彩芽さんがご来館
	8月12日		日本館がもっと楽しくなる! 予習ツアー日程追加のおしらせ
	8月13日		「火星の石」観覧証明カード 第二弾
	8月14日		日本館トークイベント～宇宙・循環・つながるいのち～ 開催決定!事前告知
	8月15日	Facebook Instagram X(日・英)	日本館クイズが「EXPOパビリオン検定」に登場!
	8月16日	Facebook Instagram X(日)	日本館藻類みそ汁の作り方
	8月17日		「日本館トークイベント ～宇宙・循環・つながるいのち～」プログラム&出演者告知
	8月18日		日本館ガイドムービー「藻類×ハローキティ」
	8月19日		日本館の宇宙にまつわる展示特集
	8月20日		日本館ガイドムービー「火星の石」
	8月21日		「日本館トークイベント ～宇宙・循環・つながるいのち～」3日前告知
	8月21日		日本とペルー共和国の外交関係樹立記念日です
	8月22日		日本館レガシープロジェクト
	8月23日		「日本館トークイベント ～宇宙・循環・つながるいのち～」前日告知
	8月24日		「日本館トークイベント ～宇宙・循環・つながるいのち～」開催報告
	8月25日		日本館ガイドムービー 「いのちみなぎる、藻のカーテン」
	8月26日		ロボットアーム型3Dプリンタで製造
	8月26日	X(日)	日本館 ファームエリアの気になる裏側
	8月27日	Facebook Instagram X(日)	日本館ガイドムービー「はかなすぎる芸術」
	8月28日		ナショナルデー　東ティモール民主共和国
	8月29日		日本館ガイドムービー「未来を映す、まっさらな水」
	8月30日		日本館ガイドムービー「『循環』する日本館」
	8月31日		回転する珪藻土のキャンバスに 現れては消えていく「水のアート」
	9月 1 日		#防災の日　日本館の避難経路図
	9月 2 日		日本館レガシープロジェクト②
	9月 3 日		風呂敷
	9月 4 日		Voicesきかせて、日本館Part1①
	9月 5 日		Voicesきかせて、日本館Part1②
	9月 6 日		東京でも日本館を楽しめる!? ベツイチでの期間限定展示
	9月 7 日		Voicesきかせて、日本館Part2①
	9月 8 日		日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～イベント決定告知
	9月 9 日		#藤原紀香さん　本日は万博開幕から150日目!
	9月10日		ようこそ、ハイジ!日本館へ
	9月11日		日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～概要告知
	9月12日		「火星の石」観覧証明カード 第三弾
	9月13日		日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～告知
	9月14日		フランス・ナショナルデー　「赤い糸」イベント開催

	日付	媒体	投稿内容
2025	9月15日	Facebook Instagram X(日・英)	日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー 英語ガイドがスタート!
	9月16日	Facebook Instagram X(日)	「EXPO アテンダントxキャラクター ワールドフェスティバル」に日本館アテンダントが参加
	9月17日		日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～プログラム&登壇者告知
	9月18日		Voicesきかせて、日本館Part2②
	9月19日		日本館 体験ムービー 第一弾
	9月20日		Voices きかせて、日本館Part3①
	9月21日		#藤原紀香さんサプライズ
	9月22日		日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～前日告知
	9月23日	Facebook Instagram X(日・英)	前倒し!日本館 開館時間変更のお知らせ
	9月23日	X(日)	入館規制のお知らせ
	9月24日	Facebook Instagram X(日)	日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」 ～文化、技術、そして未来へ～開催報告
	9月25日		#藤原紀香さんが来館をお出迎え
	9月26日		日本館 体験ムービー 第二弾
	9月27日		Voices きかせて、日本館Part3②
	9月28日		日本館 体験ムービー 第三弾
	9月29日		名誉館長が藻類の可能性を解説!
	9月30日		ウルトラワイドで切り取った日本館
	10月 1 日	Facebook Instagram X(日・英)	バーチャル日本館終了タイミングの告知
	10月 2 日	Facebook Instagram X(日)	スマホ用壁紙②
	10月 3 日		日本館 警備ロボットに密着
	10月 4 日		日本館の思い出写真、見せてください #わたしと日本館 で投稿
	10月 5 日		スマホ用壁紙③
	10月 6 日		大阪・関西万博閉幕まで、あと7日 水盤
	10月 7 日		日本館レガシープロジェクト③
	10月 7 日		大阪・関西万博閉幕まで、あと6日 バイオガスプラント
	10月 7 日		#ミャクミャクと名誉館長#藤原紀香さんが 来館者をお出迎え
	10月 8 日		大阪・関西万博閉幕まで、あと5日 朝の準備風景
	10月 9 日		大阪・関西万博閉幕まで、あと4日 デジタルコンテンツ
	10月10日		当日登録(予約)枠増加告知
	10月10日		大阪・関西万博閉幕まで、あと3日 フォトスポット設置
	10月11日		日本館がもっと楽しくなる!予習ツアー 日程追加のおしらせ
	10月11日	Instagram	#藤原紀香さん 海外パビリオンや企業パビリオンを表敬訪問
	10月11日	Facebook Instagram X(日)	大阪・関西万博閉幕まで、あと2日 夜の水盤に光で描いた「THANK YOU」
	10月12日		日本館 事前予約なし観覧 時間帯拡大のお知らせ
	10月12日		大阪・関西万博閉幕まで、あと1日 半年間の日本館をプレイバック!
	10月13日	Facebook Instagram X(日・英)	大阪・関西万博公式アカウント閉幕投稿シェア
	10月13日		「さよなら」じゃなく、「いつかまた」

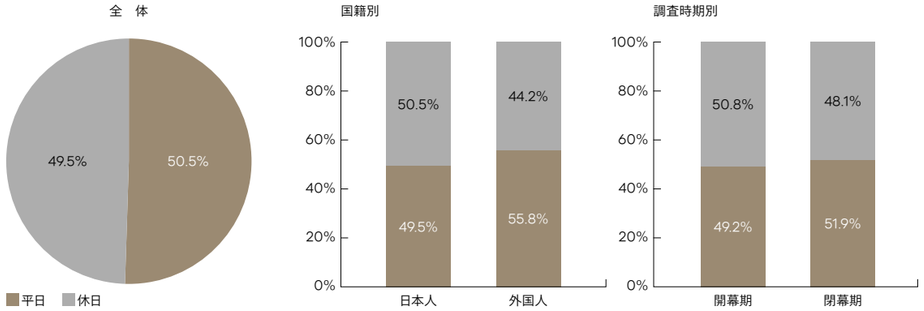
来館者アンケート

調査概要

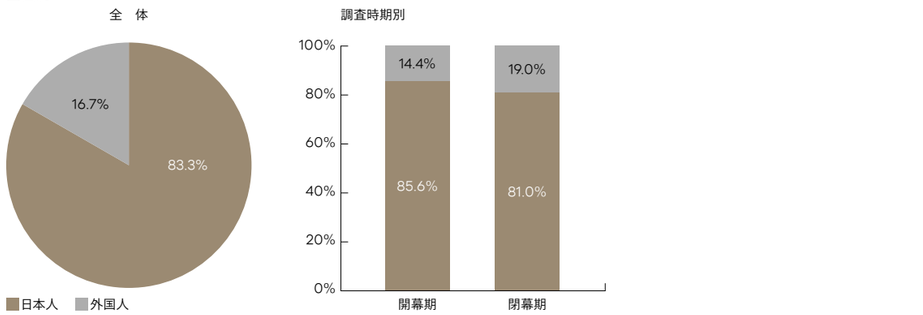
目　　的：日本館の全体的な評価を知るとともに、日本館を訪れた国内外の来館者がどのようなことを感じ、どのような気づきを得たかを知る。
調 査 期 間：（開幕期）2025年5月9日（金）～27日（火）
（閉幕期）2025年9月20日（土）～10月4日（土）
方　　法：アテンダントが iPad をお渡しして Google フォームにて実施 / 全ての調査は 14 時頃から一斉に実施
対　　象：日本館　来館者
回収サンプル数：1,033サンプル（うち日本人:861サンプル・外国人:172サンプル）

◎回収数と標本構成について

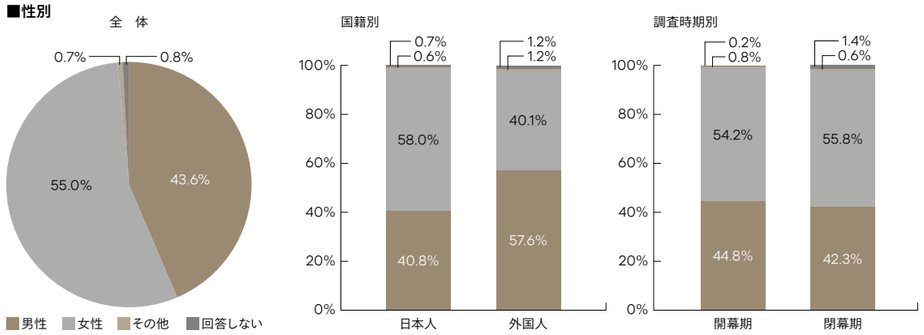
■調査日



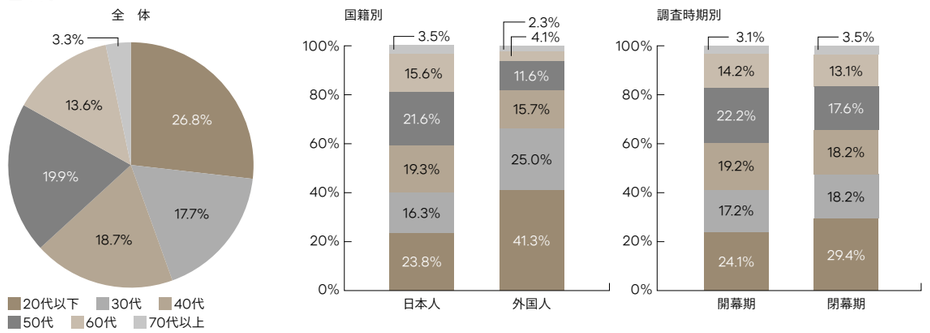
■国籍



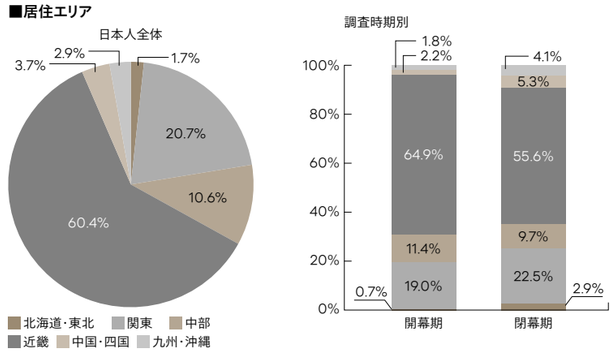
■性別



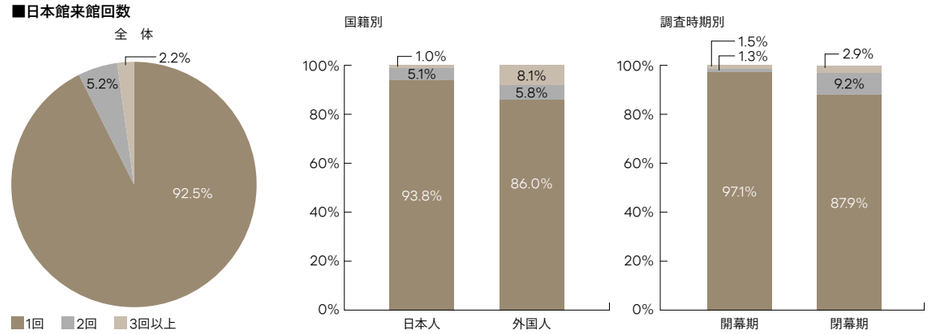
■年代



■居住エリア

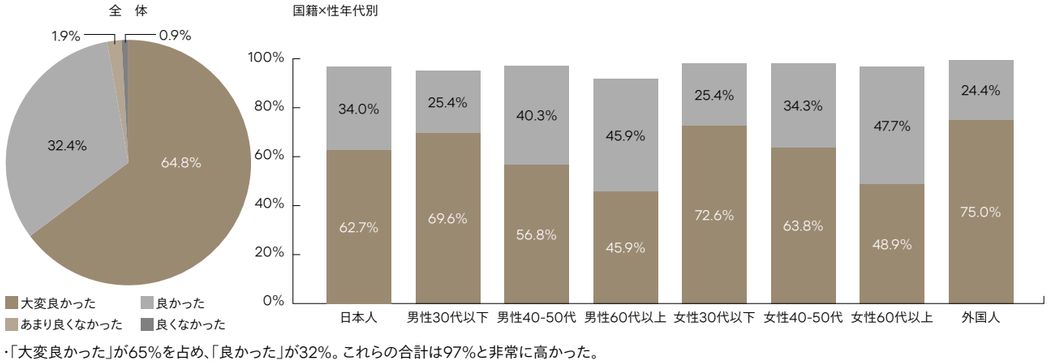


■日本館来館回数



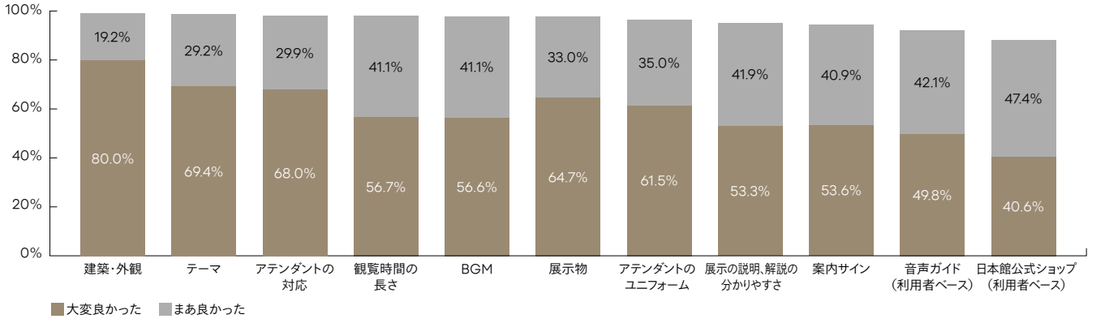
回収サンプル数：1,033サンプル（うち日本人：861サンプル・外国人172サンプル）

◎日本館の総合評価について



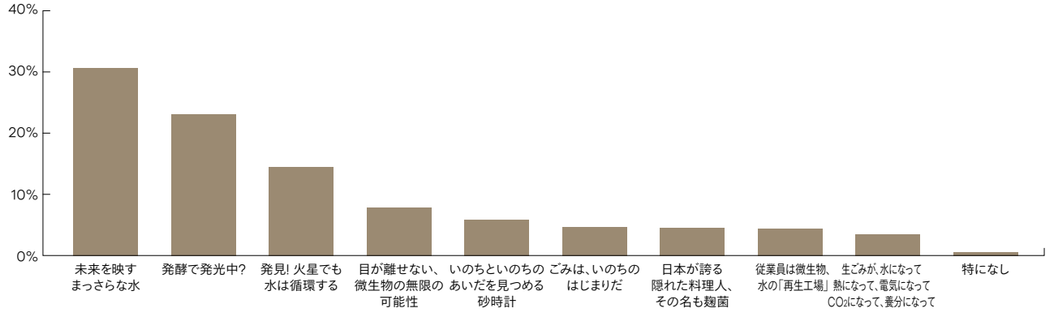
・「大変良かった」が65%を占め、「良かった」が32%。これらの合計は97%と非常に高かった。
・〈閉幕期〉は〈開幕期〉に比べて「大変良かった」が15ptアップした。

◎日本館の項目別評価について



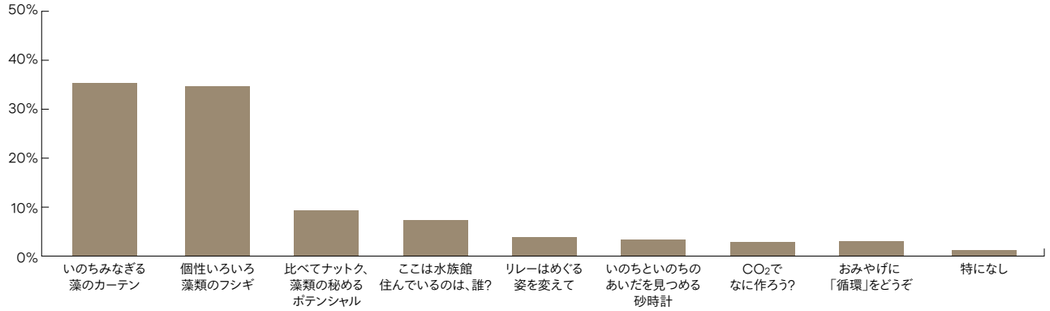
・「大変良かった」+「まあ良かった」は、最も低い「日本館公式ショップ」でも88%を占めており、高い評価を得た。
・「大変良かった」で比較すると、突出して評価が高かったのが「建築·外観」の80%で、「テーマ」69%、「アテンダントの対応」68%、「展示物」65%、「アテンダントのユニフォーム」62%がそれに続く。

◎Plant Areaで印象に残った展示について



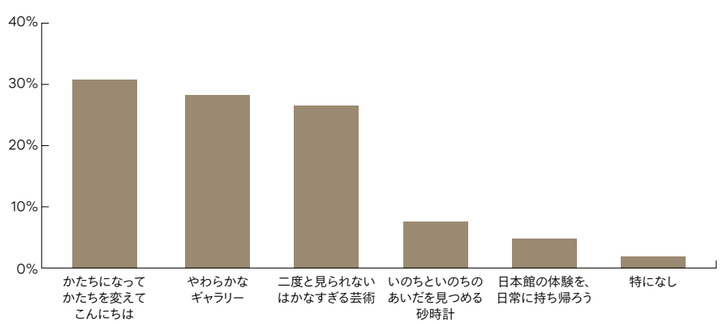
・「未来を映すまっさらな水」が 31%で最も高く、「発酵で発光中?」が 23%、「発見!火星でも水は循環する」が 14%で続いた。

◎Farm Areaで印象に残った展示について



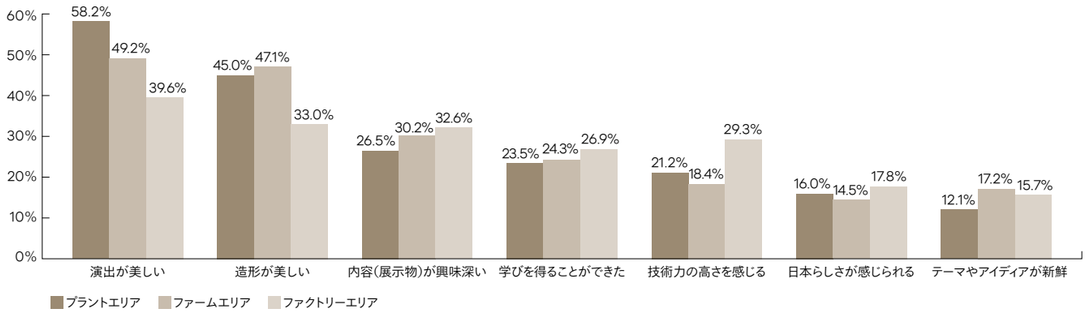
・「いのちみなぎる藻のカーテン」「個性いろいろ藻類のフシギ」が 35%で並び、この 2 つの展示に支持が集中した。

◎Factory Areaで印象に残った展示について



・「かたちになってかたちを変えて こんにちは」が 31%、「やわらかなギャラリー」が 28%、「二度と見られない はかなすぎる芸術」が 27%で、この 3 項目が上位に並ぶ。

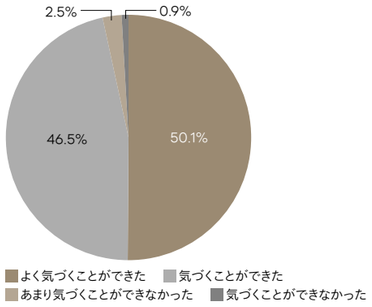
◎各エリアで特に印象に残った展示についての理由



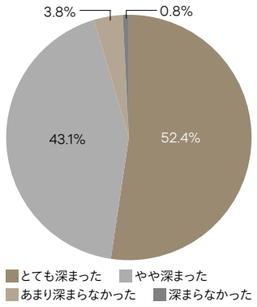
・どのエリアも印象に残った理由のトップは「演出が美しい」で、「造形が美しい」「内容（展示物）が興味深い」がそれに続く。
・「プラントエリア」では、とりわけ「演出が美しい」が高い。
・「ファクトリーエリア」では、「技術力の高さを感じる」が他のエリアを上回って高いが、逆に上位の「演出が美しい」「造形が美しい」は他の2エリアを下回った。ものづくりを取り上げたエリアの特性が影響していることが伺えた。

◎日本館のテーマの理解状況について

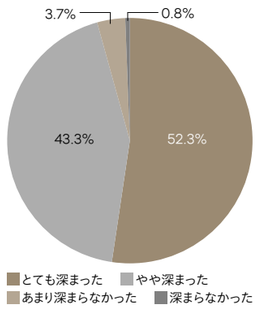
■循環の中で生活していることの気づき



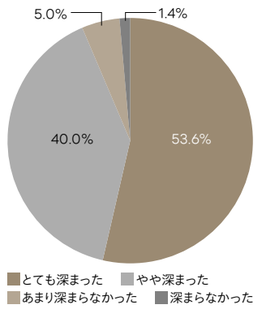
■カーボンニュートラルについての関心や理解



■社会課題解決に取り組むことの関心や理解



■「いのちと、いのちの、あいだに」というテーマの理解

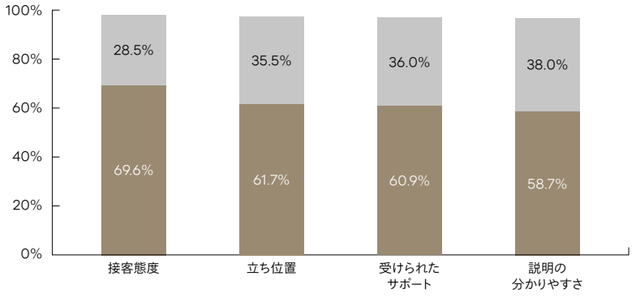


・日本館が提示しているテーマの理解状況を見ると、いずれも「よく気づくことができた／とても深まった」は 50%を超え、「気づくことができた／やや深まった」も含めると 94 ～ 97%と高く、非常に良好な理解状況となっている。

◎日本館を通じて感じたこと、気づいたこと（抜粋、一例）

・素晴らしい気づきの体験ができた。(20代以下　日本人)
・たくさんの循環について学ぶことができて面白かった。(20代以下　日本人)
・日本らしさや持続可能性について深く学ぶことができた。また、周りの人たちにも教えたくなるような素敵なパビリオンだった。(20代以下　日本人)
・空間がとても素敵で癒やされた。(20代以下　日本人)
・自然と入ってきやすい演出で面白かった。(30代　日本人)
・全体的にすごく力を入れているのが伝わってきた。また見ごたえがあった。(30代　日本人)
・学びが多くあり、木の匂いもして良かった。(40代　日本人)
・「ごみ」から生まれ変わるものがこんなにあるなんて知らなかった。(40代　日本人)
・今まで行ったパビリオンの中で一番スタッフの人と話せた。(40代　日本人)
・とても学び気づきの多い時間だったので良かった。(40代　日本人)
・日本らしさを味わいながら藻や微生物の力強さを知ることが出来た。ありがとう。(40代　日本人)
・アテンダントの説明が分かりやすかった。(50代　日本人)
・藻類の無限の可能性を感じた。(50代　日本人)
・日本の技術の素晴らしさを感じた。未来はこうなったらいいなと思った。(50代　日本人)
・他国とのコンテンツづくりの違いと底力を感じた。(50代　日本人)
・日本の未来に期待。(50代　日本人)
・建物の造形美が素晴らしい。(60代　日本人)
・ありがとう。素晴らしい体験だった。(20代以下　外国人)
・細部までとても美しかった。(20代以下　外国人)
・素晴らしい経験!希望が持てた。(20代以下　外国人)
・デザインと没入感は高いレベルにあり、非常に興味深く魅力的だった。(20代以下　外国人)
・テーマは分かりやすく、建築物自体も同様に魅惑的だった。全体としてとても楽しい経験だった。(30代　外国人)
・素晴らしく、多くのことが学べる体験だった。他の来館者にも音声ガイドの利用を強く勧めたい。(30代　外国人)
・サウンドスケープと建材の静謐な雰囲気が好き。(30代　外国人)
・良いテーマを提示してくれてありがとう。(30代　外国人)
・ここに来れて良かった。(40代　外国人)
・素晴らしく、美しく、教育的だった。(40代　外国人)
・最も興味深いコンセプトだった。(50代　外国人)

◎スタッフやアテンダントの対応評価について



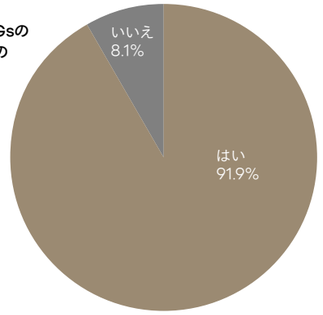
・いずれも肯定的評価が 97 ～ 98%と高く、「大変良かった」という高評価も 50%を超える高い評価を得た。
・特に評価が高いのが「接客態度」で、「大変良かった」との評価が 70%を占めた。

日本館レガシープロジェクトアンケート

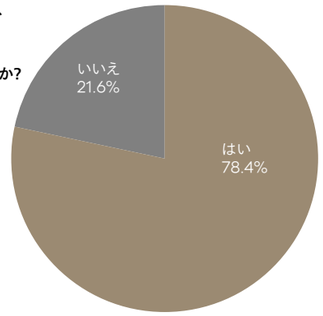
◎調査対象者：参加大学生

参加者所属大学　大阪大学・関西大学・近畿大学・立命館大学
回　答　件　数　37件

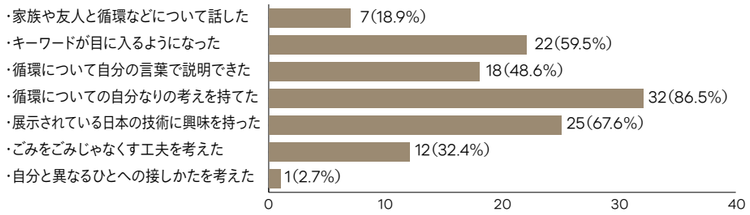
■プロジェクトを通して、循環型社会の実現やSDGsの達成に対する向き合い方の変化はありましたか?



■プロジェクト終了後、循環型社会の実現に向けて、何か行動を起こしたいと思いますか?



■プロジェクトに参加したことで、普段の生活になにか変化はありましたか？（複数回答可）



レガシープロジェクトに参加しようと思った理由を教えてください。（抜粋、一例）

・元々循環型社会などに興味があり、またアルバイトとして英語を教える仕事をしているので自分たちの感じたことを学生に共有して、彼らにまた考えてもらうプロジェクトが面白そうだと感じたから。

・せっかく万博の年に大学生として過ごすなら、その意義を自分なりに体験し、形に残したいと考えました。特に、日本館のテーマやデザインに強く惹かれたこと、また、これまでオリンピックレガシーについて考える機会があったことから、「未来に何を残すか」という観点に関心を持ち、参加を決めました。

・万博を楽しんだままでいるのではなく、万博で得た物を後世に伝えたいと思ったから。

・もともと、万博の機運醸成を目的とした「万博部」として活動してきました。その中で、「万博を開催して終わりにするのではなく、そこから生まれる学びや想いを次の世代へつなげていくこと」に強く共感し、本プロジェクトに興味を持ちました。
また、私自身、環境汚染によって山に食べ物がなく人里へ下りてくる動物や、氷が溶けて住む場所を失いつつある北極熊など、環境変化の影響を受ける生き物たちを守りたいという想いがあり、このプロジェクトのテーマが、そうした環境に深く関係していると感じ、参加させていただきました。

「第1部 バーチャル日本館体験」（アーカイブ視聴も含む）は、あなたにとってどのような学びがありましたか？（抜粋、一例）

・バーチャルと聞くと、子供騙しというか、会場映して終わりとか、会場行った気にはなれないんだろうなと思っていたが、会場ではできない演出など、会場とは違った面白さがあった。

・万博の再現度の高さに驚いたのと同時に、日本館のテーマである「循環」の本質的な理解につながった。映像と説明を通じてコンセプトがクリアになり、このメッセージを中学生に伝えるという自分の役割に対する期待感と責任感を膨らませることができた。

・今の時代、メタバースなどの仮想現実が注目されている中で日本館に行ったような体験を画面を通して、しかも会話できると言うまさにバーチャルの世界を身をもって体験してこんなに技術が進んでいると感じました。

・最先端の映像技術やインタラクティブ要素を活用しながら、日本の伝統・自然・未来への想いを表現している点から、「日本らしさ」を新しい形で世界に伝える方法を学べた。

「第2部 日本館体験・ワークショップ」は、あなたにとってどのような学びがありましたか？（抜粋、一例）

・「ごみや藻さえ美しい」と感じさせる展示を通じ、資源やモノ全てに大切な役割があるという新たな価値観を得た。また、資源の活用と空間の繊細さから、「もったいない」精神が3R を超えた循環の本質だと理解を深めた。ワークショップを通じ、循環に対する多様な視点とそれを中学生に伝えるためのアプローチを習得できた。

・実際に日本館を巡ったことで、第1部で主観的に体感した学びを客観視できたのがよかったと思います。問いを考えるのが非常に難しかったですが、自分たちが見たことをそのまま伝えるだけでは考えさせる域には達しない為、自分の中で一旦消化してからどうしたら良い問いが作れるのか考える必要があった所が、特に難しい点であり、1番の学びにもなりました。

・日本が行っている循環やモノづくりの工夫などについて、展示はもちろん、建物の構造自体など様々な角度から学ぶことができた。

・第1部と比較しながら、循環についての理解を深めた。

「第3部 ジュニア世代へのレクチャー」（授業に向けた準備含む）は、あなたにとってどのような学びがありましたか？（抜粋、一例）

・おそらく日本館を経験していない中学生に伝えることは難しかったが、しっかり準備をして説明することができると、オンライン上でも十分に友好なコミュニケーションをとることができるとわかった。

・これまでのディスカッションなどから得た大学生なりの循環という大きなテーマについて学生たちと授業を通してさらに疑問が深くなり、もっと知りたいと感じるようになった。

・人に授業する、ということは初めてで、授業準備を通して、発酵というテーマを“自分が理解すること”と“人に伝えること”の間には大きな差があると感じました。特に中学生にも分かりやすく伝えるためには、難しい言葉を避けたり、身近な例を取り入れたりする工夫が必要で、内容を整理し直すことで自分自身の理解も深まりました。また、班員と意見を出し合う中で、班員の中に前に立って何かを人に伝えるのが得意な人がいたため、伝え方や表現の多様さを学ぶことができました。

・自分らが体験したことを言語化し、尚且つ中学生にもわかりやすく伝えるのに難しさを感じました。ですがその過程で循環という事について考えを深め、伝えるという力も身についたのではないかと思いました。

プロジェクトのゴールでもあった中学生への授業について、良かった点や反省点など感想を教えてください。（抜粋、一例）

・良かった点は、状況に応じた柔軟な進行ができたことだ。また、生徒から「知らなかったことを知れて良かった」という感想を直接聞き、プロジェクトの意義と伝えることのやりがいを強く実感できた点だ。一方反省点は、初めての教育現場での進行ということもあり、授業全体のタイムマネジメントの難しさを痛感したことや、原稿を見ず自然な言葉で話す練習が不足していた点だ。

・反省点は、もっと分かりやすく説明できる言葉があったのではないかと考えました。言葉を噛み砕いて伝える難しさを感じました。また、せっかくのリアルタイムでの授業だったので中学生の方々の反応を見ながら臨機応変に、固くなりすぎずに対応できたらさらに良かったと思います。良かった点は、中学生の反応が想像以上に良かったことです。活発に意見交換をして、自分には気づけなかった視点での意見もあり、驚かされると同時に興味深かったです。授業を楽しみにしてくれていたとお聞きして、とても嬉しかったです。

・私が想像していた以上に、生徒たちが話をよく聞いてくれたり、質問を一生懸命考えたりしてくれてとても嬉しかったです。手を挙げて発表してくれる子もいて、このイベントに参加できてよかったなと思いました。素朴な問いかけにたいしても、思った以上に考えようとしてくれたことが印象的でした。
「ゴミを食べる生き物って知ってますか?」という簡単な問いだったのですが、そこから微生物に焦点を当てて、日本館の説明ができたように感じます。その反面、時間配分があまりできていなくて、少しオーバーしてしまったのが反省点です。

・実際に授業を行ってみて、飽きずに楽しんでもらえるかが不安な点でしたが、中学生が予想以上に真剣に聞いてくれたり、積極的に質問してくれたことが印象的でした。「発酵って身近なんだな」と気づいてくれた瞬間が見えて、準備してきたことが伝わったと感じました。また、授業後に塩瀬先生から「あなたたちが話していた内容を中学生が反芻していた。それは理解しているということだよ」とお言葉をいただき、自信にもつながりました。
一方で、説明が少し早口になったり、もう少し発酵の仕組みをイラストなどで見せられたらよかったという反省もあります。授業を通して、伝える力の難しさと楽しさの両方を実感しました。

授業を受けた中学生に、どんな変化が生まれることを期待しますか？（抜粋、一例）

・循環に関して知恵を磨き、日頃から変化を求め、楽しんでほしい。

・身の回りのものを「ゴミ」として捨てる前に、“ もう一度別の役割を与えられないか” と一歩立ち止まって考えられるようになってほしいです。授業をきっかけに、環境問題を遠い話ではなく、自分の生活と結びついた課題として捉えてもらえることを期待しています。

・いち授業の一環だったとしても、どこかでレガシープロジェクトの授業のことを思い出し、次の世代への循環が続くこと。このマインドセットが生まれたことを期待する。

・授業を通して、日常の中にも発酵のような「見えない働き」がたくさんあることに気づいてほしいと思います。また、これは自分も含めてですが。普段何気なく食べているものにも長い時間や人の工夫が関わっていることを知り、身の回りのものを少し違う視点で見られるようになったら嬉しいです。

プロジェクトを通して、循環型社会の実現やSDGs の達成に対する向き合い方の変化はありましたか？ また、変化とは具体的にどのようなものですか？（抜粋、一例）

・「伝えること」についてより深く考えるようになりました。合わせて、新しい技術や考え方だけでなく、今あるものやこれまでのものにも視野を広げるようになりました。

・参加するまでは循環型社会について深く考える事はなかったですが、今回のプロジェクトに参加して日本の循環型社会を実現するための技術に興味を持ち、調べるようになった。

・私たちの生活だけでなく、あらゆるいのちがつながり合っており、循環していることを実感しました。また、循環について、社会の仕組みにおいて考えることがありました。

・よく目にするSDGs という言葉は少し難しく、身近ではないのですが、もう一花咲かせるなど、身近からでも貢献できるんだという認識が生まれた。

プロジェクト終了後、循環型社会の実現に向けて、何か行動を起こしたいと思いますか？ また、行動とは具体的にどのようなものですか？（抜粋、一例）

・私の専門や好きな分野は芸術(特に美術分野) ですが、芸術は形によっては循環型社会とは相反する点がある気がしています。物質的には循環しにくい芸術でも人の心や繋がりには循環を生めると信じているので、人の繋がりを深められるような、地域と芸術を繋げた取り組みがしたいと考えています。

・循環型社会の実現に向けて、何か行動を起こしたいという気持ちはありますが、今の自分にできることが、まだ明確にわかっていません。今後、自分にできることを探していきたいと思っています。

・エコバッグの使用やごみの分別など普段から取り組んでいることをさらに意識して取り組む。プラス友人などに働きかける。

・私は来年から社会科の教員になる。その授業のなかで、日本館で学んだ「循環」のあり方を伝え、日本の文化を生徒たちに継承し、今後の日本について生徒たちとともに「循環型社会の実現」について考えたい。

日本館やレガシープロジェクトに対する、自由な感想をお聞かせください。（抜粋、一例）

・なかなか他の同世代の人が経験したことないような経験ができたと思います。そしてたまたま地元の中学校に授業をすることが決まったこと、それによって、より頑張ろうと思えました。これからも、日本館で展示されていた技術が展示の範疇を越え、実用化され、身近なところまでやってくることを楽しみにしています。

・素直にとても楽しかったです。新たな人との出会いや経験をたくさんさせていただきました。この短期間でとても成長したと自分自身感じています。今から、私たちがすべきことは、終わってしまった大阪・関西万博をどう伝承していくか、どう残していくかだと思います。その意識をこのレガシープロジェクトで実感する事ができました。
このような素敵なプロジェクトに参加させていただき本当にありがとうございました。

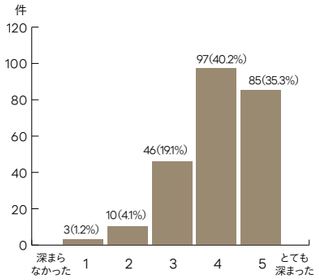
・オンラインから始まったプロジェクトですこし不安もありましたが、最後まで楽しく取り組むことができました。普段の生活では関わることができないような方々と関わることができ、とても刺激的で楽しかったです。貴重な経験をありがとうございました。

・単に日本館の循環を学ぶだけではなく、将来に繋がるような循環型社会について向き合う機会になったり、同世代の大学生と意見を交流出来たり、1 つの授業という形に残れたりとてもためになる時間でした。単純に楽しかったです。

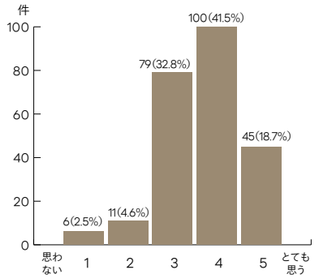
◎調査対象者：参加中学生

参　加　校（石川県）かほく市立河北台中学校・（長野県）立科町立立科中学校・（兵庫県）西宮市立浜脇中学校・（大阪府）利晶学園大阪立命館中学校・高等学校
回 答 件 数　241件

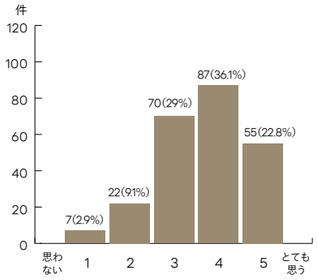
■日本館について理解は深まりましたか？



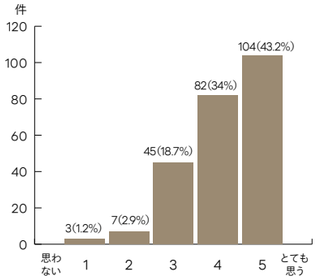
■授業を受けたテーマについてもっと詳しく知りたい・調べてみたいと思いますか？



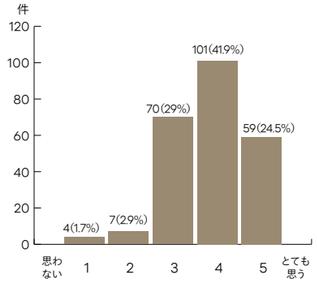
■授業で学んだ内容を、家族など身近な人に伝えたいと思いますか？



■授業で学んだ内容は、あなたの普段の生活社会をより良くするために役立つと思いますか？



■「循環型社会の実現」や「SDGs達成」に向けて何か行動を起こしたいと思いましたか？



今後具体的になにかやってみたいと思ったことはありますか？（抜粋、一例）

・もっと「やわらか」で作られている身近なものを探してみたいです。

・学校生活の中では、印刷ミスをしてしまったプリントや不要になったプリントを再生紙にして再び使えるようにすることや、生徒会の中でも全校がSDGs についての理解を深められるような企画を行っていきたい。家庭では、ペットボトルやアルミ缶、古紙などのリサイクルを積極的に行っていきたいと思った。

授業を受けた感想や、印象に残ったことを教えてください。（抜粋、一例）

・今までは、「なんでこんなにスマホのガラス割れやすいんだろ?」って思っていましたが、それによってスマホが守られているということに驚きと関心を持ちました。これからも知ることのない「やわらか」のすごさについて知ることができてよかったです。

・僕が今回日本館について思ったことは、まず僕は、この授業を受ける前までは、循環という言葉も知らなかったし日本館のテーマが循環ということが知りませんでした。そしてこの授業を受けてから、僕は、今すごく日本館に行ってみたいと思わされました。

・グループディスカッションをやって、SDGs について改めて考えるきっかけになったと思うので、授業を受けただけで終わらず、日常生活に活かしていきたいと思いました。

・今回の万博でSDGs のことを注目して行われていたことを知らなかったので、万博に行くことになったら、ただ楽しむのではなく違う観点から見ることもしたいなと思った。

・「なんでゴミになるのか」・「どこからゴミになるのか」・「どうすればゴミにならなくて済むのか」という問いに対してグループで考えて意見を発表することが出来てよかったです。大阪万博の日本館についてたくさんの事を知れてよかったです。

・万博会場で発生したごみを水に変える活動を日本館で行っているという話を聞けたことがとても印象的だった。ごみを燃やさずに、水に変化させることが世界中に普及すれば、環境保全にもなるし、二酸化炭素の排出量も減らせるので、地球温暖化対策にもなると思った。

・お話を聞いて使わなくなったものは本当にごみなのかと真剣に考えることができました。また、家でもペットボトルなどを変えて活用していきたいと思いました。

日本館に携わった主な人々

事業主体

■経済産業省

経済産業省　開幕前在籍（2020年度～2024年度）

商務・サービス審議官
藤木　俊光

畠山　陽二郎

博覧会推進室長
武田　家明

滝澤　豪

土屋　博史

大阪・関西万博企画室長
松本　将明

室長補佐
長田　かおり

山崎　牧子

松田　彩子

係長
水口　怜斉

田切　麻紀子

中村　和子

青田　航

齋藤　直紀

係員
池渕　早紀

成田　悠真

経済産業省　開幕期間在籍（開幕前、閉幕後の在籍者も含む）

首席国際博覧会統括調整官
茂木　正

首席国際博覧会統括調整官
松山　泰浩

大臣官房審議官（国際博覧会担当）
浦上　健一朗

大臣官房審議官（商務・サービス担当）
浅井　俊隆

博覧会推進室長
奥田　修司

大阪・関西万博企画室長
伊万里　全生

室長補佐
鈴木　崇史

吉野　脩也

内藤　孝太

■日本館総合プロデューサー／総合デザイナー

佐藤　オオキ

■日本館名誉館長

藤原　紀香

■公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

開幕前在籍

経営企画室長
岩田　泰

参事
廣瀬　武夫（＊）

坂本　りっか（＊）

加門　慶郎（＊）

柳田　好男

課長代理
古田　奈央

藤本　翔一（＊）

係長
吉本　博樹（＊）

水本　哲也（＊）

大田　航平

中西　勇貴

※上記に加え派遣職員1人が在籍。
＊期間限定で日本館業務に従事。

開幕期間在籍（開幕前、閉幕後の在籍者も含む）

日本館長
黒田　紀幸

担当局長兼賓客接遇官
堺井　啓公

上席審議役・特命審議役
島上　聖司

館長代行兼上席審議役
田久保　憲彦

館長代行兼審議役
藤川　佳秀

審議役
笹井　かこ

特命審議役兼賓客接遇官
長﨑　太祐

黒谷　要介

参事
中谷　昌功

白川　輝幸

宮脇　美哉

課長代理
福崎　有沙

深尾　剛

吉井　康晴

沼田　利栄

筆保　奈津子

長柄　有里乃

係長
高橋　龍也

田中　沙紀

係員
大森　俊輝

上村　真穂

齋藤　嘉彦

チーム員
石川　瑞生

国田　希望

御厨　右京

甲斐　貴熙

日下部　翔大

渡邉　萌

苅谷　遼太郎

奥　康仁

※上記に加え専門職員（派遣）16人が在籍。

日本館基本構想・基本計画関連

■日本館基本構想ワークショップ参画有識者

市原　えつこ
メディアアーティスト

指出　一正
株式会社sotokoto online 代表取締役/
ソトコト編集長

佐藤　オオキ
デザインオフィスnendo代表/デザイナー

塩瀬　隆之
京都大学総合博物館 准教授

太刀川　英輔
NOSIGNER　代表/デザインストラテジスト/
慶應義塾大学特別招聘准教授

田中　みゆき
キュレーター/プロデューサー/東京都渋谷公園通り
ギャラリー学芸員

平賀　達也
ランドスケープアーキテクト/
株式会社ランドスケープ・プラス 代表取締役

平田　晃久
京都大学教授/建築家/平田晃久建築設計事務所

南澤　孝太
慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 教授

五十音順

■政府出展事業検討会議有識者

池坊　専好
華道家元池坊 次期家元/
（公社）2025年日本国際博覧会協会理事
大阪・関西万博シニアアドバイザー

古賀　信行
（一社）日本経済団体連合会 審議員会議長

コチュ・オヤ
株式会社Oyraa代表取締役

佐藤　オオキ
デザインオフィスnendo代表/日本館総合
プロデューサー

塩瀬　隆之
京都大学総合博物館 准教授

千　宗室
茶道裏千家家元/大阪・関西万博シニアアドバイザー

鳥井　信吾　◎
サントリーホールディングス株式会社 代表取締役
副会長/サントリー美術館館長

米良　はるか
READYFOR株式会社 代表取締役 CEO

◎座長、五十音順

■基本構想・基本計画等

基本構想
株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ

基本計画等
株式会社電通

日本館建築関連

■国土交通省

国土交通省営繕部　開幕前在籍（2020年度～2024年度）

官庁営繕部長
下野　博史

秋月　聡二郎

課長補佐
松本　周介

係長
西川　知一

川内　諭

国土交通省営繕部　開幕期間在籍（開幕前、閉幕後の在籍者も含む）

官庁営繕部長
佐藤　由美

計画課長
松尾　徹

小澤　剛

課長補佐
山本　和樹

係長
五十嵐　達

国土交通省近畿地方整備局　開幕前在籍（2021年度～2024年度）

近畿地方整備局長
東川　直正

渡辺　学

見坂　茂範

営繕部長
村上　幸司

中山　義章

計画課長
髙井　雅木

森　慎太郎

整備課長
薄田　球一

設備技術対策官
森田　良次

保全指導・監督室長
山口　正之

上田　昭雄

官庁施設防災対策官
中山　幸洋

課長補佐
日浦　智

藤本　晃久

藤井　学

吉見　章

営繕技術専門官
山本　卓也

山田　洋次

中西　乾太

営繕設計審査官
田口　万喜子

係長
松村　義隆

戸梶　博文

野上　摂

石澤　佳也

泉屋　勇斗

原田　英之

専門員
明石　裕光

係員
前野　安季

延本　葉音

若林　知生

二宮　慎太郎

藤原　悠人

松尾　貴也

藤牧　哲也

小村　祐也

国土交通省近畿地方整備局　開幕期間在籍（開幕前、閉幕後の在籍者も含む）

近畿地方整備局長
長谷川　朋弘

齋藤　博之

営繕部長
頼本　欣昌

計画課長
田中　裕涼

整備課長
阪戸　大輔

設備技術対策官
那須　大輔

保全指導・監督室長
藤本　享史

課長補佐
陣川　誠司

佐藤　文子

亀山　真吾

加茂　公嗣

室長補佐
松平　哲治

営繕技術専門官
瀧下　幸生

新谷　仁志

北野　規城

保全指導・監督官
鈴木　かおり

専門調査官
石澤　佳也

専門員
中島　尊宣

指導員
杉本　高徳

係長
吉岡　武俊

係員
小山　満

■設計・施工

建築設計
株式会社日建設計

建築工事
清水建設株式会社

日本館展示・運営・広報関連

建築展示運営等支援・総合調整（プロジェクトマネジメント）
株式会社日建設計

展示実施設計・運営実施計画等
日本館展示等コンソーシアム共同企業体（株式会社丹青社／株式会社乃村工藝社）

シミュレーションソフト開発及び技術検証
株式会社ノメナ

模型製作
株式会社メイカーズ

3Dパース作成等
株式会社STUDIO55

照明計画等
株式会社L.GROW lighting planning room

電気設備図実施設計補助・分電盤電気設備資材整備等
飯田電機工業株式会社

電気設備実施設計・分電盤配置図作成等
株式会社CROSS

電気配線図作成
三恵工業株式会社

設備BIM図面作成等
デュアル・アイ・ティー株式会社

サイン実施設計・施工図作成等
株式会社ノムラアークス

運営実施計画及び運営実施業務等
アクティオ株式会社

造形オブジェの仮組及び造形物製作
日本美術工芸株式会社

仮組用トラス組み
エントロス株式会社

仮組用足場等
株式会社理匠

仮組用木工及び金物造作等
株式会社ティガーズ

映像演出機器設備工事等
ヒビノ株式会社

造形壁面の仮組及び造形物製作
フィールド・クラブ株式会社

展示造形物サンプル製作等
有限会社豊七

展示演出メカ装置の開発及び製作施工等
株式会社代田橋製作所

展示演出装置材料検討及びサンプル製作
株式会社イスルギ

仮設資材等
西尾レントオール株式会社

仮組倉庫賃借
東京材木市場株式会社

仮組倉庫賃借
株式会社ヒガシ21

仮設資材
株式会社レンタルのニッケン

映像コンテンツ調整
株式会社アシュラスコープインスタレーション

仮組用プロジェクター納品
パナソニックコネクト株式会社

展示造作物サンプル製作等
株式会社上野アトリエ

展示演出配管仮組等
株式会社岡元工業所

ショーコントロールシステム開発及び試験検討等
ウイルス株式会社

展示演出コンベア実施設計及び製作
北日本カコー株式会社

演出照明システム実施設計及び仮組等
株式会社コマデン

演出照明システム実施設計及び仮組等
株式会社三幻色

映像コンテンツ制作
有限会社ルフトツーク

映像コンテンツ制作
株式会社egao

照明器具整備等
株式会社フジコー

水系設備機器整備等
株式会社ウォーターデザイン

映像音響設備実施設計補助
株式会社インターメディア大阪

物件調整及び現場管理補助等
株式会社エイジア

物件調整及び現場管理補助等
株式会社ラフ

展示什器製作施工等
株式会社アダル建装

植栽工事等
株式会社DAISHIZEN

視覚障がい者等移動支援システム導入
株式会社アクセスムーブコンフォート

バイオガスプラント排出CO_2受入整備
大阪ガス株式会社

会場警備
テイケイ株式会社

会場維持管理（維持補修）等
株式会社ビケンテクノ

模型補修
株式会社東宝映像美術

施工図調整
A.D-STYLE

倉庫・出入庫管理
株式会社住友倉庫

産廃処分
株式会社エイシン

運営サイン工事等
株式会社アダチ

什器傷補修等
株式会社ウェイアウト

演出ロボシステム調整
株式会社Preferred Robotics

展示内装造作施工等
株式会社スタジオ・オー

展示清掃
株式会社ヒート・システム

特殊設備調整等
株式会社ひかるアクアリューム

演出照明制御システム調整・更新
株式会社モデュレックス

光幕調整
八木鋼材株式会社

電気工事
株式会社フジコー九州支店

特殊設備調整
株式会社光栄

外注管理等
株式会社ユニティー

共通　映像制御システム調整・更新
アビックス株式会社

空調設備工事
株式会社関電工関西支店

ネットワーク調整、撤去
西日本電信電話株式会社

音声ガイドガイダンス音声制作等
株式会社アートアンドパート

備品レンタル、撤去
コーユーレンティア株式会社

調査データ分析
統計調査センター株式会社

計測機器保守
間瀬建設株式会社

揚重
株式会社花菱グループ

仮設資材等
株式会社丹青ビジネス

展示造形物製作等
株式会社イナック

展示物運搬
日本通運株式会社

展示造形物製作施工等
ジグアート有限会社

模型製作設置工事等
株式会社長谷川模型

※上記に加え展示工事や施工図作成を工事事業者や個人事業主により実施

バイオガス発電プラント設計・施工等
カナデビア株式会社

機器据付工事等
鴻池運輸株式会社

電気計装工事等
株式会社トーヨーコーポレーション

保温工事
成田工業株式会社

バイオガス発電プラント運転操業
株式会社SIC

水質、騒音、振動等の各種分析
株式会社MIZUKEN

工業薬品の供給、運搬及び指定タンクへの投入
大鳥産業株式会社

広報・催事・バーチャルパビリオン企画制作等
大日本印刷株式会社

メディアリレーション
株式会社マテリアル

公式記録集作成
株式会社DNPコミュニケーションデザイン

バーチャル開発
世界株式会社

催事企画・運営
株式会社マッシュ

SNS運用
株式会社コムニコ

開会式招待状他、ツール製造等
株式会社DNPグラフィカ

発信記事企画・作成
株式会社ストーリーワークス

VIP向けノベルティの選考手配
株式会社三越伊勢丹

VIP記念品等紙ツール制作等
株式会社DNPエスピーイノベーション

SNS運用・広告
株式会社ミンツプランニング

案内状発送管理等
株式会社DNPコアライズ

VIP記念品等の出荷・倉庫保管
株式会社DNPロジスティクス

名誉館長メイク衣装・交通・宿泊等手配
株式会社ケイダッシュ

来館証明書等シリアルナンバー付きツール製造
株式会社DNPデータテクノ

日本館レガシープロジェクトにおける中学校のコーディネーション・準備・運営
株式会社キャリアリンク

コミュニケーション企画制作等
株式会社日本デザインセンター

webサイト企画制作等
株式会社マガジンハウス

webサイト企画制作等
株式会社シフトプレイン

キーコンテンツ企画制作・監修
株式会社渡辺潤平社

ティザーサイト制作・改修
株式会社電通クリエーティブX

VIジェネレータシステム制作
株式会社アマナ

webサイト保守・運用等
株式会社トルク

アテンダントユニフォームルック（ビジュアル）撮影・編集
公益社団法人日本ユニフォームセンター

情報モニター映像コンテンツCG制作
株式会社回

日本館攻略ガイドCG制作
合同会社橋本健一制作事務所

プロモーションムービー・情報モニターサウンドプロデュース等
Heima

CLT発注等
一般社団法人日本CLT協会

日本館協賛等関連

協賛

プレミアムパートナー
テイケイ株式会社

メジャーパートナー
慶應義塾大学COI-NEXT（共生アップサイクル）、金沢大学COI-NEXT（多糖類バイオプラ循環）、エス.ラボ株式会社、株式会社DigitalArchi、株式会社放電精密加工研究所・共創プロジェクト

MATSURI

オフィシャルパートナー
エムシーファッション株式会社

東レ株式会社

株式会社KAORUKO

カナデビア株式会社

株式会社メディコム・トイ

TOTO株式会社

株式会社カネカ

帝人フロンティア株式会社

株式会社マキシン

株式会社goyemon

福助株式会社

展示協力

京都府

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

神宮司庁

積水化学工業株式会社

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所

株式会社タカラトミー

株式会社ちとせ研究所（ちとせグループ）

東武タワースカイツリー株式会社

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）

ナガセケムテックス株式会社

株式会社日建設計

株式会社モルテン

展示協力（バイオものづくり関連）

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）

株式会社カネカ

株式会社ちとせ研究所（ちとせグループ）

積水化学工業株式会社

寄附

ミウラ化学装置株式会社

株式会社 CCH サウンド

株式会社 ワークマン

回（ぐるり）プロジェクト
〈福島県浪江町発日本酒造り〉

一般社団法人日本和紙クラフト協会

株式会社アール・グラージュ・インターナショナル

日本館催事　登壇者・協力者

「循環」の輪をつなぐ生分解性プラスチックについて学ぼう

株式会社カネカ

経済産業省
浦上　健一朗
鈴木　崇史

博覧会協会日本館
白川　輝幸

夏休み自由研究イベント　藻っと知りたい藻類のひみつ～日本館で自由研究～

株式会社ちとせ研究所（ちとせグループ）

日本館トークイベント　～宇宙・循環・つながるいのち～

山崎　直子（宇宙飛行士）

国立極地研究所
山口　亮
中藤　亜衣子
今栄　直也
熊谷　宏靖

JAXA 宇宙科学研究所
臼井　寛裕
小嶋　知子

東京科学大学 地球生命研究所
関根　康人

内閣府
浦上　健一朗

博覧会協会日本館
島上　聖司

日本館トークイベント　日本館からつながる「循環」～文化、技術、そして未来へ～

京都大学総合博物館
塩瀬　隆之

神宮司庁　広報室
音羽　悟

株式会社カネカCO2 Innovation Laboratory
佐藤　俊輔

株式会社日建設計
高橋　秀通

株式会社ソトコト
指出　一正

内閣府
浦上　健一朗

経済産業省
鈴木　崇史

日本館レガシープロジェクト

京都大学総合博物館
塩瀬　隆之

経済産業省
鈴木　崇史

内藤　孝太

2025年日本国際博覧会 政府出展報告

発行　令和8年3月

◇企画・発行
経済産業省

◇企画・編集
公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

◇制作・印刷・製本
大日本印刷株式会社